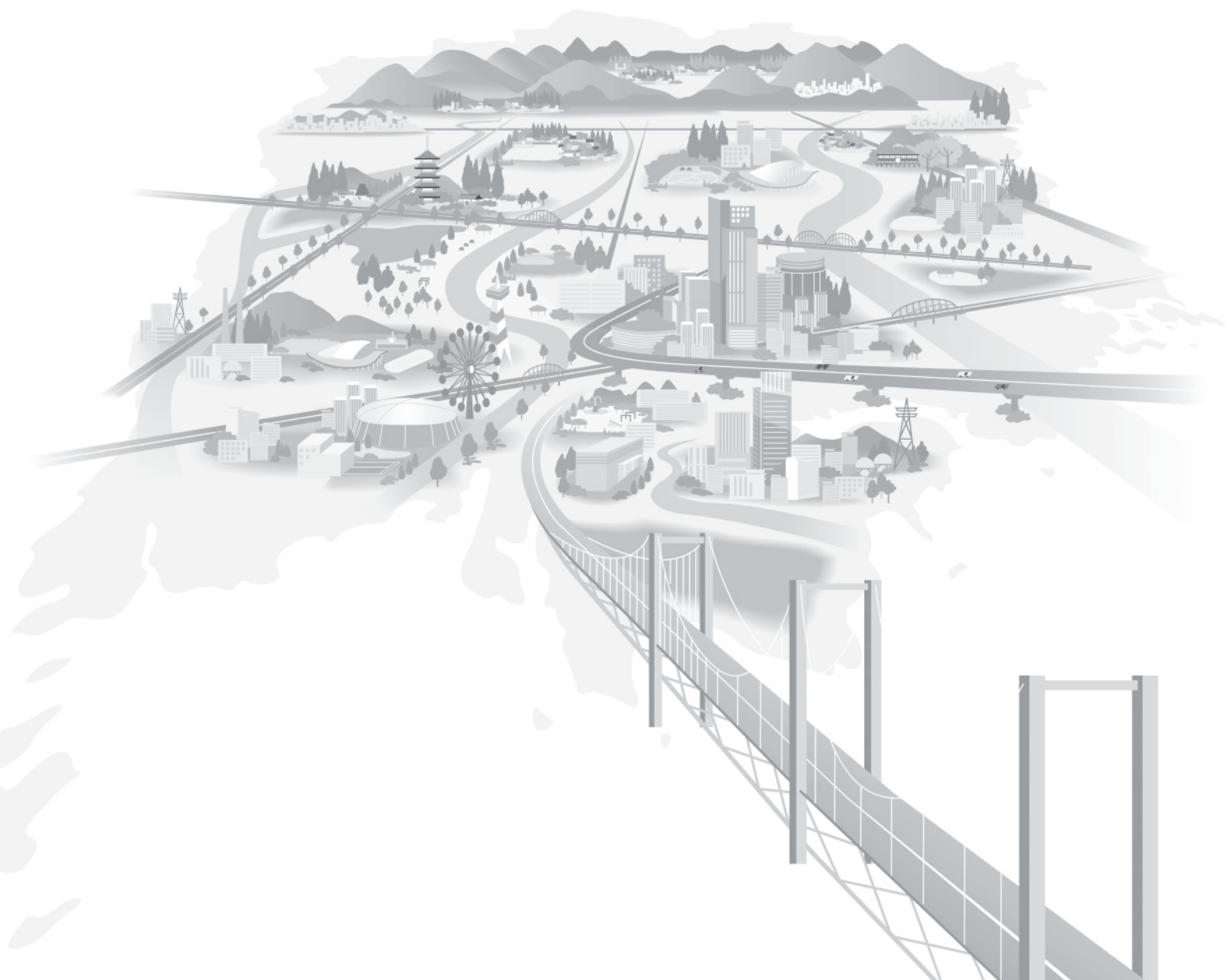


資料編

岡山県環境白書
2014



資料編目次

| | |
|--|-----|
| 1 総合的環境保全関係 | |
| (1) 岡山県環境基本条例 | 95 |
| (2) 平成25年度新岡山県環境基本計画の 実施状況 | 100 |
| (3) 公害防止計画策定状況 | 108 |
| (4) 岡山県環境審議会への提言及び 調査審議の状況 | 108 |
| 2 地域から取り組む地球環境の保全関係 | |
| (1) 岡山県内の温室効果ガス排出量の状況 | 109 |
| (2) 酸性雨調査結果 | 109 |
| 3 循環型社会の形成関係 | |
| (1) グリーン調達ガイドラインに基づく 平成25年度調達実績 | 110 |
| (2) 岡山県エコ製品品目別認定件数 | 111 |
| (3) 容器包装リサイクル法に基づく分別収集 実施市町村 | 113 |
| (4) 平成26年度の市町村別の分別収集見込み量 | 114 |
| (5) ごみ処理の推移 | 115 |
| (6) ごみ処理の状況 | 116 |
| (7) ごみ処理の有料化の状況 | 117 |
| (8) 市町村の一般廃棄物処理施設 | 118 |
| (9) し尿処理の推移 | 123 |
| (10) し尿処理の状況 | 123 |
| (11) 市町村一般廃棄物焼却施設概要一覧表 | 124 |
| (12) 浄化槽保守点検業の岡山県知事 登録状況 | 125 |
| (13) 産業廃棄物の実態 | 126 |
| (14) 第3次岡山県廃棄物処理計画の概要 | 127 |
| 4 大気環境関係(安全な生活環境の確保) | |
| (1) 大気汚染に係る環境基準 | 131 |
| (2) 環境大気測定局一覧 | 132 |
| (3) 大気環境監視網 | 134 |
| (4) 環境基準の達成状況の推移 | 135 |
| (5) オキシダント情報・注意報の発令日数 | 135 |
| (6) オキシダント情報・注意報の発令回数 | 136 |
| (7) 大気汚染防止法及び岡山県環境への負荷の 低減に関する条例に基づく設置届出等件数 | 137 |
| (8) 大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設等 設置状況 | 138 |
| (9) 岡山県環境への負荷の低減に関する条例 に基づくばい煙発生施設等設置状況 | 139 |
| 5 水環境関係(安全な生活環境の確保) | |
| (1) 水質の環境基準 | 140 |
| (2) 県下水域の環境基準類型の指定概略図 | 144 |
| (3) 水域区別の環境基準達成状況 | 145 |
| (4) 項目別の環境基準適合状況 | 145 |
| (5) 環境基準点における水質の経年変化 | 146 |
| (6) 地下水質の測定項目別検出状況 | 149 |
| (7) 海水浴場水質調査結果 | 151 |
| (8) 水質汚濁防止法・瀬戸内海環境保全特別措 置法に基づく特定事業場数 | 152 |
| (9) 瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく特定 施設の許可申請等の件数 | 152 |
| (10) 岡山県環境への負荷の低減に関する条例に 基づく特定事業場数 | 152 |
| (11) 自然海浜保全地区指定状況 | 153 |
| 6 騒音・振動・悪臭関係(安全な生活環境の確保) | |
| (1) 騒音に係る環境基準 | 154 |
| (2) 騒音に係る環境基準のあてはめ地域 | 155 |
| (3) 新幹線鉄道騒音に係る環境基準とあてはめ 地域 | 156 |
| (4) 航空機騒音に係る環境基準とあてはめ地域 | 156 |
| (5) 一般地域の騒音測定結果 | 157 |
| (6) 道路に面する地域の騒音測定結果 | 158 |
| (7) 新幹線鉄道騒音・振動調査結果 | 160 |

| | | | |
|--|-----|--|-----|
| (8) 瀬戸大橋線列車騒音測定結果の推移…… | 160 | 9 自然環境関係 | |
| (9) 騒音規制法・振動規制法に基づく指定地域 と区域区分…… | 161 | (1) 自然環境保全審議会開催状況…… | 192 |
| (10) 騒音規制法・振動規制法に基づく自動車騒 音及び道路交通振動に係る区域区分…… | 164 | (2) 自然保護基礎調査の実績…… | 192 |
| (11) 騒音規制法施行状況調査(工場・事業場数) …… | 167 | (3) 県自然環境保全地域等の指定…… | 193 |
| (12) 騒音規制法施行状況調査(施設数)…… | 168 | (4) 公有化の状況…… | 194 |
| (13) 振動規制法施行状況調査(工場・事業場数) …… | 169 | (5) 「岡山県版レッドデータブック2009」 選定種のカテゴリー別集計表…… | 194 |
| (14) 振動規制法施行状況調査(施設数)…… | 170 | (6) 自然公園の許可申請、届出件数一覧表…… | 195 |
| (15) 工場・事業場に係る騒音・振動の規制基準 …… | 171 | (7) 中国自然歩道岡山県ルートの興味地点…… | 196 |
| (16) 特定建設作業に係る騒音・振動の規制基準 …… | 171 | (8) 中国自然歩道の整備概要…… | 197 |
| (17) 要請限度(自動車騒音・道路交通振動の 規制)…… | 171 | (9) 狩猟免許者の推移…… | 197 |
| (18) 悪臭防止法に基づく規制地域と区域の区分 …… | 172 | (10) 狩猟者登録数の推移…… | 197 |
| (19) 悪臭の規制基準…… | 173 | (11) 鳥獣による農林水産業被害状況…… | 198 |
| 7 有害化学物質関係(安全な生活環境の確保) | | (12) 鳥獣捕獲数(狩猟及び有害鳥獣捕獲)…… | 198 |
| (1) ダイオキシン類環境調査結果…… | 176 | (13) みどりの少年隊結成状況…… | 199 |
| (2) 有害大気汚染物質環境調査結果…… | 181 | 10 参加と協働による快適な環境の保全関係 | |
| (3) 岡山県化学物質環境モニタリング調査…… | 182 | (1) 岡山県景観条例に基づく届出等件数…… | 200 |
| 8 その他環境関係(安全な生活環境の確保) | | 11 環境と経済が好循環する仕組みづくり関係 | |
| (1) (独)日本原子力研究開発機構人形峠環境技 術センター周辺に係る監視測定結果…… | 187 | (1) 環境影響評価に関する処理状況…… | 201 |
| (2) 中津河捨石堆積場周辺に係る監視測定結果 …… | 189 | 環境関係年表…… | 202 |
| (3) 回収ウラン転換実用化試験に係るプルトニ ウム監視測定結果…… | 190 | 環境用語の解説…… | 219 |
| (4) 管理目標値…… | 191 | | |

1 総合的環境保全関係

(1)岡山県環境基本条例

(平成8年10月1日 岡山県条例第30号)

(平成9年4月1日 施行)

目 次

第1章 総則(第1条-第8条)

第2章 環境の保全に関する基本的施策

第1節 施策の策定等に係る指針(第9条)

第2節 岡山県環境基本計画(第10条)

第3節 県が講ずる環境の保全のための施策等
(第11条-第22条)

第4節 地球環境保全及び国際協力の推進(第
23条・第24条)

第3章 岡山県環境審議会への提言(第25条-第
27条)

第4章 雑則(第28条)

第1章 総 則

(目的)

第1条 この条例は、本県の恵まれた環境が県民共有の財産であることにかんがみ、環境の保全について、基本理念を定め、並びに県、市町村、事業者及び県民の責務を明らかにするとともに、環境の保全に関する施策の基本となる事項等を定めることにより、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって現在及び将来の県民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において「環境への負荷」とは、人の活動により環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。

2 この条例において「公害」とは、環境の保全上の支障のうち、事業活動その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気汚染、水質汚濁(水質以外の水の状態又は水底の底質

が悪化することを含む。)・土壌の汚染、騒音、振動、地盤の沈下(鉱物の掘採のための土地の掘削によるものを除く。)及び悪臭によって、人の健康又は生活環境(人の生活に密接な関係のある財産並びに人の生活に密接な関係のある動植物及びその生育環境を含む。第9条第1号及び第13条第4項において同じ。)に係る被害が生ずることをいう。

(基本理念)

第3条 環境の保全は、県民の健全で恵み豊かな環境の恵沢を享受する権利を実現し、健全で恵み豊かな環境を将来の世代へ継承する責任を果たすことを旨として、行われなければならない。

2 環境の保全は、社会経済活動その他の活動による環境への負荷をできる限り低減することその他の環境の保全に関する行動により、人と自然との共生が確保されるとともに持続的に発展することができる社会が構築されることを旨として、すべてのものの参加の下に行われなければならない。

3 地球環境保全(人の活動による地球全体の温暖化又はオゾン層の破壊の進行、海洋の汚染、野生生物の種の減少その他の地球の全体又はその広範な部分の環境に影響を及ぼす事態に係る環境の保全をいう。第23条において同じ。)は、人類共通の課題であるとともに県民の健康で文化的な生活を将来にわたって確保する上での課題であることにかんがみ、積極的に推進されなければならない。

(県の責務)

第4条 県は、前条に定める環境の保全についての基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、環境の保全に関する基本的かつ総合的な施策を策定し、及び実施する責務を有する。

2 県は、基本理念にのっとり、市町村が実施する

環境の保全に関する施策について支援又は協力するように努めなければならない。

(市町村の責務)

第5条 市町村は、基本理念にのっとり、環境の保全に関し、当該市町村の区域の自然的社会的条件に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。

2 市町村は、基本理念にのっとり、県が実施する環境の保全に関する施策に協力するように努めなければならない。

(事業者の責務)

第6条 事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動を行うに当たっては、これに伴って生ずる公害を防止し、又は自然環境を適正に保全するために必要な措置を講ずる責務を有する。

2 事業者は、基本理念にのっとり、環境の保全上の支障を防止するため、その事業活動を行うに当たって、その事業活動に係る製品その他の物が廃棄物となった場合にその適正な処理が図られることとなるように必要な措置を講ずる責務を有する。

3 前二項に定めるもののほか、事業者は、基本理念にのっとり、環境の保全上の支障を防止するため、その事業活動を行うに当たって、その事業活動に係る製品その他の物が使用され又は廃棄されることによる環境への負荷の低減に資するように努めるとともに、その事業活動において、再生資源その他の環境への負荷の低減に資する原材料、役務等を利用するように努めなければならない。

4 前三項に定めるもののほか、事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動に関し、これに伴う環境への負荷の低減その他環境の保全に自ら努め、その保有する環境への負荷に関する情報を広く提供するとともに、県又は市町村が実施する環境の保全に関する施策に協力する責務を有する。

(県民の責務)

第7条 県民は、基本理念にのっとり、環境の保全上の支障を防止するため、その日常生活に伴う

環境への負荷の低減に努めなければならない。

2 前項に定めるもののほか、県民は、基本理念にのっとり、環境の保全に自ら努めるとともに、県又は市町村が実施する環境の保全に関する施策に協力する責務を有する。

(岡山県環境白書)

第8条 知事は、毎年、環境の状況及び環境の保全に関して講じた施策等を明らかにした岡山県環境白書を作成し、公表しなければならない。

第2章 環境の保全に関する基本的施策

第1節 施策の策定等に係る指針

第9条 この章に定める環境の保全に関する施策の策定及び実施は、基本理念にのっとり、次に掲げる事項の確保を旨として、各種の施策相互の有機的な連携を図りつつ総合的かつ計画的に行われなければならない。

一 人の健康が保護され、及び生活環境が保全され、並びに自然環境が適正に保全されるよう、大気、水、土壌その他の環境の自然的構成要素が良好な状態に保持されること。

二 生態系の多様性の確保、野生生物の種の保存その他の生物の多様性の確保が図られるとともに、森林、農地、水辺地等における多様な自然環境が地域の自然的社会的条件に応じて体系的に保全されること。

三 人と自然との豊かな触れ合いが保たれること。

第2節 岡山県環境基本計画

第10条 知事は、環境の保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、岡山県環境基本計画(以下この条において「環境基本計画」という。)を定めなければならない。

2 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

一 環境の保全に関する総合的かつ長期的な施

策の大綱

二 前号に掲げるもののほか、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- 3 知事は、環境基本計画を定めるに当たっては、県民、事業者及び市町村の意見を反映することができるように、必要な措置を講ずるものとする。
- 4 知事は、環境基本計画を定めるに当たっては、その基本的な事項について、あらかじめ、環境基本法(平成5年法律第91号)第43条第1項の規定による岡山県環境審議会(第25条及び第27条において「審議会」という。)の意見を聴かなければならない。
- 5 知事は、環境基本計画を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。
- 6 前三項の規定は、環境基本計画の変更について準用する。

第3節 県が講ずる環境の保全のための施策等

(施策の策定等に当たっての配慮)

第11条 県は、環境に影響を及ぼすと認められる施策を策定し、及び実施するに当たっては、環境への負荷の低減に資する措置その他の環境の保全のために必要な措置を講ずるように努めるものとする。

(環境影響評価の推進)

第12条 県は、土地の形状の変更、工作物の新設その他これらに類する事業を行う事業者が、その事業の実施に当たりあらかじめその事業に係る環境への影響について自ら適正に調査、予測及び評価を行い、その結果に基づき、その事業に係る環境の保全について適正に配慮することを推進するため、環境影響評価に関する手続等の整備その他の必要な措置を講ずるものとする。

(規制の措置)

第13条 県は、公害を防止するため、公害の原因となる行為に関し、必要な規制の措置を講ずるものとする。

2 県は、自然環境を保全することが特に必要な区域における土地の形状の変更、工作物の新設、木竹の伐採その他の自然環境の適正な保全に支障を及ぼすおそれがある行為に関し、その支障を防止するため、必要な規制の措置を講ずるものとする。

3 県は、採取、損傷その他の行為であって、保護することが必要な自然物の適正な保護に支障を及ぼすおそれがあるものに関し、その支障を防止するため、必要な規制の措置を講ずるように努めるものとする。

4 前三項に定めるもののほか、県は、人の健康又は生活環境に係る環境の保全上の支障を防止するため、必要な規制の措置を講ずるように努めるものとする。

(誘導的措置)

第14条 県は、環境への負荷を生じさせる活動又は生じさせる原因となる活動(以下この条において「負荷活動」という。)を行う者がその負荷活動に係る環境への負荷の低減のための施設の整備その他の適切な措置をとることとなるよう誘導するため、必要かつ適正な経済的な助成その他の措置を講ずるように努めるものとする。

2 県は、負荷活動を行う者がその負荷活動に係る環境への負荷を低減させることとなるよう誘導するため、その負荷活動を行う者に適正かつ公平な経済的な負担を課する措置について調査及び研究を行い、その結果、その措置が必要である場合には、そのために必要な措置を講ずるように努めるものとする。

(環境の保全に関する施設の整備その他の事業の推進)

第15条 県は、環境の保全に関する公共施設及び公共的施設の整備を図るために必要な措置を講ずるものとする。

2 前項に定めるもののほか、県は、河川、湖沼等の水質の浄化その他の環境の保全に関する事業を推進するため、必要な措置を講ずるものとする。

(快適な環境の創造)

第16条 県は、快適な環境を創造するため、優れた自然景観の形成その他の必要な措置を講ずるものとする。

(資源の循環的利用等の推進)

第17条 県は、環境への負荷の低減を図るため、市町村、事業者及び県民による資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用及び廃棄物の減量が促進されるように、必要な措置を講ずるものとする。

2 県は、環境への負荷の低減を図るため、県の施設の建設及び維持管理その他の事業の実施に当たっては、資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用及び廃棄物の減量に努めるものとする。

(環境の保全に関する教育、学習等)

第18条 県は、環境の保全に関する教育及び学習の振興並びに環境の保全に関する広報活動の充実により、事業者及び県民が環境の保全についての理解を深めるとともにこれらの者の環境の保全に関する活動を行う意欲が増進されるようにするため、必要な措置を講ずるものとする。

(民間団体等の自発的な活動を促進するための措置)

第19条 県は、事業者、県民又はこれらの者の組織する民間の団体(次条において「民間団体等」という。)が自発的に行う環境の保全に関する活動が促進されるように、必要な措置を講ずるものとする。

(情報の提供)

第20条 県は、第18条の環境の保全に関する教育及び学習の振興並びに前条の民間団体等が自発的に行う環境の保全に関する活動の促進に資するため、個人及び法人その他の団体の権利利益の保護に配慮しつつ環境の状況その他の環境の保全に関する必要な情報を適切に提供するように努めるものとする。

(調査及び研究の実施)

第21条 県は、環境の保全に関する施策を策定し、及び適正に実施するため、公害の防止、自然環境の保全その他の環境の保全に関する事項につい

て、必要な調査及び研究を行うものとする。

(監視等の体制の整備)

第22条 県は、環境の状況を把握し、及び環境の保全に関する施策を適正に実施するために必要な監視、巡視、測定、試験及び検査の体制の整備に努めるものとする。

第4節 地球環境保全及び国際協力の推進

(地球環境保全の推進)

第23条 県は、すべての日常生活及び事業活動において地球環境保全が積極的に推進されるように、必要な措置を講ずるものとする。

2 前項に定めるもののほか、県は、地球環境保全に資する施策を推進するものとする。

(国際協力の推進)

第24条 県は、環境の保全に関する技術の移転、研修の実施、情報の提供等により、国際協力の推進に努めるものとする。

第3章 岡山県環境審議会への提言

(環境の保全に関する提言)

第25条 県民参加の下に環境の保全を図るため、次に掲げるものは、審議会に対して、知事その他の県の執行機関及び公営企業管理者(以下この条及び第27条において「知事等」という。)の施策について、環境の保全に関する提言を行うことができる。

一 県内に住所を有する者

二 県内に事務所又は事業所を有する個人及び法人その他の団体

三 県内に存する事務所又は事業所に勤務する者

四 県内に存する学校に在学する者

五 前各号に掲げるもののほか、知事等の施策に利害関係を有するもの

(適用除外)

第26条 次に掲げる事項に関する提言については、前条の規定は、適用しない。

- 一 判決、裁決等により確定した権利関係に関する事項
 - 二 裁判所で係争中の事項又は行政不服審査法(昭和37年法律第160号)に基づき不服申立てを行っている事項
 - 三 公害紛争処理法(昭和45年法律第108号)に基づきあっせん、調停、仲裁又は裁定の申請を行っている事項
 - 四 地方自治法(昭和22年法律第67号)第75条第1項の規定により監査の請求を行っている事項又は同法第242条第1項の規定により住民監査請求を行っている事項
 - 五 地方自治法第124条の規定により岡山県議会に請願を行っている事項
 - 六 その他法令(告示を含む。)の規定により意見の申立て等の手続を行っている事項
(提言及び調査審議の手続)
- 第27条 第25条の規定による提言は、その趣旨及び理由その他規則で定める事項を記載した書面により行わなければならない。
- 2 審議会は、提言の内容が環境の保全に関するものと認められないこと等により提言についての調査審議を行わないこととしたときは、提言を行ったもの(以下この条において「提言者」という。)に対し、速やかに、書面によりその旨を通知しなければならない。
 - 3 前項の通知には、理由を付さなければならない。
 - 4 審議会は、提言についての調査審議を行うこととしたときは、その旨を知事等に通知しなければならない。
 - 5 審議会は、調査審議のため必要があると認めるときは、知事等若しくは提言者に対し説明若しくは必要な資料の提出を求め、又は実地調査を行うことができる。
 - 6 審議会は、調査審議の結果、必要があると認めるときは、知事等に対し、施策の是正その他の措置を講ずべき旨の意見書を提出することができる。
 - 7 知事等は、前項の意見書の提出を受けたとき

は、これを尊重しなければならない。

- 8 審議会は、提言者に対し、速やかに、書面により調査審議の結果を通知しなければならない。
- 9 審議会は、毎年、提言及び調査審議の状況を公表しなければならない。

第4章 雑則

(規則への委任)

第28条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(2)平成25年度新岡山県環境基本計画の実施状況

(現況値等は平成26年9月2日に開催した岡山県環境審議会政策部会において公表したものである。)

基本目標1 地域から取り組む地球環境の保全

※達成状況：◎(H28もしくはH28の努力目標を達成済)、○(概ね順調に進行している)、△(やや進捗が遅れている)

| 項目 | 集定時 (H18) | 現況 (H25) | 努力目標 (H32) | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
|---|---|------------------|--|---|--|----------|
| 代表的な指標 | 製造品出荷額当たりのエネルギー消費量 (GJ/百万円) | 61.1 (H23速報) | 61.9 (20%減) | 東日本大震災後に全国的な節電意識が浸透したことや、電力の排出係数が低下したことなどにより、削減が進んでいる。 | 景気の回復状況に大きく左右される面はあるが、引き続き温室効果ガス排出算定・報告・公表制度の適切な運用を図るとともに、優良事例については周知を図り、他事業者での取組を促していく。 | ◎ |
| | CO ₂ 換算 kgCO ₂ /百万円 | 37.95 (H23速報) | 3.668 (22%減) | | | ○ |
| | 業務その他部門の床面積当たりのエネルギー消費量(MJ/m ²) | 864.9 (H23速報) | 770 (20%減) | 東日本大震災後に全国的な節電意識が浸透したが、パソコン等OA機器の普及などにより、削減があまり進んでいない。 | 事業者の自主的なエネルギー消費量の削減を促すため、温室効果ガス排出算定・報告・公表制度の適切な運用を図るとともに、優良事例については周知を図り、他事業者での取組を促していく。 | ○ |
| | CO ₂ 換算 kgCO ₂ /m ² | 128.6 (H23速報) | 112.9 (16%減) | | | △ |
| 1世帯当たりのエネルギー消費量(GJ) | 39.8 (H23速報) | 33.5 (20%減) | 県HPによる紹介のほか、エコパートナーシップおみやま委員会等を通じて、省エネ型家電の普及啓発を図るとともに、太陽光発電システムと併せて、効果的な省エネ設備を設置することにより家庭内のエネルギー利用の高度化を図る者に対し、設置経費の一部を補助したが、より広く県民への普及を図るまでには至っていない。 | エコパートナーシップおみやま委員会等を通じて、引き続き省エネ型家電の普及啓発に努めるとともに、家庭内におけるエネルギー消費量の約6割を占める給湯と冷房の省エネ化を進めるため、新たに太陽熱利用給湯器や住宅の断熱の普及を推進する。 | △ | |
| 1世帯当たりのエネルギー消費量(GJ) | 41.9 (H16) | 28.8 (H23速報) | 26.9 (25%減) | 各種広報媒体にてエコドライブの取組を呼びかけた。また、エコドライブ宣言者数は着実に増加している。 | エコドライブを定着させるため、効果的な広報を行い、引き続き宣言者の増加を図る。 | ○ |
| 自家用車1台当たりのエネルギー消費量(GJ) | 5.287 (H16) | 1.939 (H23速報) | 1.810 (25%減) | | | ○ |
| CO ₂ 換算 kgCO ₂ | 2.420 (H16) | | | | | |

| 重点プログラム | 集定時 (H23) | 現況 (H25) | 努力目標 (H28) | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
|----------------------------|--------------|-------------|---------------|---|--|----------|
| 太陽光発電の導入促進 (主要施策全体) | H23 | 361 | 340 | 再生可能エネルギーの固定価格買取制度や各種補助金等により、普及が進んでいる。 | 国・県の補助金が終了したものの、固定価格買取制度により、普及は進むと考えられ、啓発等を行っていく。 | ◎ |
| 住宅用太陽光発電の導入促進 | 5 | 8 | 10 | 太陽光発電システムと併せて、効果的な省エネ設備を設置することにより家庭内のエネルギー利用高度化を図る者に対し、設置経費の一部を補助するなど、県内における住宅用太陽光発電設備の普及拡大を図った。 | 太陽光発電の普及拡大に向けたインセンティブとしての補助制度は一定の成果があった。再生可能エネルギー固定価格買取制度は、国や地方公共団体の補助が無くとも一定の利益が得られる水準に設定されており、今後は、P・R・啓発等により、普及を図っていく。 | ○ |
| メガソーラーの誘致促進 | 0 | 36 | 20 | 県域の公表や補助金により、メガソーラーの誘致に努めた結果、県域10箇所全てで事業者が決定するなど、H26年3月末現在で、36件、54MWのメガソーラーが県内で稼働している。 | 固定価格買取制度による太陽光発電の買取価格は引き下げられたものの、依然として事業者の意欲は高く、土地情報等の問い合わせも寄せられている。事業が円滑に行われるよう関係部局と連携していく。 | ◎ |
| 野菜、花き栽培など農業分野での新エネルギーの利用拡大 | 57 | 86 | 100 | 地域の普及指導センターが農林水産総合センター等と連携して、アスパラガスやナス、キュウリの露地野菜を中心に、展示場の設置や現地研修会等の開催により、普及啓発した。その結果、本システムのメリットを理解した農業者が導入を進めた。 | 中山間地域を重点として、展示場の設置等により、今後も引き続き導入を推進する。 | ○ |
| 小水力発電の導入促進 | 7 | 7 | 30 | 平成25年度は研修会を3回開催するとともに、調査等に関する補助を3件行ったが、高額な初期投資や通地の少なさのため、新たな設置は無かった。 | 平成26年度も引き続き研修会を開催するとともに、補助制度により普及促進を図る。 | △ |
| 新エネルギーの普及啓発 | 340 | 1,379 | 2,000 | 平成25年度は、太陽光発電、小水力発電への関心の高まりや企業局が記念フォーラムを開催したため、多数の参加となった。 | 新エネルギー普及啓発セミナーを年4回開催し、新エネルギーの導入促進を図る。 | ○ |

| 重点プログラム | 項目 | H23 | 現況 (H25) | 努力目標 (H28) | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
|-----------|----------------------------|---------------|------------------|---------------|--|--|----------|
| 新エネルギーの推進 | 県民参加による発電施設設置の普及拡大 | 21 | 24 (H25) | 60 | 平成25年度は2箇所新設され、計24箇所の設置となったが、努力目標達成にはこれまでに設置を進める必要がある。 | 県民参加による太陽光発電施設設置の取組を普及させたため、NPO法人等と協議しながら、これまでに蓄積されたノウハウを広く周知するとともに、資金の調達方法等ノウハウについて検討を進める。 | △ |
| | スマートタウン構想の推進 | 0 | 2 | 5 | エネルギーの地産地消による新たな地産づくりを進めるため、H24年度にスマートタウン指定した赤磐市、津葉倉村の取り組みを支援するとともに、H25年度に津山市を新たに指定した。 | スマートタウン地域の主体的な取組を支援するとともに、スマートタウン地域の取組が県内に拡大するよう、情報発信等に努める。また、新たなスマートタウン地域の指定を検討する。 | ○ |
| 省エネルギーの推進 | 県有施設の省エネルギー化の推進 | 81,671 | 78,707 | 78,640 | 6年間で平成22年度比6%以上の削減を目標として取り組んでおり、順調に削減が進んでいる。 | 排出量削減のためには、排出要因の大半を占める電力と自動車燃料の削減が重要であり、部局への周知を徹底し、取組を推進する。 | ○ |
| | 信号灯器のLED化 | 40 | 47.8 | 60 | 目標の達成に向け、計画的な整備を推進した。また、補充措置として交通信号用電球の白熱電球からLED電球への交換整備を実施した。 | 引き続きLED式信号灯器の整備に努めるほか、補充措置として交通信号用電球の白熱電球からLED電球への交換整備も実施する。 | ○ |
| | 製造品出荷額当たりのエネルギー消費量(GJ/百万円) | 63.7 (H22) | 61.1 (H23速報) | 62.6 | 東日本大震災後に全国的な節電意識が浸透したことや、電力の排出係数が低下したことなどにより、削減が進んでいる。 | 景況の回復状況に大きく左右される面はあるが、引き続き温室効果ガス排出削減報告書の提出を受けるとともに、優良事例について周知を図り、他事業者の取組を促していく。 | ◎ |
| | 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度による排出抑制 | 901 (H22) | 86.49 (H23速報) | 822 | 東日本大震災後に全国的な節電意識が浸透したが、パソコン等OA機器の普及などにより、削減があまり進んでいない。 | 事業者の自主的なエネルギー消費量の削減を促すため、温室効果ガス排出算定・報告・公表制度の適切な運用を図るとともに、優良事例については周知を図り、他事業者での取組を促していく。 | ○ |
| | アースキーパーメンバークラスの拡大 | 10,450 | 10,881 | 12,500 | 既会員に対して、HPやメールなどを活用して継続的な実践を促進する取組を行ったが、新規加入を促進するための制度PRが十分と言えない面があった。 | 今後も、既会員に対して、HPやメールなどを活用して継続的な実践を促進するよう工夫やイベント等、様々な機会を捉えて積極的に新規加入の促進を行う。 | △ |
| | エコドライブの推進 | 29.8 (H22) | 28.8 (H23速報) | 28.6 | 各種広報媒体にてエコドライブの取組を呼びかけた。また、エコドライブ宣言者は着実に増加している。 | エコドライブを定着させるため、効果的な広報を行い、引き続き宣言者の増加を図る。 | ○ |
| | 省エネ型機器等の普及拡大 | 36.1 (H22) | 39.8 (H23速報) | 34.5 | 県HPによる紹介のほか、エコパートナーシップおみやま会員等を招いて、省エネ型家電の普及啓発を図るとともに、太陽光発電システムと併せて、効果的な省エネ設備を設置することにより家庭内のエネルギー利用の高度化を図る者に対し、設置経費一部を補助したが、より広く県民への普及を図るまでには至っていない。 | エコパートナーシップおみやま会員等を通じて、引き続き省エネ型家電の普及啓発を図るとともに、家庭内におけるエネルギー消費量の約6割を占める給湯と冷房の省エネ化を進めるため、新たに太陽熱利用給湯器や住宅の窓断熱の普及を推進する。 | △ |
| | 電気自動車の普及促進 | 605 | 1,327 | 3,000 | 電気自動車の普及には充電インフラの整備が不可欠であることから、充電インフラの整備を促進するため、「岡山県電気自動車充電器設置ビジョン」を作成するとともに、各種イベントでPRを行うなどの普及促進に努めた。 | 民間事業者等と連携しながら、充電インフラ整備の促進を図るとともに、震災以降、注目が高まっている蓄電池としての機能など、電気自動車の新しい可能性に着目しながら、さらなる普及拡大を図る。 | △ |

(注)代表的な指標については、平成22年度において、「地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)算定マニュアル(平成21年6月、環境省)」等に基づき、年度を遡りして再計算を行ったため、従前の公表数値とは整合しない。

基本目標2 循環型社会の形成

| 代表的な指標 | | 項目 | 策定時 (H18) | 現況 (H25) | 努力目標 (H32) | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
|---------|--------------------|-----------------------|----------------|----------------|----------------|---|---|---|
| | | 一般廃棄物の排出抑制・資源化率(%) | 90 (H17) | 94.5 (H24) | 95 | ごみの排出抑制や資源化等に係る取り組みにより、最終処分量が抑制され、資源化率も増加した。 | 引き続き、一般廃棄物の排出抑制、分別回収などによりリサイクルの推進に取り組んでいく必要がある。 | ○ |
| | | 産業廃棄物の排出抑制・資源化率(%) | 93 (H17) | 95.5 (H24) | 95 | 排出量が大幅に減少した21年度から産業活動が回復傾向にある中で、ばいじんや燃え殻の再生利用が進み、努力目標値を達成する水準に至った。 | 引き続き、産業廃棄物の排出抑制・リサイクルの推進に取り組んでいく。 | ◎ |
| 重点プログラム | 環境社会にやさしい3Rの推進 | マイバグ持参率(%) | H23 | 44.5 | 70 | 「岡山県統一ノーレジ袋デー」等による啓発活動に取り組む、前年度をわずかながら上回った。 | 「岡山県統一ノーレジ袋デー」について事業者の理解を得ながら参加店舗の拡大に努めるとともに、消費者・環境団体等の協力を得ながら啓発活動を行い、更なる普及啓発を行う。 | △ |
| | | 循環資源マッチングシステムの取引量(累計) | 45.2 | 97 | 150 | パンフレット等を活用し、環境イベントにおいて普及啓発を行ったが、目標には及ばないため、関係機関と連携し、更なる普及啓発に努める。 | 情報誌やチラシ、環境イベントでのパネル展示による制度のPRと利用促進を図りながら、取引成立件数の増加に努める。 | ○ |
| | | 一人当たりごみの排出量*(g/人・日) | 948 (H22) | 947 (H24) | 935 (H27) | 近年、継続的な減少傾向にある。引き続きごみ減量化の取り組みを進めていく。 | 近年、継続的な減少傾向にある。引き続きごみ減量化の取り組みを進めていく。 | △ |
| | | 一般廃棄物のリサイクル率(%) | 25.7 (H22) | 26.7 (H24) | 32.7 (H27) | 近年、ばいじん、燃え殻の削減が顕著である。さらなる分別回収等の推進が必要である。 | 引き続き、市町村分別回収計画を踏まえた容器包装廃棄物の分別回収の徹底など市町村に助言していく。 | ○ |
| | | 一般廃棄物の最終処分量(t/日) | 148 (H22) | 117 (H24) | 130 (H27) | ごみの排出量の抑制により、直接最終処分される量が減少し、努力目標を達成している。 | 引き続き、中間処理による減量化や資源回収などにより、最終処分量を削減していく必要がある。 | ◎ |
| | | 10種分別実施市町村数(市町村) | 12 | 12 | 14 | 第7期分別回収促進計画(平成26～30年度)により市町村に助言等を行っていく。 | 分別回収促進計画に基づき、市町村に引き続き助言等を行う。 | △ |
| | | 産業廃棄物の排出量(千t/年) | 5,906 (H22) | 5,803 (H24) | 6,000 (H27) | 製造業等の生産活動の低下などにより、前年度と比較し約0.9%減少したが、産業活動の影響を大きく受けたため、排出抑制の推進が必要である。 | 多量排出事業者の処理計画書及び実施状況報告書をインターネットで公表するなど、自主的な産業廃棄物の排出抑制を促進していく。 | ◎ |
| | | 産業廃棄物のリサイクル率(%) | 39.1 (H22) | 38.7 (H24) | 39.1 (H27) | ばいじん、燃え殻の再生利用が進んだ結果、前年度と比較し2%上昇した。 | 新たなリサイクル技術の開発支援等に努める。 | ○ |
| | | 産業廃棄物の最終処分量(千t/年) | 348 (H22) | 317 (H24) | 305 (H27) | ばいじん、燃え殻の再生利用が進んだため、前年度と比較し約12%減少したが、産業活動の影響を大きく受けたため、排出抑制・資源化等の推進が必要である。 | 引き続き、排出抑制、減量化・再資源化を推進する。 | ○ |
| | | 電子マネーの導入促進 | 電子マネーの普及率(%) | 27.7 (H22) | 35.3 (H24) | 40 (H27) | 排出事業者等に対する周知を図るとともに、率先行動として、県が排出する産業廃棄物の処理委託に当たっては、原則として全て電子マネーを使用した。 | 引き続き、県の率先行動として電子マネーを活用するとともに、排出事業者等への周知を行う。 |
| 適正処理の推進 | 農業用廃プラスチックの適正処理の推進 | 農業用廃プラスチックの再生処理(%) | 30 | 33.9 | 40 | 関係機関・団体を中心に回収体制を整備されており、適正処理は進んでいるものの、分別等が不十分であり、再生処理よりも埋め立て処理が多くなっている。 | 回収体制の整備を徹底するとともに、再生処理の啓発を図る。 | ○ |

* ごみの排出量 = 収集ごみ量 + 直接搬入量 + 集団回収量

基本目標3 安全な生活環境の確保

| 項目 | 項目 | 策定時 (H18) | 現況 (H25) | 努力目標 (H32) | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
|---------|---------|---------------------|-------------|---------------|---------|--|----------|
| | | | | | | | |
| 大気環境の保全 | 重点プログラム | | | | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
| | | エコドライブの推進 | H23 | 17,757 | 25,000 | エコドライブを定着させるため、効果的な広報を行い、引き続き宣言者の増加を図る。 | ○ |
| | | 道路整備等の推進 | 71 (H24) | 71 | 63 | 平成25年度は主要渋滞箇所の渋滞緩和に繋がる道路の供用はなかったものの、現道拡幅やバイパス整備など、交通円滑化に資する道路整備等を着実に推進しており、目標は概ね達成した。 | ○ |
| 水環境の保全 | 重点プログラム | | | | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
| | | 信号機の高性能化更新数(基) | 243 | 294 | 350 | 目標達成に向け、計画的な信号制御機の高性能化を推進した。 | ○ |
| | | 光学式車両感知器数(基) | 938 | 991 | 1,147 | 老朽化した既存設備の更新を行う必要があるため、基数の増加にはつながらず目標水準を下回った。 | △ |
| 水環境の保全 | 重点プログラム | | | | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
| | | 工場・事業所の監視・指導 | 94 (H24) | 98 | 100 | 概ね予定とおりの進捗状況である。 | ○ |
| | | 大気汚染防止夏期対策の実施 | 5,372 | 10,511 | 12,000 | 県広報誌、テレビ・ラジオ等による広報活動が奏功し、登録者は順調に増加している。 | ○ |
| 水環境の保全 | 重点プログラム | | | | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
| | | 公益的機能を高めるための森づくりの推進 | 136,465 | 137,141 | 137,465 | (保安林指定)指定面積は順調に増加している。 | ○ |
| | | 生活排水対策の推進 | 81 | 824 | 87 | クリーンライフ100構想に基づいた計画的な施設整備を推進しているが、普及率の伸び率が鈍化傾向にあり、目標の進捗率を下回った。 | △ |
| 水環境の保全 | 重点プログラム | | | | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
| | | 工場・事業場の排水基準適合率(%) | 92 (H24) | 94 | 97 | 概ね予定とおりの進捗状況である。 | ○ |
| | | ホタルの生息地箇所数(箇所) | 266 | 290 | 320 | 概ね予定とおりの進捗状況である。 | ○ |
| 水環境の保全 | 重点プログラム | | | | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
| | | 環境に配慮した水辺づくり | 3 | 8 | 17 | 全ての河川を対象に、生態系等の環境に配慮する「多自然川づくり」や、行政と地域住民が連携して取り組む「ふれあいの水辺空間の整備」を推進した。計画とおりに進捗しているが、早期の効果発現が期待される治水対策と環境保全とのバランスに配慮する必要がある。 | ○ |

※達成状況：○(H32もしくはH28の努力目標を達成済)、○(概ね順調に進捗している)、△(やや進捗が遅れている)

| 重点プログラム | 項目 | H23 | 現況 (H25) | 努力目標 (H28) | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 | |
|-----------------------------|---------------------------------|---------------------|-------------|---------------|--|---|--|---|
| 水 環 境 の 保 全 | 見島湖再生の推進 | 水質目標値(COD: mg/l) | 7.8 | 7.5 (H27) | 見島湖の水質(COD)は前年度から0.3mg/l改善し、努力目標を達成した。 | 見島湖の水質(COD)は緩やかな改善傾向にあるが、今後の推移を見守りつつ、湖沼計画に基づく取組を着実に進めていく。 | ◎ | |
| | | 合併処理浄化槽の設置基数(基) | 26,491 | 28,641 | 31,061 (H27) | 設置基数は概ね計画どおり増加している。 | 単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換が進むよう、補助制度の充実等を国へ要望する。 | ○ |
| | 浄化水の導入量 (万m ³ /日) | 55 | 59.7 | 58.9 (H27) | 導入量は、十分計画水量を確保できている。 | 農業用水利権の範囲内で、最大限の導水が行われるよう、関係機関と協議して対応する。 | ◎ | |
| | ヨシ原の管理面積(千m ² 、累計) | 215 | 283 | 315 (H27) | 管理面積は、概ね計画どおり増加している。 | ヨシ原の管理と合わせ、刈り取ったヨシの再利用により、見島湖の環境保全意識の高揚を図る。 | ○ | |
| | 里海の整備箇所数(箇所) | 2 | 2 | 4 | 新たな里海の整備に向けて、必要となる試験研究を行い、計画づくりに着手している。 | 新たな里海整備に向けて、国や漁業者等と相談を行い事業計画を策定し、平成27年度着手を旨指していく。 | ○ | |
| | 汚濁負荷の前減目標量(t/日) | | | | | | | |
| | 豊かな自然を育む里海づくり | COD | 39 (H21) | 37 (H24) | 38 (H26) | COD、窒素、りん汚濁負荷量は、目標を起すまで削減が進んだが、経済状況等による影響も受けるため、中長期的な視点で汚濁負荷量の削減状況を評価していく必要がある。 | 第7次総量削減計画の各種施策を着実に推進していく。 | ◎ |
| | | 窒素 | 40 (H21) | 39 (H24) | 42 (H26) | | | ◎ |
| | | りん | 23 (H21) | 21 (H24) | 24 (H26) | | | ◎ |
| | 自然海岸の保全等 | 環境学習の場としての活用海浜数(箇所) | 0 | 1 | 3 | 1箇所環境学習が行われた。 | 利用箇所数が増加するよう、地元地区と連携をして対応していく必要がある。 | ○ |
| 質有 対 策 物 策 物 | 事業者のリスクコミュニケーションの取組率(%) | 8.6 | 14.3 | 20 | 取組率が3.9ポイント上昇したが、目標には届いていない。引き続きセミナーの開催等により周知を図る必要がある。 | 県内事業者所に対してリスクコミュニケーション取組状況等について調査を実施し、現状把握及び課題等を明らかにするとともに、今後の施策に活用する。 | ○ | |

基本目標4 自然と共生した社会の形成

| 達成状況 | 今後の課題と施策展開 | 評価、問題点等 | 努力目標(H32) | 現況(H25) | 策定時(H18) | 項目 | 達成状況 |
|------|---|--|-----------|------------|------------|-------------------------------|------|
| | | | | | | | |
| ○ | 巡視員や市町村等との情報共有・連携を一層強化し、より効果的な希少野生動物植物の保護を図る。 | 積極的に取り組み十分な実績を残している。 | 12 | 11 | 4 | 希少野生動物植物(条例指定)の保護に取り組み地域数(地域) | |
| △ | 今後も国や関係市町村と連携して、自然公園をより安全かつ快適に利用できるように整備・維持管理を行うとともに、自然公園の魅力により一層PRし、様々な方法で情報提供を行い、利用促進を図る。 | 国や各関係市町村と連携し、利用施設の現状での適正な整備・維持管理や普及啓発を図ったが、利用者数は前年度より減少し、目標水準を達成できなかった。 | 1,450 | 1,176(H24) | 1,234(H17) | 自然公園利用者数(万人) | |
| | 今後の課題と施策展開 | 評価、問題点等 | 努力目標(H28) | 現況(H25) | H23 | 項目 | 達成状況 |
| △ | 自然保護推進員数の増加を図るとともに、推進員の知識・資質の向上を目指し、研修会等交流の場を提供し、推進員による自然保護活動の一層の充実を図る。 | 任期満了に伴い、平成26年1月から新たに自然保護推進員を委嘱したところであるが、平成24年度末時点(92名)より10名減少している。 | 100 | 82 | 89 | 自然保護推進員数(人) | |
| ◎ | 巡視員をはじめ、地域と情報共有・連携を強化し、より効果的な保全活動を実施するとともに、新たな地域指定については、指定後の保護体制や指定効果を十分勘案して検討を行う。 | 平成24年度までに目標を達成し、引き続き、新たな対象地域の候補について調査・検討を行っている。併せて、既指定地域において、地域と協力しながら保護活動を実施した。 | 11 | 11 | 9 | 希少野生動物植物(条例指定)の保護に取り組み地域数(地域) | |
| △ | 引き続き試験の休日開催や各種広報による周知を行うとともに、新たな狩猟者確保に際しては、関係機関と連携して取り組む。 | 狩猟免許試験の休日開催、各種広報による試験の周知徹底及び狩猟に関するフォーラムを開催したが、登録者は前年度より減少した。 | 4,400 | 4,173 | 4,288 | 狩猟者登録件数(人) | |
| ◎ | 今後も農作物への被害等に応じて、国、市町村と連携して重点的に外来生物の防除に取り組む地域を掲げよう努める。 | 防除計画を作成し、アラビガマの防除に取り組む地域が4地域となり、目標を上回っている。 | 3 | 4 | 2 | 重点的に外来生物の防除に取り組む地域数(地域) | |
| △ | 利用者層の拡大のため、観察会、自主企画事業の更なる充実と公的機関や教育機関を通じてのPRを強化する。 | 利用者は、センター開講20周年記念事業を実施した前年度と比較すると16%程度減少している。(前々年度比で1%増) | 30,000 | 22,308 | 22,078 | 自然保護センターの利用者数(人) | |
| ○ | 引き続き関係市町村と連携して、自然歩道の施設再整備及び適正な維持管理に努める。また、ホームページの活用やルートマップの配布により、自然や史跡等の様々な魅力を提供し、普及啓発を行う。 | 中国自然歩道の体幹命及び案内標識等の再整備を行うとともに、関係市町村と連携して、自然歩道施設の適正な維持管理及びホームページマップでの普及啓発を行った。 | 190 | 169(H24) | 162 | 長距離自然歩道の利用者数(万人) | |
| ○ | 引き続き各関係市町村と連携し、既存のホームページや新たに掲載中の自然の共生ポータルサイトを様々な方法により、様々な情報提供を行い、より多くの人へ自然のふれあいの場及び機会を提供し、普及啓発に努める。 | 各関係市町村と連携し、優れた自然や身近な自然のふれあいの場を求める県民ニーズに対応するため、各種体験プログラムの情報提供を実施した。 | 20,000 | 12,724 | 7,504(H22) | 身近な自然体験プログラムの参加者数(累計、人) | |
| ○ | 平成26年度の出荷目標本数を着実に生産するとともに、27年度以降の計画を可能な限り前倒しして増産に努める。 | 平成26年度の出荷目標本数5,000本に必要な約8,700本の1年生苗木を育苗した。育苗期間は2カ年であり、生産計画としては予定とおり進捗している。 | 45,000 | 0 | 0 | 少花スギ苗木の出荷本数(本) | |
| ◎ | 森林ボランティアグループ等が継続的な活動を行っているためには、活動内容の充実及び活動を指導する森林づくりリーダーなどの指導者の育成を図る必要がある。 | 林業体験活動や森林ボランティアの里山保全活動への支援、おやかま森づくりサポーターセンター「がけ」森づくり活動促進、企業との森づくり活動への参加支援などにより新たな団体が育成され、目標達成となった。 | 90 | 104 | 73 | 森づくり活動に取り組む団体数(団体) | |
| △ | 募金の増額に向けて、企業・団体等への協力を依頼するとともに、市町村等と連携して募金の浸透を図るとともに、募金活動の積極的なPRを行う。 | 街頭募金や職場募金、イベントでの募金依頼など積極的な募金活動を行ったが、募金額は目標額を下回った。 | 2,000 | 1,663 | 1,658 | 緑の募金総額(万円) | |

※達成状況：◎(H32もしくはH28の努力目標を達成済)、○(概ね順調に進捗している)、△(やや進捗が遅れている)

推進目標 1 参加と協働による快適な環境の保全

※達成状況：◎(H32もしくはH28の努力目標を達成済)、○(概ね順調に進捗している)、△(やや進捗が遅れている)

| 重点プログラム | 項目 | H23 | 現況 (H25) | 努力目標 (H28) | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成 状況 |
|-----------------------------|----------------------|-------------------------|-------------|---------------|--|--|----------|
| 協働による 活動の促進 による 進捗 | アダプト事業の推進 | おかやまアダプト参加者数(人) | 46,604 | 50,000 | (道路・河川・海岸) 団体数、参加者数ともに着実に増加している。 | 今後も県民運動として定着するよう、引き続き広報等によるPR活動を行っていく。 | ○ |
| | 実践的な環境学習の機会を提供 | 環境学習出前講座の協働実施回数(累計、回) | 183 | 220 | NPO等環境団体との協働の場として県が設置した「岡山県環境学習協働推進広場」を中心とした環境学習出前講座は県下に広く定着し、着実にニーズが増加している。H25実績では計251回実施し、環境学習の機会を提供した。また、環境学習拠点施設である自然保護センターでは、各種の自然観察会や研修会を実施している。 | 関係施設との連携を図りながら、移動環境学習車も活用するなどして、出前講座等の体験型環境学習の充実を図り、さらに幅広い環境学習の機会の提供に努める。 | ◎ |
| 環境学習の 充実 | 環境学習エコツアーの実施 | 環境学習エコツアー参加者数(累計、人) | 35,724 | 48,000 | 参加希望が多く、団体向けコースは3,604名(バス98台)、個人向けコースは114名が参加した。また、県が行程を企画する個人向けコースについては、参加者の満足度も高く、環境保全意識を向上させることができた。 | 団体向けは引き続き、参加団体にバス借り上げ費用の一部を負担してもらいながら、移動環境学習車も活用するだけでなく多くの方に参加してもらい、バスの台数を確保し、個人向けツアーについても見学施設などコース内容の充実や工夫はもちろんのことで、できるだけ早く募集を開始し、参加者の増加に努める。 | ○ |
| | 学校内への快適空間の整備 | 「木の快適空間」の整備校(校) | 13 | 15 | ・高校生自らが企画・提案した「木の快適空間」を、ユニバーサルデザイン観点に立ち、県産材を活用した施設整備を行った。(1校：早島支援学校) | 平成25年度で事業終了。 | ◎ |
| 全県と親 しい 連携 | 景観行政団体となる市町村の拡大と連携強化 | 景観行政団体の数(市町村) | 6 | 10 | 景観行政団体への移行に関するアンケート調査を行った。既に景観行政団体となっている市町村及び津山市以外では、その取組が積極的である。 | 優れた景観を持つ市町村に対して、景観行政団体となるよう積極的に働きかけを行う。 | ○ |
| | 落書き防止・消去活動等の推進 | 落書き防止重点取組地区指定地区数(累計、地区) | 2 | 12 | 美作市北坂地区を重点地区に指定し、落書き消去活動を行った。平成28年度の目標を12地区としており、年に1地区のみでは目標達成が難しい。落書き防止重点取組地区の推薦地域が限られている。 | 年度当初に推薦依頼を行うとともに、県内の実態把握に努める。 | △ |

推進目標2 環境と経済が好循環する仕組みづくり

※達成状況：◎(H32もしくはH28の努力目標を達成済)、○(概ね順調に進捗している)、△(やや進捗が遅れている)

| 重点プログラム | 項目 | H23 | 現況(H25) | 努力目標(H28) | 評価、問題点等 | 今後の課題と施策展開 | 達成状況 |
|-----------|----------------------------------|-------|---------|-----------|---|---|------|
| グリーン成長の推進 | 循環型産業クラスターで開発された製品の数(件) | 9 | 11 | 13 | 平成25年度は食用油の製造工程で発生する廃棄物を活用して飼料とする施設整備の支援を行った。 平成28年度の努力目標に対しての進捗としては順調に推移している。 | 引き続き県内外の企業ニーズや大学のシーズに関する情報収集、マッチングを行うとともに、補助制度の十分な周知等により、開発製品数のさらなる増加を図る。 | ○ |
| | 環境保全型農業直接支払交付金の対象活動を実施した農地面積(ha) | 92 | 198 | 220 | 環境保全型農業直接支払対象により、農業者の費用負担を緩和し、環境保全型農業の面的拡大を進め、前年比16%増の198haとなった。 | 環境保全型農業直接支払対象の活用を促し、引き続き取組面積の拡大を図る。なお、平成27年度以降については、国において制度見直しが進められている。 | ○ |
| | 「岡山県グリーン調達ガイドライン」に基づく取組の推進 | 189 | 189 | 206 | 指定品目数は前年度と変わらなかった。 | 国の方針等を踏まえ、新たな指定品目の追加に努める。 | ○ |
| | 「岡山県エコ製品」の認定・周知 | 423 | 382 | 425 | 7件の新規認定を行う一方、廃止は21件のため、総数で前年を下回った。 | 巡回エコ製品等普及展示会等を通じて引き続き認定制度のPRに努め、認定件数の増加を図る。 | △ |
| | 「岡山エコ事業所」の認定・周知 | 277 | 275 | 300 | 5件の新規認定を行う一方、廃止が7件と前年度更新しなかったものが3件あり、総数で前年度を下回った。 | 巡回エコ製品等普及展示会等を通じて引き続き認定制度のPRに努め、認定事業所数の増加を図る。 | ○ |
| | 巡回エコ製品等普及展示会参加者数(人) | 5,310 | 11,660 | 5,000 | 県内6カ所で展示会を開催したところ、目標を大幅に上回る参加者があった。 | 魅力ある展示会になるように企画し、多くの県民に岡山エコ製品等を知ってもらうよう努める必要がある。 | ◎ |

(3)公害防止計画策定状況

| 地域名 | 地域の範囲 | 計画の期間 | 備考 |
|---------|---|-------------------------------|---|
| 岡山・倉敷地域 | 岡山市 倉敷市 玉野市 早島町 | S63年度～H4年度 (5か年) | 計画策定指示 S 63.9.22 計画承認 H元.3.9 |
| | | H5年度～9年度 (5か年) | 計画策定指示 H 5.9.10 計画承認 H 6.3.7 |
| | | H10年度～14年度 (5か年) | 計画策定指示 H10.9.25 計画承認 H11.2.25 |
| | | H15年度～19年度 (5か年) | 計画策定指示 H15.7.25 計画同意 H16.3.18 |
| | | H20年度～22年度 (3か年) | 計画策定指示 H20.10.10 計画同意 H21.3.17 |
| | | H23年度～32年度 (10か年) | 計画同意* H24.3.16 (注)次の地域を昭和63年度に統合した。 ●S46年度～62年度 水島地域公害防止計画 対象地域-倉敷市 ●S60年度～H元年度 岡山地域公害防止計画 対象地域-岡山市、玉野市、旧灘崎町 |
| | | | 〔岡山地域公害防止計画は、昭和50年度～59年度の間は岡山市、備前市及び旧瀬戸町を対象とした「岡山・備前地域公害防止計画」であった。〕 |
| 備後地域 | (注) 笠岡市 井原市は平成10年度まで、また、広島県側は現在1市 | S49年度～53年度 (5か年) | 計画策定指示 S 48.7.3 計画承認 S 49.12.27 |
| | | S54年度～58年度 (5か年) | 計画策定指示 S 54.8.17 計画承認 S 55.3.18 |
| | | S59年度～63年度 (5か年) | 計画策定指示 S 59.9.21 計画承認 S 60.3.8 |
| | | H元年度～5年度 (5か年) | 計画策定指示 H元.9.8 計画承認 H 2.3.13 |
| | | H6年度～10年度 (5か年) | 計画策定指示 H 6.9.20 計画承認 H 7.3.13 |
| | | H11年度～15年度 (5か年) | 計画策定指示 H11.10.15 計画承認 H12.2.24 |
| | | H16年度～20年度 (5か年) | 計画策定指示 H16.10.8 計画同意 H17.3.17 |
| | | 〈一部変更〉 H16年度～22年度 (7か年) | 計画策定指示 H20.10.10 計画同意 H21.3.17 |
| | | H23年度～32年度 (10か年) | 計画同意* H24.3.16 |

※ 環境基本法改正(平成23年8月)により、環境大臣の計画策定指示が廃止され「公害防止対策事業計画」の同意を得ることとなった。

(4)岡山県環境審議会への提言及び調査審議の状況

| 年 度 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 提 言 件 数 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 審査審議回数 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

2 地域から取り組む地球環境の保全関係

(1) 岡山県内の温室効果ガス排出量の状況(平成23年度・平成24年度速報値) (単位: 万t-CO₂)

| 区分 | 基準年度 H2年度 (1990年度) | H23年度 (2011年度) | | | | <速報値> H24年度 (2012年度) | | | | |
|--------|--------------------------|-------------------|--------------|-------------|--------|----------------------------|-------------|--------|--------|-------|
| | | | 基準年度 比増減率 | 前年度比 増減率 | 構成割合 | 基準年度 比増減率 | 前年度比 増減率 | 構成割合 | | |
| 二酸化炭素 | 産業部門 | 3,633 | 3,374 | △7.1% | △3.5% | 68.8% | 3,424 | △5.8% | 1.5% | 68.5% |
| | 製造業 | 3,330 | 2,909 | △12.7% | △3.5% | 59.3% | 2,974 | △10.7% | 2.2% | 59.5% |
| | 家庭部門 | 247 | 403 | 63.3% | △5.7% | 8.2% | 437 | 77.1% | 8.5% | 8.7% |
| | 業務部門 | 270 | 393 | 45.7% | △12.6% | 8.0% | 408 | 51.1% | 3.7% | 8.2% |
| | 運輸部門 | 406 | 428 | 5.4% | △2.7% | 8.7% | 418 | 2.9% | △2.4% | 8.4% |
| | 自動車 | 337 | 370 | 9.8% | △2.9% | 7.5% | 360 | 6.9% | △2.7% | 7.2% |
| | 工業プロセス | 228 | 124 | △45.5% | 3.3% | 2.5% | 127 | △44.3% | 2.2% | 2.5% |
| | 廃棄物部門 | 46 | 80 | 72.2% | 13.0% | 1.6% | 84 | 80.4% | 4.7% | 1.7% |
| 計 | 4,831 | 4,803 | △0.6% | △4.0% | 98.0% | 4,898 | 1.4% | 2.0% | 98.0% | |
| メタン | 59 | 35 | △40.5% | △1.0% | 0.7% | 34 | △43.2% | △4.5% | 0.7% | |
| 一酸化二窒素 | 34 | 26 | △23.9% | △6.8% | 0.5% | 25 | △25.5% | △2.1% | 0.5% | |
| 代替フロン類 | 32 | 37 | 15.1% | 4.8% | 0.8% | 43 | 32.5% | 15.1% | 0.9% | |
| 合計 | 4,957 | 4,901 | △1.1% | △3.9% | 100.0% | 5,000 | 0.9% | 2.0% | 100.0% | |
| 全国 | 1,261百万t | 1,307百万t | 3.6% | 4.0% | - | 1,343百万t | 6.5% | 2.8% | - | |

(注) 1 産業部門にはエネルギー転換部門も含む。

2 端数処理の関係で合計・比率等の計算が合わない場合がある。

3 平成24年度数値について

暫定値として公表されている都道府県別エネルギー消費統計等の数値を用いて算定したものであり、速報値として取りまとめた。

(2) 酸性雨調査結果(平成2年度～25年度)

| 調査期間 | H2 | H3 | H4 | H5 | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 備前 県民局 | 4.8 | 4.6 | 4.6 | 4.7 | 4.6 | 4.6 | 4.5 | 4.8 | 4.8 | - | - | 4.8 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 東備 地域事務所 | 5.0 | 4.9 | 5.2 | 4.8 | 4.7 | 4.6 | 4.5 | 4.7 | - | 5.0 | - | - | 4.9 | 5.1 | 5.3 | 4.7 | 4.9 | 4.6 | 4.8 | - | - | - | - | - |
| 備中 県民局 | 4.7 | 4.6 | 4.7 | 4.7 | 4.8 | 4.9 | 4.6 | 4.8 | - | - | 4.6 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 井笠 地域事務所 | 4.8 | 4.9 | 4.9 | 4.9 | 5.0 | 5.1 | 4.6 | 4.8 | 4.7 | - | - | 5.0 | - | 5.0 | 5.3 | 5.2 | 5.2 | 5.0 | 5.5 | 5.6 | 5.7 | 5.3 | 5.0 | 5.4 |
| 高梁 地域事務所 | 5.4 | 5.0 | 4.9 | 5.1 | 4.9 | 5.2 | 4.9 | 4.9 | - | 5.0 | - | - | 5.1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 新見 地域事務所 | 5.6 | 5.3 | 5.1 | 5.3 | 5.4 | 5.1 | 5.1 | 5.4 | - | - | 4.7 | - | - | 5.2 | 5.1 | 4.7 | 4.9 | 4.7 | 4.9 | - | - | - | - | - |
| 真庭 地域事務所 | 4.8 | 4.7 | 4.8 | 4.9 | 4.6 | 4.8 | 4.6 | 4.7 | 4.7 | - | - | 4.7 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 美作 県民局 | 4.8 | 4.8 | 4.8 | 4.8 | 5.0 | 5.0 | 4.7 | 5.0 | - | 4.9 | - | - | 4.6 | 4.7 | 5.0 | 4.6 | 4.7 | 4.4 | 4.6 | 4.7 | 4.8 | 4.8 | 4.5 | 4.6 |
| 勝英 地域事務所 | 4.8 | 4.7 | 4.7 | 5.0 | 4.7 | 4.8 | 4.6 | 4.6 | - | - | 4.6 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 吉備高原 都市 | 4.7 | 4.6 | 4.6 | 4.8 | 4.7 | 4.7 | 4.6 | 4.8 | 4.8 | 4.7 | 4.5 | 4.7 | 4.6 | 4.7 | 5.0 | 4.6 | 4.8 | - | - | - | - | - | - | - |
| 全地点 年平均値 | 4.9 | 4.8 | 4.8 | 4.9 | 4.8 | 4.9 | 4.7 | 4.9 | 4.8 | 4.9 | 4.6 | 4.8 | 4.8 | 4.9 | 5.1 | 4.8 | 4.9 | 4.7 | 5.0 | 5.2 | 5.3 | 5.1 | 4.8 | 5.0 |

(注) 数値は、年平均値

3 循環型社会の形成関係

(1) グリーン調達ガイドラインに基づく平成25年度調達実績

| 区分 | 特定調達品名 | 調達目標 (%) | 単位 | H25実績 | | | H24調達実績 (%) |
|-------|--------------------|----------|--------|-------------------------------|---------------|----------------|-------------|
| | | | | 全調達数量 (特定調達品目として調達すべき数量) A | 特定調達品目の調達数量 B | 調達実績 (%) (B/A) | |
| 紙類 | 紙類 | 100% | 千円 | 120,577 | 120,577 | 100% | 100% |
| 文具類 | 文具類 | | | 127,982 | 127,982 | 100% | 100% |
| 機器類 | 机 | | 1,738 | 1,738 | 100% | 100% | |
| | 椅子 | | 3,993 | 3,993 | 100% | 100% | |
| | 棚 | | 516 | 516 | 100% | 100% | |
| 制服等 | 制服 | | 10,773 | 10,773 | 100% | 100% | |
| | 作業服 | | 8,384 | 8,384 | 100% | 100% | |
| | 旗・のぼり | | 2,200 | 2,200 | 100% | 100% | |
| 資材 | 再生加熱アスファルト混合物 | | 594 | 594 | 100% | 100% | |
| | 再生骨材 | | 1,092 | 1,092 | 100% | 100% | |
| | プレキャストコンクリート製品 | | 720 | 720 | 100% | 100% | |
| OA 機器 | パソコン、プリンタ、ファクシミリ | | 2,762 | 2,762 | 100% | 100% | |
| 家電製品 | 冷蔵庫、テレビ、エアコン、電子レンジ | | 214 | 214 | 100% | 100% | |
| 自動車 | 自動車(特殊車両を除く) | | 9 | 9 | 100% | 100% | |
| 役務 | 印刷 | | 3,720 | 3,715 | 100% | 100% | |
| | OA 機器のリース | | 531 | 531 | 100% | 100% | |
| | 自動車のリース | | 49 | 49 | 100% | 100% | |
| | イベント | | 12 | 12 | 100% | 100% | |
| | 電子マニフェスト | | 556 | 552 | 99% | 100% | |

(2)岡山県エコ製品品目別認定件数

(平成26年3月31日現在)

| 品 目 | | 認定 件数 | 備 考 |
|------------|----------------|----------|--|
| 文具類 4件 | ひも | 1 | 古紙を使用した紙ひも |
| | バッグ | 3 | 残布を使用したバッグ |
| 制服等 61件 | 学生服関連 | 18 | 再生PET樹脂を使用した製品(学生服、ズボン、スカート、シャツ、ブラウスなど) |
| | 作業服 | 35 | 再生PET樹脂を使用した製品 |
| | 制服 | 6 | 再生PET樹脂を使用した製品 |
| | ブルーシート | 1 | 再生ポリエチレン樹脂を使用した製品 |
| | 作業用手袋 | 1 | 再生PET綿を使用した製品 |
| 資 材 | 再生加熱アスファルト混合物 | 33 | アスファルト・コンクリート塊などから製造された道路の舗装用資材 |
| | 再生骨材 | 62 | コンクリート塊等から製造された資材(再生碎石、再生砂、再生割栗石等) |
| | 高炉スラグ骨材 | 1 | 高炉スラグを使用したコンクリート用骨材 |
| | プレキャストコンクリート製品 | 93 | 高炉スラグ等を使用した資材 ・落ちふた式U形側溝(本体).....12件 ・落ちふた式U形側溝(ふた).....12件 ・境界ブロック(歩車道境界ブロック).....7件 ・境界ブロック(地先境界ブロック).....6件 ・積みブロック.....9件 ・大型積みブロック(π型ブロック).....8件 ・鉄筋コンクリート芝台ブロック.....6件 ・鉄筋コンクリート側溝ふた.....6件 ・鉄筋コンクリート角フリューム.....7件 ・鉄筋コンクリート等厚側溝.....8件 ・鉄筋コンクリート水路用L型(勾配1:02型).....2件 ・鉄筋コンクリート水路用L型(直立型).....3件 ・鉄筋コンクリート大型フリューム.....5件 ・鉄筋コンクリート組立水路(枠、板).....2件 |
| | 改良土 | 23 | 建設工事に伴い副次的に発生する建設発生土・建設汚泥を原材料として製造された資材 |
| | 再生処理土 | 5 | 建設工事に伴い副次的に発生する建設汚泥を原材料として製造された資材 |
| | 流動化処理土 | 1 | 建設工事に伴い副次的に発生する建設汚泥を原材料として製造された資材 |
| | 鉄鋼スラグ混入路盤材 | 1 | 高炉スラグを使用した資材(上層路盤材) |
| | 溶融スラグ | 1 | 一般廃棄物、一般廃棄物焼却灰等の溶融固化物を使用した資材 |
| | 石炭灰(クリンカアッシュ) | 1 | 石炭の燃え殻を使用した資材 |
| | 鉄鋼スラグ水和固化体 | 2 | 製鋼スラグ、高炉スラグ微粉末等を使用した資材 |
| | 土工用水砕スラグ資材 | 1 | 高炉水砕スラグを使用した資材 |
| | 地盤改良用製鋼スラグ資材 | 1 | 製鋼スラグを使用した地盤改良用等資材 |
| | 採石廃土等再生資材 | 1 | 採石場から発生する廃土等を利用した資材 |
| | 植生シート・マット | 5 | 間伐材を使用した資材 |
| | 緑化基盤材 | 19 | 樹皮、伐採木等を使用した資材 |
| | たい肥 | 4 | 樹皮、枝葉等を使用した資材 |
| | 工業汚泥発酵肥料 | 1 | 食物残さ、食品汚泥等を使用した製品 |
| | 下水汚泥発酵肥料 | 1 | 下水汚泥、木材チップを使用した製品 |
| | 混合石灰肥料 | 1 | 石灰質肥料に石灰ケーキを混合した製品 |
| | 浄水ケーキ | 5 | 浄水スラッジを使用した資材(園芸用土) |

| 品 目 | | 認定 件数 | 備 考 |
|-------------|--------------------|------------|-------------------------------------|
| 資 材 279件 | 植木ばち・プランター・ 育苗箱 | 1 | 再生P E T繊維を使用した資材 |
| | 土壌改良材 | 1 | 原材料の一部に高炉スラグを使用した資材 |
| | 有機質被覆材 | 6 | 樹皮、枝葉等を使用した資材 |
| | 木材・建築用等資材 | 1 | 間伐材を使用した資材(台形集成材) |
| | その他資材 | 1 | フライアッシュ(石炭灰)や廃木材等を使用した資材 |
| | フローリング | 3 | コルク粒等を使用した資材(床材) |
| | 壁面緑化基盤材 | 1 | 再生骨材を使用した資材 |
| | 景観舗装材 | 3 | 溶融スラグ等を使用した資材 |
| その他 23件 | その他紙製品 | 1 | 古紙を使用した家畜用敷料 |
| | 食品用器具・容器包装 | 5 | 再生ポリエチレン樹脂を使用した再生品(食品トレイ等) |
| | 測量・境界杭 | 1 | 再生プラスチックを使用した再生品 |
| | 梱包材 | 2 | 廃プラスチックを使用したひも 古紙を使用した段ボール・段ボール箱 |
| | 炭化製品 | 1 | 廃木材等を使用した製品(土壌改良材、除湿剤等) |
| | 石灰系製品 | 1 | 石灰と無機性汚泥を混合した製品 |
| | 魚礁 | 1 | 餌料培養基質にかき殻を使用した製品 |
| | 視線誘導標 | 1 | 支柱に間伐材を使用した製品 |
| | 畳 | 1 | 畳床に古紙、廃木材を使用した製品 |
| | 畳縁 | 2 | 再生P E T樹脂を使用した製品 |
| | ごみ袋等 | 4 | 再生プラスチック等を使用した製品 |
| その他製品 | 3 | 廃木材を使用した製品 | |
| 計 | | 367 | |

(3)容器包装リサイクル法に基づく分別収集実施市町村

(平成26年度計画)

(第7期市町村分別収集計画による)

(平成25年8月計画策定)

| | 無色 | 茶色 | その他 | その他 | PET | その他プラ | | スチール | アルミ | 段ボール | 紙パック |
|------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|----|------|-----|------|------|
| | ガラス | ガラス | ガラス | 紙 | | うち白色 | | | | | |
| 岡山市(一部事務組合収集分を除く) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 倉敷市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 津山市(一部事務組合収集分を除く) | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 玉野市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 笠岡市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 井原市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 総社市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 高梁市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 新見市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 備前市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 瀬戸内市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 赤磐市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 真庭市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 美作市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 浅口市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 和気町 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 早島町 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 里庄町 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 矢掛町 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 新庄村 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 鏡野町(一部事務組合収集分を除く) | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | |
| 西粟倉村 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 美咲町(一部事務組合収集分を除く) | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 吉備中央町 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 岡山市久米南町衛生施設組合(岡山市の一部、久米南町) | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 津山圏域東部衛生施設組合(津山市の一部、勝央町、奈義町) | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 津山圏域西部衛生施設組合(津山市の一部、美咲町の一部、鏡野町の一部) | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | |
| 岡山県合計(市町村数) | 27 | 27 | 27 | 14 | 26 | 25 | 13 | 27 | 27 | 26 | 22 |

(注)○印は実施予定品目

(4)平成26年度の市町村別の分別収集見込み量

(平成26年度計画)

(第7期市町村分別収集計画による)

(平成25年8月計画策定)

(単位：トン)

| 市町村【組合】名 | 無色 | 茶色 | その他 | その他 | PET | その他プラ | | スチール | アルミ | 段ボール | 紙パック |
|------------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|------|---------|---------|---------|-------|
| | ガラス | ガラス | ガラス | 紙 | | うち白色 | | | | | |
| 岡山市(一部事務組合収集分を除く) | 1,865.0 | 1,367.0 | 513.0 | 134.0 | 1,382.0 | 13.0 | 6.0 | 609.0 | 302.0 | 1,395.0 | 22.0 |
| 倉敷市 | 1,355.0 | 1,085.0 | 314.0 | 650.0 | 675.0 | 1.0 | 1.0 | 1,210.0 | 588.0 | 3,558.0 | 21.0 |
| 津山市(一部事務組合収集分を除く) | 361.0 | 347.0 | 104.0 | | 249.0 | 1,154.0 | | 167.0 | 129.0 | 19.0 | |
| 玉野市 | 206.0 | 201.0 | 96.0 | 38.0 | 151.0 | 422.0 | | 164.0 | 25.0 | 294.0 | 10.0 |
| 笠岡市 | 116.8 | 101.9 | 20.8 | 26.8 | 68.2 | 300.5 | 6.9 | 49.8 | 34.1 | 216.8 | 11.7 |
| 井原市 | 117.0 | 167.0 | 37.0 | 47.0 | 95.0 | 283.0 | 1.0 | 90.0 | 60.0 | 242.0 | 5.0 |
| 総社市 | 176.0 | 140.0 | 59.0 | | 82.0 | 5.0 | 5.0 | 70.0 | 59.0 | 129.0 | 5.0 |
| 高梁市 | 150.0 | 164.0 | 63.0 | | 85.0 | 127.0 | 8.0 | 62.0 | 47.0 | 124.0 | 2.0 |
| 新見市 | 85.0 | 90.0 | 23.0 | 2.0 | 28.0 | 1.0 | 1.0 | 30.0 | 17.0 | 25.0 | 3.0 |
| 備前市 | 118.0 | 128.0 | 41.0 | 49.0 | 31.0 | 120.0 | 3.0 | 52.0 | 15.0 | 45.0 | 2.0 |
| 瀬戸内市 | 94.0 | 106.0 | 59.0 | 44.0 | 23.0 | 152.0 | 1.0 | 33.0 | 13.0 | 242.0 | 7.0 |
| 赤磐市 | 117.6 | 90.7 | 27.3 | | 76.2 | 112.4 | 3.6 | 52.7 | 11.7 | 44.6 | 1.9 |
| 真庭市 | 125.0 | 147.0 | 32.0 | | 67.0 | 152.0 | | 40.0 | 33.0 | 154.0 | 3.0 |
| 美作市 | 104.0 | 107.0 | 49.0 | 65.0 | 40.0 | 104.0 | 5.0 | 34.0 | 28.0 | 168.0 | 3.0 |
| 浅口市 | 107.0 | 77.0 | 36.0 | | 50.0 | 131.0 | | 35.0 | 38.0 | 114.0 | 5.0 |
| 和気町 | 44.0 | 44.0 | 44.0 | 2.0 | 19.0 | 64.0 | 5.0 | 28.0 | 4.0 | 20.0 | 1.0 |
| 早島町 | 15.0 | 16.0 | 12.0 | 21.0 | 5.0 | 1.0 | 1.0 | 42.0 | 16.0 | 37.0 | 1.0 |
| 里庄町 | 13.0 | 14.0 | 7.0 | 5.0 | 12.0 | 28.0 | | 5.0 | 5.0 | 23.0 | 1.0 |
| 矢掛町 | 42.0 | 47.0 | 5.0 | 23.0 | 27.0 | 90.0 | | 19.0 | 16.0 | 107.0 | 12.0 |
| 新庄村 | 2.0 | 2.0 | 1.0 | | 1.0 | 1.0 | | 1.0 | 1.0 | 3.0 | |
| 鏡野町(一部事務組合収集分を除く) | 2.7 | 4.7 | 2.7 | | 4.2 | | | 7.1 | 4.8 | 5.0 | |
| 西粟倉村 | 3.7 | 4.4 | 2.1 | 4.1 | 1.6 | 4.3 | | 0.9 | 0.7 | 9.0 | 0.2 |
| 美咲町(一部事務組合収集分を除く) | 36.0 | 30.0 | 9.0 | | 10.0 | 22.0 | | 15.0 | 7.0 | 43.0 | 2.0 |
| 吉備中央町 | 34.7 | 37.6 | 12.3 | | 16.5 | 41.1 | | 16.1 | 9.9 | 36.6 | 0.7 |
| 岡山市久米南町衛生施設組合(岡山市の一部、久米南町) | 21.7 | 26.6 | 12.3 | | 10.3 | 38.0 | | 18.8 | 7.9 | 77.7 | 1.2 |
| 津山圏域東部衛生施設組合(津山市の一部、勝央町、奈義町) | 61.0 | 70.0 | 12.0 | | 31.0 | 147.0 | | 9.0 | 21.0 | 48.0 | |
| 津山圏域西部衛生施設組合(津山市の一部、美咲町の一部、鏡野町の一部) | 55.0 | 71.0 | 12.0 | | | | | 46.0 | 46.0 | | |
| 合計 | 5,428.2 | 4,685.9 | 1,605.5 | 1,110.9 | 3,240.0 | 3,514.3 | 47.5 | 2,906.4 | 1,539.1 | 7,179.7 | 120.7 |

(5)ごみ処理の推移

| 区分 \ 年度 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 |
|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------------------|----------------------|
| 総人口(人) | 1,962,175 | 1,961,498 | 1,958,589 | 1,957,701 | 1,961,480 | 1,965,300 | 1,954,461 | 1,950,043 | 1,937,928 | 1,951,060 |
| 計画処理区域内人口(人) | 1,962,175 | 1,961,498 | 1,958,589 | 1,957,701 | 1,961,480 | 1,965,300 | 1,954,461 | 1,950,043 | 1,937,928 | 1,951,060 |
| 計画収集人口(人) | 1,956,220 | 1,960,339 | 1,957,306 | 1,956,940 | 1,960,799 | 1,964,686 | 1,953,909 | 1,949,465 | 1,937,356 | 1,950,488 |
| 自家処理人口(人) | 5,955 | 1,159 | 1,283 | 761 | 681 | 614 | 552 | 578 | 572 | 572 |
| 計画処理区域外人口(人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計画収集量(t/年) | 662,341 | 656,639 | 640,581 | 639,829 | 618,201 | 597,443 | 561,226 | 549,848 | 556,713 (558,011) | 551,739 |
| 直接搬入量(t/年) | 78,825 | 82,406 | 76,127 | 76,871 | 78,176 | 75,025 | 78,241 | 74,586 | 77,533 (77,533) | 73,935 (73,935) |
| 自家処理量(t/年) | 3,857 | 462 | 471 | 829 | 810 | 794 | 191 | 195 | 160 (160) | 192 (192) |
| ごみ総排出量(t/年) | 801,460 | 800,854 | 779,839 | 779,242 | 755,762 | 731,025 | 692,825 | 674,768 | 680,945 (682,243) | 674,221 (674,221) |
| 計画処理量(t/年) | 741,166 | 739,045 | 716,708 | 716,700 | 696,377 | 672,468 | 639,467 | 624,434 | 634,246 (635,544) | 625,674 (625,674) |
| ごみ処理量(t/年) | 741,166 | 739,045 | 716,708 | 716,700 | 696,377 | 672,468 | 639,467 | 625,325 | 649,908 (651,206) | 639,841 (639,841) |
| 直接焼却(t/年) | 634,076 | 633,275 | 615,203 | 618,204 | 604,262 | 588,559 | 554,269 | 544,368 | 568,869 (569,779) | 562,684 (562,684) |
| 中間処理(t/年) | 56,183 | 54,182 | 56,525 | 56,302 | 54,868 | 56,670 | 55,074 | 51,781 | 52,410 (52,765) | 50,773 (50,773) |
| 直接資源(t/年) | 23,649 | 21,617 | 19,748 | 21,435 | 18,343 | 11,791 | 15,030 | 17,490 | 17,732 (17,732) | 16,200 (16,200) |
| 直接埋立(t/年) | 27,258 | 29,971 | 25,232 | 20,759 | 18,904 | 15,448 | 15,094 | 11,686 | 10,897 (10,930) | 10,184 (10,184) |
| 焼却量(t/年) | 642,900 | 641,672 | 623,724 | 628,055 | 614,156 | 597,656 | 563,391 | 553,307 | 578,060 (579,094) | 571,495 (571,495) |
| 最終処分量(t/年) | 106,978 | 110,556 | 77,986 | 70,592 | 68,483 | 59,055 | 56,872 | 53,955 | 46,295 (46,590) | 42,661 (42,661) |
| 資源化量(t/年) | 72,211 | 68,024 | 137,679 | 135,209 | 126,412 | 125,569 | 126,822 | 123,607 | 135,093 (135,226) | 135,118 (135,118) |
| 集団回収量(t/年) | 60,294 | 61,809 | 63,131 | 62,542 | 59,385 | 58,557 | 53,358 | 50,334 | 46,699 (46,699) | 48,547 (48,547) |
| リサイクル率(%) | 16.5 | 16.2 | 25.8 | 25.4 | 24.6 | 25.2 | 26 | 25.7 | 26.1 (26) | 26.7 (26.7) |

- (注) 1 ごみ総排出量 = 計画処理量 + 集団回収量
2 計画処理量 = 計画収集量 + 直接搬入量
3 リサイクル率 = (資源化量 + 集団回収量) / (ごみ処理量 + 集団回収量)
4 計画処理量とごみ処理量は、計量誤差等により一致しない。
5 中間処理は、焼却以外の粗大ごみ処理施設や資源化施設での処理をいう。
6 焼却量 = 直接焼却量 + 中間処理残さの焼却量
7 最終処分量 = 直接埋立量 + 焼却残さ及び中間処理残さの埋立量
8 直接資源とは、中間処理を経ないで資源化されるものをいう。
9 平成23年度以降の()内は災害廃棄物を含む値である。なお、平成22年度以前において災害廃棄物が発生した年度については、それを含む値である。

(6)ごみ処理の状況

ア ごみ処理の状況(災害廃棄物を含まない値)

(平成24年度)

| 市区町村名 | 総人口 | 計画 収集人口 ① | 自家 処理人口 ② | ごみ総排出量 t/年 | | | | | 自家 処理量 t/年 ⑧ | 収集量③(内訳)t/年 | | | | | |
|-------|-----------|-----------------|-----------------|------------|----------------|------------------------|--------------------|-------------|-----------------------|-------------|----------|----------|----------|------------|----------|
| | | | | 収集量 ③ | 直接 搬入量 ④ | 計 画 処理量 ⑤=③+④ | 集 団 回収量 ⑥ | 合計 ⑦=⑤+⑥ | | 混合 ごみ | 可燃 ごみ | 不燃 ごみ | 資源 ごみ | その他 のごみ | 粗大 ごみ |
| 岡山市 | 703,333 | 703,333 | 0 | 217,340 | 13,429 | 230,769 | 12,665 | 243,434 | 0 | 0 | 194,665 | 8,200 | 12,294 | 142 | 2,039 |
| 倉敷市 | 481,723 | 481,709 | 14 | 144,582 | 26,067 | 170,649 | 16,779 | 187,428 | 5 | 0 | 136,669 | 2,062 | 5,672 | 0 | 179 |
| 津山市 | 106,601 | 106,601 | 0 | 29,132 | 2,425 | 31,557 | 3,141 | 34,698 | 0 | 0 | 24,428 | 1,392 | 3,150 | 0 | 162 |
| 玉野市 | 64,596 | 64,596 | 0 | 21,536 | 2,140 | 23,676 | 1,886 | 25,562 | 0 | 0 | 17,551 | 1,632 | 2,254 | 0 | 99 |
| 笠岡市 | 53,251 | 53,251 | 0 | 14,863 | 1,066 | 15,929 | 1,348 | 17,277 | 0 | 0 | 12,135 | 706 | 1,942 | 0 | 80 |
| 井原市 | 44,271 | 44,271 | 0 | 9,648 | 1,445 | 11,093 | 1,246 | 12,339 | 0 | 0 | 7,850 | 370 | 1,349 | 0 | 79 |
| 総社市 | 67,707 | 67,707 | 0 | 18,208 | 6,543 | 24,751 | 1,537 | 26,288 | 0 | 0 | 16,297 | 421 | 1,411 | 18 | 61 |
| 高梁市 | 34,107 | 34,107 | 0 | 9,200 | 1,874 | 11,074 | 697 | 11,771 | 0 | 0 | 7,824 | 229 | 984 | 0 | 163 |
| 新見市 | 33,323 | 33,323 | 0 | 9,478 | 250 | 9,728 | 957 | 10,685 | 0 | 0 | 8,625 | 209 | 576 | 0 | 68 |
| 備前市 | 38,198 | 38,123 | 75 | 8,440 | 1,249 | 9,689 | 1,557 | 11,246 | 22 | 0 | 7,532 | 142 | 721 | 0 | 45 |
| 瀬戸内市 | 39,072 | 39,066 | 6 | 8,064 | 2,853 | 10,917 | 906 | 11,823 | 6 | 0 | 6,917 | 72 | 715 | 76 | 284 |
| 赤磐市 | 44,974 | 44,740 | 234 | 9,185 | 2,027 | 11,212 | 999 | 12,211 | 72 | 0 | 7,923 | 99 | 1,019 | 22 | 122 |
| 真庭市 | 49,950 | 49,950 | 0 | 9,346 | 4,647 | 13,993 | 2,000 | 15,993 | 0 | 0 | 8,373 | 188 | 703 | 0 | 82 |
| 美作市 | 30,767 | 30,767 | 0 | 5,866 | 3,034 | 8,900 | 362 | 9,262 | 0 | 0 | 4,429 | 42 | 1,395 | 0 | 0 |
| 浅口市 | 36,570 | 36,570 | 0 | 10,787 | 1,251 | 12,038 | 721 | 12,759 | 0 | 0 | 9,269 | 382 | 1,024 | 0 | 112 |
| 和気町 | 15,328 | 15,085 | 243 | 2,154 | 1,588 | 3,742 | 589 | 4,331 | 87 | 0 | 2,019 | 0 | 122 | 0 | 13 |
| 早島町 | 12,233 | 12,233 | 0 | 4,164 | 268 | 4,432 | 0 | 4,432 | 0 | 0 | 3,638 | 176 | 350 | 0 | 0 |
| 里庄町 | 11,131 | 11,131 | 0 | 2,861 | 289 | 3,150 | 247 | 3,397 | 0 | 0 | 2,492 | 165 | 181 | 0 | 23 |
| 矢掛町 | 15,416 | 15,416 | 0 | 3,045 | 358 | 3,403 | 471 | 3,874 | 0 | 0 | 2,374 | 168 | 494 | 0 | 9 |
| 新庄村 | 1,010 | 1,010 | 0 | 155 | 11 | 166 | 0 | 166 | 0 | 0 | 124 | 2 | 29 | 0 | 0 |
| 鏡野町 | 14,097 | 14,097 | 0 | 2,586 | 190 | 2,776 | 96 | 2,872 | 0 | 0 | 2,290 | 115 | 87 | 0 | 94 |
| 勝央町 | 11,497 | 11,497 | 0 | 2,558 | 197 | 2,755 | 0 | 2,755 | 0 | 0 | 1,925 | 112 | 521 | 0 | 0 |
| 奈義町 | 6,237 | 6,237 | 0 | 1,409 | 125 | 1,534 | 225 | 1,759 | 0 | 0 | 1,192 | 60 | 105 | 0 | 52 |
| 西粟倉村 | 1,544 | 1,544 | 0 | 293 | 68 | 361 | 2 | 363 | 0 | 0 | 222 | 2 | 69 | 0 | 0 |
| 久米南町 | 5,355 | 5,355 | 0 | 1,119 | 405 | 1,524 | 0 | 1,524 | 0 | 0 | 912 | 46 | 155 | 0 | 6 |
| 美咲町 | 15,830 | 15,830 | 0 | 2,971 | 136 | 3,107 | 97 | 3,204 | 0 | 0 | 2,350 | 140 | 435 | 0 | 46 |
| 吉備中央町 | 12,939 | 12,939 | 0 | 2,749 | 0 | 2,749 | 19 | 2,768 | 0 | 0 | 2,266 | 75 | 337 | 0 | 71 |
| 合計 | 1,951,060 | 1,950,488 | 572 | 551,739 | 73,935 | 625,674 | 48,547 | 674,221 | 192 | 0 | 492,291 | 17,207 | 38,094 | 258 | 3,889 |

| 市区町村名 | ごみ処理量 t/年 | | | | | 合計 ⑪ | 中間処理 に伴う 資源化量 t/年⑫ | 1人1日当りの 排出量 g/人・日=(⑦/ ①+②)*365 | 生活系 ごみ g/人・日 | 事業系 ごみ g/人・日 | 減量処理率 =(⑩-⑨)/⑩ | リサイクル率 =(⑥+⑩+ ⑫)/ (⑥+⑩) | |
|-------|----------------|-----------|------------------|--------|-------|---------|-----------------------------|---|--------------------|--------------------|-------------------|----------------------------------|-----------------|
| | 直接 埋立量 ⑨ | 直接 焼却量 | 中間処理 粗大 処理 | 資源化 | その他 | | | | | | | | 直接 資源化 量⑩ |
| 岡山市 | 6,889 | 204,814 | 5,626 | 8,557 | 0 | 4,883 | 230,769 | 25,720 | 948 | 628 | 320 | 97.0% | 17.8% |
| 倉敷市 | 269 | 170,659 | 6,120 | 3,377 | 0 | 5,134 | 185,559 | 73,931 | 1,066 | 681 | 385 | 99.9% | 47.4% |
| 津山市 | 0 | 26,362 | 497 | 4,698 | 0 | 0 | 31,557 | 3,624 | 892 | 607 | 285 | 100.0% | 19.5% |
| 玉野市 | 1,363 | 19,316 | 927 | 2,069 | 0 | 0 | 23,675 | 2,436 | 1,084 | 861 | 223 | 94.2% | 16.9% |
| 笠岡市 | 0 | 13,044 | 934 | 661 | 0 | 1,290 | 15,929 | 943 | 889 | 614 | 275 | 100.0% | 20.7% |
| 井原市 | 113 | 9,089 | 352 | 1,539 | 0 | 0 | 11,093 | 1,496 | 764 | 572 | 192 | 99.0% | 22.2% |
| 総社市 | 1,033 | 20,169 | 1,964 | 1,585 | 0 | 0 | 24,751 | 2,082 | 1,064 | 662 | 401 | 95.8% | 13.8% |
| 高梁市 | 0 | 9,447 | 548 | 1,079 | 0 | 0 | 11,074 | 1,305 | 946 | 662 | 284 | 100.0% | 17.0% |
| 新見市 | 0 | 8,758 | 0 | 394 | 0 | 576 | 9,728 | 52 | 878 | 563 | 316 | 100.0% | 14.8% |
| 備前市 | 22 | 7,532 | 0 | 1,178 | 166 | 312 | 9,210 | 772 | 807 | 732 | 75 | 99.8% | 24.5% |
| 瀬戸内市 | 0 | 9,720 | 101 | 1,096 | 0 | 0 | 10,917 | 1,199 | 829 | 708 | 121 | 100.0% | 17.8% |
| 赤磐市 | 0 | 9,683 | 128 | 256 | 110 | 864 | 11,041 | 340 | 744 | 526 | 218 | 100.0% | 18.3% |
| 真庭市 | 0 | 11,961 | 532 | 682 | 402 | 416 | 13,993 | 1,307 | 877 | 617 | 260 | 100.0% | 23.3% |
| 美作市 | 53 | 7,242 | 70 | 1,374 | 0 | 217 | 8,956 | 1,207 | 825 | 574 | 250 | 99.4% | 19.2% |
| 浅口市 | 332 | 10,212 | 0 | 934 | 0 | 546 | 12,024 | 637 | 956 | 702 | 254 | 97.2% | 14.9% |
| 和気町 | 0 | 3,459 | 141 | 0 | 0 | 142 | 3,742 | 33 | 774 | 697 | 77 | 100.0% | 17.6% |
| 早島町 | 0 | 3,828 | 0 | 11 | 190 | 410 | 4,439 | 532 | 993 | 592 | 400 | 100.0% | 21.2% |
| 里庄町 | 0 | 2,764 | 205 | 70 | 0 | 111 | 3,150 | 118 | 836 | 705 | 131 | 100.0% | 14.0% |
| 矢掛町 | 0 | 2,636 | 162 | 214 | 0 | 279 | 3,291 | 214 | 688 | 614 | 75 | 100.0% | 25.6% |
| 新庄村 | 0 | 129 | 0 | 11 | 2 | 24 | 166 | 21 | 450 | 437 | 14 | 100.0% | 27.1% |
| 鏡野町 | 41 | 2,436 | 64 | 91 | 89 | 55 | 2,776 | 28 | 558 | 548 | 10 | 98.5% | 6.2% |
| 勝央町 | 0 | 1,986 | 0 | 438 | 0 | 330 | 2,754 | 197 | 657 | 647 | 9 | 100.0% | 19.1% |
| 奈義町 | 0 | 1,298 | 0 | 62 | 0 | 102 | 1,462 | 10 | 773 | 734 | 38 | 100.0% | 20.0% |
| 西粟倉村 | 2 | 252 | 4 | 65 | 76 | 6 | 405 | 66 | 644 | 644 | 0 | 99.5% | 18.2% |
| 久米南町 | 0 | 1,180 | 119 | 90 | 0 | 135 | 1,524 | 127 | 780 | 654 | 126 | 100.0% | 17.2% |
| 美咲町 | 67 | 2,442 | 16 | 181 | 33 | 368 | 3,107 | 128 | 555 | 534 | 20 | 97.8% | 18.5% |
| 吉備中央町 | 0 | 2,266 | 146 | 337 | 0 | 0 | 2,749 | 393 | 586 | 423 | 163 | 100.0% | 14.9% |
| 合計 | 10,184 | 562,684 | 18,656 | 31,049 | 1,068 | 16,200 | 639,841 | 118,918 | 947 | 647 | 300 | 98.4% | 26.7% |

(7)ごみ処理の有料化の状況

(平成26年3月31日現在)

| 区 分 | | 実 施 市 町 村 名 |
|------------------|----------|--|
| 家 庭 ご み | 指定袋 | 岡山市、津山市、笠岡市、井原市、総社市、新見市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、真庭市、美作市、浅口市、和気町、早島町、里庄町、新庄村、鏡野町、西粟倉村、久米南町、美咲町、吉備中央町 |
| | 他(シールなど) | 該当なし |

- (注) 1 市町村内の地域によって有料化の状況が異なる場合には、主たる地域が有料化している場合を有料化とした。
 2 可燃ごみと不燃ごみで有料化の状況が異なる場合は、可燃ごみの状況とした。

(8)市町村(一部事務組合)の一般廃棄物焼却施設

ア 焼却施設

(平成26年3月31日現在稼働中)

| 地域名 | 設置主体 施設名 | 設置場所 | 処理能力 (t/日) | 使用 開始年 | 構成市町村 |
|-----|---------------------------------|-----------------|------------------|-----------|-------------|
| 備前 | 岡山市 岡南環境センター | 岡山市南区豊成1-4-1 | 220 | S 53 | 岡山市 |
| | 岡山市 当新田環境センター | 岡山市南区当新田486-1 | 300 | H 6 | 岡山市 |
| | 岡山市 東部クリーンセンター | 岡山市東区西大寺新地453-5 | 450 | H13 | 岡山市 |
| | 玉野市 東清掃センター | 玉野市槌ヶ原3072-5 | 150 | S 53 | 玉野市 |
| | 備前市 クリーンセンター備前 | 備前市八木山859-4 | 34 | H10 | 備前市 |
| | 瀬戸内市 クリーンセンターかもめ | 瀬戸内市牛窓町牛窓228 | 43 | H 9 | 瀬戸内市 |
| | 赤磐市 赤磐市環境センター | 赤磐市津崎197-1 | 44 | H26 | 赤磐市 |
| 備中 | 倉敷市 水島清掃工場 | 倉敷市水島川崎通1-1-4 | 300 | H 6 | 倉敷市(早島町) |
| | 新見市 クリーンセンター | 新見市金谷253 | 46 | H11 | 新見市 |
| | 倉敷西部清掃施設組合 清掃工場 | 倉敷市玉島道越888-1 | 180 | H10 | 倉敷市、浅口市 |
| | 総社広域環境施設組合 吉備路クリーンセンター | 倉敷市真備町箭田481 | 180 | H 9 | 倉敷市、総社市 |
| | 岡山県西部環境整備施設組合 里庄清掃工場 | 里庄町新庄3655 | 200 | H11 | 笠岡市、浅口市、里庄町 |
| | 岡山県井原地区清掃施設組合 井原クリーンセンター | 井原市木之子町2192-1 | 90 | H 6 | 井原市、矢掛町 |
| | 高梁地域事務組合 クリーンセンター | 高梁市段町748 | 56 | H10 | 高梁市、吉備中央町 |
| | 水島エコワークス株式会社 倉敷市資源循環型廃棄物処理施設 | 倉敷市水島川崎通1-14-5 | 555 (うち一廃303) | H17 | 倉敷市 |
| 美作 | 津山市 ごみ焼却場 | 津山市小桁401-15 | 110 | S 51 | 津山市 |
| | 真庭市 クリーンセンターまにわ | 真庭市榎西290 | 30 | H11 | 真庭市 |
| | 真庭市 真庭北部クリーンセンター | 真庭市蒜山初和592-1 | 20 | H 3 | 真庭市(新庄村) |
| | 美作市 南部環境美化センター | 美作市三倉田93 | 40 | H 2 | 美作市(西粟倉村) |
| | 鏡野町 北部衛生クリーンセンター | 鏡野町井坂523-3 | 10 | H 4 | 鏡野町 |
| | 津山圏域西部衛生施設組合 清掃センター | 津山市中北下365 | 14 | S 58 | 津山市、鏡野町、美咲町 |
| | 岡山市久米南町衛生施設組合 クリーンセンター | 久米南町上神目313-6 | 13 | H 5 | 岡山市、久米南町 |
| | 岡山県中部環境施設組合 コスモスクリーンセンター | 真庭市宮地631-3 | 30 | H 6 | 真庭市、美咲町 |
| | 津山圏域東部衛生施設組合 | 奈義町上町川186 | 25 | S 59 | 津山市、勝央町、奈義町 |
| 合 計 | | 24 | 2,888 | | |

(備考) 構成市町村には、広域化の過渡期における一時的な処理委託は含めていない。

H22.3.31末で岡山市瀬戸クリーンセンター廃止

H26.3.31末で赤磐市山陽桜が丘清掃センター廃止

H26.3.31末で和気北部衛生施設組合クリーンセンター廃止

イ 粗大ごみ処理施設

(平成26年3月31日現在稼働中)

| 地域名 | 設置主体 施設名 | 設置場所 | 処理能力 (t/日) | 使用 開始年 | 構成市町村 |
|-----|-----------------------------|-----------------|---------------|-----------|-------------------------|
| 備前 | 岡山市 東部リサイクルプラザ | 岡山市東区西大寺新地453-5 | 58 | H13 | 岡山市 |
| | 玉野市 玉野市粗大ごみ処理施設 | 玉野市槌ヶ原3072-5 | 35 | H5 | 玉野市 |
| 備中 | 倉敷市 東部粗大ごみ処理場 | 倉敷市二子1917-4 | 80 | H6 | 倉敷市 |
| | 総社広域環境施設組合 吉備路クリーンセンター | 倉敷市真備町箭田481 | 36 | H9 | 倉敷市、総社市 |
| | 岡山県西部衛生施設組合 井笠広域資源化センター | 笠岡市平成町105 | 40 | H7 | 笠岡市、井原市、浅口市、 矢掛町、里庄町 |
| | 高梁地域事務組合 粗大ごみ処理施設 | 高梁市段町748 | 30 | S55 | 高梁市、吉備中央町 |
| 美作 | 津山市 粗大ごみ処理施設 | 津山市小桁401-15 | 30 | S63 | 津山市 |
| | 岡山県中部環境施設組合 コスモスクリーンセンター | 真庭市宮地631-3 | 10 | H6 | 真庭市、美咲町 |
| 合 | 計 | 8 | 319 | | |

平成26年3月31日末で和気北部衛生施設組合クリーンセンター廃止

ウ 再生利用施設一覧表

(平成26年3月31日現在稼働中)

| 地域名 | 設置主体名 施設名 | 設置場所 | 処理能力 (t/日) | 使用 開始年 | 構成市町村 |
|-----|--------------------------------|-----------------|---------------|-----------|-------------------------|
| 備前 | 岡山市 東部リサイクルプラザ | 岡山市東区西大寺新地453-5 | 27 | H13 | 岡山市 |
| | 岡山市 新保資源選別所 | 岡山市南区新保687-3 | 15 | H4 | 岡山市 |
| | 玉野市 リサイクルプラザ | 玉野市槌ヶ原3072-1 | 7 | H15 | 玉野市 |
| | 瀬戸内市 長船クリーンセンター | 瀬戸内市長船町西須恵160 | 4 | H1 | 瀬戸内市 |
| | 瀬戸内市 クリーンセンターかもめ 不燃物処理施設 | 瀬戸内市牛窓町牛窓228 | 4 | H9 | 瀬戸内市 |
| | 赤磐市 赤磐市環境センター | 赤磐市津崎197-1 | 4 | H26 | 赤磐市 |
| 備中 | 倉敷市 資源選別所 | 倉敷市水島川崎通1-18 | 15 | H8 | 倉敷市 |
| | 倉敷市 船穂町堆肥化センター | 倉敷市船穂町船穂2636-2 | 2 | H8 | 倉敷市 |
| | 浅口市 リサイクルセンター | 浅口市鴨方町深田930-1 | 3 | H9 | 浅口市 |
| | 岡山県西部衛生施設組合 リサイクルプラザ | 笠岡市平成町105 | 27 | H12 | 笠岡市、井原市、浅口市、 矢掛町、里庄町 |
| | 高梁地域事務組合 リサイクルプラザ | 高梁市落合町阿部2527-1 | 14.6 | H12 | 高梁市、吉備中央町 |
| 美作 | 津山市 資源化センター | 津山市横山648 | 30 | S62 | 津山市 |
| | 津山市 プラスチック容器包装圧縮 梱包作業棟 | 津山市横山648 | 4.7 | H14 | 津山市 |
| | 津山市 津山市PETボトル圧縮施設 | 津山市横山648 | 1 | H12 | 津山市 |
| | 真庭市 リサイクルプラザ | 真庭市榎西290 | 11 | H11 | 真庭市 |
| | 美作市 リサイクルセンター | 美作市岩辺142-1 | 2.6 | H14 | 美作市(西粟倉村) |
| 合 | 計 | 16 | 171.9 | | |

工 し尿処理施設

(平成26年3月31日現在稼働中)

| 地域名 | 設置主体 施設名 | 設置場所 | 処理能力 (kL/日) | 使用 開始年 | 構成市町村 |
|-----|-------------------------------------|----------------|----------------|-----------|-------------------------|
| 備前 | 岡山市 一宮浄化センター | 岡山市北区一宮217 | 100 | S 43 | 岡山市 |
| | (同上) | (同上) | 200 | S 54 | 岡山市 |
| | 岡山市 当新田浄化センター | 岡山市南区当新田488-4 | 70 | S 60 | 岡山市 |
| | 岡山市 犬島浄化センター | 岡山市東区犬島179 | 0.35 | S 62 | 岡山市 |
| | 玉野市 西清掃センター | 玉野市深井町9-18 | 100 | H 6 | 玉野市 |
| | 備前市 備前市衛生センター | 備前市穂浪2459-1 | 43 | S 39 | 備前市 |
| | 瀬戸内市 長船衛生センター | 瀬戸内市長船町福里589-1 | 18 | S 62 | 瀬戸内市 |
| | 神崎衛生施設組合 神崎処理場 | 岡山市東区神崎町2676 | 180 | H 9 | 岡山市、瀬戸内市 |
| | 旭川中部衛生施設組合 旭清苑 | 岡山市北区御津鹿瀬650 | 42 | H 4 | 岡山市、久米南町 吉備中央町 |
| | 和気・赤磐し尿処理施設一部 事務組合 和気赤磐衛生センター | 和気町本2 | 72 | H14 | 備前市、赤磐市、和気町 |
| 備中 | 倉敷市 白楽町し尿処理場 | 倉敷市白楽町424 | 240 | S 40 | 倉敷市 |
| | 倉敷市 水島し尿処理場 | 倉敷市水島川崎通1丁目 | 128 | S 44 | 倉敷市 |
| | 倉敷市 玉島し尿処理場 | 倉敷市玉島乙島8255 | 70 | S 56 | 倉敷市 |
| | 浅口市 金光し尿浄化センター | 浅口市金光町八重318-2 | 20 | H 元 | 浅口市 |
| | 新見市 衛生センター | 新見市金谷252 | 50 | S 52 | 新見市 |
| | 備南衛生施設組合 清鶴苑 | 倉敷市茶屋町1919 | 80 | S 60 | 岡山市、倉敷市、早島町 |
| | 総社広域環境施設組合 アクアセンター吉備路 | 総社市窪木1101-1 | 90 | H 19 | 倉敷市、総社市 |
| | 岡山県西部衛生施設組合 井笠広域クリーンセンター | 笠岡市平成町100 | 210 | S 63 | 笠岡市、井原市、浅口市、 里庄町 |
| 美作 | 高梁地域事務組合 し尿処理場 | 高梁市段町748 | 62 | S 50 | 高梁市、吉備中央町 |
| | 真庭市 し尿処理施設旭水苑 | 真庭市野原9-1 | 100 | H 6 | 真庭市、新庄村、鏡野町、 美咲町 |
| | 津山圏域衛生処理組合 津山圏域衛生処理センター | 津山市川崎458 | 150 | S 58 | 津山市、鏡野町、美咲町 |
| | 勝英衛生施設組合 滝川苑 | 勝央町小矢田31-2 | 74 | S 61 | 美作市、勝央町、美咲町 西粟倉村、奈義町 |
| 合 | 計 | 22 | 2,099.35 | | |

才 最終処分地施設

(平成26年3月31日現在稼働中)

| 地域名 | 設置主体名 最終処分場名 | 所在地 | 設置区分 | 土地所有 | | 埋立面積 (㎡) | 全体容量 (㎡) | 埋立物 | | | | | | | | | | 埋立開始年 |
|-----|-----------------------------------|----------------------|------|------|---------|-------------|-------------|-----|----|----|----|----|----|----------|----------|-----|------|-------|
| | | | | 自己 | 他 | | | 混合 | 可燃 | 不燃 | 資源 | 直搬 | 粗大 | 中間 残渣 | 焼却 残渣 | その他 | | |
| 備前 | 岡山市 三手最終処分場 | 岡山市北区三手108-1 | 平地 | ○ | | 12,600 | 59,700 | | | ○ | | ○ | | | ○ | | 埋立前 | |
| | 岡山市 山上新最終処分場 | 岡山市北区山上152 | 山間 | ○ | | 36,900 | 450,000 | | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | 2005 | |
| | 岡山市久米南町衛生施設組合 大田最終処分場 | 岡山市北区建部町 大田4204-5 | 山間 | ○ | | 5,354 | 10,800 | | | ○ | | ○ | | | ○ | | 1985 | |
| | 玉野市 一般廃棄物最終処分場 | 玉野市和田7丁目802-8 | 山間 | ○ | | 42,000 | 333,200 | | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | 1992 | |
| | 備前市 備前一般廃棄物最終処分場 | 備前市三石2952-1 | 山間 | ○ | | 10,400 | 86,000 | | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | 1983 | |
| | 備前市 日生一般廃棄物最終処分場 | 備前市日生町寒河855-2 | 山間 | ○ | | 4,390 | 15,554 | | | | | | | ○ | ○ | | 1996 | |
| | 和気北部衛生施設組合 クリーンセンター | 和気町益原1512-3 | 山間 | ○ | | 5,700 | 26,000 | | | | | | | ○ | ○ | ○ | 1994 | |
| 備中 | 倉敷市 東部最終処分場(2期) | 倉敷市二子1923-5 | 山間 | ○ | | 33,000 | 330,000 | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | 2003 | |
| | 総社市 一般廃棄物最終処分場 | 総社市下倉3784 | 山間 | ○ | | 23,000 | 188,000 | | | | | ○ | | ○ | ○ | | 1982 | |
| | 総社市 宿ごみ埋立地 | 総社市宿1875-1 | 山間 | ○ | | 200 | 600 | | | | | | | | | ○ | 1970 | |
| | 総社市 大谷廃棄物捨場 | 総社市清音軽部999-3 | 山間 | ○ | | 2,671 | 15,500 | | | | | | | ○ | | ○ | 1970 | |
| | 倉敷市 船穂町不燃物処分場 | 倉敷市船穂町船穂7052-1外 | 山間 | ○ | | 7,924 | 55,769 | | | ○ | | ○ | | | | | 1977 | |
| | 井原市 野々迫埋立処分場 | 井原市高屋町字野々迫509外 | 山間 | ○ | | 7,095 | 32,980 | | | | | ○ | | | ○ | | 1990 | |
| | 新見市 新見市処理センター | 新見市哲多町宮河内1940-24 | 山間 | ○ | | 4,200 | 27,400 | | | | | | | ○ | ○ | | 2007 | |
| | 浅口市 金光一般廃棄物最終処分場 | 浅口市金光町下竹地内 | 山間 | ○ | | 8,400 | 39,700 | | | ○ | | ○ | | | | | 2000 | |
| | 早島町 一般廃棄物埋立処分地 | 早島町大字矢尾地内 | 山間 | ○ | | 42,000 | 224,000 | | | ○ | | | ○ | | | | 1981 | |
| | 高梁地域事務組合 一般廃棄物最終処分場 | 高梁市松原町松岡5425 | 山間 | ○ | | 22,000 | 126,000 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | 1980 | |
| 美作 | 真庭市 ガレキ処分場 | 真庭市檜東1379-18 | 山間 | ○ | | 5,629 | 36,485 | | | | | | | | | ○ | 1996 | |
| | 真庭市 一般廃棄物最終処分場 | 真庭市目木772-107外 | 山間 | ○ | | 4,500 | 27,000 | | | ○ | | | | | ○ | | 1999 | |
| | 美作市 埋立処分地施設 | 美作市瀬戸151-4 | 山間 | ○ | | 2,698 | 12,312 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | 1988 | |
| | 鏡野町 北部衛生クリーンセンター 一般廃棄物最終処分場 | 鏡野町井坂524-1外 | 平地 | ○ | | 5,100 | 15,600 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | 1994 | |
| | 美咲町 柵原クリーンセンター 一般廃棄物最終処分場 | 美咲町連石856-1 | 山間 | ○ | | 3,200 | 14,544 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | 1991 | |
| | 美咲町 藤原一般廃棄物最終処分場 | 美咲町藤原830 | 山間 | ○ | | 6,000 | 15,056 | | | ○ | | | | | | | 1993 | |
| | 岡山県中部環境施設組合 一般廃棄物最終処分場 | 美咲町江与味3353外 | 山間 | ○ | | 4,500 | 24,500 | | | | | | | ○ | ○ | | 2001 | |
| 合 計 | | 24 | | | 299,461 | 2,166,700 | | | | | | | | | | | | |

(11)市町村一般廃棄物焼却施設概要一覧表

| 市町村名 | 施設名称 | 炉の構造 | 排ガス処理方式 | 炉番号 | 処理能力(t/日) | 処理能力(t/時) | 排出ガス | |
|---------------|--------------|--------|---------|-----|-----------|-----------|-----------|---------------------------------|
| | | | | | | | 測定年月日 | 測定値 (ng-TEQ/m ³) |
| 津山市 | ごみ焼却場 | 全連続 | バグフィルタ | 1 | 55 | 2.3 | H25.12.11 | 0.23 |
| | | | | 2 | 55 | 2.3 | H25.12.11 | 0.23 |
| 玉野市 | 東清掃センター | 全連続 | バグフィルタ | 1 | 75 | 3.125 | H25.4.9 | 0.045 |
| | | | | 2 | 75 | 3.125 | H25.6.13 | 0.069 |
| 新見市 | クリーンセンター | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 23 | 2.875 | H25.12.12 | 0.14 |
| | | | | 2 | 23 | 2.875 | H25.12.13 | 0.48 |
| 備前市 | クリーンセンター備前 | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 17 | 2.125 | H25.10.25 | 0.13 |
| | | | | 2 | 17 | 2.125 | H25.10.25 | 0.29 |
| 瀬戸内市 | クリーンセンターかもめ | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 15 | 1.875 | H25.9.13 | 0.064 |
| | | | | 2 | 15 | 1.875 | H25.9.13 | 0.064 |
| 赤磐市 | 山陽桜が丘清掃センター | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 15 | 1.5 | H25.11.12 | 0.13 |
| | | | | 2 | 15 | 1.5 | H25.11.12 | 0.043 |
| | 赤坂環境センター | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 6 | 0.75 | H25.9.25 | 4.8 |
| 真庭市 | 北部クリーンセンター | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 10 | 1.25 | H25.9.18 | 0.0092 |
| | | | | 2 | 10 | 1.25 | H25.9.18 | 0.015 |
| | クリーンセンターまにわ | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 15 | 1.875 | H25.8.8 | 0.0067 |
| | | | | 2 | 15 | 1.875 | H25.8.9 | 0.0027 |
| 美作市 | 南部環境美化センター | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 20 | 2.5 | H25.6.5 | 0.0097 |
| | | | | 2 | 20 | 2.5 | H25.12.5 | 0.0039 |
| 鏡野町 | 北部衛生クリーンセンター | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 10 | 1.25 | H25.8.8 | 0.0063 |
| 岡山県西部環境整備施設組合 | 里庄清掃工場 | 准連続 | バグフィルタ | 1 | 100 | 6.25 | H25.12.2 | 0.25 |
| | | | | 2 | 100 | 6.25 | H25.12.26 | 0.1 |
| 和気北部衛生施設組合 | クリーンセンター | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 20 | 1.25 | H26.1.15 | 2.3 |
| | | | | 2 | 20 | 1.25 | H26.1.15 | 2.3 |
| 岡山市久米南町衛生施設組合 | クリーンセンター | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 13 | 1.625 | H25.11.12 | 0.008 |
| 岡山県中部環境施設組合 | コスモスクリーンセンター | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 15 | 1.875 | H25.7.11 | 0.11 |
| | | | | 2 | 15 | 1.875 | H25.9.12 | 0.1 |
| 岡山県井原地区清掃施設組合 | 井原クリーンセンター | 准連続 | バグフィルタ | 1 | 45 | 2.8 | H25.9.26 | 1.7 |
| | | | | 2 | 45 | 2.8 | H25.8.23 | 1.1 |
| 津山圏域東部衛生施設組合 | | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 12.5 | 1.56 | H25.11.19 | 0.02 |
| | | | | 2 | 12.5 | 1.56 | H25.11.19 | 0.000092 |
| 津山圏域西部衛生施設組合 | 清掃センター | 機械化バッチ | バグフィルタ | 1 | 7 | 0.875 | H25.10.11 | 0.011 |
| | | | | 2 | 7 | 0.875 | H25.10.11 | 0.021 |
| 総社広域環境施設組合 | 吉備路クリーンセンター | 全連続 | バグフィルタ | 1 | 90 | 3.75 | H25.11.6 | 0.0047 |
| | | | | 2 | 90 | 3.75 | H25.7.10 | 0.031 |
| 高梁地域事務組合 | クリーンセンター | 准連続 | バグフィルタ | 1 | 28 | 1.75 | H25.8.13 | 0.0071 |
| | | | | 2 | 28 | 1.75 | H25.8.7 | 0.0067 |

(注) 対象期間は、平成24年4月1日から平成25年3月31日である。

(12)浄化槽保守点検業の岡山県知事登録状況

(平成26年3月31日現在)

| 登録番号 | 事業者 | 住所 | 登録有効期間 | 営業区域に係る市町村名 |
|------|----------------------|-------------------|---------------------|---|
| 1-3 | 妹尾産業(有) | 岡山市南区箕島1306-26 | H25.4.1～H28.3.31 | 早島町 |
| 2-2 | 牛窓環境開発(有) | 瀬戸内市牛窓町牛窓2800 | H25.4.1～H28.3.31 | 瀬戸内市(旧牛窓町) |
| 2-3 | 東備環境(株) | 瀬戸内市長船町福里820-1 | H25.4.1～H28.3.31 | 瀬戸内市(旧邑久町、旧長船町) |
| 2-4 | (株)邑久環境整備事業所 | 瀬戸内市邑久町尻海2855-45 | H25.4.1～H28.3.31 | 瀬戸内市(旧邑久町、旧牛窓町) |
| 3-1 | (株)玉野民生公社 | 玉野市玉原3-20-1 | H25.4.1～H28.3.31 | 玉野市 |
| 4-1 | (有)日生環境 | 備前市日生町寒河282-22 | H25.4.1～H28.3.31 | 備前市(旧日生町) |
| 4-2 | (有)和気環境サービス | 和気郡和気町日室139 | H26.3.15～H29.3.14 | 備前市(旧吉永町)、和気町(旧和気町) |
| 4-6 | (株)備前浄化槽管理センター | 備前市香登本48-5 | H25.4.1～H28.3.31 | 備前市(旧備前市) |
| 4-8 | 昭和開発(株) | 備前市大内454-1 | H25.4.1～H28.3.31 | 備前市(旧備前市)、瀬戸内市(旧長船町) |
| 4-9 | 西日本高速道路エンジニアリング関西(株) | 大阪府茨木市西駅前5-26 | H25.4.1～H28.3.31 | 備前市(旧備前市) |
| 4-10 | (有)カナカエコシステム | 備前市東片上1776-2 | H25.3.17～H28.3.16 | 備前市(旧備前市) |
| 4-11 | (有)岩元清掃舎 | 備前市伊部1280-3 | H24.3.27～H27.3.26 | 備前市(旧備前市) |
| 4-13 | (有)クリーンセンター瀬戸内 | 備前市東片上624-3 | H25.11.25～H28.11.24 | 備前市(旧備前市) |
| 5-1 | キョクトウ(有) | 岡山市東区瀬戸町瀬戸646 | H25.4.1～H28.3.31 | 赤磐市、和気町(旧佐伯町) |
| 8-1 | (株)クリーン・システム | 倉敷市玉島783-2 | H25.6.3～H28.6.2 | 浅口市、里庄町 |
| 9-1 | (有)中央クリーン | 倉敷市真備町辻田149-5 | H25.4.1～H28.3.31 | 総社市(旧山手村、旧清音村) |
| 9-2 | (有)フレヴァン | 総社市井尻野552-3 | H25.4.1～H28.3.31 | 総社市(総社市昭和地区、旧山手村及び旧清音村を除く) |
| 10-1 | (株)アクア美保 | 笠岡市入江382-1 | H25.4.1～H28.3.31 | 笠岡市 |
| 10-2 | (株)クリーンサービス・イバラ | 井原市下稲木町1762-2 | H25.4.1～H28.3.31 | 井原市(旧井原市、旧芳井町)、里庄町 |
| 10-3 | (株)井原環境保全 | 井原市大江町1323-1 | H25.4.1～H28.3.31 | 井原市(旧井原市、旧芳井町) |
| 10-4 | 栢本産業(有) | 小田郡矢掛町矢掛2508-1 | H25.4.1～H28.3.31 | 矢掛町 |
| 10-5 | 矢掛美環産業(株) | 小田郡矢掛町中47-1 | H25.4.1～H28.3.31 | 矢掛町 |
| 10-6 | (有)中国水道 | 笠岡市相生1107-2 | H25.4.1～H28.3.31 | 笠岡市 |
| 10-7 | 岡山県環境整備事業協同組合 | 岡山市南区山田291-2 | H24.2.17～H27.2.16 | 津山市、笠岡市、高梁市、新見市、備前市、赤磐市、真庭市、美作市、浅口市(旧鴨方町)、吉備中央町 |
| 10-8 | ライフセンター(株) | 笠岡市十一番町11-13 | H24.1.17～H27.1.16 | 笠岡市 |
| 11-1 | 縄手商事(株) | 高梁市落合町阿部802-1 | H25.4.1～H28.3.31 | 高梁市(旧高梁市、旧有漢町、旧成羽町)、吉備中央町(旧賀陽町) |
| 12-1 | (株)三美産業 | 高梁市川上町三沢4342-2 | H25.4.1～H28.3.31 | 総社市(総社市昭和地区)、井原市(旧美星町)、高梁市(旧川上町、旧備中町) |
| 13-1 | 環境管理(有) | 新見市上市1518 | H25.4.1～H28.3.31 | 新見市(旧新見市、旧神郷町、旧哲多町、旧哲西町) |
| 14-1 | 真庭環境衛生管理(株) | 真庭市下河内328-1 | H25.4.1～H28.3.31 | 新見市(旧大佐町)、真庭市、新庄村、鏡野町(旧富村)、美咲町(旧旭町) |
| 14-3 | (有)エコライフ商友 | 真庭市惣84-7 | H26.3.10～H29.3.9 | 真庭市(旧久世町) |
| 15-1 | (株)大環 | 津山市東一宮73-1 | H25.4.1～H28.3.31 | 津山市(旧津山市、旧加茂町、旧阿波村、旧久米町)、鏡野町(旧鏡野町、旧奥津町、旧上斎原村)、美咲町(旧中央町) |
| 16-2 | (有)旭川環境 | 岡山市北区建部町宮地518-1 | H25.2.16～H28.2.15 | 久米南町 |
| 16-4 | (株)十字屋 | 加賀郡吉備中央町上田東2286-1 | H25.8.31～H28.8.30 | 吉備中央町(旧加茂川町) |
| 17-2 | (有)アイビー産業 | 美作市三倉田572-1 | H25.9.5～H28.9.4 | 美作市(旧作東町、旧英田町)、美咲町(旧柵原町) |
| 17-3 | (有)近藤清掃 | 美作市林野224 | H23.4.1～H26.3.31 | 美作市(旧大原町、旧粟倉村、旧美作町)、西粟倉村 |
| 18-1 | (有)勝央清掃 | 勝田郡勝央町岡24-3 | H25.4.1～H28.3.31 | 津山市(旧勝北町)、勝央町 |
| 18-2 | (有)田村商事 | 勝田郡奈義町豊沢554-5 | H25.4.1～H28.3.31 | 奈義町 |
| 18-4 | (有)作州清掃 | 美作市真加部1756-3 | H24.4.1～H27.3.31 | 美作市(旧勝田町、旧作東町) |

(13)産業廃棄物の実態(平成24年度実績)

ア 業種別の排出量、再生利用量、減量化量及び最終処分量

| 業種 (千t/年) | 合計 | 鉱業 | 建設業 | 製造業 | 電気・ 水道業 | 情報 通信業 | 運輸業 | 卸・ 小売業 | 飲食店・ 宿泊業 | 医療・ 福祉 | サービス業 | その他の 業種 |
|--------------|-------|-----|-----|-------|------------|-----------|-----|-----------|-------------|-----------|-------|------------|
| 排出量 | 5,803 | 127 | 712 | 3,608 | 1,204 | 3 | 11 | 108 | 6 | 10 | 7 | 4 |
| 再生利用量 | 2,248 | 4 | 566 | 1,518 | 97 | 3 | 7 | 44 | 2 | 1 | 4 | 3 |
| 減量化量 | 3,232 | 119 | 67 | 1,888 | 1,086 | 0 | 3 | 55 | 4 | 7 | 2 | 1 |
| 最終処分量 | 317 | 4 | 79 | 197 | 21 | 0 | 1 | 9 | 0 | 3 | 1 | 1 |
| その他量 | 6 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

イ 種類別の排出量、再生利用量、減量化量及び最終処分量

| 種類(無変換) (千t/年) | 合計 | 燃 え 殻 | 汚 泥 | 廃 油 | 廃 酸 | 廃 アルカリ | 廃 プラスチック類 | 紙 く ず | 木 く ず | 織 維 く ず | 動 植 物 性 残 さ | 動 物 系 固 形 不 要 物 | ゴ ム く ず | 金 属 く ず | ガ ラ ス 陶 磁 器 く ず | 鉱 さい | が れ き 類 | ば い じ ん | その 他 産 業 廃 棄 物 |
|-------------------|-------|-------------|--------|--------|--------|-----------|--------------|-------------|-------------|------------------|----------------------------|--------------------------------------|------------------|------------------|--------------------------------------|---------|------------------|------------------|----------------------------------|
| 排出量 | 5,803 | 35 | 3,301 | 95 | 33 | 82 | 245 | 13 | 109 | 2 | 28 | 1 | 2 | 186 | 158 | 195 | 631 | 658 | 29 |
| 再生利用量 | 2,248 | 34 | 293 | 43 | 9 | 11 | 70 | 11 | 88 | 1 | 16 | 0 | 1 | 180 | 115 | 156 | 584 | 633 | 5 |
| 減量化量 | 3,232 | 0 | 2,902 | 50 | 22 | 66 | 145 | 1 | 15 | 0 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 | 11 |
| 最終処分量 | 317 | 2 | 105 | 1 | 2 | 6 | 29 | 1 | 6 | 0 | 0 | 0 | 1 | 6 | 44 | 39 | 46 | 19 | 8 |
| その他量 | 6 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |

(14)第3次岡山県廃棄物処理計画の概要

1 計画策定の趣旨

(1)趣旨及び背景

本県では、循環型社会への転換を図ることを基本理念におき、廃棄物処理法に基づいて、平成19年3月に第2次の「岡山県廃棄物処理計画(平成18年度～22年度)」を策定し、県内における廃棄物の減量化、リサイクル及び適正処理に関する施策を展開してきた。

第3次岡山県廃棄物処理計画は、第2次計画で掲げた目標や各施策等の進捗状況を点検するとともに、近年の世界的な資源制約の顕在化や、地球環境問題への対応、さらには東日本大震災を契機とした大量生産・大量消費社会の見直しなどの状況変化に対応し、循環型社会の形成を着実なものとするため、本県の廃棄物・循環資源に関する行政の基本的方向を定めるとともに、県民、市町村、事業者、処理業者など関係者すべての指針とするものである。

(2)計画の期間

計画の期間：平成23(2011)年度～27(2015)年度の5年間

2 計画の基本理念及び基本方針

(1)基本理念

- ◎循環を基調とした廃棄物再生・処理システムの構築
- ◎廃棄物の削減による環境への負荷の低減

(2)基本方針

計画の基本理念を実現するため、排出者(事業者)責任の原則を徹底し、廃棄物の排出抑制、再使用、再生利用、熱回収、適正処理を基本として、次に掲げる5つの方針のもとに、廃棄物対策を推進する。

①排出者(事業者)責任の徹底・強化

廃棄物は排出者(事業者)が自らの責任において適正に処理を行うことが原則であり、廃棄物対策における排出者(事業者)責任の徹底と強化を推進する。

②排出抑制と循環的利用の推進

環境への負荷の少ない、循環を基調とした社会経済システム(循環型社会)の形成を着実なものとするため、廃棄物の排出抑制を第一とし、廃棄物(循環資源)については適正な循環的利用(再使用、再生利用、熱回収)を推進する。

③適正処理の推進

循環的な利用が行われないものは、廃棄物処理法をはじめとする関係法令の遵守、排出者及び処理事業の主体者の意識・構造改革、安全で信頼性の高い高度な処理技術の導入等により、適正処理を推進する。

④廃棄物処理施設の計画的な整備の促進

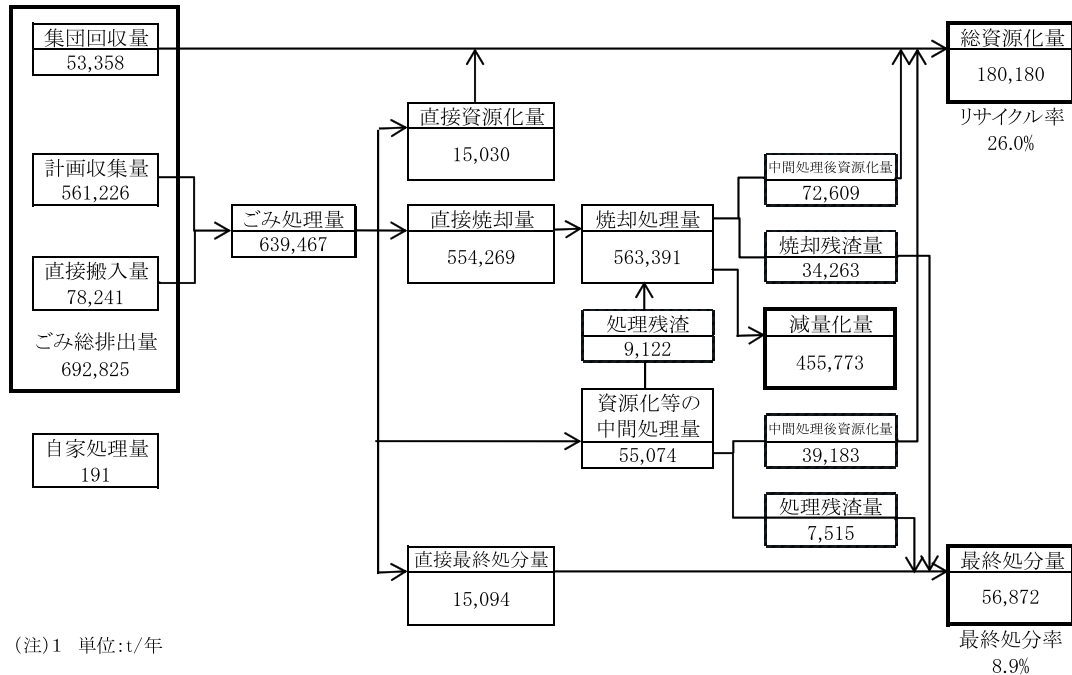
処理・処分しなければならない廃棄物については、適正な処理体制を確保することを基本とし、必要な処理施設の計画的な整備を促進する。

⑤廃棄物情報の共有化と相互理解

廃棄物処理に関する透明性を高めるとともに、県民、事業者、行政が循環資源・廃棄物に対する正しい情報を共有するため、情報提供や普及啓発活動等を通じて、廃棄物関連情報の共有化と相互理解を深める。

3 一般廃棄物(ごみ)の処理状況(平成21年度)

- ・排出されたごみは、焼却や破碎・選別等により中間処理されるほか、直接資源化や直接最終処分されている。
- ・総資源化量は、直接資源化量、中間処理後資源化量及び住民による集団回収量を合計して18万t、最終処分された量は、直接最終処分量と中間処理後の最終処分量を合計して5万7千tとなっている。
- ・中間処理により減量化された量は45万6千tとなる。



(注)1 単位:t/年

$$2 \text{ リサイクル率(\%)} = \frac{\text{直接資源化量} + \text{中間処理後資源化量} + \text{集団回収量}}{\text{ごみ総排出量}} \times 100$$

$$3 \text{ 最終処分率(\%)} = \frac{\text{最終処分量}}{\text{ごみ処理量}} \times 100$$

4 一般廃棄物の処理目標

国の基本方針において示された目標や本県の状況を踏まえて一般廃棄物の減量化の目標を次のとおり設定する。

| 項目 | 一般廃棄物の減量化の目標 (目標年度:H27年度) | 現 状 (H21年度実績) |
|----------|------------------------------|------------------|
| 排出抑制 | 1人1日当たりの排出量を935gとすることを目指す | 971g |
| リサイクル | リサイクル率を32.7%とすることを目指す | 26.0% |
| 最終処分量の削減 | 最終処分量を130t/日とすることを目指す | 156 t /日 |

5 一般廃棄物の目標達成に向けての主な取組

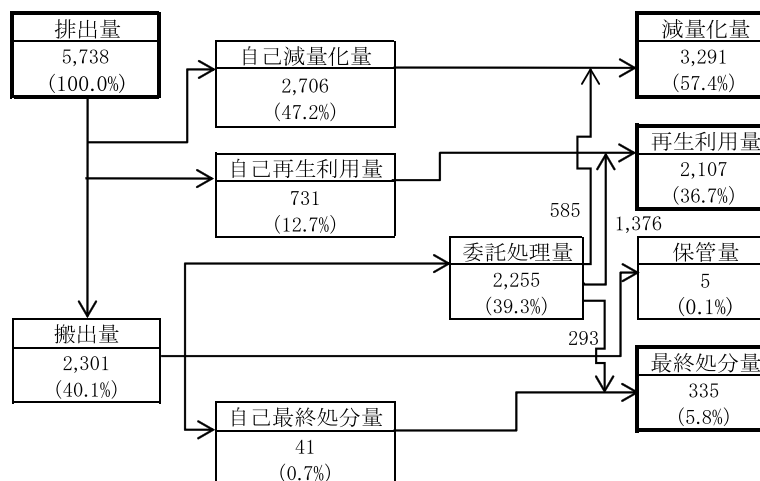
<排出抑制に関する取組>

- ・おかやま・もったいない運動、マイバッグ運動などの県民運動の展開

- ・ ごみ処理の有料化などの経済手法導入の推進
 - ・ 多量排出事業者の処理計画に基づく減量化等の促進
- ＜リサイクルの促進に関する取組＞
- ・ 容器包装リサイクル法による分別収集や自治会等による集団回収活動等の推進
 - ・ 岡山県エコ製品の認定、周知による再生品の使用促進
 - ・ 小型家電製品等のリサイクルによるレアメタル等の有効利用の促進
 - ・ 廃棄物系バイオマスの利活用の促進
- ＜最終処分量の削減に関する取組＞
- ・ より高度な資源化が可能な廃棄物処理施設の整備の促進
 - ・ 焼却施設から発生する焼却灰等の再生利用の促進

6 産業廃棄物の処理状況(平成21年度)

- ・ 排出された産業廃棄物の処理状況は、脱水や焼却等の中間処理によって3,291千t(排出量の57.4%)が減量化され、2,107千t(同36.7%)が再生利用されている。
- ・ 最終処分量は、335千t(同5.8%)となっている。



- (注)1 単位:千t/年
 2 ()内は、排出量に対する割合
 3 図内の数値は、四捨五入の関係で収支が合わない場合がある。

7 産業廃棄物の処理目標

国の基本方針において示された目標や本県の状況を踏まえて、産業廃棄物の減量化の目標を次のとおり設定する。

| 項目 | 産業廃棄物の減量化の目標 (目標年度:H27年度) | 現状 (H21年度実績) |
|----------|------------------------------|-----------------|
| 排出抑制 | 排出量をおおむね6,000千t/年とすることを目指す | 5,738千t/年 |
| リサイクル | リサイクル率を39.1%とすることを目指す | 36.7% |
| 最終処分量の削減 | 最終処分量を305千t/年とすることを目指す | 335千t/年 |

8 産業廃棄物の目標達成に向けての主な取組

＜排出抑制に関する取組＞

- ・多量排出事業者への排出抑制等の指導の徹底
- ・ISO14001等の環境マネジメントシステムの導入促進

＜リサイクルの促進に関する取組＞

- ・建設リサイクル法などリサイクル関連法の周知徹底
- ・リサイクル関係施設の整備、技術開発等への支援
- ・循環資源の有効活用を支援するマッチングシステムの利用促進

＜最終処分量の削減に関する取組＞

- ・汚泥など最終処分量の多い産業廃棄物の排出事業者に対する削減指導の徹底

9 第2次岡山県廃棄物処理計画の実施状況

第2次岡山県廃棄物処理計画(平成18年度～22年度)の進捗状況

| H22年度の数値目標 | | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | H20年度 | H21年度 | H22年度 |
|-----------------------|------------------------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 一般 廃 棄 物 | 排出量を1人1日当たり1,009gとする。 | 1,033 ^g | 1,003 | 1,004 | 971 | 939 | 897 | 878 |
| | リサイクル率を約24%とする。 | 16.2 [%] | 25.8 | 25.4 | 24.6 | 25.2 | 26.0 | 25.7 |
| | 最終処分量を214トン/日とする。 | 303 ^{t/日} | 214 | 193 | 187 | 162 | 156 | 148 |
| 産 業 廃 棄 物 | 排出量をおおむね7,000千トン/年とする。 | 6,977 ^{千t/年} | 6,971 | 6,878 | 7,309 | 7,029 | 5,738 | 5,906 |
| | リサイクル率を39.0%とする。 | 38.1 [%] | 38.2 | 35.8 | 33.5 | 33.1 | 36.7 | 39.1 |
| | 最終処分量を410千トン/年とする。 | 510 ^{千t/年} | 501 | 461 | 435 | 424 | 335 | 348 |

(注) 一人当たりごみの排出量＝市町村収集量(収集量＋直接搬入量)＋自家処理量

4 大気環境関係(安全な生活環境の確保)

(1)大気汚染に係る環境基準

| 区 分 | 環 境 基 準 |
|---------------------|--|
| 二 酸 化 硫 黄 | 1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること |
| 一 酸 化 炭 素 | 1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること |
| 浮 遊 粒 子 状 物 質 | 1時間値の1日平均値が、0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること |
| 光 化 学 オ キ シ ダ ン ト | 1時間値が0.06ppm以下であること |
| 二 酸 化 窒 素 | 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること |
| 微 小 粒 子 状 物 質 | 1年平均値が15 μ g/m ³ 以下であり、かつ、1日平均値が35 μ g/m ³ 以下であること |
| ベ ン ゼ ン | 1年平均値が0.003mg/m ³ 以下であること |
| ト リ ク ロ ロ エ チ レ ン | 1年平均値が0.2mg/m ³ 以下であること |
| テ ト ラ ク ロ ロ エ チ レ ン | 1年平均値が0.2mg/m ³ 以下であること |
| ジ ク ロ ロ メ タ ン | 1年平均値が0.15mg/m ³ 以下であること |

環境基準による大気汚染の評価に関する用語について

| 用 語 | 説 明 |
|----------------------------|--|
| 1 時 間 値 | 1時間の平均濃度 |
| 1 日 平 均 値 (日 平 均 値) | 1日24時間の測定結果の平均値。ただし、1日のうち欠測が4時間を超えるときは、1日平均値に係る集計から除外している。 |
| 有 効 測 定 日 数 | 1日のうち20時間以上測定が行われた日数 |
| 年 平 均 値 | 1年間の測定結果の平均値(1年間は平年で8,760時間)。 ただし、年間測定6,000時間未満のものは参考にとどめている(1日平均値の2%除外値、1日平均値の年間98%値についても同じ)。 |
| 日 平 均 値 の 年 間 2 % 除 外 値 | 1年間に得られた1日平均値を整理し、高い方から2%の範囲内にあるもの(365日分の1日平均値がある場合は7日分の測定値)を除外した残りの最高1日平均値をいう。 |
| 日 平 均 値 の 年 間 9 8 % 値 | 1年間に得られた1日平均値を整理し、低い方から98%に相当する(365日分の1日平均値があれば358番目の)1日平均値をいう。 |
| 長 期 的 評 価 | 主として1年を単位とする平均的な評価で、地域における汚染の実態、推移を把握するもので、一般に環境基準の達成、非達成をいう場合は長期的評価を指す。地域の汚染の評価、規制を実施するための地域の指定等も長期的評価に基づいて行われ、また、総量規制を実施するためのシミュレーション調査でも、長期的評価を満足させることを目標として計算が行われることが多い。 |
| 短 期 的 評 価 | 1時間値、1日平均値について測定結果を環境基準に比較して行う評価方法で、時間ごと、日ごとの高濃度の出現をチェックするのに利用される。 |

(2)環境大気測定局一覧

(平成26年3月31日現在)

| 市町 | 番号 | 測定局 | 測定項目 | | | | | | | | | | | | |
|-----|-------|---------|-----------------|-----|--------|----|----|------------------------------|--------------------------------|----------|------------|-----------|-----------|----------|------------|
| | | | SO ₂ | SPM | PM 2.5 | CO | Ox | NO ₂ NO NOx | NMHC CH ₄ THC | WV WD | 温度 TEMP | 湿度 HUM | 日射 SUN | 放射 収支 | 紫外線 A、B |
| 岡山市 | 1 | 興除市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 2 | 江並市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 3 | 出石市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 4 | 南輝市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| | 5 | 吉備市 | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 6 | 南方市・自 | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | |
| | 7 | 西大寺市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 8 | 東岡山市 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 9 | 五明市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 10 | 西祖市・自 | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 11 | 青江市・自 | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 12 | 高倉山市・気 | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | 計 12局 | | 6 | 11 | 3 | 1 | 8 | 11 | 5 | 11 | 2 | | 2 | 1 | |
| 倉敷市 | 13 | 監視センター市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 14 | 春日市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 15 | 広江市 | ○ | ○ | | | | | | ○ | | | | | |
| | 16 | 二福市 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | 17 | 松江市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 18 | 呼松市 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| | 19 | 宇野津市 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | 20 | 塩生市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 21 | 連島市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 22 | 倉敷美和市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 23 | 豊洲市 | ○ | | | | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 24 | 天城市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 25 | 茶屋町市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 26 | 郷内市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 27 | 駅前市・自 | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| | 28 | 西阿知市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 29 | 玉島市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 30 | 児島市 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| 31 | 田の口市 | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| 32 | 大高市・自 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | |
| 33 | 船穂市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | |
| 34 | 真備市 | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | |
| 35 | 西坂市・移 | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | |
| 36 | 庄市・移 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | | |
| | 計 24局 | | 19 | 18 | 10 | 5 | 15 | 19 | 3 | 19 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 玉野市 | 37 | 日比市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 38 | 波川市 | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 39 | 宇野市 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 40 | 向日比1丁目市 | ○ | | | | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 41 | 向日比2丁目市 | ○ | ○ | | | | | | ○ | | | | | |
| | 42 | 日比2丁目市 | ○ | ○ | | | | | | ○ | | | | | |
| | 43 | 後閑市 | ○ | ○ | | | | | | ○ | | | | | |
| | 44 | 用吉市・自 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 計 8局 | | 8 | 7 | 0 | 1 | 3 | 5 | 1 | 8 | | | | | |
| 笠岡市 | 45 | 大磯市・自 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | 46 | 寺間市 | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | | | | | |
| | 47 | 茂平市 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | |
| | 計 3局 | | 2 | 3 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | | | | | |

| 市町 | 番号 | 測定局 | | 測定項目 | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----|------|------|-----------------|-----|--------|----|----|------------------------------|--------------------------------|----------|------------|-----------|-----------|----------|------------|---|
| | | | | SO ₂ | SPM | PM 2.5 | CO | Ox | NO ₂ NO NOx | NMHC CH ₄ THC | WV WD | 温度 TEMP | 湿度 HUM | 日射 SUN | 放射 収支 | 紫外線 A、B | |
| 総社市 | 48 | 総社 | 県 | | ◎ | ◎ | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| 備前市 | 49 | 伊部 | 県・自 | | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | |
| | 50 | 三石 | 県 | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 51 | 鶴海 | 市 | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 52 | 東片上 | 県 | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 53 | 穂浪 | 市 | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 54 | 野谷 | 市 | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 55 | 日生 | 県 | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | | | 計 7局 | | 6 | 7 | 0 | 0 | 3 | 7 | 1 | 6 | | | | | |
| 津山市 | 56 | 津山 | 県 | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| 井原市 | 57 | 井原 | 県 | | | | | | ◎ | | | ◎ | | | | | |
| 新見市 | 58 | 新見 | 県 | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| 赤磐市 | 59 | 熊山 | 県 | | | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| 早島町 | 60 | 早島 | 県 | | ◎ | ◎ | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 61 | 長津 | 県・自 | | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | |
| 浅口市 | 62 | 金光 | 県 | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 63 | 寄島 | 県 | ◎ | | | | | ◎ | | | ◎ | | | | | |
| 真庭市 | 64 | 久世 | 県・自 | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | |
| 高梁市 | 65 | 高梁 | 県 | | | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| 美作市 | 66 | 美作 | 県 | | | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| 吉備中央町 | 67 | 吉備高原 | 県 | | | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| 合計 67局 | | | | 44 | 53 | 17 | 8 | 43 | 56 | 13 | 59 | | | | | | |
| 県センター(参考) | | 県・気 | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

(凡例)

| | |
|-----------------|----------------|
| SO ₂ | 二酸化硫黄 |
| SPM | 浮遊粒子状物質 |
| PM2.5 | 微小粒子状物質 |
| NO ₂ | 二酸化窒素 |
| NO | 一酸化窒素 |
| NOx | 窒素酸化物 |
| Ox | 光化学オキシダント |
| NMHC | 非メタン炭化水素 |
| CH ₄ | メタン |
| THC | 全炭化水素 |
| WV | 風速 |
| WD | 風向 |
| 県 | 県設置測定局 |
| 市 | 市設置測定局 |
| 自 | 自動車排出ガス測定局 |
| 移 | 移動測定局 |
| 気 | 気象観測局 |
| ◎ | テレメーター化されているもの |

(3)大気環境監視網

環境大気測定局配置図



| | | |
|-----|----|--------|
| 岡山市 | 1 | 興除 |
| | 2 | 江並 |
| | 3 | 出石 |
| | 4 | 南輝 |
| | 5 | 吉備 |
| | 6 | 南方 (自) |
| | 7 | 西大寺 |
| | 8 | 東岡山 |
| | 9 | 五明 |
| 倉敷市 | 10 | 西祖 (自) |
| | 11 | 青江 (自) |
| | 12 | 高倉山 |
| | 13 | 監視センター |
| | 14 | 春日 |
| | 15 | 広江 |
| | 16 | 二福 |
| | 17 | 松江 |
| | 18 | 呼松 |

| | | |
|-----|----|--------|
| 倉敷市 | 19 | 宇野津 |
| | 20 | 塩生 |
| | 21 | 連島 |
| | 22 | 倉敷美和 |
| | 23 | 豊洲 |
| | 24 | 天城 |
| | 25 | 茶屋町 |
| | 26 | 郷内 |
| | 27 | 駅前 (自) |
| | 28 | 西阿知 |
| | 29 | 玉島 |
| | 30 | 児島 |
| | 31 | 田の口 |
| | 32 | 大高 (自) |
| | 33 | 船穂 |
| | 34 | 真備 |
| | 35 | 西坂 (自) |
| | 36 | 庄 (自) |

| | | |
|-----|----|--------|
| 玉野市 | 37 | 日比 |
| | 38 | 渋川 |
| | 39 | 宇野 |
| | 40 | 向日比1丁目 |
| | 41 | 向日比2丁目 |
| | 42 | 日比2丁目 |
| | 43 | 後閑 |
| 笠岡市 | 44 | 用吉 (自) |
| | 45 | 大磯 (自) |
| | 46 | 寺間 |
| ※ | 47 | 茂平 |
| | 48 | 総社 |
| 備前市 | 49 | 伊部 (自) |
| | 50 | 三石 |
| | 51 | 鶴海 |
| | 52 | 東片上 |
| | 53 | 穂浪 |
| | 54 | 野谷 |
| | 55 | 日生 |

| | | |
|---------|----|----------|
| その他市町 | 56 | 津山 |
| | 57 | 井原 |
| | 58 | 新見 |
| | 59 | 熊山 |
| | 60 | 早島 |
| | 61 | 長津 (自) |
| | 62 | 金光 |
| | 63 | 寄島 |
| | 64 | 久世 (自) |
| | 65 | 高梁 |
| 合計68測定局 | 66 | 美作 |
| | 67 | 吉備高原 |
| | 68 | 県センター(参) |

合計68測定局
(自)自動車排出ガス測定局
(参)参考局

※総社市

(4)環境基準の達成状況の推移 (%)

| 二酸化硫黄 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 岡山県 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 全国 | 99.8 | 99.6 | 99.7 | 99.6 | 99.7 | - |

※一般環境大気測定局に係る結果のみ

| 二酸化窒素 | | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|-------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 岡山県 | 一般環境大気測定局 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | 自動車排出ガス測定局 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 全国 | 一般環境大気測定局 | 99.8 | 100 | 100 | 100 | 100 | - |
| | 自動車排出ガス測定局 | 95.5 | 95.7 | 97.8 | 99.5 | 99.3 | - |

| 光化学オキシダント | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 岡山県 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 全国 | 0.1 | 0.1 | 0.0 | 0.5 | 0.3 | - |

※一般環境大気測定局に係る結果のみ

| 一酸化炭素 | | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|-------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 岡山県 | 一般環境大気測定局 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | 自動車排出ガス測定局 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 全国 | 一般環境大気測定局 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | - |
| | 自動車排出ガス測定局 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | - |

| 浮遊粒子状物質 | | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|---------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 岡山県 | 一般環境大気測定局 | 100 | 100 | 61.9 | 31.0 | 100 | 100 |
| | 自動車排出ガス測定局 | 100 | 100 | 54.5 | 45.5 | 100 | 100 |
| 全国 | 一般環境大気測定局 | 99.6 | 98.8 | 93.0 | 69.2 | 99.7 | - |
| | 自動車排出ガス測定局 | 99.3 | 99.5 | 93.0 | 72.9 | 99.7 | - |

| 微小粒子状物質 | | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|---------|------------|--------|--------|--------|--------|
| 岡山県 | 一般環境大気測定局 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 自動車排出ガス測定局 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 全国 | 一般環境大気測定局 | 32.4 | 27.6 | 43.3 | - |
| | 自動車排出ガス測定局 | 8.3 | 29.4 | 33.3 | - |

(5)オキシダント情報・注意報の発令日数(過去10年)

| | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成22年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 情報 | 8 | 8 | 10 | 9 | 17 | 17 | 20 | 4 | 7 | 14 |
| 注意報 | 0 | 1 | 8 | 6 | 6 | 4 | 9 | 3 | 5 | 7 |
| 計 | 8 | 9 | 18 | 15 | 23 | 21 | 29 | 7 | 12 | 21 |

(6)オキシダント情報・注意報の発令回数(過去10年)

| 地域 | 年度 区分 | 平成16 | 平成17 | 平成18 | 平成19 | 平成20 | 平成21 | 平成22 | 平成23 | 平成24 | 平成25 |
|------|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 岡山市 | 情報 | 2 | 0 | 3 | 2 | 2 | 3 | 4 | 0 | 0 | 3 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 5 |
| | 計 | 2 | 0 | 4 | 4 | 2 | 3 | 6 | 0 | 0 | 8 |
| 倉敷市 | 情報 | 8 | 9 | 11 | 10 | 16 | 17 | 12 | 3 | 7 | 5 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 7 | 4 | 6 | 2 | 7 | 1 | 1 | 3 |
| | 計 | 8 | 9 | 18 | 14 | 22 | 19 | 19 | 4 | 8 | 8 |
| 津山市 | 情報 | | | | | 0 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| | 注意報 | - | - | - | - | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | | | | | 0 | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 玉野市 | 情報 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 2 | 4 | 0 | 0 | 1 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 計 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 2 | 4 | 0 | 0 | 3 |
| 笠岡市 | 情報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 2 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 2 |
| 井原市 | 情報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 | 1 | 8 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 | 1 | 8 |
| 総社市 | 情報 | 1 | 0 | 2 | 2 | 2 | 0 | 4 | 0 | 0 | 3 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| | 計 | 1 | 0 | 3 | 2 | 2 | 0 | 5 | 1 | 0 | 3 |
| 高梁市 | 情報 | | | | | 0 | 0 | 4 | 0 | 1 | 6 |
| | 注意報 | - | - | - | - | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | | | | | 0 | 0 | 5 | 0 | 1 | 6 |
| 新見市 | 情報 | | | | | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 注意報 | - | - | - | - | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | | | | | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 備前市 | 情報 | 0 | 0 | 2 | 1 | 2 | 2 | 7 | 1 | 1 | 6 |
| | 注意報 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 |
| | 計 | 0 | 1 | 4 | 2 | 2 | 3 | 8 | 1 | 3 | 7 |
| 瀬戸内市 | 情報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 |
| 赤磐市 | 情報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 1 | 2 | 6 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 1 | 4 | 8 |
| 真庭市 | 情報 | | | | | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 注意報 | - | - | - | - | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | | | | | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 美作市 | 情報 | | | | | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 注意報 | - | - | - | - | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | | | | | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 浅口市 | 情報 | 1 | 1 | 1 | 4 | 3 | 8 | 7 | 1 | 2 | 8 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 2 | 2 | 0 |
| | 計 | 1 | 1 | 1 | 4 | 3 | 9 | 10 | 3 | 4 | 8 |
| 和気町 | 情報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 1 | 2 | 6 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 1 | 4 | 8 |
| 早島町 | 情報 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 2 | 5 | 0 | 3 | 5 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 2 | 5 | 0 | 3 | 5 |
| 里庄町 | 情報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 |
| 矢掛町 | 情報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 新庄村 | 情報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 注意報 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 鏡野町 | 情報 | | | | | 0 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| | 注意報 | - | - | - | - | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | | | | | 0 | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 |

| 地域 | 年度 | 区分 | 平成16 | 平成17 | 平成18 | 平成19 | 平成20 | 平成21 | 平成22 | 平成23 | 平成24 | 平成25 |
|-------|----------------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 勝央町 | 情報 注意報 計 | | - | - | - | - | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | | | | | | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 奈義町 | 情報 注意報 計 | | - | - | - | - | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | | | | | | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 西栗倉村 | 情報 注意報 計 | | - | - | - | - | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | | | | | | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 久米南町 | 情報 注意報 計 | | - | - | - | - | 0 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| | | | | | | | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | 0 | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 美咲町 | 情報 注意報 計 | | - | - | - | - | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| | | | | | | | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | 0 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 吉備中央町 | 情報 注意報 計 | | - | - | - | - | 0 | 0 | 3 | 0 | 2 | 5 |
| | | | | | | | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | 0 | 0 | 5 | 0 | 2 | 5 |
| 合計 | 情報 注意報 計 | | 14 | 11 | 24 | 20 | 28 | 58 | 90 | 17 | 24 | 73 |
| | | | 0 | 1 | 11 | 7 | 6 | 12 | 17 | 4 | 9 | 18 |
| | | | 14 | 12 | 35 | 27 | 34 | 70 | 107 | 21 | 33 | 91 |

(7)大気汚染防止法及び岡山県環境への負荷の低減に関する条例に基づく
設置届出等件数(平成25年度)

| 施設の種類の | | 設置届出 | 使用届出 | 変更届出 | その他届出 | 計 |
|---------|-----------|------|------|------|-------|-----|
| 大気汚染防止法 | ばい煙発生施設 | 29 | 0 | 42 | 111 | 182 |
| | VOC排出施設 | 2 | 0 | 2 | 0 | 4 |
| | 一般粉じん発生施設 | 12 | 0 | 3 | 36 | 51 |
| | 特定粉じん発生施設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 小計 | 43 | 0 | 47 | 147 | 237 |
| 県条例 | ばい煙発生施設 | 7 | 0 | 0 | 4 | 11 |
| | 粉じん発生施設 | 1 | 0 | 0 | 5 | 6 |
| | 有害ガス発生施設 | 230 | 0 | 160 | 132 | 522 |
| | 小計 | 238 | 0 | 160 | 141 | 539 |
| 合計 | | 281 | 0 | 207 | 288 | 776 |

(注)岡山市、倉敷市及び新見市の処理件数を除く。

(8)大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設等設置状況

ばい煙発生施設

| 施設種類 | 施設数 | (岡山市) | (倉敷市) | (新見市) |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|
| 1 ボイラー | 928 | 545 | 476 | 29 |
| 2 ガス発生炉・加熱炉 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 3 金属等の焼結炉 | 1 | 9 | 10 | 0 |
| 4 金属の溶鉱炉 | 0 | 0 | 11 | 0 |
| 5 金属、鑄造の溶解炉 | 31 | 24 | 44 | 3 |
| 6 金属の加熱炉 | 56 | 23 | 124 | 0 |
| 7 石油製品等の加熱炉 | 17 | 0 | 218 | 0 |
| 8 石油精製の触媒再生塔 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 9 硫黄回収装置の燃焼炉 | 0 | 0 | 5 | 0 |
| 10 窯業の焼成炉 | 71 | 5 | 6 | 11 |
| 11 無機、食品の直火炉 | 35 | 4 | 11 | 0 |
| 12 乾燥炉 | 78 | 51 | 59 | 0 |
| 13 製鉄、製鋼等の電気炉 | 2 | 0 | 9 | 4 |
| 14 廃棄物焼却炉 | 70 | 34 | 47 | 0 |
| 15 銅等の精錬の溶鉱炉等 | 8 | 0 | 0 | 4 |
| 16 Cd 顔料等の乾燥施設 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 17 塩素急速冷却施設 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 18 塩化第2鉄の溶解層 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 19 活性炭の反応炉 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 20 塩素等の反応施設 | 1 | 0 | 61 | 0 |
| 21 アルミニウム電解炉 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 22 燐等の反応施設 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 23 弗酸の凝縮施設等 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 24 トリポリリ燐酸Na反応施設等 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 25 鉛の第2次精錬等の溶解炉 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 26 鉛蓄電池の溶解炉 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 27 鉛顔料の溶解炉等 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 28 硝酸の吸収施設等 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 29 コークス炉 | 0 | 0 | 12 | 0 |
| 30 ガスタービン | 14 | 53 | 18 | 0 |
| 31 ディーゼル機関 | 237 | 245 | 168 | 13 |
| 32 ガス機関 | 4 | 7 | 1 | 0 |
| 33 ガソリン機関 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 1,556 | 1,000 | 1,283 | 64 |

一般粉じん発生施設

| 施設種類 | 施設数 | (岡山市) | (倉敷市) | (新見市) |
|----------------|-----|-------|-------|-------|
| 1 コークス炉 | 0 | 0 | 23 | 0 |
| 2 堆積場 | 126 | 46 | 59 | 3 |
| 3 ベルト・バケットコンベア | 292 | 69 | 1,385 | 2 |
| 4 破砕機・摩砕機 | 150 | 73 | 94 | 11 |
| 5 ふるい | 81 | 29 | 153 | 1 |
| 合計 | 649 | 217 | 1,714 | 17 |

揮発性有機化合物排出施設

| 施設種類 | 施設数 | (岡山市) | (倉敷市) | (新見市) |
|--|-----|-------|-------|-------|
| 1 揮発性有機化合物を溶剤として使用する化学製品の製造の用に供する乾燥施設 | 0 | 0 | 9 | 0 |
| 2 塗装施設 | 3 | 0 | 14 | 0 |
| 3 塗装の用に供する乾燥施設 | 1 | 8 | 8 | 0 |
| 4 印刷回路用銅張積層板、粘着テープ若しくは粘着シート、はく離紙又は包装材料の製造に係る接着の用に供する乾燥施設 | 6 | 2 | 4 | 0 |
| 5 接着の用に供する乾燥施設 | 0 | 9 | 0 | 0 |
| 6 印刷の用に供する乾燥施設(オフセット輪転印刷に係るものに限る。) | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 7 印刷の用に供する乾燥施設(グラビア印刷に係るものに限る。) | 6 | 22 | 0 | 0 |
| 8 工業の用に供する揮発性有機化合物による洗浄施設 | 1 | 0 | 2 | 0 |
| 9 ガソリン、原油、ナフサその他の温度37.8度において蒸気圧が20キロパスカルを超える揮発性有機化合物の貯蔵タンク | 0 | 1 | 26 | 0 |
| 合計 | 18 | 42 | 63 | 0 |

(9)岡山県環境の負荷の低減に関する条例に基づくばい煙発生施設等設置状況

ばい煙発生施設

| 施設種類 | 施設数 | (岡山市) | (倉敷市) | (新見市) |
|----------------|-----|-------|-------|-------|
| 1 ベンガラのばい焼炉 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 2 ガラス等の熔融炉 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 Cd 顔料等の乾燥施設 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4 塩素等の反応施設等 | 15 | 0 | 10 | 0 |
| 5 燐等の反応施設等 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6 弗酸の凝縮施設等 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 鉛の第2次精錬等の溶解炉 | 12 | 0 | 0 | 0 |
| 8 鉛顔料の溶解炉等 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9 繊維製品の漂白施設 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 10 パルプ等の漂白施設 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11 クレー粉の漂白施設 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12 メタキシレン抽出施設 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 13 ピクリン酸の反応施設 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 14 金属の表面処理施設 | 10 | 1 | 11 | 0 |
| 合計 | 38 | 1 | 24 | 0 |

粉じん発生施設

| 施設種類 | 施設数 | (岡山市) | (倉敷市) | (新見市) |
|-------------|-----|-------|-------|-------|
| 1 セメントサイロ | 82 | 31 | 41 | 3 |
| 2 バッチャープラント | 58 | 21 | 9 | 5 |
| 合計 | 140 | 52 | 50 | 8 |

有害ガス発生施設

| 施設種類 | 施設数 | (岡山市) | (倉敷市) | (新見市) |
|----------------|-------|-------|-------|-------|
| 1 繊維製品の樹脂加工施設 | 14 | 3 | 8 | 0 |
| 2 木材等の蒸解施設 | 4 | 6 | 4 | 6 |
| 3 化学工業品等の反応施設 | 701 | 193 | 616 | 5 |
| 4 出版等のグラビア印刷施設 | 59 | 46 | 14 | 0 |
| 5 ゴム製品製造施設 | 719 | 204 | 22 | 52 |
| 6 鉄鋼等の鋳物製造施設 | 84 | 26 | 5 | 1 |
| 7 金属製品等の表面処理施設 | 610 | 88 | 129 | 2 |
| 合計 | 2,191 | 566 | 798 | 66 |

5 水環境関係(安全な生活環境の確保)

(1)水質の環境基準

ア 健康項目の環境基準超過状況(平成25年度)

| 項目名 | 項目別 測定地点数 | 環境基準 超過地点数 | 環境基準 |
|------------------|---------------------|---------------|--------------|
| カドミウム | 84(河川46, 湖沼2, 海域36) | 0 | 0.003mg/L以下 |
| 全シアン | 〃 | 0 | 検出されないこと |
| 鉛 | 〃 | 0 | 0.01mg/L以下 |
| 六価クロム | 〃 | 0 | 0.05mg/L以下 |
| ヒ素 | 〃 | 0 | 0.01mg/L以下 |
| 総水銀 | 〃 | 0 | 0.0005mg/L以下 |
| アルキル水銀 | 76(河川38, 湖沼2, 海域36) | 0 | 検出されないこと |
| ポリ塩化ビフェニル | 84(河川46, 湖沼2, 海域36) | 0 | 検出されないこと |
| トリクロロエチレン | 〃 | 0 | 0.03mg/L以下 |
| テトラクロロエチレン | 〃 | 0 | 0.01mg/L以下 |
| ジクロロメタン | 〃 | 0 | 0.02mg/L以下 |
| 四塩化炭素 | 〃 | 0 | 0.002mg/L以下 |
| 1, 2-ジクロロエタン | 〃 | 0 | 0.004mg/L以下 |
| 1, 1-ジクロロエチレン | 〃 | 0 | 0.1mg/L以下 |
| シス-1, 2-ジクロロエチレン | 〃 | 0 | 0.04mg/L以下 |
| 1, 1, 1-トリクロロエタン | 〃 | 0 | 1mg/L以下 |
| 1, 1, 2-トリクロロエタン | 〃 | 0 | 0.006mg/L以下 |
| 1, 3-ジクロロプロペン | 〃 | 0 | 0.002mg/L以下 |
| チウラム | 〃 | 0 | 0.006mg/L以下 |
| シマジン | 〃 | 0 | 0.003mg/L以下 |
| チオベンカルブ | 〃 | 0 | 0.02mg/L以下 |
| ベンゼン | 〃 | 0 | 0.01mg/L以下 |
| セレン | 〃 | 0 | 0.01mg/L以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 97(河川58, 湖沼4, 海域35) | 0 | 10mg/L以下 |
| ふっ素 | 47(河川45, 湖沼2) | 0 | 0.8mg/L以下 |
| ほう素 | 〃 | 0 | 1mg/L以下 |
| 1, 4-ジオキサン | 75(河川44, 湖沼2, 海域29) | 0 | 0.05mg/L以下 |

(参考)要監視項目の指針値超過状況(平成25年度)

| 項目名 | 項目別 測定地点数 | 指針値 超過地点数 | 指針値 | |
|---------------------|---------------------|----------------|------------|-------------|
| クロロホルム | 35(河川15, 海域20) | 0 | 0.06mg/L | |
| トランス-1,2-ジクロロエチレン | 〃 | 0 | 0.04mg/L | |
| 1,2-ジクロロプロパン | 〃 | 0 | 0.06mg/L | |
| p-ジクロロベンゼン | 〃 | 0 | 0.2mg/L | |
| イソキサチオン | 26(河川13, 海域13) | 0 | 0.008mg/L | |
| ダイアジノン | 〃 | 0 | 0.005mg/L | |
| フェニトロチオン(MEP) | 〃 | 0 | 0.003mg/L | |
| イソプロチオラン | 〃 | 0 | 0.04mg/L | |
| オキシ銅(有機銅) | 〃 | 0 | 0.04mg/L | |
| クロロタロニル(TPN) | 〃 | 0 | 0.05mg/L | |
| プロピザミド | 〃 | 0 | 0.008mg/L | |
| EPN | 47(河川19, 湖沼2, 海域26) | 0 | 0.006mg/L | |
| ジクロロボス(DDVP) | 26(河川13, 海域13) | 0 | 0.008mg/L | |
| フェノブカルブ(BPMC) | 〃 | 0 | 0.03mg/L | |
| イプロベンホス(IBP) | 〃 | 0 | 0.008mg/L | |
| クロルニトロフェン(CNP) | 〃 | (不検出) | 指針値なし | |
| トルエン | 35(河川15, 海域20) | 0 | 0.6mg/L | |
| キシレン | 〃 | 0 | 0.4mg/L | |
| フタル酸ジエチルヘキシル | 26(河川13, 海域13) | 0 | 0.06mg/L | |
| ニッケル | 〃 | (不検出) | 指針値なし | |
| モリブデン | 〃 | 0 | 0.07mg/L | |
| アンチモン | 〃 | 0 | 0.02mg/L | |
| 塩化ビニルモノマー | 〃 | 0 | 0.002mg/L | |
| エピクロロヒドリン | 〃 | 0 | 0.0004mg/L | |
| 全マンガン | 〃 | 1 | 0.2mg/L | |
| ウラン | 〃 | 11 | 0.002mg/L | |
| 目全水生生物の保 全に関する項目 | クロロホルム(再掲) | 26(河川13, 海域13) | 0 | 0.006~3mg/L |
| | フェノール | 〃 | 0 | 0.01~2mg/L |
| | ホルムアルデヒド | 〃 | 0 | 0.03~1mg/L |

注) 要監視項目及び指針値は、「水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件の施行等について」(H5.3.8環境庁水質保全局長通知)において、人の健康の保護に関連する物質ではあるが、公共用水域等における検出状況等から見て、現時点では環境基準項目とせず、引き続き知見の集積に努めるべきと判断されるものとして示されたものであり、指針値は長期摂取に伴う健康影響を考慮して算定された値で、一時的にある程度この値を超えるようなことがあっても直ちに健康上の問題に結びつくものではないとされている。

イ 生活環境の保全に関する環境基準

a 河川

(a)河川(湖沼を除く)

| 項目 類型 | 利用目的の 適 応 性 | 基準値 | | | | |
|----------|---------------------------|-----------------------|---------------------------|--------------------|----------------|----------------------|
| | | 水素イオン 濃 度 (p H) | 生物化学的 酸素要求量 (B O D) | 浮遊物質 量 (S S) | 溶存酸素量 (D O) | 大腸菌群数 |
| AA | 水道1級、自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 1mg/L以下 | 25mg/L以下 | 7.5mg/L以上 | 50MPN/ 100mL以下 |
| A | 水道2級、水産1級、水浴及びB以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 2mg/L以下 | 25mg/L以下 | 7.5mg/L以上 | 1,000MPN/ 100mL以下 |
| B | 水道3級、水産2級及びC以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 3mg/L以下 | 25mg/L以下 | 5mg/L以上 | 5,000MPN/ 100mL以下 |
| C | 水産3級、工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 5mg/L以下 | 50mg/L以下 | 5mg/L以上 | - |
| D | 工業用水2級、農業用水及びEの欄に掲げるもの | 6.0以上 8.5以下 | 8mg/L以下 | 100mg/L以下 | 2mg/L以上 | - |
| E | 工業用水3級、環境保全 | 6.0以上 8.5以下 | 10mg/L以下 | ごみ等の浮遊が認められないこと | 2mg/L以上 | - |

| 項目 類型 | 水生生物の生息状況の適応性 | 基準値 | | |
|----------|---|------------|--------------|------------------------------|
| | | 全亜鉛 | ノニルフェ ノール | 直鎖アルキルベンゼ ンスルホン酸及び その塩 |
| 生物A | イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L以下 | 0.001mg/L以下 | 0.03mg/L以下 |
| 生物特A | 生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L以下 | 0.0006mg/L以下 | 0.02mg/L以下 |
| 生物B | コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L以下 | 0.002mg/L以下 | 0.05mg/L以下 |
| 生物特B | 生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L以下 | 0.002mg/L以下 | 0.04mg/L以下 |

(b)湖沼

| 項目 類型 | 利用目的の 適 応 性 | 基準値 | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------------------|-------------------------|--------------------|----------------|----------------------|
| | | 水素イオン 濃 度 (p H) | 化学的 酸素要求量 (C O D) | 浮遊物質 量 (S S) | 溶存酸素量 (D O) | 大腸菌群数 |
| AA | 水道1級、水産1級、自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 1mg/L以下 | 1mg/L以下 | 7.5mg/L以上 | 50MPN/ 100mL以下 |
| A | 水道2・3級、水産2級、水浴及びB以下の欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 3mg/L以下 | 5mg/L以下 | 7.5mg/L以上 | 1,000MPN/ 100mL以下 |
| B | 水産3級、工業用水1級、農業用水及びCの欄に掲げるもの | 6.5以上 8.5以下 | 5mg/L以下 | 15mg/L以下 | 5mg/L以上 | - |
| C | 工業用水2級、環境保全 | 6.0以上 8.5以下 | 8mg/L以下 | ごみ等の浮遊が認められないこと | 2mg/L以上 | - |

| 項目 類型 | 利用目的の適応性 | 基準値 | |
|----------|--|-----------|-------------|
| | | 全窒素 | 全りん |
| I | 自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの | 0.1mg/L以下 | 0.005mg/L以下 |
| II | 水道1・2・3級(特殊なものを除く。)、水産1種、水浴及びIII以下の欄に掲げるもの | 0.2mg/L以下 | 0.01mg/L以下 |
| III | 水道3級(特殊なもの)及びIV以下の欄に掲げるもの | 0.4mg/L以下 | 0.03mg/L以下 |
| IV | 水産2種及びVの欄に掲げるもの | 0.6mg/L以下 | 0.05mg/L以下 |
| V | 水産3種、工業用水、農業用水、環境保全 | 1mg/L以下 | 0.1mg/L以下 |

| 項目 類型 | 水生生物の生息状況の適応性 | 基準値 | | |
|----------|---|-------------|---------------|------------------------------|
| | | 全亜鉛 | ノニルフェ ノール | 直鎖アルキルベンゼ ンスルホン酸及び その塩 |
| 生物 A | イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L 以下 | 0.001mg/L 以下 | 0.03mg/L 以下 |
| 生物特 A | 生物 A の水域のうち、生物 A の欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L 以下 | 0.0006mg/L 以下 | 0.02mg/L 以下 |
| 生物 B | コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L 以下 | 0.002mg/L 以下 | 0.05mg/L 以下 |
| 生物特 B | 生物 A 又は生物 B の水域のうち、生物 B の欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L 以下 | 0.002mg/L 以下 | 0.04mg/L 以下 |

b 海域

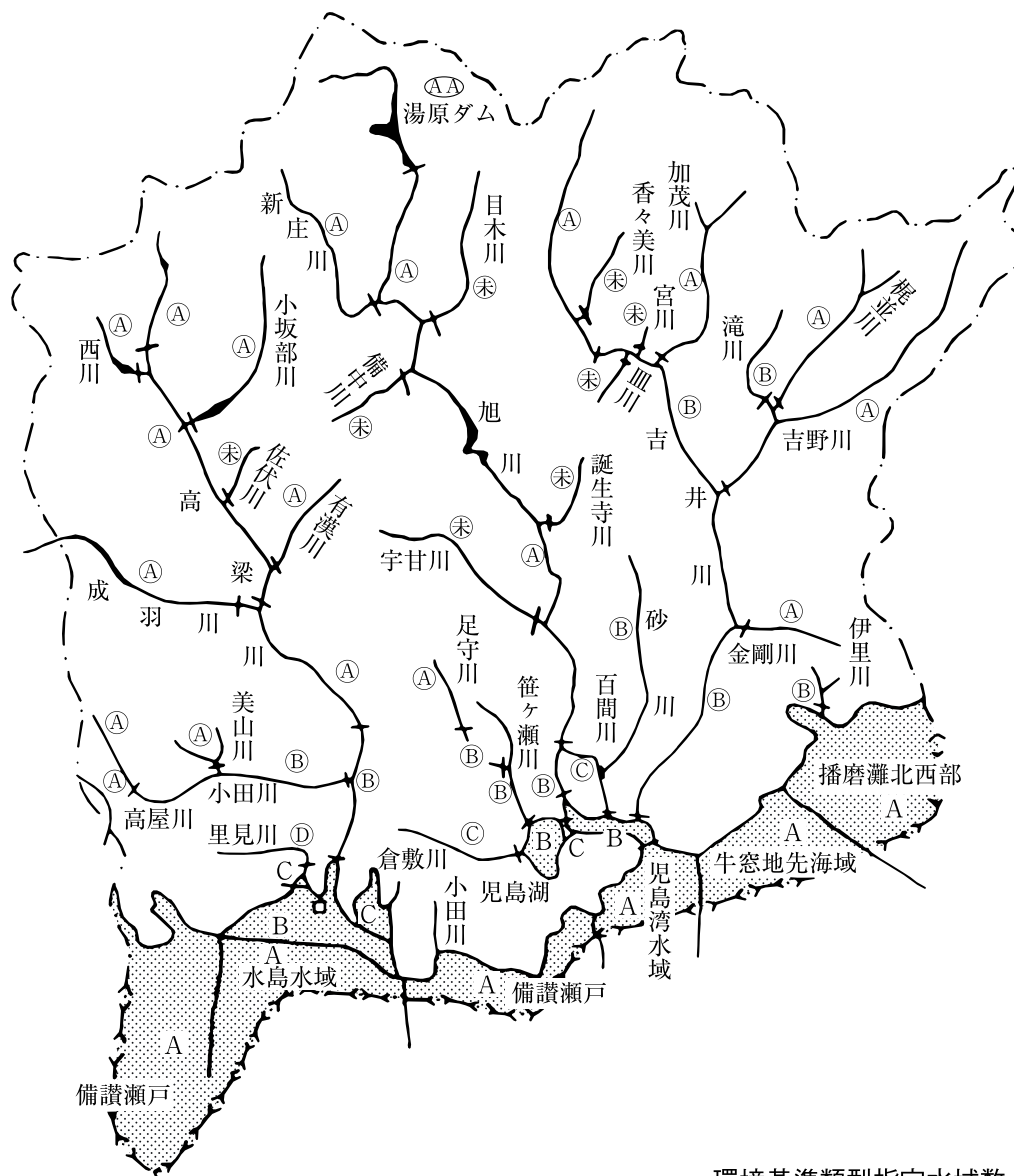
| 項目 類型 | 利用目的の 適応性 | 基準値 | | | | |
|----------|-----------------------------|---------------------|-----------------------|---------------|-----------------------|-------------------------|
| | | 水素イオン 濃度 (pH) | 化学的 酸素要求量 (COD) | 溶存酸素量 (DO) | 大腸菌群数 | n-ヘキサン 抽出物質 (油分等) |
| A | 水産1級、水浴、自然環境保全及びB以下の欄に掲げるもの | 7.8以上 8.3以下 | 2mg/L 以下 | 7.5mg/L 以上 | 1,000MPN/ 100mL 以下 | 検出されない こと |
| B | 水産2級、工業用水及びCの欄に掲げるもの | 7.8以上 8.3以下 | 3mg/L 以下 | 5mg/L 以上 | - | 検出されない こと |
| C | 環境保全 | 7.0以上 8.3以下 | 8mg/L 以下 | 2mg/L 以上 | - | - |

| 項目 類型 | 利用目的の適応性 | 基準値 | |
|----------|--------------------------------------|------------|-------------|
| | | 全窒素 | 全りん |
| I | 自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの(水産2種及び3種を除く。) | 0.2mg/L 以下 | 0.02mg/L 以下 |
| II | 水産1種、水浴及びIII以下の欄に掲げるもの(水産2種及び3種を除く。) | 0.3mg/L 以下 | 0.03mg/L 以下 |
| III | 水産2種及びIVの欄に掲げるもの(水産3種を除く。) | 0.6mg/L 以下 | 0.05mg/L 以下 |
| IV | 水産3種、工業用水、生物生息環境保全 | 1mg/L 以下 | 0.09mg/L 以下 |

| 項目 類型 | 水生生物の生息状況の適応性 | 基準値 | | |
|----------|---|-------------|---------------|------------------------------|
| | | 全亜鉛 | ノニルフェ ノール | 直鎖アルキルベンゼ ンスルホン酸及び その塩 |
| 生物 A | 水生生物の生息する水域 | 0.02mg/L 以下 | 0.001mg/L 以下 | 0.01mg/L 以下 |
| 生物特 A | 生物 A の水域のうち、水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.01mg/L 以下 | 0.0007mg/L 以下 | 0.006mg/L 以下 |

(2) 県下水域の環境基準類型の指定概略図

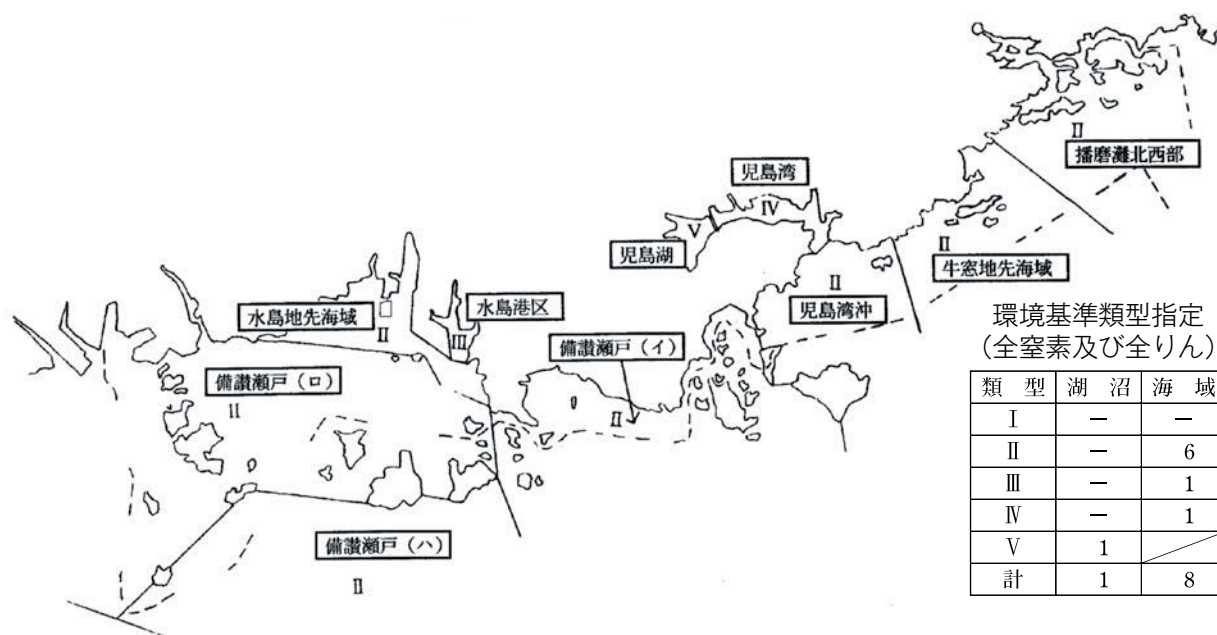
ア BOD又はCOD等に係る環境基準類型



環境基準類型指定水域数

| 類型 | 河川 | 湖沼 | 海域 | 計 |
|----|----|----|----|----|
| AA | 1 | - | - | 1 |
| A | 18 | - | 5 | 23 |
| B | 9 | 1 | 2 | 12 |
| C | 2 | - | 3 | 5 |
| D | 1 | - | - | 1 |
| 計 | 31 | 1 | 10 | 42 |

イ 全窒素及び全りんに係る環境基準類型概略図



(3) 水域区別の環境基準達成状況(%)

| 水域区分 | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 河川(BOD) | 93.5 | 93.5 | 93.5 | 93.5 | 96.7 |
| 湖沼(COD) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 海域(COD) | 40.0 | 50.0 | 80.0 | 40.0 | 50.0 |
| 全体 | 78.6 | 80.9 | 88.1 | 78.6 | 83.3 |

| 区分 | | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 湖沼 | 全窒素 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 全りん | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 海域 | 全窒素 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | 全りん | 100.0 | 87.5 | 100.0 | 100.0 | 87.5 |

(4) 項目別の環境基準適合状況(%)

| 水域区分 | 項目 | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 |
|------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 河川 | pH | 91.0 | 92.4 | 96.0 | 93.3 | 91.4 |
| | BOD | 93.8 | 95.2 | 95.7 | 96.5 | 96.5 |
| | SS | 99.8 | 99.6 | 99.9 | 100 | 100.0 |
| | DO | 97.0 | 97.0 | 97.4 | 97.9 | 96.1 |
| 湖沼 | pH | 61.6 | 73.6 | 77.8 | 80.6 | 59.7 |
| | COD | 5.6 | 2.8 | 5.6 | 6.9 | 11.1 |
| | SS | 45.8 | 52.8 | 55.6 | 33.3 | 54.2 |
| | DO | 98.6 | 100.0 | 97.2 | 100.0 | 100.0 |
| 海域 | pH | 94.0 | 92.7 | 90.1 | 95.2 | 92.2 |
| | COD | 71.7 | 65.2 | 80.6 | 66.1 | 65.6 |
| | DO | 79.6 | 84.3 | 87.6 | 83.3 | 85.3 |
| | 油分等 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

(5)環境基準点における水質の経年変化

| | |
|--|------------------------|
| 生活環境項目 | 環境基準で定めている生活環境の保全に係る項目 |
| 水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、化学的酸素要求量(COD)、浮遊物質(S S)、溶存酸素量(DO)、大腸菌群数、ノルマルヘキサン抽出物質(油分)、全窒素、全りん、全亜鉛、ノニルフェノール (以上11項目) | |

ア BOD、CODの測定結果

(ア) 河川(31水域、33環境基準点)

| 水域名 | 地点名 | 市町村 | 水質(BOD:75%値)(mg/L) | | | | | 環境基準(mg/L) | | |
|--------|----------|------|--------------------|-------|-------|-------|-------|------------|-----|-----|
| | | | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 | | | |
| 高梁川水域 | 高梁川上流 | 一中橋 | 新見市 | 1.1 | 1.1 | 0.9 | 1.0 | 1.0 | ○ | 2以下 |
| | 高梁川中流(1) | 中井橋 | 高梁市 | 1.0 | 0.9 | 1.2 | 0.7 | 1.2 | ○ | 2以下 |
| | 高梁川中流(2) | 湛井堰 | 総社市 | 0.9 | 1.7 | 1.1 | 0.9 | 1.1 | ○ | 2以下 |
| | 高梁川下流 | 霞橋 | 倉敷市 | 1.4 | 1.8 | 1.2 | 1.2 | 1.3 | ○ | 3以下 |
| | 西川 | 布原橋 | 新見市 | 1.4 | 0.8 | 0.8 | 0.7 | 0.8 | ○ | 2以下 |
| | 小坂部川 | 巖橋 | 新見市 | 1.2 | 1.0 | 0.9 | 0.7 | 0.8 | ○ | 2以下 |
| | 有漢川 | 幡見橋 | 高梁市 | 1.1 | 0.9 | 1.4 | 0.9 | 1.2 | ○ | 2以下 |
| | 成羽川 | 神崎橋 | 高梁市 | 1.0 | 0.8 | 1.3 | 0.7 | 1.0 | ○ | 2以下 |
| | 小田川上流 | 猪原橋 | 井原市 | 1.1 | 0.8 | 1.0 | 0.6 | 1.0 | ○ | 2以下 |
| | 小田川下流 | 福松橋 | 倉敷市 | 1.3 | 2.2 | 1.3 | 1.5 | 1.9 | ○ | 3以下 |
| | 美山川 | 栄橋 | 矢掛町 | 1.2 | 1.3 | 1.4 | 1.1 | 1.4 | ○ | 2以下 |
| 里見川 | 鴨方川合流点 | 浅口市 | 4.4 | 3.8 | 3.4 | 2.5 | 2.6 | ○ | 8以下 | |
| 旭川水域 | 旭川上流 | 湯原ダム | 真庭市 | 1.2 | 1.4 | 1.7 | 1.3 | 1.0 | ○ | 1以下 |
| | 旭川中流 | 落合橋 | 真庭市 | 1.3 | 1.1 | 0.8 | 1.1 | 1.1 | ○ | 2以下 |
| | | 乙井手堰 | 岡山市 | 1.2 | 1.1 | 1.4 | 1.3 | 1.0 | | |
| | 旭川下流 | 桜橋 | 岡山市 | 1.4 | 1.3 | 1.5 | 1.3 | 1.3 | ○ | 3以下 |
| | 新庄川 | 大久奈橋 | 真庭市 | 1.0 | 0.7 | 0.5 | 0.8 | 0.8 | ○ | 2以下 |
| | 百間川 | 清内橋 | 岡山市 | 3.1 | 3.0 | 3.0 | 3.2 | 2.3 | ○ | 5以下 |
| 砂川 | 新橋 | 岡山市 | 1.9 | 1.5 | 2.2 | 1.8 | 1.8 | ○ | 3以下 | |
| 吉井川水域 | 吉井川上流 | 嵯峨堰 | 津山市 | 1.1 | 0.9 | 1.0 | 1.0 | 0.9 | ○ | 2以下 |
| | 吉井川中・下流 | 周匝大橋 | 赤磐市 | 1.4 | 1.2 | 1.4 | 1.0 | 1.6 | ○ | 3以下 |
| | | 熊山橋 | 赤磐市 | 1.3 | 1.4 | 1.6 | 1.1 | 0.8 | | |
| | 加茂川 | 加茂川橋 | 津山市 | 0.9 | 0.8 | 0.9 | 0.8 | 0.9 | ○ | 2以下 |
| | 梶並川 | 滝村堰 | 美作市 | 1.0 | 0.9 | 0.9 | 0.9 | 1.0 | ○ | 2以下 |
| | 滝川 | 三星橋 | 美作市 | 1.3 | 1.1 | 1.1 | 1.1 | 1.4 | ○ | 3以下 |
| | 吉野川 | 鷺湯橋 | 美作市 | 1.1 | 1.0 | 1.1 | 0.8 | 0.9 | ○ | 2以下 |
| 金剛川 | 宮橋 | 和気町 | 0.8 | 1.4 | 1.5 | 0.8 | 0.7 | ○ | 2以下 | |
| 笹ヶ瀬川水域 | 笹ヶ瀬川 | 笹ヶ瀬橋 | 岡山市 | 2.5 | 2.8 | 3.4 | 3.2 | 3.6 | × | 3以下 |
| | 足守川上流 | 高塚橋 | 岡山市 | 1.5 | 2.4 | 1.4 | 1.4 | 1.6 | ○ | 2以下 |
| | 足守川下流 | 入江橋 | 岡山市 | 1.5 | 1.8 | 1.4 | 1.8 | 1.6 | ○ | 3以下 |
| 倉敷川水域 | 倉敷川 | 倉敷川橋 | 岡山市 | 4.2 | 3.8 | 3.0 | 4.4 | 4.4 | ○ | 5以下 |
| 芦田川水域 | 高屋川 | 滝山堰 | 井原市 | 2.2 | 1.8 | 2.0 | 1.6 | 1.9 | ○ | 2以下 |
| 伊里川水域 | 伊里川 | 浜の川橋 | 備前市 | 2.0 | 2.1 | 2.2 | 1.1 | 2.0 | ○ | 3以下 |

(備考) 1)「75%値」とは、年間のn個の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べたとき、 $0.75 \times n$ 番目(整数でない場合は端数を切り上げた整数番目)にくるデータを表わす。

2)「○」は、環境基準が達成された水域を示す。「×」は、環境基準が達成されていない水域を示す。

(イ) 湖沼(児島湖1水域、2環境基準点)

| 水域名 | | 地点名 | 水質(COD:75%値)(mg/L) | | | | | 環境基準 (mg/L) |
|-----------|-----|-----|--------------------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| | | | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 | |
| 児島湖 水域 | 児島湖 | 湖心 | 7.5 | 8.0 | 7.8 | 7.7 | 7.4 | × 5以下 |
| | | 樋門 | 7.2 | 8.0 | 7.8 | 7.5 | 6.9 | |

(ウ) 海域(10水域、27環境基準点)

| 水域名 | | 地点名 | 水質(COD:75%値)(mg/L) | | | | | 環境基準 (mg/L) | |
|------------|-----------|---------|--------------------|-------|-------|-------|-------|----------------|-----|
| | | | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 | | |
| 水島 海域 | 玉島港区 | 玉島港奥部 | 3.5 | 3.7 | 3.5 | 3.6 | 3.1 | ○ | 8以下 |
| | 水島港区 | 水島港口部 | 2.5 | 2.6 | 2.2 | 2.6 | 2.5 | ○ | 8以下 |
| | 水島地先海域(甲) | 玉島港沖合 | 2.9 | 2.4 | 2.4 | 2.2 | 2.4 | ○ | 3以下 |
| | | 上水島北 | 2.5 | 2.2 | 2.1 | 2.3 | 2.3 | | |
| | 水島地先海域(乙) | 網代諸島沖 | 2.2 | 2.0 | 1.9 | 2.3 | 1.8 | ○ | 2以下 |
| 児島 湾水域 | 児島湾(甲) | 同和鉱業沖 | 5.9 | 5.1 | 5.3 | 5.3 | 7.1 | ○ | 8以下 |
| | 児島湾(乙) | 旭川河口部 | 4.2 | 4.6 | 4.3 | 4.6 | 5.0 | × | 3以下 |
| | | 吉井川河口部 | 2.9 | 3.8 | 4.2 | 4.2 | 3.0 | | |
| | | 横樋沖 | 4.4 | 4.3 | 4.2 | 3.9 | 4.5 | | |
| | | 九幡沖 | 4.0 | 4.5 | 3.9 | 4.2 | 4.4 | | |
| | | 阿津沖 | 4.2 | 4.8 | 3.9 | 3.7 | 4.8 | | |
| | 児島湾(丙) | 向小串沖 | 2.3 | 4.1 | 3.2 | 2.8 | 2.9 | × | 2以下 |
| | | 別荘沖 | 1.9 | 3.2 | 2.6 | 2.4 | 2.2 | | |
| | | 児島湾口沖 | 1.6 | 3.0 | 2.2 | 1.9 | 2.8 | | |
| | 備讃 瀬戸 | 備讃瀬戸 | 神島御崎沖 | 2.4 | 2.3 | 2.0 | 2.2 | 3.1 | × |
| 青佐鼻沖 | | | 2.4 | 2.4 | 2.0 | 2.3 | 2.9 | | |
| 北木島布越崎北 | | | 2.0 | 2.0 | 1.6 | 2.0 | 2.2 | | |
| 久須美鼻東 | | | 1.9 | 1.9 | 1.6 | 2.0 | 1.8 | | |
| 大槌島北 | | | 1.8 | 1.9 | 1.3 | 1.6 | 1.9 | | |
| 牛窓地 先海域 | 牛窓地先海域 | 錦海灣 | 2.1 | 2.4 | 1.9 | 2.6 | 2.4 | × | 2以下 |
| | | 前島南西 | 2.1 | 2.1 | 1.6 | 1.9 | 2.2 | | |
| 播磨灘 北西部 | 播磨灘北西部 | 長島西南沖 | 2.2 | 2.4 | 1.9 | 2.4 | 2.4 | × | 2以下 |
| | | 大多府島東南沖 | 2.5 | 2.3 | 1.9 | 2.5 | 2.6 | | |
| | | 鹿久居島東沖 | 2.8 | 2.3 | 1.9 | 2.8 | 2.7 | | |

(備考) 1)「75%値」とは、年間のn個の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べたとき、 $0.75 \times n$ 番目(整数でない場合は端数を切り上げた整数番目)にくるデータを表わす。

2)「○」は、環境基準が達成された水域を示す。「×」は、環境基準が達成されていない水域を示す。

イ 全窒素、全りん(湖沼1水域2環境基準点、海域8水域21環境基準点)

(ア)全窒素(湖沼1水域2環境基準点、海域8水域21環境基準点)

| 水 域 名 | 地点名 | 水質(全窒素：年間平均値)(mg/L) | | | | | | | | | | 環境基準 (mg/L) | |
|-------------|---------|---------------------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|----------------|-------|
| | | H21年度 | | H22年度 | | H23年度 | | H24年度 | | H25年度 | | | |
| 児 島 湖 | 湖 心 | 1.0 | | 1.2 | | 1.3 | | 1.2 | | 1.1 | | × | 1以下 |
| | 樋 門 | 0.99 | | 1.2 | | 1.3 | | 1.2 | | 1.2 | | | |
| 水島港区 | 水島港口部 | 0.18 | 0.18 | 0.27 | 0.27 | 0.38 | 0.38 | 0.28 | 0.28 | 0.26 | 0.26 | ○ | 0.6以下 |
| 水島地先 海 域 | 玉島港沖合 | 0.15 | | 0.21 | | 0.30 | | 0.24 | | 0.21 | | ○ | 0.3以下 |
| | 上水島北 | 0.16 | | 0.19 | | 0.29 | | 0.25 | | 0.21 | | | |
| | 濃地諸島東 | 0.16 | | 0.16 | | 0.24 | | 0.23 | | 0.21 | | | |
| 児 島 湾 | 九 蟠 沖 | 0.26 | | 0.28 | | 0.44 | | 0.53 | | 0.54 | | ○ | 1以下 |
| | 向小串沖 | 0.21 | | 0.28 | | 0.30 | | 0.50 | | 0.43 | | | |
| 児島湾沖 | 児島湾口沖 | 0.15 | | 0.19 | | 0.17 | | 0.27 | | 0.27 | | ○ | 0.3以下 |
| | 出崎東沖 | 0.21 | | 0.20 | | 0.19 | | 0.18 | | 0.21 | | | |
| | 銚島沖合 | 0.17 | | 0.21 | | 0.18 | | 0.17 | | 0.17 | | | |
| 備讃瀬戸 (イ) | 久須美鼻東 | 0.13 | | 0.12 | | 0.22 | | 0.20 | | 0.17 | | ○ | 0.3以下 |
| | 大槌島北 | 0.17 | | 0.17 | | 0.15 | | 0.19 | | 0.15 | | | |
| 備讃瀬戸 (ロ) | 網代諸島沖 | 0.14 | | 0.16 | | 0.22 | | 0.20 | | 0.17 | | ○ | 0.3以下 |
| | 神島御崎沖 | 0.19 | | 0.20 | | 0.22 | | 0.19 | | 0.18 | | | |
| | 青佐鼻沖 | 0.19 | | 0.21 | | 0.21 | | 0.22 | | 0.20 | | | |
| | 北木島布越崎北 | 0.15 | | 0.17 | | 0.14 | | 0.17 | | 0.15 | | | |
| 牛窓地先 海 域 | 錦 海 湾 | 0.18 | | 0.18 | | 0.16 | | 0.19 | | 0.17 | | ○ | 0.3以下 |
| | 前島南西 | 0.19 | | 0.16 | | 0.18 | | 0.16 | | 0.16 | | | |
| | 前島東南 | 0.17 | | 0.16 | | 0.14 | | 0.16 | | 0.15 | | | |
| 播磨灘北 西 部 | 長島西南沖 | 0.16 | | 0.17 | | 0.15 | | 0.16 | | 0.15 | | ○ | 0.3以下 |
| | 大多府島東南沖 | 0.18 | | 0.17 | | 0.17 | | 0.19 | | 0.16 | | | |
| | 鹿久居島東沖 | 0.19 | | 0.17 | | 0.18 | | 0.18 | | 0.18 | | | |

(備考) 「○」は、環境基準が達成された水域を示す。「×」は、環境基準が達成されていない水域を示す。

(イ)全りん(湖沼1水域2環境基準点、海域8水域21環境基準点)

| 水 域 名 | 地点名 | 水質(全りん：年間平均値)(mg/L) | | | | | | | | | | 環境基準 (mg/L) | |
|-------------|---------|---------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|--------|
| | | H21年度 | | H22年度 | | H23年度 | | H24年度 | | H25年度 | | | |
| 児 島 湖 | 湖 心 | 0.18 | | 0.19 | | 0.18 | | 0.19 | | 0.18 | | × | 0.1以下 |
| | 樋 門 | 0.17 | | 0.19 | | 0.16 | | 0.19 | | 0.17 | | | |
| 水島港区 | 水島港口部 | 0.032 | 0.032 | 0.023 | 0.023 | 0.030 | 0.030 | 0.025 | 0.025 | 0.025 | 0.025 | ○ | 0.05以下 |
| 水島地先 海 域 | 玉島港沖合 | 0.029 | | 0.032 | | 0.029 | | 0.023 | | 0.021 | | ○ | 0.03以下 |
| | 上水島北 | 0.027 | | 0.026 | | 0.030 | | 0.023 | | 0.021 | | | |
| | 濃地諸島東 | 0.027 | | 0.021 | | 0.029 | | 0.023 | | 0.021 | | | |
| 児 島 湾 | 九 蟠 沖 | 0.064 | | 0.070 | | 0.063 | | 0.064 | | 0.061 | | ○ | 0.09以下 |
| | 向小串沖 | 0.042 | | 0.054 | | 0.042 | | 0.041 | | 0.044 | | | |
| 児島湾沖 | 児島湾口沖 | 0.033 | | 0.037 | | 0.034 | | 0.030 | | 0.033 | | × | 0.03以下 |
| | 出崎東沖 | 0.032 | | 0.033 | | 0.028 | | 0.030 | | 0.028 | | | |
| | 銚島沖合 | 0.025 | | 0.032 | | 0.027 | | 0.025 | | 0.028 | | | |
| 備讃瀬戸 (イ) | 久須美鼻東 | 0.027 | | 0.024 | | 0.026 | | 0.022 | | 0.021 | | ○ | 0.03以下 |
| | 大槌島北 | 0.023 | | 0.025 | | 0.024 | | 0.026 | | 0.023 | | | |
| 備讃瀬戸 (ロ) | 網代諸島沖 | 0.026 | | 0.022 | | 0.026 | | 0.021 | | 0.020 | | ○ | 0.03以下 |
| | 神島御崎沖 | 0.024 | | 0.025 | | 0.025 | | 0.026 | | 0.026 | | | |
| | 青佐鼻沖 | 0.028 | | 0.027 | | 0.027 | | 0.030 | | 0.029 | | | |
| | 北木島布越崎北 | 0.021 | | 0.020 | | 0.021 | | 0.022 | | 0.023 | | | |
| 牛窓地先 海 域 | 錦 海 湾 | 0.027 | | 0.029 | | 0.030 | | 0.029 | | 0.030 | | ○ | 0.03以下 |
| | 前島南西 | 0.027 | | 0.025 | | 0.029 | | 0.025 | | 0.026 | | | |
| | 前島東南 | 0.024 | | 0.023 | | 0.024 | | 0.024 | | 0.023 | | | |
| 播磨灘北 西 部 | 長島西南沖 | 0.024 | | 0.026 | | 0.027 | | 0.025 | | 0.024 | | ○ | 0.03以下 |
| | 大多府島東南沖 | 0.023 | | 0.024 | | 0.025 | | 0.025 | | 0.026 | | | |
| | 鹿久居島東沖 | 0.025 | | 0.024 | | 0.023 | | 0.022 | | 0.026 | | | |

(備考) 「○」は、環境基準が達成された水域を示す。「×」は、環境基準が達成されていない水域を示す。

(6)地下水質の測定項目別検出状況
ア 平成25年度概況調査の測定結果

(単位: mg/L)

| 番号 | 調査地点 | 用途 | 測定機 | 環境基準 | | | | | | | | | | | | | 項目 | | 要 監 視 項 目 | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------------|------|-----|-----------------------|-----------------------|------|-----------------------|--------|-------------|------------------------|-------------|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------------|-------------|-------------|----------------|----------------|-----------------------|-------------------|-------------------|------------------|------------------|---------------------------------|------------------|-------------|---|-------------|-------------|---------------------------|--|------|--|
| | | | | カ ド ミ ウ ム | 全 シ ン ア ン | 鉛 | 六 価 ク ロ ム | ひ 素 | 総 水 銀 | アル キ ル 水 銀 | P C B | ジ ク ロ ロ メ タ ン | 四 塩 化 炭 素 | 塩 化 ビ ニ ル モノ ア ミ | 1,2-ジクロロエタン | 1,1-ジクロロエタン | 1,1,1-トリクロロエタン | 1,1,2-トリクロロエタン | | 1,1,1,2-テトラクロロエタン | 1,1,2,2-テトラクロロエタン | チ ウ ラ ム | シ マ ジ ン | チ オ ベ ン カ ル ブ | ベ ン ゼ ン | セ レ ン | 副 機 械 油 類 中 の 無 機 酸 性 油 類 | ふ つ 素 | は う 素 | 1, 4-ジ オ キ サン | | | |
| 1 | 玉野市宇野 | 生活用水 | 岡県 | 0.003 | N.D. | 0.01 | 0.05 | 0.01 | 0.0005 | N.D. | N.D. | 0.02 | 0.002 | 0.004 | 0.1 | 0.04 | 1 | 0.006 | 0.03 | 0.006 | 0.006 | 0.003 | 0.02 | 0.01 | 0.01 | 10 | 0.8 | 1 | 0.05 | | | | |
| 2 | 瀬戸内市牛窓町牛窓 | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 30 | 0.13 | N.D. | N.D. | | | | |
| 3 | 赤磐市佐古 | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 0.005 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 8.3 | 0.18 | 0.06 | N.D. | | | | |
| 4 | 吉備中央町上田西 | 一般飲用 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 34 | 0.17 | N.D. | N.D. | | | | |
| 5 | 備前市日生町栗河 | その他 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 38 | N.D. | N.D. | N.D. | | | | |
| 6 | 笠岡市新賀 | 一般飲用 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 1.7 | 0.54 | N.D. | N.D. | | | 検出なし | |
| 7 | 井原市芳井町種 | 一般飲用 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 0.09 | 0.26 | N.D. | N.D. | | | | |
| 8 | 総社市奥坂 | 水道水源 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 0.59 | 0.13 | N.D. | N.D. | | | | |
| 9 | 高梁市中井町津々 | 一般飲用 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 0.06 | N.D. | N.D. | N.D. | | | | |
| 10 | 新見市神郷釜村 | 一般飲用 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 0.47 | N.D. | N.D. | N.D. | | | | |
| 11 | 浅口市金光町占見新田 | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 26 | 0.23 | N.D. | N.D. | | | | |
| 12 | 矢掛町里山田 | 一般飲用 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 0.97 | N.D. | N.D. | N.D. | | | | |
| 13 | 津山市奥津川 | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 1.0 | 0.09 | N.D. | N.D. | | | | |
| 14 | 真庭市藤山富山根 | 一般飲用 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 1.8 | N.D. | N.D. | N.D. | | | | |
| 15 | 真庭市豊栄 | その他 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 0.88 | N.D. | N.D. | N.D. | | | | |
| 16 | 美作市北 | 一般飲用 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 1.0 | 0.09 | N.D. | N.D. | | | | |
| 17 | 久米南町下二ヶ | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 6.3 | 0.11 | N.D. | N.D. | | | 検出なし | |
| 18 | 奈義町豊沢 | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 0.98 | N.D. | N.D. | N.D. | | | | |
| 19 | 鏡野町公保田 | その他 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 0.97 | N.D. | N.D. | N.D. | | | | |
| 20 | 岡山市南区箕島 | 生活用水 | 岡山市 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 6.5 | 0.10 | N.D. | N.D. | | | |
| 21 | 岡山市北区足守 | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 1.9 | 0.35 | 0.04 | N.D. | | | | |
| 22 | 岡山市北区官部 | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 45 | 0.15 | N.D. | N.D. | | | | |
| 23 | 岡山市中区今在家 | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 1.0 | 0.12 | N.D. | N.D. | | | | |
| 24 | 岡山市北区玉柏 | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 8.6 | 0.16 | 0.07 | N.D. | | | | |
| 25 | 岡山市北区平山 | 生活用水 | 〃 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | 1.2 | 0.33 | N.D. | N.D. | | | | |

(注)地下水環境基準を測定項目下欄に示す。N.D.は不検出であることを示す。環境基準を越えている検体値は太字(太枠)で示す。

(7)海水浴場水質調査結果(開設前)

(平成25年度)

| 番号 | 海水浴場名 | 所在地 | 調査機関 | 調査月日 | 水質判定 | 判定項目 | | | | (参考) | 海水浴場開設期間 | (参考) H24年度 水質判定 |
|----|-----------|-----------|------|---------------|--------------|----------------------------|--------|-----------------------------------|------|-------|---------------|-----------------------|
| | | | | | | ふん便性 大腸菌群数 (個/100mL) | 油膜 | 化学的 酸素 要求量 COD (mg/L) | 透明度 | O-157 | | |
| ① | そとわ輪 | 備前市日生町日生 | 備前市 | 5/13. 5/21 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.8 | 1m以上 | 不検出 | 7/3~ 8/31 | 可 (水質B) |
| ② | みやのした宮の下 | 備前市日生町大多府 | 備前市 | 5/13. 5/21 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.8 | 1m以上 | 不検出 | 7/3~ 8/31 | 可 (水質B) |
| ③ | うしんど窓 | 瀬戸内市牛窓町牛窓 | 瀬戸内市 | 5/14. 5/20 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.8 | 1m以上 | 不検出 | 7/10~ 8/18 | 可 (水質B) |
| ④ | にしわ脇 | 瀬戸内市牛窓町鹿忍 | 瀬戸内市 | 5/14. 5/20 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.6 | 1m以上 | 不検出 | 7/10~ 8/18 | 適 (水質AA) |
| ⑤ | ほうでん宝伝 | 岡山市東区宝伝 | 岡山市 | 5/14. 5/20 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.8 | 1m以上 | 不検出 | 7/19~ 8/15 | 可 (水質B) |
| ⑥ | いぬしま島 | 岡山市東区大島 | 岡山市 | 5/14. 5/20 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.9 | 1m以上 | 不検出 | 7/19~ 8/15 | 可 (水質B) |
| ⑦ | しぶかわ川 | 玉野市渋川 | 玉野市 | 5/14. 5/23 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.5 | 1m以上 | 不検出 | 6/30~ 8/25 | 適 (水質AA) |
| ⑧ | むくちじま六口島 | 倉敷市下津井 | 倉敷市 | 5/9. 5/15 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.2 | 1m以上 | 不検出 | 7/10~ 8/31 | 適 (水質AA) |
| ⑨ | おおはま浜 | 倉敷市大島 | 倉敷市 | 5/9. 5/15 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.1 | 1m以上 | 不検出 | - | 適 (水質AA) |
| ⑩ | さしみ東浜 | 倉敷市玉島黒崎 | 倉敷市 | 5/9. 5/15 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.8 | 1m以上 | 不検出 | 7/1~ 8/31 | 可 (水質B) |
| ⑪ | さしみ西浜 | 倉敷市玉島黒崎 | 倉敷市 | 5/9. 5/15 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.6 | 1m以上 | 不検出 | 7/1~ 8/31 | 可 (水質B) |
| ⑫ | しらいしじま白石島 | 笠岡市白石島 | 笠岡市 | 5/17. 5/20 | 適 (水質A) | 36 | 認められない | 1.5 | 1m以上 | 不検出 | 7月上旬~ 8月下旬 | 適 (水質AA) |
| ⑬ | きたぎしま下浦 | 笠岡市北木島 | 笠岡市 | 5/17. 5/20 | 適 (水質A A) | 不検出 | 認められない | 1.5 | 1m以上 | 不検出 | 7月上旬~ 8月下旬 | 適 (水質AA) |

| | | | | | |
|------------------------|---------|----------|-----------|-------|---------|
| 水浴場水質 判定基準 (環境省) | 適(水質AA) | 不検出 | 認められない | 2.0以下 | 1m以上 |
| | 適(水質A) | 100個以下 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 可(水質B) | 400個以下 | 常時は認められない | 5.0以下 | 1m~50cm |
| | 可(水質C) | 1,000個以下 | 同上 | 8.0以下 | 同上 |
| | 不適 | 1,000個超過 | 常時認められる | 8.0超過 | 50cm未満 |

海水浴場位置図



(8)水質汚濁防止法及び瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく特定事業場数

| 区分 | 年度 | H23 | H24 | H25 |
|---------------------------|----|------------------|------------------|------------------|
| 日平均排水量50m ³ 以上 | | 739 (389) | 719 (377) | 691 (365) |
| 日平均排水量50m ³ 未満 | | 4,888 (2,846) | 4,843 (2,841) | 4,620 (2,650) |
| 合 計 | | 5,627 (3,235) | 5,562 (3,218) | 5,311 (3,015) |

(注) ()内は、岡山県所管分で内数

(9)瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく特定施設の許可申請等の件数

| 区分 | 年度 | H23 | H24 | H25 |
|----------|----|-----|-----|-----|
| 法第5条(設置) | | 18 | 21 | 23 |
| 法第8条(変更) | | 20 | 22 | 17 |
| 届 出 | | 26 | 66 | 50 |
| 合 計 | | 64 | 109 | 90 |

(注) H23の事業場数に誤りがあったため修正している。

(10)岡山県環境への負荷の低減に関する条例に基づく特定事業場数

| 区分 | 年度 | H23 | H24 | H25 |
|---------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 規制基準の適用されるもの* | | 30 (7) | 29 (6) | 29 (7) |
| 規制基準の適用されないもの | | 240 (98) | 239 (101) | 241 (104) |
| 合 計 | | 270 (105) | 268 (107) | 270 (111) |

(注) 1 ()内は、岡山県所管分で内数

2 *日最大排水量50m³以上(児島湖流域については日最大排水量20m³以上を含む。)の特定事業場

(11)自然海浜保全地区指定状況

(平成26年3月31日現在)

| 名称 | 所在地 | 利用区分 | 整備事業 | 指定年月日 |
|------------|-----------|-------------|---------------------|--------------------------|
| 西脇自然海浜保全地区 | 瀬戸内市牛窓町鹿忍 | 海水浴・つり | 公衆便所の設置 (昭和58年度) | S57.3.26 |
| 宝伝 | 岡山市東区宝伝 | 〃 | 養浜事業 (昭和57年度) | 〃 |
| 銚島 | 玉野市番田 | 潮干狩り | | 〃 |
| 北木島楠 | 笠岡市北木島町 | 海水浴・キャンプ・つり | 公衆便所の設置 (昭和57年度) | 〃 |
| 北木島西浦 | 〃 | 〃 | | 〃 |
| 沙美東 | 倉敷市玉島黒崎 | 海水浴・つり | | S58.3.22 |
| 前泊海岸 | 瀬戸内市邑久町福谷 | つり・潮干狩り | | 〃 |
| 唐琴の浦 | 倉敷市児島唐琴 | 海水浴・つり | | S59.3.27 H20.4.8 区域変更 |
| 計8地区 | 5市 | — | — | — |

6 騒音・振動・悪臭関係(安全な生活環境の確保)

(1)騒音に係る環境基準

平成10年環境庁告示(平成11年4月から適用)

(平成26年3月31日現在)

| 区 分 | | 類型 AA | 類型 A | 類型 B | 類型 C |
|----------|-----|----------|----------------|----------------|----------|
| 環境基準 | 昼 間 | 50デシベル以下 | 55デシベル以下 | 55デシベル以下 | 60デシベル以下 |
| | 夜 間 | 40デシベル以下 | 45デシベル以下 | 45デシベル以下 | 50デシベル以下 |
| 道路に面する地域 | 区 分 | — | 2車線以上の車線を有する道路 | 2車線以上の車線を有する道路 | 車線を有する道路 |
| | 昼 間 | — | 60デシベル以下 | 65デシベル以下 | 65デシベル以下 |
| | 夜 間 | — | 55デシベル以下 | 60デシベル以下 | 60デシベル以下 |

(注)時間区分：昼間6：00～22：00、夜間22：00～6：00

道路に面する地域において、幹線交通を担う道路に近接する空間については、特例として次表の基準値を適用

| 昼 間 | 夜 間 |
|--|----------|
| 70デシベル以下 | 65デシベル以下 |
| 備考 個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準(昼間は45デシベル以下、夜間は40デシベル以下)によることができる。 | |

(2)騒音に係る環境基準のあてはめ地域(一般地域・道路に面する地域)

(平成26年3月31日現在)

| 市町村名 | | あてはめ地域 | | |
|-------|------------|------------------|-------------------------|-------------|
| 現在 | 合併前 | 類型A | 類型B | 類型C |
| 岡山市 | 岡山市 | 一低、一中高、二中高 | 一住、二住、用途以外 | 近商、商業、準工、工業 |
| | 灘崎町 | | | |
| | 瀬戸町 | 御津町新庄及び御津町矢原の各一部 | | 類型A以外の地域 |
| | 御津町 建部町 | | | |
| 倉敷市 | 倉敷市 | 一低、二低、一中高、二中高 | 一住、二住、用途以外 | 近商、商業、準工、工業 |
| | 船穂町 | | | |
| | 真備町 | | | |
| 津山市 | 津山市 | 一低、二低、一中高、二中高 | 一住、二住 | 近商、商業、準工、工業 |
| 玉野市 | 玉野市 | 一低、一中高、二中高 | 一住、二住、用途以外 | 近商、商業、準工、工業 |
| 笠岡市 | 笠岡市 | 一低、一中高、二中高 | 一住、二住、用途以外 (鳥しょ部を除く) | 近商、商業、準工、工業 |
| 井原市 | 井原市 | 一低、一中高 | 一住、用途以外 | 近商、商業、準工、工業 |
| 総社市 | 総社市 | 一低、一中高、二中高 | 一住、二住、用途以外 | 近商、商業、準工、工業 |
| | 山手村 | | | |
| | 清音村 | | | |
| 高梁市 | 高梁市 | 一低、一中高、二中高 | 一住、二住 | 近商、商業、準工、工業 |
| 新見市 | 新見市 | 一低 | 一住、二住 | 近商、商業、準工、工業 |
| 備前市 | 備前市 | 一低、一中高、二中高 | 一住、二住 | 近商、商業、準工、工業 |
| 赤磐市 | 山陽町 | 一低、一中高 | 一住、二住 | 近商、準工 |
| | 熊山町 | 一低 | 一住 | 近商、準工 |
| 真庭市 | 北房町 | 一低、一中高 | 一住、二住 | 近商、準工、工業 |
| | 勝山町 | | | |
| | 落合町 | | | |
| | 湯原町 | | | |
| | 久世町 | | | |
| | 美甘村 | | | |
| | 川上村 | | | |
| | 八束村 中和村 | | | |
| 美作市 | 美作町 | 一低、一中高 | 一住、二住 | 近商、商業、準工 |
| 浅口市 | 金光町 | 一低、一中高、二中高 | 一住、二住 | 近商、準工 |
| 和気町 | 和気町 | 一低、一中高 | 一住、二住 | 商業、準工 |
| 早島町 | 早島町 | 一低、一中高 | 一住、用途以外 | 近商、準工、工業 |
| 矢掛町 | 矢掛町 | 一中高、二中高 | 一住 | 近商、準工、工業 |
| 勝央町 | 勝央町 | 一低、二中高 | 一住、準住 | 近商、準工 |
| 吉備中央町 | 加茂川町 | 一低、一中高 | 一住、二住 | 商業、準工 |
| | 賀陽町 | | | |

(注) 1 「用途」、「一低」、「二低」、「一中高」、「二中高」、「一住」、「二住」、「準住」、「近商」、「商業」、「準工」及び「工業」とは、それぞれ都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域、第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域をいう。

2 「用途以外」とは、都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域以外の地域をいう。

3 「市町村名」の欄の「合併前」欄は、平成16年10月～平成19年1月に行われた市町村合併以前の市町村名を示す。

4 「御津町新庄及び御津町矢原の各一部」と書かれた地域は、岡山市環境保全課に備えられている別図を示す。

(3)新幹線鉄道騒音に係る環境基準とあてはめ地域

(平成26年3月31日現在)

| 地域の類型 | 基準値 | あてはめ地域 |
|-------|----------|--|
| I | 70デシベル以下 | 地域類型のあてはめをする地域のうち、第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域及び用途地域以外の地域 |
| II | 75デシベル以下 | 地域類型のあてはめをする地域のうち、近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域 |

(注)地域類型のあてはめをする地域は、岡山市、倉敷市等8市町の新幹線鉄道の軌道中心線より左右それぞれ300m(橋りょうに係る部分は400m)以内の地域

(4)航空機騒音に係る環境基準とあてはめ地域

(平成26年3月31日現在)

| 地域の類型 | 基準値(Lden) | 備考 |
|-------|-----------|------------------------------|
| I | 57デシベル以下 | 専ら住居の用に供される地域 |
| II | 62デシベル以下 | I以外の地域であって、通常的生活を保全する必要がある地域 |

(Lden(時間帯補正等価騒音レベル)とは
国際的に採用されている等価騒音レベルを基本とした航空機騒音に係る評価指標で、1機ごとの騒音エネルギーを、聞こえ始めから聞こえ終わりまで測定したもものから算出した値である。)

| 地域の類型 | あてはめ地域 |
|-------|--|
| II | 岡山市のうち空港周辺の一部 おおむね滑走路延長方向に滑走路中心から東へ約4.0km、西へ約3.5km、滑走路中心線から左右それぞれ約400m以内の地域 |

(5)一般地域(道路に面する地域を除く。)の騒音測定結果

(平成25年度)

| 番号 | 測定地点 | 地域 類型 | 用途 地域 | 測定結果(デシベル) | | 適合状況 | |
|----|-------------|----------|----------|------------|----|------|----|
| | | | | 昼間 | 夜間 | 昼間 | 夜間 |
| 1 | 岡山市北区庭瀬 | A | 3 | 52 | 47 | ○ | × |
| 2 | 岡山市東区可知5丁目 | A | 1 | 53 | 44 | ○ | ○ |
| 3 | 岡山市南区箕島 | B | 5 | 55 | 44 | ○ | ○ |
| 4 | 岡山市北区広瀬町 | B | 6 | 50 | 43 | ○ | ○ |
| 5 | 岡山市北区建部町建部上 | C | 12 | 56 | 50 | ○ | ○ |
| 6 | 岡山市中区江並 | C | 11 | 55 | 50 | ○ | ○ |
| 7 | 倉敷市児島小川町 | A | 1 | 50 | 41 | ○ | ○ |
| 8 | 倉敷市玉島1丁目 | C | 8 | 43 | 38 | ○ | ○ |
| 9 | 津山市坂上 | — | 12 | 47 | 45 | — | — |
| 10 | 津山市原 | — | 12 | 44 | 37 | — | — |
| 11 | 津山市一色 | — | 12 | 66 | 56 | — | — |
| 12 | 津山市中北下 | — | 12 | 56 | 58 | — | — |
| 13 | 津山市山北 | A | 4 | 50 | 42 | ○ | ○ |
| 14 | 津山市林田 | A | 1 | 47 | 41 | ○ | ○ |
| 15 | 津山市高野本郷 | — | 12 | 45 | 42 | — | — |
| 16 | 津山市橋本町 | C | 8 | 41 | 38 | ○ | ○ |
| 17 | 津山市平福 | — | 12 | 49 | 43 | — | — |
| 18 | 津山市神戸 | B | 5 | 55 | 46 | ○ | × |
| 19 | 笠岡市富岡 | A | 4 | 44 | 40 | ○ | ○ |
| 20 | 笠岡市今立 | B | 12 | 53 | 43 | ○ | ○ |
| 21 | 笠岡市中央町 | C | 8 | 57 | 45 | ○ | ○ |
| 22 | 笠岡市横島 | B | 5 | 49 | 41 | ○ | ○ |
| 23 | 笠岡市旭が丘 | A | 3 | 46 | 40 | ○ | ○ |
| 24 | 笠岡市六番町 | C | 9 | 52 | 38 | ○ | ○ |
| 25 | 井原市井原町 | B | 5 | 41 | 30 | ○ | ○ |
| 26 | 井原市高屋町 | C | 10 | 45 | 37 | ○ | ○ |
| 27 | 井原市東江原町 | C | 10 | 53 | 47 | ○ | ○ |
| 28 | 井原市芳井町吉井 | C | 12 | 48 | 42 | ○ | ○ |
| 29 | 井原市美星町三山 | B | 12 | 40 | 33 | ○ | ○ |
| 30 | 真庭市中河内 | — | 12 | 58 | 56 | — | — |

(注) 類型：騒音に係る環境基準の類型

用途地域の区分：

1：第一種低層住居専用地域

2：第二種低層住居専用地域

3：第一種中高層住居専用地域

4：第二種中高層住居専用地域

5：第一種住居地域

6：第二種住居地域

7：準住居地域

8：近隣商業地域

9：商業地域

10：準工業地域

11：工業地域

12：用途地域以外の地域

環境基準との比較：適合○ 不適合×

(6)道路に面する地域の騒音測定結果

(平成25年度)

| 番号 | 測定地点 | 対象道路名 | 地域 類型 | 用途 地域 | 車線 数 | 近接 空間 | 測定結果(デシベル) | | 適合状況 | |
|----|----------------|----------------|----------|----------|---------|----------|------------|----|------|----|
| | | | | | | | 昼間 | 夜間 | 昼間 | 夜間 |
| 1 | 岡山市中区沖元 | 国道2号線岡山バイパス | B | 12 | 4 | ○ | 68 | 66 | ○ | ○ |
| 2 | 岡山市北区青江4丁目 | 国道2号線岡山バイパス | C | 10 | 4 | ○ | 70 | 67 | ○ | ○ |
| 3 | 岡山市東区金田 | 国道2号線岡山バイパス | B | 12 | 4 | ○ | 70 | 68 | ○ | ○ |
| 4 | 倉敷市福井 | 一般県道 福田老松線 | B | 6 | 6 | ○ | 71 | 66 | × | × |
| 5 | 倉敷市連島 | 市道 三田五軒屋海岸通4号線 | C | 8 | 6 | ○ | 67 | 61 | ○ | ○ |
| 6 | 倉敷市白楽町 | 市道 駅前古城池霞橋線 | C | 10 | 4 | ○ | 69 | 65 | ○ | ○ |
| 7 | 倉敷市連島中央 | 市道 駅前古城池霞橋線 | C | 8 | 6 | ○ | 66 | 58 | ○ | ○ |
| 8 | 倉敷市玉島 | 市道 堀貫線 | B | 6 | 4 | ○ | 67 | 62 | ○ | ○ |
| 9 | 倉敷市福田町古新田 | 一般県道 福田老松線 | B | 6 | 4 | ○ | 68 | 63 | ○ | ○ |
| 10 | 倉敷市玉島黒崎 | 主要地方道 倉敷長浜笠岡線 | B | 12 | 2 | ○ | 61 | 54 | ○ | ○ |
| 11 | 倉敷市黒石 | 一般県道 藤戸連島線 | B | 12 | 2 | ○ | 70 | 63 | ○ | ○ |
| 12 | 津山市新野東 | 国道53号線 | — | 12 | 2 | ○ | 64 | 59 | ○ | ○ |
| 13 | 津山市新野東 | 県道堀坂勝北線 | — | 12 | 2 | ○ | 55 | 48 | ○ | ○ |
| 14 | 津山市南方中 | 国道181号線 | — | 12 | 2 | ○ | 73 | 67 | × | × |
| 15 | 津山市戸脇 | 県道久米中央線 | — | 12 | 2 | ○ | 66 | 58 | ○ | ○ |
| 16 | 津山市皿 | 国道53号線 | — | 12 | 2 | ○ | 67 | 61 | ○ | ○ |
| 17 | 津山市二宮 | 国道53号線バイパス | C | 10 | 4 | ○ | 55 | 46 | ○ | ○ |
| 18 | 津山市山北 | 県道小原船頭線 | C | 8 | 2 | ○ | 66 | 60 | × | ○ |
| 19 | 津山市志戸部 | 県道大篠津山停留所線 | A | 2 | 2 | ○ | 58 | 49 | ○ | ○ |
| 20 | 津山市高野本郷 | 市道1002号線 | C | 10 | 2 | × | 45 | 42 | ○ | ○ |
| 21 | 津山市西吉田 | 国道179号線 | — | 12 | 2 | ○ | 70 | 64 | ○ | ○ |
| 22 | 玉野市宇野7丁目22-3 | 一般国道30号 | B | 6 | 2 | ○ | 57 | 49 | ○ | ○ |
| 23 | 玉野市和田3丁目27-1 | 一般国道430号 | B | 12 | 2 | ○ | 67 | 58 | ○ | ○ |
| 24 | 玉野市東田井地1397-1 | 倉敷飽浦線 | B | 12 | 2 | ○ | 63 | 55 | ○ | ○ |
| 25 | 笠岡市用之江 | 一般国道2号 | C | 5 | 4 | ○ | 70 | 73 | ○ | ○ |
| 26 | 笠岡市茂平 | 井原福山港線 | B | 3 | 4 | ○ | 69 | 62 | ○ | ○ |
| 27 | 笠岡市笠岡 | 笠岡井原線 | B | 3 | 2 | ○ | 69 | 64 | ○ | ○ |
| 28 | 井原市井原町 | 一般国道486号 | C | 4 | 4 | ○ | 67 | 61 | ○ | ○ |
| 29 | 井原市井原町 | 市道井原駅前通り1号線 | C | 4 | 4 | ○ | 60 | 49 | ○ | ○ |
| 30 | 総社市総社2丁目 | 国道180号 | C | 8 | 2 | ○ | 69 | 66 | ○ | × |
| 31 | 総社市三須 | 国道429号 | B | 5 | 4 | ○ | 69 | 63 | ○ | ○ |
| 32 | 総社市北溝手 | 岡山自動車道 | B | 5 | 4 | ○ | 53 | 45 | ○ | ○ |
| 33 | 高梁市落合町阿部2216-1 | 一般国道313号 | C | 8 | 2 | ○ | 70 | 64 | ○ | ○ |
| 34 | 備前市八木山 | 一般国道2号 | — | 12 | 2 | ○ | 71 | 72 | × | × |
| 35 | 備前市三石 | 岡山赤穂線 | B | 5 | 2 | ○ | 67 | 58 | ○ | ○ |
| 36 | 備前市蕃山 | 八木山日生線 | — | 12 | 2 | ○ | 64 | 59 | ○ | ○ |
| 37 | 備前市友延 | 穂浪吉永停車場線 | B | 5 | 2 | ○ | 64 | 59 | ○ | ○ |
| 38 | 瀬戸内市長船町土師 | 飯井宿線 | B | 12 | 2 | ○ | 66 | 58 | ○ | ○ |
| 39 | 瀬戸内市牛窓町鹿忍 | 岡山牛窓線 | B | 12 | 2 | ○ | 64 | 56 | ○ | ○ |
| 40 | 赤磐市立川 | 山陽自動車道 | — | 7 | 4 | ○ | 57 | 54 | ○ | ○ |
| 41 | 赤磐市福田 | 一般国道374号線 | — | 7 | 2 | ○ | 69 | 63 | ○ | ○ |
| 42 | 赤磐市仁堀中 | 一般国道484号線 | — | 7 | 2 | ○ | 70 | 66 | ○ | × |
| 43 | 赤磐市河本 | 主要地方道岡山吉井線 | — | 7 | 4 | ○ | 65 | 61 | ○ | ○ |
| 44 | 真庭市江川 | 一般国道181号 | C | 4 | 2 | ○ | 59 | 53 | ○ | ○ |
| 45 | 真庭市蒜山 下長田 | 一般国道313号 | B | 7 | 2 | ○ | 70 | 63 | ○ | ○ |
| 46 | 美作市朽木 | 一般国道179号線 | — | 12 | 2 | ○ | 70 | 66 | ○ | × |
| 47 | 美作市古町 | 一般国道373号線 | — | 12 | 2 | ○ | 71 | 68 | × | × |

| 番号 | 測定地点 | 対象道路名 | 地域 類型 | 用途 地域 | 車線 数 | 近接 空間 | 測定結果(デシベル) | | 適合状況 | |
|----|------------|-----------|----------|----------|---------|----------|------------|----|------|----|
| | | | | | | | 昼間 | 夜間 | 昼間 | 夜間 |
| 48 | 美作市福本 | 一般国道374号線 | — | 12 | 2 | ○ | 67 | 62 | ○ | ○ |
| 49 | 美作市下庄町 | 作東大原線 | — | 12 | 2 | ○ | 69 | 59 | ○ | ○ |
| 50 | 美作市豊国原 | 美作奈義線 | — | 12 | 2 | ○ | 69 | 65 | ○ | ○ |
| 51 | 美作市湯郷 | 畑沖勝間田線 | C | 8 | 2 | ○ | 64 | 56 | ○ | ○ |
| 52 | 浅口市鴨方町小坂西 | 山陽自動車道 | C | 12 | 4 | ○ | 50 | 48 | ○ | ○ |
| 53 | 浅口市鴨方町六条院中 | 一般国道2号 | C | 12 | 2 | ○ | 70 | 71 | × | × |
| 54 | 勝田郡勝央町福吉 | 中国自動車道 | — | 12 | 4 | × | 52 | 50 | ○ | ○ |
| 55 | 浅口郡里庄町浜中 | 一般国道2号 | — | 12 | 2 | ○ | 69 | 70 | ○ | × |
| 56 | 久米郡久米南町下弓削 | 一般国道53号 | — | 12 | 2 | ○ | 70 | 68 | ○ | × |
| 57 | 小田郡矢掛町中 | 倉敷羽島線 | — | 12 | 2 | ○ | 65 | 58 | ○ | ○ |
| 58 | 都窪郡早島町早島 | 早島松島線 | A | 3 | 2 | ○ | 68 | 64 | ○ | ○ |

(注) 類型：用途地域の区分：

- | | | |
|----------------|-----------|--------------|
| 1：第一種低層住居専用地域 | 5：第一種住居地域 | 9：商業地域 |
| 2：第二種低層住居専用地域 | 6：第二種住居地域 | 10：準工業地域 |
| 3：第一種中高層住居専用地域 | 7：準住居地域 | 11：工業地域 |
| 4：第二種中高層住居専用地域 | 8：近隣商業地域 | 12：用途地域以外の地域 |

近接空間の区分幹線交通を担う道路に近接する空間に該当 ○ 該当しない ×
幹線交通を担う道路：高速自動車国道、一般国道、県道及び(4車線以上の)市町村道

近接する空間の範囲：2車線以下は15m、3車線超は20m

環境基準との比較：適合 ○ 不適合 ×

(7)平成25年度新幹線鉄道騒音・振動調査結果

| 番号 | 測定場所 | 測定年月日 | 地域の 類型 | 路線 構造 | 防音壁の 種類 | 騒音測定結果 (デシベル) | 振動測定結果 (デシベル) |
|----|-----------|-------------|-----------|----------|------------|------------------|------------------|
| | | | | | | 25m | 25m |
| 1 | 岡山市東区東平島 | 平成25年10月21日 | I | 高架 | 逆L型 | 72 | 61 |
| 2 | 倉敷市上東 | 平成25年10月28日 | I | 高架 | 逆L型 | 74 | 60 |
| 3 | 倉敷市玉島道越 | 平成25年11月12日 | I | 高架 | 直防 | 71 | 55 |
| 4 | 倉敷市船穂町船穂 | 平成25年12月2日 | I | 高架 | 直防 | 77 | 58 |
| 5 | 笠岡市有田 | 平成25年11月25日 | I | 高架 | 逆L型 | 74 | 48 |
| 6 | 備前市伊部 | 平成25年11月20日 | I | 盛土 | 直防 | 74 | 54 |
| 7 | 備前市香登本 | 平成25年11月20日 | II | 高架 | ラムダ | 70 | 57 |
| 8 | 浅口市鴨方町地頭上 | 平成25年11月18日 | I | 高架 | 逆L型 | 76 | 59 |

(8)瀬戸大橋線列車騒音(橋梁部)測定結果(評価値)の推移

| 番号 | 測定年月日 | 評価値(デシベル) | 測定目的 |
|----|---------------|-----------|------------------------------|
| 1 | S 63.4.25~26 | 83~85 | 供用開始直後 |
| 2 | S 63.6.21~22 | 82 | 深夜・早朝4本の列車減速効果の確認 |
| 3 | S 63.7.1~2 | 80~83 | ディーゼル特急4本の車両変更効果の確認 |
| 4 | S 63.10.11~12 | 78~83 | 下面吸音板設置効果の確認 |
| 5 | H 1.7.24~25 | 77~80 | ディーゼル特急32本の減速効果の確認 |
| 6 | H 1.11.29~30 | 76~80 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 7 | H 2.3.13~14 | 78~81 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 8 | H 2.4.23~24 | 77~82 | 車輪削正効果の確認 |
| 9 | H 2.12.17.~18 | 78~80 | 諸対策効果の確認 |
| 10 | H 3.6.20~22 | 76~78 | 試験走行の監視 |
| 11 | H 3.7.24~25 | 75~76 | 諸対策効果の再確認 |
| 12 | H 3.8.26~27 | 75~76 | 速度復元に伴う試験走行の監視 |
| 13 | H 3.12.16~17 | 77~79 | 速度復元後の監視 |
| 14 | H 4.7.22~23 | 75~77 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 15 | H 5.4.22~23 | 77~78 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 16 | H 7.5.15~16 | 76~78 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 17 | H 9.1.21~22 | 75~76 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 18 | H 9.12.4~5 | 75~78 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 19 | H10.11.2~3 | 74~76 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 20 | H11.10.21~22 | 74~75 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 21 | H12.10.27~28 | 75~77 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 22 | H13.11.16~17 | 75~78 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 23 | H14.10.25~26 | 73~75 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 24 | H15.10.17~18 | 73~75 | 努力目標遵守状況の確認 新型マリンライナー導入の影響把握 |
| 25 | H16.11.5~6 | 74~77 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 26 | H17.10.28~29 | 73~75 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 27 | H18.11.17~18 | 74~76 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 28 | H19.10.12~13 | 73~75 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 29 | H20.10.10~11 | 73~75 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 30 | H21.10.16~17 | 74~77 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 31 | H22.10.22~23 | 73~75 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 32 | H23.10.14~15 | 73~75 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 33 | H24.10.19~20 | 73~75 | 努力目標遵守状況の確認 |
| 34 | H25.11.8~9 | 74~77 | 努力目標遵守状況の確認 |

(9)騒音規制法・振動規制法に基づく指定地域と区域区分(自動車騒音に係るものを除く)

(平成26年3月31日現在)

| 市町村名 | | 騒音規制法 | | | | 振動規制法 | |
|------|-------------------|-----------|---|--|--|---|--|
| 現在 | 合併前 | 第1種区域 | 第2種区域 | 第3種区域 | 第4種区域 | 第1種区域 | 第2種区域 |
| 岡山市 | 岡山市 灘崎町 瀬戸町 | 一低 | 一中高, 二中高, 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工 | 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 御津町 | | 御津新庄及び御 津矢原の各一部 | 第2種区域及び第 4種区域以外 | 御津河内, 御津宇 垣, 御津高津, 御 津宇甘, 御津紙 工, 御津伊田及び 御津矢原の各一 部 | 御津新庄及び御 津矢原の各一部 | 第1種区域以外 |
| 倉敷市 | 倉敷市 | 一低, 二低 | 一中高, 二中高, 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工 | 工業 | 一低, 二低, 一中 高, 二中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 船穂町 | | 二中高, 一住, 二 住, 用途以外 | 近商, 準工 | 工業 | 二中高, 一住, 二 住, 用途以外 | 近商, 準工, 工業 |
| | 真備町 | | 一中高, 一住, 用 途以外 | 近商, 準工 | 工業 | 一中高, 一住, 用 途以外 | 近商, 準工, 工業 |
| 津山市 | 津山市 | 一低, 二低 | 一中高, 二中高, 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工 | 工業 | 一低, 二低, 一中 高, 二中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 勝北町 | | 第3種区域以外 | 都市計画区域 | | 第2種区域以外 | 都市計画区域 |
| | 久米町 | | | 第4種区域以外 | くめ | | すべての地域 |
| 玉野市 | 玉野市 | 一低 | 一中高, 二中高, 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工 | 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| 笠岡市 | 笠岡市 | 一低 | 一中高, 二中高, 一住, 二住, 用途 以外(都市計画 区域内に限る) | 近商, 商業, 準工 | 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外(都市 計画区域内に限 る) | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| 井原市 | 井原市 | 一低 | 一中高, 一住, 用 途以外 | 近商, 商業, 準工 | 工業 | 一低, 一中高, 一 住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 芳井町 | | | 芳井町梶江及び 芳井町吉井の各 一部 | | | |
| 総社市 | 総社市 山手村 清音村 | 一低 | 一中高, 二中高, 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工 | 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| 高梁市 | 高梁市 | 一低 | 一中高, 二中高, 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工 | 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| 新見市 | 新見市 | 一低 | 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工 | 工業 | 一低, 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 神郷町 | | 神郷下神代の一 部 | | | 神郷下神代の一 部 | |
| 備前市 | 備前市 | 一低 | 一中高, 二中高, 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工 | 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 日生町 | | 日生町日生, 日生 町寒河, 日生町大 多府及び日生町 寺山の各一部 | 日生町日生及び 日生町寒河の各 一部(別図のと おり) | 日生町日生及び 日生町寒河の各 一部 | 日生町日生, 日生 町寒河, 日生町大 多府及び日生町 寺山の各一部 | 日生町日生及び 日生町寒河の各 一部 |
| | 吉永町 | | | 吉永町金谷, 吉永 町福満, 吉永町南 方, 吉永町吉永 中, 吉永町三股, 吉永町岩崎, 吉永 町今崎, 吉永町神 根本及び吉永町 高田 | | | 吉永町金谷, 吉永 町福満, 吉永町南 方, 吉永町吉永 中, 吉永町三股, 吉永町岩崎, 吉永 町今崎, 吉永町神 根本及び吉永町 高田 |

| 市町村名 | | 騒音規制法 | | | | 振動規制法 | |
|------|---|--------------------------------------|--|--------------------------------------|---------|--|---------------------------|
| 現在 | 合併前 | 第1種区域 | 第2種区域 | 第3種区域 | 第4種区域 | 第1種区域 | 第2種区域 |
| 瀬戸内市 | 邑久町 | 邑久町尾張，邑久町山田庄，邑久町福元，邑久町百田及び邑久町下笠加の各一部 | 第1種区域及び第3種区域以外 | 邑久町豆田，邑久町福元，邑久町福山，邑久町上笠加及び邑久町下笠加の各一部 | | 邑久町尾張，邑久町山田庄，邑久町福元，邑久町百田及び邑久町下笠加の各一部 | 第1種区域以外 |
| | 長船町 | 長船町福岡，長船町服部及び長船町長船の各一部 | 第1種区域以外 | 長船町土師の一部 | | 長船町福岡，長船町服部及び長船町長船の各一部 | 第1種区域以外 |
| | 牛窓町 | 牛窓町長浜の各一部 | 第1種区域以外 | | | 牛窓町長浜の各一部 | 第1種区域以外 |
| 赤磐市 | 山陽町 | 一低 | 一中高，一住，二住，用途以外 | 近商，準工 | | 一低，一中高，一住，二住，用途以外 | 近商，準工 |
| | 赤坂町 | | 第3種区域以外 | 町苅田，西窪田，山口，東軽部，多賀及び坂辺の各一部 | | 第2種区域以外 | 町苅田，西窪田，山口，東軽部，多賀及び坂辺の各一部 |
| | 熊山町 | 一低 | 第1種区域及び第3種区域以外 | 近商，準工，釣井，徳富及び小瀬木の各一部 | | 第2種区域以外 | 近商，準工，釣井，徳富及び小瀬木の各一部 |
| | 吉井町 | | 第3種区域以外 | 周匝，福田，仁堀東及び仁堀中の各一部 | | 第2種区域以外 | 周匝，福田，仁堀東及び仁堀中の各一部 |
| 真庭市 | 北房町 勝山町 落合町 湯原町 久世町 美甘村 川上村 八束村 中和村 | 一低 | 一中高，一住，一住，二住，湯原都市計画区域 | 近商，準工 宮地，山田及び五名 | 工業 | 一低，一中高，一住，二住，湯原都市計画区域 | 近商，準工，工業 |
| 美作市 | 勝田町 | | 第3種区域以外 | 久賀の一部 | | 第2種区域以外 | 久賀の一部 |
| | 美作町 | 一低 | 一中高，一住，二住 | 近商，商業，準工 | | 一低，一中高，一住，二住 | 近商，商業，準工 |
| | 作東町 | | 第3種区域以外 | 宮原，瀬戸，土居，竹田及び上福原の各一部 | | 第2種区域以外 | 宮原，瀬戸，土居，竹田及び上福原の各一部 |
| 浅口市 | 金光町 | 一低 | 一中高，二中高，一住，二住，用途以外 | 近商，準工 | | 一低，一中高，二中高，一住，二住，用途以外 | 近商，準工 |
| | 鴨方町 | | 鴨方町みどりヶ丘の全域 鴨方町鳩ヶ丘，鴨方町鴨方，鴨方町六条院中及び鴨方町六条院東の各一部 | 第2種区域・第4種区域以外 | 六条院西の一部 | 鴨方町みどりヶ丘の全域 鴨方町鳩ヶ丘，鴨方町鴨方，鴨方町六条院中及び鴨方町六条院東の各一部 | 第1種区域以外 |
| | 寄島町 | | | 全域 | | | 全域 |

| 市町村名 | | 騒音規制法 | | | | 振動規制法 | |
|-------|-------------|-------|---|---|-------|---|---|
| 現在 | 合併前 | 第1種区域 | 第2種区域 | 第3種区域 | 第4種区域 | 第1種区域 | 第2種区域 |
| 和気町 | 佐伯町 | | 津瀬, 米沢, 佐伯, 父井原, 矢田部, 宇生, 田賀, 小坂, 加三方, 矢田及び塩田 | | | 津瀬, 米沢, 佐伯, 父井原, 矢田部, 宇生, 田賀, 小坂, 加三方, 矢田及び塩田 | |
| | 和気町 | 一低 | 一中高, 一住, 二住 | 商業, 準工, 用途以外 | | 一低, 一中高, 一住, 二住 | 商業, 準工, 用途以外 |
| 早島町 | 早島町 | 一低 | 一中高, 一住, 用途以外 | 近商, 準工 | 工業 | 一低, 一中高, 一住, 用途以外 | 近商, 準工, 工業 |
| 矢掛町 | 矢掛町 | | 一中高, 二中高, 一住 | 近商, 準工 | 工業 | 一中高, 二中高, 一住 | 近商, 準工, 工業 |
| 勝央町 | 勝央町 | 一低 | 二中高, 一住, 準住 | 近商, 準工 | | 一低, 二中高, 一住, 準住 | 近商, 準工 |
| 久米南町 | 久米南町 | | | 下弓削, 下二ヶ, 上二ヶ, 仏教寺及び上神目の全域別所及び山手の各一部 | | | 下弓削, 下二ヶ, 上二ヶ, 仏教寺及び上神目の全域別所及び山手の各一部 |
| 美咲町 | 柵原町 | | 第3種区域以外 | 百々, 行信, 書副, 周佐, 藤田上, 柵原, 高下, 飯岡, 塚角, 大戸下, 藤原及び吉ヶ原の各一部 | | 第2種区域以外 | 百々, 行信, 書副, 周佐, 藤田上, 柵原, 高下, 飯岡, 塚角, 大戸下, 藤原及び吉ヶ原の各一部 |
| 吉備中央町 | 加茂川町 賀陽町 | 一低 | 一中高, 一住, 二住 | 商業, 準工 | | 一低, 一中高, 一住, 二住 | 商業, 準工 |

- (注) 1 「用途」, 「一低」, 「二低」, 「一中高」, 「二中高」, 「一住」, 「二住」, 「準住」, 「近商」, 「商業」, 「準工」及び「工業」とは、それぞれ都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域、第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域をいう。
- 2 「用途以外」とは、都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域以外の地域をいう。
- 3 関係図面は、岡山県環境文化部環境管理課及び関係市役所又は町役場に備え縦覧に供する。
- 4 「市町村名」欄の「合併前」欄は、平成16年10月～平成19年1月に行われた市町村合併以前の市町村名を示す。

(10)騒音規制法・振動規制法に基づく自動車騒音及び道路交通振動に係る区域区分

(平成26年3月31日現在)

| 市町村名 | | 騒音規制法 | | | 振動規制法 | |
|------|-------------------|---------------------|---|--|---|--|
| 現在 | 合併前 | a 区域 | b 区域 | c 区域 | 第1種区域 | 第2種区域 |
| 岡山市 | 岡山市 灘崎町 瀬戸町 | 一低, 一中高, 二 中高 | 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 御津町 | | 御津新庄及び御津 矢原の各一部 | b 区域以外 | 御津新庄及び御津 矢原の各一部 | 第1種区域以外 |
| 倉敷市 | 倉敷市 | 一低, 二低, 一中高, 二中高 | 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 | 一低, 二低, 一中高, 二中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 船穂町 | 二中高 | 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 準工, 工業 | 二中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 準工, 工業 |
| | 真備町 | 一中高 | 一住, 用途以外 | 近商, 準工, 工業 | 一中高, 一住, 用 途以外 | 近商, 準工, 工業 |
| 津山市 | 津山市 | 一低, 二低, 一中高, 二中高 | 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 | 一低, 二低, 一中高, 二中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 勝北町 | | c 区域以外 | 都市計画区域 | 第2種区域以外 | 都市計画区域 |
| | 久米町 | | | すべての地域 | | すべての地域 |
| 玉野市 | 玉野市 | 一低, 一中高, 二 中高 | 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| 笠岡市 | 笠岡市 | 一低, 一中高, 二 中高 | 一住, 二住, 用途 以外(都市計画区 域内に限る) | 近商, 商業, 準工, 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外(都市計 画区域内に限る) | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| 井原市 | 井原市 | 一低, 一中高 | 一住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 | 一低, 一中高, 一住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 芳井町 | | | 芳井町梶江及び芳 井町吉井の各一部 | | |
| 総社市 | 総社市 山手村 清音村 | 一低, 一中高, 二 中高 | 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| 高梁市 | 高梁市 | 一低, 一中高, 二 中高 | 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工, 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| 新見市 | 新見市 | 一低 | 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工, 工業 | 一低, 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 神郷町 | | 神郷下神代の一部 | | 神郷下神代の一部 | |
| 備前市 | 備前市 | 一低, 一中高, 二 中高 | 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 商業, 準工, 工業 |
| | 日生町 | | 日生町日生, 日生 町寒河, 日生町大 多府及び日生町寺 山の各一部 | 日生町日生及び日 生町寒河の各一部 (別図のとおり) | 日生町日生, 日生 町寒河, 日生町大 多府及び日生町寺 山の各一部 | 日生町日生及び日 生町寒河の各一部 |
| | 吉永町 | | | 吉永町金谷, 吉永 町福満, 吉永町南 方, 吉永町吉永中, 吉永町三股, 吉永 町岩崎, 吉永町今 崎, 吉永町神根本 及び吉永町高田 | | 吉永町金谷, 吉永 町福満, 吉永町南 方, 吉永町吉永中, 吉永町三股, 吉永 町岩崎, 吉永町今 崎, 吉永町神根本 及び吉永町高田 |

| 市町村名 | | 騒音規制法 | | | 振動規制法 | |
|------|---|------------------|--|-------------------------------|--|-------------------------------|
| 現在 | 合併前 | a 区域 | b 区域 | c 区域 | 第1種区域 | 第2種区域 |
| 瀬戸内市 | 邑久町 | | 邑久町尾張, 邑久町山田庄, 邑久町福元, 邑久町百田及び邑久町下笠加の各一部 | b 区域以外 | 邑久町尾張, 邑久町山田庄, 邑久町福元, 邑久町百田及び邑久町下笠加の各一部 | 第1種区域以外 |
| | 長船町 | | 長船町福岡, 長船町服部及び長船町長船の各一部 | b 区域以外 | 長船町福岡, 長船町服部及び長船町長船の各一部 | 第1種区域以外 |
| | 牛窓町 | | 牛窓町長浜の各一部 | b 区域以外 | 牛窓町長浜の各一部 | 第1種区域以外 |
| 赤磐市 | 山陽町 | 一低, 一中高 | 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 準工 | 一低, 一中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 準工 |
| | 赤坂町 | | c 区域以外 | 町苅田, 西窪田, 山口, 東軽部, 多賀及び坂辺の各一部 | 第2種区域以外 | 町苅田, 西窪田, 山口, 東軽部, 多賀及び坂辺の各一部 |
| | 熊山町 | 一低 | a 区域及びc 区域以外 | 近商, 準工, 釣井, 徳富及び小瀬木の各一部 | 第2種区域以外 | 近商, 準工, 釣井, 徳富及び小瀬木の各一部 |
| | 吉井町 | | c 区域以外 | 周匝, 福田, 仁堀東及び仁堀中の各一部 | 第2種区域以外 | 周匝, 福田, 仁堀東及び仁堀中の各一部 |
| 真庭市 | 北房町 勝山町 落合町 湯原町 久世町 美甘村 川上村 八束村 中和村 | 一低, 一中高 | 一住, 二住, 湯原都市計画区域 | 近商, 準工, 工業, 宮地, 山田, 五名 | 一低, 一中高, 一住, 二住, 湯原都市計画区域 | 近商, 準工, 工業 |
| 美作市 | 勝田町 | | c 区域以外 | 久賀の一部 | 第2種区域以外 | 久賀の一部 |
| | 美作町 | 一低, 一中高 | 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工 | 一低, 一中高, 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工 |
| | 作東町 | | c 区域以外 | 宮原, 瀬戸, 土居, 竹田及び上福原の各一部 | 第2種区域以外 | 宮原, 瀬戸, 土居, 竹田及び上福原の各一部 |
| 浅口市 | 金光町 | 一低, 一中高, 二 中高 | 一住, 二住, 用途 以外 | 近商, 準工 | 一低, 一中高, 二 中高, 一住, 二住, 用途以外 | 近商, 準工 |
| | 鴨方町 | | 鴨方町みどりヶ丘 の全域 鴨方町鳩ヶ丘, 鴨 方町鴨方, 鴨方町 六条院中, 鴨方町 六条院東の各一部 | b 区域以外 | 鴨方町みどりヶ丘 の全域 鴨方町鳩ヶ丘, 鴨 方町鴨方, 鴨方町 六条院中, 鴨方町 六条院東の各一部 | 第1種区域以外 |
| | 寄島町 | | | 全域 | | 全域 |
| 和気町 | 佐伯町 | | 津瀬, 米沢, 佐伯, 父井原, 矢田部, 宇生, 田賀, 小坂, 加三方, 矢田及び 塩田 | | 津瀬, 米沢, 佐伯, 父井原, 矢田部, 宇生, 田賀, 小坂, 加三方, 矢田及び 塩田 | |
| | 和気町 | 一低, 一中高 | 一住, 二住, 用途 以外 | 商業, 準工 | 一低, 一中高, 一住, 二住 | 商業, 準工, 用途 以外 |
| 早島町 | 早島町 | 一低, 一中高 | 一住, 用途以外 | 近商, 準工, 工業 | 一低, 一中高, 一住, 用途以外 | 近商, 準工, 工業 |
| 矢掛町 | 矢掛町 | 一中高, 二中高 | 一住 | 近商, 準工, 工業 | 一中高, 二中高, 一住 | 近商, 準工, 工業 |

| 市町村名 | | 騒音規制法 | | | 振動規制法 | |
|-------|-------------|---------|--------|---|-----------------|---|
| 現在 | 合併前 | a 区域 | b 区域 | c 区域 | 第1種区域 | 第2種区域 |
| 勝央町 | 勝央町 | 一低, 二中高 | 一住, 準住 | 近商, 準工 | 一低, 二中高, 一住, 準住 | 近商, 準工 |
| 久米南町 | 久米南町 | | | 下弓削, 下二ヶ, 上二ヶ, 仏教寺, 上神目の全域 別所及び山手の各一部 | | 下弓削, 下二ヶ, 上二ヶ, 仏教寺, 上神目の全域 別所及び山手の各一部 |
| 美咲町 | 柵原町 | | c 区域以外 | 百々, 行信, 書副, 周佐, 藤田上, 柵原, 高下, 飯岡, 塚角, 大戸下, 藤原及び吉ヶ原の各一部 | 第2種区域以外 | 百々, 行信, 書副, 周佐, 藤田上, 柵原, 高下, 飯岡, 塚角, 大戸下, 藤原及び吉ヶ原の各一部 |
| 吉備中央町 | 加茂川町 賀陽町 | 一低, 一中高 | 一住, 二住 | 商業, 準工 | 一低, 一中高, 一住, 二住 | 商業, 準工 |

(注) 1 「用途」、「一低」、「二低」、「一中高」、「二中高」、「一住」、「二住」、「準住」、「近商」、「商業」、「準工」及び「工業」とは、それぞれ都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域、第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域をいう。

2 「用途以外」とは、都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域以外の地域をいう。

3 関係図面は、岡山県環境文化部環境管理課及び関係市役所又は町役場に備え縦覧に供する。

4 「市町村名」欄の「合併前」欄は、平成16年10月～平成19年1月に行われた市町村合併以前の市町村名を示す。

(11)平成25年度騒音規制法施行状況調査(工場・事業場数)

(平成26年3月31日現在)

| | 金属加工機械 | 空気圧縮機等 | 土石用破碎機等 | 織機 | 建設用資材製造機械 | 穀物用製粉機 | 木材加工機械 | 抄紙機 | 印刷機械 | 合成樹脂射出成形機 | 鋳造型機 | 合計 |
|-------|--------|--------|---------|-----|-----------|--------|--------|-----|------|-----------|------|-------|
| 岡山市 | 178 | 616 | 60 | 8 | 26 | 2 | 69 | 4 | 95 | 14 | 10 | 1,082 |
| 倉敷市 | 136 | 300 | 24 | 58 | 20 | 1 | 43 | 0 | 45 | 10 | 8 | 645 |
| 津山市 | 51 | 109 | 12 | 5 | 8 | 0 | 51 | 1 | 39 | 5 | 2 | 283 |
| 玉野市 | 39 | 52 | 3 | 11 | 5 | 2 | 17 | 0 | 9 | 1 | 0 | 139 |
| 笠岡市 | 18 | 40 | 8 | 14 | 3 | 1 | 10 | 0 | 10 | 2 | 1 | 107 |
| 井原市 | 26 | 38 | 2 | 149 | 1 | 0 | 11 | 1 | 2 | 3 | 0 | 233 |
| 総社市 | 50 | 58 | 15 | 12 | 14 | 1 | 12 | 0 | 9 | 4 | 4 | 179 |
| 高梁市 | 1 | 4 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 10 |
| 新見市 | 10 | 9 | 6 | 0 | 2 | 0 | 18 | 0 | 10 | 0 | 0 | 55 |
| 備前市 | 25 | 55 | 52 | 2 | 5 | 0 | 11 | 1 | 5 | 11 | 0 | 167 |
| 瀬戸内市 | 7 | 21 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 41 | 0 | 0 | 72 |
| 赤磐市 | 12 | 17 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 4 | 0 | 38 |
| 真庭市 | 3 | 8 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 17 |
| 美作市 | 6 | 5 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 14 |
| 浅口市 | 4 | 11 | 0 | 0 | 1 | 0 | 5 | 0 | 2 | 3 | 0 | 26 |
| 和気町 | 3 | 6 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 3 | 17 |
| 早島町 | 2 | 12 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17 |
| 里庄町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 矢掛町 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 新庄村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 鏡野町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 勝央町 | 3 | 7 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | 16 |
| 奈義町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 西粟倉村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 久米南町 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 |
| 美咲町 | 2 | 8 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 16 |
| 吉備中央町 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 合計 | 579 | 1,382 | 191 | 262 | 95 | 8 | 256 | 7 | 270 | 64 | 30 | 3,144 |

(12)平成25年度騒音規制法施行状況調査(施設数)

(平成26年3月31日現在)

| | 金属加工機械 | 空気圧縮機等 | 土石用破碎機等 | 織機 | 建設用資材製造機械 | 穀物用製粉機 | 木材加工機械 | 抄紙機 | 印刷機械 | 合成樹脂用射出成形機 | 鋳造型機 | 合計 |
|-------|--------|--------|---------|-------|-----------|--------|--------|-----|-------|------------|------|--------|
| 岡山市 | 915 | 4,631 | 265 | 171 | 32 | 7 | 244 | 10 | 570 | 117 | 34 | 6,996 |
| 倉敷市 | 677 | 2,246 | 108 | 3,617 | 24 | 3 | 125 | 0 | 178 | 84 | 30 | 7,092 |
| 津山市 | 521 | 896 | 31 | 112 | 19 | 0 | 237 | 10 | 122 | 199 | 7 | 2,154 |
| 玉野市 | 137 | 415 | 23 | 241 | 5 | 12 | 74 | 0 | 31 | 8 | 0 | 946 |
| 笠岡市 | 111 | 387 | 47 | 194 | 10 | 5 | 24 | 0 | 49 | 7 | 10 | 844 |
| 井原市 | 446 | 306 | 3 | 2,523 | 1 | 0 | 36 | 2 | 12 | 102 | 0 | 3,431 |
| 総社市 | 378 | 480 | 69 | 298 | 18 | 1 | 29 | 0 | 37 | 28 | 20 | 1,358 |
| 高梁市 | 8 | 42 | 0 | 0 | 3 | 0 | 7 | 0 | 0 | 6 | 0 | 66 |
| 新見市 | 29 | 81 | 104 | 0 | 3 | 0 | 39 | 0 | 28 | 0 | 0 | 284 |
| 備前市 | 132 | 1,457 | 627 | 34 | 7 | 0 | 89 | 2 | 9 | 21 | 0 | 2,378 |
| 瀬戸内市 | 49 | 503 | 4 | 4 | 2 | 0 | 8 | 0 | 54 | 0 | 0 | 624 |
| 赤磐市 | 156 | 193 | 2 | 0 | 0 | 0 | 12 | 0 | 30 | 89 | 0 | 482 |
| 真庭市 | 9 | 84 | 0 | 0 | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 32 | 12 | 142 |
| 美作市 | 48 | 25 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 76 |
| 浅口市 | 30 | 69 | 0 | 0 | 2 | 0 | 21 | 0 | 9 | 45 | 0 | 176 |
| 和気町 | 10 | 50 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 9 | 42 | 115 |
| 早島町 | 3 | 30 | 0 | 7 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 42 |
| 里庄町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 矢掛町 | 17 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 23 |
| 新庄村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 鏡野町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 勝央町 | 17 | 80 | 5 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 5 | 0 | 6 | 117 |
| 奈義町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 西粟倉村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 久米南町 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 |
| 美咲町 | 7 | 71 | 22 | 0 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 29 | 0 | 135 |
| 吉備中央町 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 合計 | 3,702 | 12,056 | 1,313 | 7,201 | 138 | 29 | 953 | 24 | 1,134 | 778 | 161 | 27,489 |

(13)平成25年度振動規制法施行状況調査(工場・事業場数)

(平成26年3月31日現在)

| | 金属加工機械 | 圧縮機 | 土石用 破碎機 等 | 織機 | コンクリート ブロック等 | 木材加工 機械 | 印刷機械 | ロール機 | 合成樹脂 射出成形機 | 鋳造型機 | 合計 |
|-------|--------|-----|-----------------|-----|-----------------|------------|------|------|---------------|------|-------|
| 岡山市 | 174 | 279 | 64 | 7 | 9 | 3 | 78 | 7 | 14 | 9 | 644 |
| 倉敷市 | 131 | 206 | 26 | 48 | 8 | 7 | 18 | 5 | 7 | 7 | 463 |
| 津山市 | 40 | 70 | 10 | 6 | 6 | 9 | 14 | 0 | 2 | 1 | 158 |
| 玉野市 | 38 | 32 | 3 | 11 | 5 | 5 | 1 | 0 | 2 | 0 | 97 |
| 笠岡市 | 12 | 23 | 10 | 19 | 1 | 2 | 8 | 0 | 2 | 1 | 78 |
| 井原市 | 26 | 38 | 1 | 177 | 0 | 4 | 1 | 0 | 3 | 0 | 250 |
| 総社市 | 42 | 24 | 13 | 5 | 4 | 0 | 4 | 0 | 4 | 3 | 99 |
| 高梁市 | 3 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 新見市 | 10 | 7 | 6 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 29 |
| 備前市 | 25 | 32 | 60 | 1 | 2 | 2 | 2 | 3 | 11 | 0 | 138 |
| 瀬戸内市 | 5 | 16 | 1 | 1 | 1 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 29 |
| 赤磐市 | 3 | 13 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 21 |
| 真庭市 | 2 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 8 |
| 美作市 | 6 | 5 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 14 |
| 浅口市 | 2 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 10 |
| 和气町 | 3 | 5 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 3 | 15 |
| 早島町 | 1 | 8 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| 里庄町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 矢掛町 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 新庄村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 鏡野町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 勝央町 | 2 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 9 |
| 奈義町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 西粟倉村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 久米南町 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| 美咲町 | 3 | 6 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 14 |
| 吉備中央町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 530 | 781 | 201 | 276 | 42 | 35 | 136 | 16 | 57 | 25 | 2,099 |

(14)平成25年度振動規制法施行状況調査(施設数)

(平成26年3月31日現在)

| | 金属加工機械 | 圧縮機 | 土石用 破碎機 等 | 織機 | コンクリートブ ロックマシン等 | 木材加 工機械 | 印刷機械 | ロール機 | 合成樹脂 用射出成 形機 | 鋳型造 型機 | 合計 |
|-------|--------|-------|-----------------|-------|--------------------|------------|------|------|--------------------|-----------|--------|
| 岡山市 | 1,028 | 1,089 | 277 | 172 | 11 | 6 | 319 | 31 | 121 | 29 | 3,083 |
| 倉敷市 | 614 | 765 | 106 | 3,145 | 14 | 9 | 96 | 27 | 84 | 18 | 4,878 |
| 津山市 | 427 | 160 | 22 | 109 | 11 | 13 | 60 | 0 | 101 | 3 | 906 |
| 玉野市 | 139 | 148 | 23 | 226 | 5 | 8 | 7 | 0 | 10 | 0 | 566 |
| 笠岡市 | 104 | 316 | 60 | 224 | 5 | 2 | 24 | 1 | 43 | 9 | 788 |
| 井原市 | 462 | 219 | 2 | 2,785 | 0 | 5 | 12 | 0 | 110 | 0 | 3,595 |
| 総社市 | 361 | 164 | 72 | 221 | 10 | 0 | 11 | 0 | 28 | 15 | 882 |
| 高梁市 | 35 | 22 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 66 |
| 新見市 | 27 | 14 | 175 | 0 | 5 | 2 | 9 | 0 | 0 | 0 | 232 |
| 備前市 | 103 | 334 | 601 | 17 | 2 | 4 | 2 | 28 | 21 | 0 | 1,112 |
| 瀬戸内市 | 44 | 369 | 2 | 4 | 22 | 0 | 38 | 0 | 0 | 0 | 479 |
| 赤磐市 | 52 | 100 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 | 0 | 234 |
| 真庭市 | 7 | 144 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 29 | 0 | 182 |
| 美作市 | 48 | 25 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 76 |
| 浅口市 | 6 | 30 | 0 | 0 | 2 | 0 | 5 | 0 | 37 | 0 | 80 |
| 和気町 | 9 | 49 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 9 | 42 | 112 |
| 早島町 | 4 | 13 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| 里庄町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 矢掛町 | 15 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 22 |
| 新庄村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 鏡野町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 勝央町 | 13 | 28 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 16 | 62 |
| 奈義町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 西粟倉村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 久米南町 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 |
| 美咲町 | 8 | 54 | 26 | 0 | 13 | 0 | 0 | 0 | 29 | 0 | 130 |
| 吉備中央町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 3,508 | 4,046 | 1,375 | 6,904 | 106 | 50 | 583 | 91 | 711 | 132 | 17,506 |

(15)工場・事業場に係る騒音・振動の規制基準

(平成26年3月31日現在)

| 騒音 | 区分 | | 第1種区域 | 第2種区域 | 第3種区域 | 第4種区域 |
|-----|-----------|-------------|--------|--------|--------|--------|
| | 昼間 | 7:00~20:00 | 50デシベル | 60デシベル | 65デシベル | 70デシベル |
| 朝・夕 | 5:00~7:00 | 20:00~22:00 | 45デシベル | 50デシベル | 60デシベル | 65デシベル |
| | 夜間 | | | | | |
| 振動 | 区分 | | 第1種区域 | | 第2種区域 | |
| | 昼間 | 7:00~20:00 | 60デシベル | | 65デシベル | |
| | 夜間 | 20:00~7:00 | 55デシベル | | 60デシベル | |

(注) 学校、保育所、病院、診療所、図書館、特別養護老人ホームの敷地の周囲50mの区域内の基準は、5デシベルを減じた値とする。ただし、騒音の第1種区域は除く。

(16)特定建設作業に係る騒音・振動の規制基準

(平成26年3月31日現在)

| 規制種別 | 区域の区分 | 騒音 | 振動 |
|------------|--------|----------------------|--------|
| 基準値 | 1号及び2号 | 85デシベル | 75デシベル |
| 作業時刻 | 1号 | 午後7時~午前7時の時間内でないこと。 | |
| | 2号 | 午後10時~午前6時の時間内でないこと。 | |
| ※1日当りの作業時間 | 1号 | 1日10時間を超えないこと。 | |
| | 2号 | 1日14時間を超えないこと。 | |
| 作業期間 | 1号及び2号 | 連続して6日を超えないこと。 | |
| 作業日 | 1号及び2号 | 日曜日その他の休日ではないこと。 | |

(注) 1 基準値を超えている場合、騒音、振動の防止の方法、1日の作業時間を※欄に定める時間未満4時間以上の間において短縮させることを勧告または命令できる。
 2 災害その他非常の事態の発生により特定建設作業を緊急に行う必要がある場合などに適用除外の規定が設けられている。
 3 2号区域とは、指定地域であって騒音の規制基準の区域の区分の第4種区域のうち学校、保育所、病院、診療所、図書館、特別養護老人ホームの敷地の周囲80mの区域以外の区域をいい、1号区域とは、指定地域のうち2号区域以外をいう。

(17)要請限度(自動車騒音・道路交通振動の規制)

(平成26年3月31日現在)

| 騒音 | 区分 | | a地域 | | b地域 | | c地域 |
|---|----|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | 1車線 | 2車線以上 | 1車線 | 2車線以上 | 1車線以上 |
| 騒音 | 昼間 | 6:00~22:00 | 65デシベル | 70デシベル | 65デシベル | 75デシベル | 75デシベル |
| | 夜間 | 22:00~6:00 | 55デシベル | 65デシベル | 55デシベル | 70デシベル | 70デシベル |
| また、上記の区域のうち、幹線交通を担う道路に近接する区域については、次の要請限度値を用います。 昼間：75デシベル 夜間：70デシベル | | | | | | | |

(注) 1 騒音の評価手法は、等価騒音レベル(L_{Aeq})によるものとする。
 2 幹線交通を担う道路とは、高速自動車国道、一般国道、県道、4車線以上の市町村道とする。
 2車線以下の車線を有する道路の場合：道路の敷地境界から 15m
 3車線以上の車線を有する道路の場合： " 20m

| 振動 | 区分 | | 第1種区域 | 第2種区域 |
|----|------------|------------|--------|--------|
| | 昼間 | 7:00~20:00 | 65デシベル | 70デシベル |
| 夜間 | 20:00~7:00 | 60デシベル | 65デシベル | |

(18)悪臭防止法に基づく規制地域と区域の区分

ア 特定悪臭物質濃度規制に係る規制地域

(平成26年3月31日現在)

| 現 在 | 合 併 前 | 規 制 地 域 | |
|---------|---------|-----------------|---------------------|
| | | 第 1 種 区 域 | 第 2 種 区 域 |
| 岡 山 市 | 瀬 戸 町 | 用途地域 | 第1種区域以外の地域 |
| 倉 敷 市 | 倉 敷 市 | 用途地域 | |
| | 船 穂 町 | 用途地域 | |
| | 真 備 町 | 用途地域 | |
| 津 山 市 | 津 山 市 | 用途地域 | |
| | 勝 北 町 | | すべての地域 |
| | 久 米 町 | | すべての地域 |
| 玉 野 市 | 玉 野 市 | 用途地域 | |
| 笠 岡 市 | 笠 岡 市 | 用途地域 | |
| 井 原 市 | 井 原 市 | 用途地域 | |
| 総 社 市 | 総 社 市 | 用途地域 | |
| | 山 手 村 | 用途地域 | |
| | 清 音 村 | 用途地域 | |
| 新 見 市 | 新 見 市 | 用途地域 | |
| | 大 佐 町 | | すべての地域 |
| | 哲 西 町 | | すべての地域 |
| 備 前 市 | 備 前 市 | 用途地域、久々井、鶴海の各一部 | |
| | 日 生 町 | | すべての地域 |
| | 吉 永 町 | | すべての地域 |
| 瀬 戸 内 市 | 牛 窓 町 | | すべての地域 |
| | 邑 久 町 | | すべての地域 |
| | 長 船 町 | | すべての地域 |
| 赤 磐 市 | 山 陽 町 | 用途地域 | 第1種区域以外の地域 |
| | 赤 坂 町 | | 臭気指数規制地域以外の地域 |
| | 熊 山 町 | 用途地域 | 都市計画区域のうち第1種区域以外の地域 |
| | 吉 井 町 | | すべての地域 |
| 真 庭 市 | 勝 山 町 | 用途地域 | 第1種区域以外の地域 |
| | 久 世 町 | 用途地域 | |
| 美 作 市 | 勝 田 町 | | すべての地域 |
| | 美 作 町 | 用途地域 | 第1種区域以外の地域 |
| | 作 東 町 | | すべての地域 |
| 浅 口 市 | 金 光 町 | 用途地域 | 第1種区域以外の地域 |
| | 鴨 方 町 | | すべての地域 |
| | 寄 島 町 | | すべての地域 |
| 和 気 町 | 佐 伯 町 | | すべての地域 |
| 早 島 町 | 早 島 町 | 用途地域 | 第1種区域以外の地域 |
| 里 庄 町 | 里 庄 町 | | すべての地域 |
| 矢 掛 町 | 矢 掛 町 | 用途地域 | |
| 勝 央 町 | 勝 央 町 | 用途地域 | |
| 美 咲 町 | 中 央 町 | | すべての地域 |
| 吉備中央町 | 加 茂 川 町 | 用途地域 | |
| | 賀 陽 町 | 用途地域 | |

(注) 1 「市町村名」欄の「合併前」欄は、平成16年10月～平成19年1月に行われた市町村合併以前の市町村名を示す。
 2 関係図面は、岡山県環境文化部環境管理課及び関係市役所又は町役場に備え縦覧に供する。

イ 臭気指数規制に係る規制地域

(平成26年3月31日現在)

| 市 町 村 名 | | 規 制 地 域 | | |
|---------|-------|----------------------|----------------|-------------------|
| 現 在 | 合 併 前 | 第 1 種 区 域 | 第 2 種 区 域 | 第 3 種 区 域 |
| 岡山市 | 岡山市 | 一低, 一中高, 二中高, 一住, 二住 | 近商, 商業, 準工 | 第1種区域, 第2種区域以外の地域 |
| | 御津町 | | | |
| | 灘崎町 | | | |
| 赤磐市 | 赤坂町 | | 坂辺, 惣分, 小原の各一部 | |
| 和気町 | 和気町 | 用途地域(準工業地域を除く) | 第1種区域以外の地域 | |
| 美咲町 | 柵原町 | | すべての地域 | |

- (注) 1 「用途」, 「一低」, 「一中高」, 「二中高」, 「一住」, 「二住」, 「近商」, 「商業」及び「準工」とは、それぞれ都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域、第1種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、近隣商業地域、商業地域及び準工業地域をいう。
- 2 関係図面は、岡山県環境文化部環境管理課及び関係市役所又は町役場に備え縦覧に供する。
- 3 「市町村名」欄の「合併前」欄は、平成16年10月～平成19年1月に行われた市町村合併以前の市町村名を示す。

(19)悪臭の規制基準

ア 特定悪臭物質

(ア)敷地境界における規制基準

(平成26年3月31日現在)

| 物 質 名 | ①敷地境界の基準〔単位ppm〕 | | ②気体排出口の規制 | ③排出水中の規制 |
|---------------|-----------------|-------|-----------|----------|
| | 第1種区域 | 第2種区域 | | |
| ア ン モ ニ ア | 1 | 2 | ○ | |
| メチルメルカプタン | 0.002 | 0.004 | | ○ |
| 硫 化 水 素 | 0.02 | 0.06 | ○ | ○ |
| 硫 化 メ チ ル | 0.01 | 0.05 | | ○ |
| 二 硫 化 メ チ ル | 0.009 | 0.03 | | ○ |
| トリメチルアミン | 0.005 | 0.02 | ○ | |
| アセトアルデヒド | 0.05 | 0.1 | | |
| プロピオンアルデヒド | 0.05 | 0.1 | ○ | |
| ノルマルブチルアルデヒド | 0.009 | 0.03 | ○ | |
| イソブチルアルデヒド | 0.02 | 0.07 | ○ | |
| ノルマルバレルアルデヒド | 0.009 | 0.02 | ○ | |
| イソバレルアルデヒド | 0.003 | 0.006 | ○ | |
| イ ソ ブ タ ノ ール | 0.9 | 4 | ○ | |
| 酢 酸 エ チ ル | 3 | 7 | ○ | |
| メチルイソブチルケトン | 1 | 3 | ○ | |
| ト ル エ ン | 10 | 30 | ○ | |
| ス チ レ ン | 0.4 | 0.8 | | |
| キ シ レ ン | 1 | 2 | ○ | |
| プ ロ ピ オ ン 酸 | 0.03 | 0.07 | | |
| ノ ル マ ル 酪 酸 | 0.001 | 0.002 | | |
| ノ ル マ ル 吉 草 酸 | 0.0009 | 0.002 | | |
| イ ソ 吉 草 酸 | 0.001 | 0.004 | | |

(イ)気体排出口における規制基準

特定悪臭物質の種類ごとに次の式により流量を算出したものとする。

$$q = 0.108 \times He^2 \cdot Cm \left[\begin{array}{l} q \text{ 流量(単位 温度零度、圧力1気圧の状態に換算した立方メートル毎時)} \\ He \text{ 補正された排出口の高さ(単位 メートル)} \\ Cm \text{ 法第4条第1項第1号の規制基準値としてさだめられた値(単位 百分万率)} \end{array} \right]$$

なお、補正された排出口の高さが5メートル未満となる場合については、この式は適用しないものとする。

(ウ)排出水中における規制基準

特定悪臭物質の種類ごとに次の式により、排出水中の濃度を算出したものとする。

$$CL_m = k \times C_m$$

- CL_m 排出水中の濃度(単位 1リットルにつきミリグラム)
- k 下表に掲げる特定悪臭物質及び当該事業場から敷地外へ排出される排出水の量ごとに定められた値(単位 1リットルにつきミリグラム)
- C_m 法第4条第1項第1号の規制基準として定められた値(単位 百万分率)

| 排出水量(m ³ /s) | メチルメルカプタン | 硫化水素 | 硫化メチル | 二硫化メチル |
|-------------------------|-----------|------|-------|--------|
| Q ≤ 0.001 | 16 | 5.6 | 32 | 63 |
| 0.001 < Q ≤ 0.1 | 3.4 | 1.2 | 6.9 | 14 |
| 0.1 < Q | 0.71 | 0.26 | 1.4 | 2.9 |

メチルメルカプタンについては、上式により算出した排出水中の濃度の値が1リットルにつき0.002ミリグラム未満の場合に係る排出水中の濃度の許容限度は、当分の間、1リットルにつき0.002ミリグラムとする。

イ 臭気指数

(ア)敷地境界における規制基準

(平成26年3月31日現在)

| 市町村名 | | ①敷地境界における規制基準(臭気指数) | | |
|------|-----|---------------------|-------|-------|
| 現在 | 合併前 | 第1種区域 | 第2種区域 | 第3種区域 |
| 岡山市 | 岡山市 | 12 | 15 | 18 |
| | 御津町 | | | |
| | 灘崎町 | | | |
| 赤磐市 | 赤坂町 | | 13 | |
| 和気町 | 和気町 | 12 | 14 | |
| 美咲町 | 柵原町 | | 14 | |

(イ)気体排出口における規制基準

次の式により臭気排出強度または臭気指数を算出したものとする。

a排出口の実高さが15メートル以上の施設

$$q_t = \frac{60 \times 10^A}{F_{max}}$$

$$A = \frac{L}{10} - 0.2255$$

- q_t 排出ガスの臭気排出強度(単位 温度零度、圧力1気圧の状態に換算した立方メートル毎分)
- F_{max} 排出口からの風下における地上での臭気強度の最大値(単位 温度零度、圧力1気圧の状態に換算した秒毎立方メートル)
- L 法第4条第2項第1号の規制基準として定められた値

b排出の実高さが15メートル未満の施設

$$I = 10 \times \log C$$

$$C = K \times H_b^2 \times 10^B$$

$$B = \frac{L}{10}$$

- I 排出ガスの臭気指数
- K 次表に掲げる排出口の口径の区分ごとに定められた値
- H_b 周辺最大建物の高さ(単位 メートル)
- L 法第4条第2項第1号の規制基準として定められた値

なお、周辺最大建物の高さは、6.7メートル未満の場合は排出口の実高さ(単位メートル)の値の1.5倍、6.7メートル以上10メートル未満の場合は10メートル及び10メートル以上であって排出口の実高さの値の1.5倍以上の場合は排出口の実高さの1.5倍とする。

| 排出口の口径(m) | $D < 0.6$ | $0.6 \leq D < 0.9$ | $0.9 \leq D$ |
|------------|-----------|--------------------|--------------|
| $K(1/m^2)$ | 0.69 | 0.20 | 0.10 |

(ウ)排出水中における規制基準

次の式により、臭気指数を算出したものとする。

$$\left[\begin{array}{l} I_w = L + 16 \\ I_w \text{ 排出水の臭気指数} \\ L \text{ 法第4条第2項第1号の規制基準として定められた値} \end{array} \right]$$

7 有害化学物質関係(安全な生活環境の確保)

(1)平成25年度ダイオキシン類環境調査結果

ア 大気

(単位: pg-TEQ/m³)

| No. | 調査地点 | | 春季 | 夏季 | 秋季 | 冬季 | 平均値 | 調査主体 |
|-----|-------------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| | 名称 | 所在地 | | | | | | |
| 1 | 宇野港管理事務所 | 玉野市宇野 | 0.011 | 0.021 | 0.015 | 0.022 | 0.017 | 岡山県 |
| 2 | 総社測定局 | 総社市中央 | 0.010 | 0.010 | 0.014 | 0.0083 | 0.011 | |
| 3 | 茂平測定局 | 笠岡市茂平 | 0.022 | 0.021 | 0.015 | 0.037 | 0.024 | |
| 4 | 高梁地域事務所 | 高梁市落合町 | 0.0084 | 0.010 | 0.0092 | 0.0051 | 0.0082 | |
| 5 | 新見測定局 | 新見市金谷 | 0.0086 | 0.0066 | 0.013 | 0.0056 | 0.0085 | |
| 6 | 美作県民局 | 津山市山下 | 0.011 | 0.0098 | 0.020 | 0.0063 | 0.012 | |
| 7 | 真庭市役所 | 真庭市久世 | 0.0060 | 0.0073 | 0.0066 | 0.0050 | 0.0062 | |
| 8 | 勝英地域事務所 | 美作市入田 | 0.010 | 0.0074 | 0.011 | 0.0062 | 0.0087 | |
| 9 | 南輝小学校 | 岡山市南区南輝 | 0.019 | 0.082 | 0.060 | 0.018 | 0.045 | 岡山市 |
| 10 | 陵南小学校 | 岡山市北区東花尻 | 0.015 | 0.016 | 0.011 | 0.0079 | 0.012 | |
| 11 | 岡山市東区役所瀬戸支所 | 岡山市東区瀬戸町 | 0.0085 | 0.012 | 0.041 | 0.0089 | 0.018 | |
| 12 | 松江測定局 | 倉敷市松江 | 0.022 | 0.024 | 0.033 | 0.042 | 0.030 | 倉敷市 |
| 13 | 豊洲測定局 | 倉敷市西田 | 0.013 | 0.013 | 0.031 | 0.043 | 0.025 | |
| 14 | 倉敷美和測定局 | 倉敷市美和 | - | 0.026 | - | 0.063 | 0.045 | 環境省 |

- (備考) 1 環境基準は、0.6 pg-TEQ/m³以下(年間平均値)である。
 2 試料はいずれも1週間連続採取によるもので、調査時期は次表のとおりである。
 3 倉敷美和大気測定局については、平成24年度の調査結果である。

| No. | 調査地点 | 春期 | 夏期 | 秋期 | 冬期 |
|-----|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 1 | 宇野港管理事務所 | H25.5.20~27 | H25.8.2~9 | H25.11.12~19 | H26.2.13~20 |
| 2 | 総社測定局 | H25.5.20~27 | H25.8.2~9 | H25.11.12~19 | H26.2.13~20 |
| 3 | 茂平測定局 | H25.5.21~28 | H25.8.2~9 | H25.11.12~19 | H26.2.13~20 |
| 4 | 高梁地域事務所 | H25.5.20~27 | H25.8.1~8 | H25.11.11~18 | H26.2.12~19 |
| 5 | 新見測定局 | H25.5.20~27 | H25.8.1~8 | H25.11.11~18 | H26.2.12~19 |
| 6 | 美作県民局 | H25.5.21~28 | H25.8.1~8 | H25.11.11~18 | H26.2.12~19 |
| 7 | 真庭市役所 | H25.5.21~28 | H25.8.1~8 | H25.11.11~18 | H26.2.12~19 |
| 8 | 勝英地域事務所 | H25.5.21~28 | H25.8.1~8 | H25.11.11~18 | H26.2.12~19 |
| 9 | 南輝小学校 | H25.5.23~30 | H25.8.1~8 | H25.11.7~14 | H26.2.6~13 |
| 10 | 陵南小学校 | H25.5.23~30 | H25.8.1~8 | H25.11.7~14 | H26.2.6~13 |
| 11 | 岡山市東区役所瀬戸支所 | H25.5.23~30 | H25.8.1~8 | H25.11.7~14 | H26.2.6~13 |
| 12 | 松江測定局 | H25.5.22~29 | H25.8.21~28 | H25.11.13~20 | H26.2.19~26 |
| 13 | 豊洲測定局 | H25.5.22~29 | H25.8.21~28 | H25.11.13~20 | H26.2.19~26 |
| 14 | 倉敷美和測定局 | - | H24.7.31~8.7 | - | H25.1.29~2.5 |

イ 公共用水域

単位(水質:pg-TEQ/L 底質:pg-TEQ/g)

| No. | 調査地点 | | 水 質 | | 底 質 | | 調査主体 | |
|-----|-----------|------------|-------------|-----------|-----------|-----------|----------|------|
| | 水域名 | 地点名 | 試料採取日 | 結果 | 試料採取日 | 結果 | | |
| 1 | 高梁川 水域 | 高梁川上流 | 一中橋 | H25.11.6 | 0.027 | - | 岡山県 | |
| 2 | | 高梁川中流 | 中井橋 | H25.11.8 | 0.020 | H25.11.8 | 0.29 | 岡山県 |
| 3 | | 高梁川下流 | 霞橋 | H25.10.11 | 0.077 | H25.10.11 | 3.8 | 国交省 |
| 4 | | 西川 | 布原橋 | H25.11.6 | 0.021 | - | 岡山県 | |
| 5 | | 小坂部川 | 巖橋 | H25.11.6 | 0.024 | - | 岡山県 | |
| 6 | | 有漢川 | 幡見橋 | H25.11.8 | 0.049 | - | 岡山県 | |
| 7 | | 成羽川 | 神崎橋 | H25.11.8 | 0.030 | H25.11.8 | 0.075 | 岡山県 |
| 8 | | 小田川上流 | 猪原橋 | H25.11.8 | 0.021 | - | 岡山県 | |
| 9 | | 美山川 | 栄橋 | H25.11.8 | 0.11 | - | 岡山県 | |
| 10 | | 里見川 | 鴨方川合流点 | H25.11.8 | 0.10 | H25.11.8 | 0.077 | 岡山県 |
| 11 | 旭川 水域 | 旭川上流 | 湯原ダム | H25.11.12 | 0.019 | H25.11.12 | 3.6 | 岡山県 |
| 12 | | 旭川中流 | 落合橋 | H25.11.12 | 0.019 | H25.11.12 | 0.11 | 岡山県 |
| 13 | | | 乙井手堰 | H25.10.11 | 0.073 | H25.10.11 | 0.22 | 国交省 |
| 14 | | 新庄川 | 大久奈橋 | H25.11.12 | 0.020 | - | 岡山県 | |
| 15 | | 百間川 | 清内橋 | H25.10.11 | 0.31 | H25.10.11 | 14 | 国交省 |
| 16 | | 砂川 | 新橋 | H25.11.6 | 0.17 | H25.11.6 | 0.18 | 岡山市 |
| 17 | 吉井川 水域 | 吉井川上流 | 苦田ダム | H25.10.10 | 0.068 | H25.10.10 | 6.0 | 国交省 |
| 18 | | | 嵯峨堰 | H25.11.20 | 0.021 | - | 岡山県 | |
| 19 | | 吉井川中・下流 | 周匝大橋 | H25.11.20 | 0.061 | H25.11.20 | 0.096 | 岡山県 |
| 20 | | | 熊山橋 | H25.10.10 | 0.075 | H25.10.10 | 0.27 | 国交省 |
| 21 | | | 坂根堰 | H25.10.10 | 0.077 | H25.10.10 | 0.21 | 国交省 |
| 22 | | 加茂川 | 加茂川橋 | H25.11.20 | 0.028 | - | 岡山県 | |
| 23 | | 梶並川 | 滝村堰 | H25.11.20 | 0.031 | - | 岡山県 | |
| 24 | | 滝川 | 三星橋 | H25.11.20 | 0.040 | H25.11.20 | 0.41 | 岡山県 |
| 25 | | 吉野川 | 鷺湯橋 | H25.11.20 | 0.025 | - | 岡山県 | |
| 26 | | 笹ヶ瀬川 水域 | 笹ヶ瀬川 | 笹ヶ瀬橋 | H25.11.7 | 0.20 | H25.11.7 | 0.66 |
| 27 | 足守川上流 | | 高塚橋 | H25.11.6 | 0.12 | H25.11.6 | 0.11 | 岡山市 |
| 28 | 足守川下流 | | 入江橋 | H25.11.6 | 0.093 | H25.11.6 | 0.11 | 岡山市 |
| 29 | 倉敷川 水域 | 倉敷川 | 下灘橋 | H25.11.28 | 0.26 | H25.11.28 | 29 | 倉敷市 |
| 30 | | | 盛綱橋 | H25.11.28 | 0.27 | H25.11.28 | 2.2 | 倉敷市 |
| 31 | | | 稔橋 | H25.11.7 | 0.61 | H25.11.7 | 4.4 | 岡山市 |
| 32 | | | 倉敷川橋 | H25.11.7 | 0.27 | H25.11.7 | 13 | 岡山市 |
| 33 | | | 倉敷川及び妹尾川合流点 | H25.11.7 | 0.82 | H25.11.7 | 13 | 岡山市 |
| 34 | | | 妹尾川国道30号線下 | H25.11.6 | 0.58 | H25.11.6 | 11 | 岡山市 |
| 35 | | | 桜橋 | H25.11.28 | 0.29 | H25.11.28 | 12 | 倉敷市 |
| 36 | | 汐入川 | 県遊水池水門内 | H25.11.28 | 0.33 | H25.11.28 | 1.1 | 倉敷市 |
| 37 | 高屋川 | 滝山堰 | H25.11.8 | 0.042 | H25.11.8 | 0.33 | 岡山県 | |
| 38 | 伊里川 | 浜の川橋 | H25.11.20 | 0.26 | H25.11.20 | 0.099 | 岡山県 | |
| 39 | 小田川 | 御仮屋橋 | H25.11.28 | 0.30 | H25.11.28 | 0.39 | 倉敷市 | |
| 40 | 溜川 | 港橋 | H25.11.28 | 0.24 | H25.11.28 | 1.3 | 倉敷市 | |
| 41 | 湖沼 | 児島湖 | 湖心 | H25.11.7 | 0.47 | H25.11.7 | 0.63 | 岡山市 |
| 42 | | | 樋門 | H25.11.7 | 0.46 | H25.11.7 | 8.1 | 岡山市 |

| No. | 調査地点 | | 水質 | | 底質 | | 調査主体 | |
|-----|-----------|--------|-----------|----------|-----------|----------|------|-----|
| | 水域名 | 地点名 | 試料採取日 | 結果 | 試料採取日 | 結果 | | |
| 43 | 玉島港区 | 玉島港奥部 | H25.12.19 | 0.40 | H25.12.19 | 8.2 | 倉敷市 | |
| 44 | 水島港区 | 呼松水路 | H25.12.9 | 0.081 | H25.12.9 | 0.99 | 倉敷市 | |
| 45 | | 水島港口部 | H25.12.9 | 0.030 | H25.12.9 | 5.0 | 倉敷市 | |
| 46 | 水島地先海域(甲) | 玉島港沖合 | H25.12.19 | 0.029 | H25.12.19 | 3.5 | 倉敷市 | |
| 47 | | 上水島北 | H25.12.19 | 0.016 | H25.12.19 | 0.17 | 倉敷市 | |
| 48 | | 濃地諸島東 | H25.12.9 | 0.025 | H25.12.9 | 0.60 | 倉敷市 | |
| 49 | 水島地先海域(乙) | 網代諸島沖 | H25.12.19 | 0.017 | H25.12.19 | 0.20 | 倉敷市 | |
| 50 | 海 域 | 児島湾(乙) | 吉井川河口部 | H25.11.6 | 0.38 | H25.11.6 | 1.1 | 岡山市 |
| 51 | | | 九幡沖 | H25.11.6 | 0.41 | H25.11.6 | 2.5 | 岡山市 |
| 52 | 児島湾(丙) | 児島湾口沖 | H25.11.6 | 0.30 | H25.11.6 | 4.9 | 岡山市 | |
| 53 | | 波張崎南 | H25.11.6 | 0.051 | H25.11.6 | 0.76 | 岡山県 | |
| 54 | 備讃瀬戸 | 神島御崎沖 | H25.11.5 | 0.049 | H25.11.5 | 4.9 | 岡山県 | |
| 55 | | 久須美鼻東 | H25.12.9 | 0.017 | H25.12.9 | 0.21 | 倉敷市 | |
| 56 | | 大槌島北 | H25.11.5 | 0.048 | H25.11.5 | 0.094 | 岡山県 | |
| 57 | 牛窓地先海域 | 錦海湾 | H25.10.3 | 0.058 | H25.10.3 | 6.6 | 岡山県 | |
| 58 | 播磨灘北西部 | 長島西南沖 | H25.10.3 | 0.051 | H25.10.3 | 7.2 | 岡山県 | |

(備考) 1 水質の環境基準は、1pg-TEQ/L以下(年間平均値)

2 底質の環境基準は、150pg-TEQ/g以下

ウ 地下水質

(単位: pg-TEQ/L)

| No. | 調査地点所在地 | 試料採取日 | 結果 | 調査主体 |
|-----|------------|-----------|-------|------|
| 1 | 赤磐市佐古 | H25.11.1 | 0.025 | 岡山県 |
| 2 | 吉備中央町上田西 | H25.10.30 | 0.016 | |
| 3 | 備前市日生町寒河 | H25.11.1 | 0.016 | |
| 4 | 笠岡市新賀 | H25.10.28 | 0.022 | |
| 5 | 新見市神郷釜村 | H25.10.29 | 0.017 | |
| 6 | 浅口市金光町占見新田 | H25.10.28 | 0.019 | |
| 7 | 矢掛町里山田 | H25.10.28 | 0.017 | |
| 8 | 津山市奥津川 | H25.10.31 | 0.017 | |
| 9 | 真庭市豊栄 | H25.10.30 | 0.016 | |
| 10 | 久米南町下二ヶ | H25.10.30 | 0.076 | |
| 11 | 奈義町豊沢 | H25.10.31 | 0.035 | |
| 12 | 鏡野町公保田 | H25.10.31 | 0.016 | |
| 13 | 岡山市北区平山地内 | H25.11.20 | 0.054 | 岡山市 |
| 14 | 岡山市北区足守地内 | H25.11.20 | 0.045 | |
| 15 | 岡山市北区首部地内 | H25.11.20 | 0.062 | |
| 16 | 岡山市中区今在家地内 | H25.11.20 | 0.047 | |
| 17 | 岡山市北区玉柏地内 | H25.11.20 | 0.052 | |
| 18 | 岡山市南区箕島地内 | H25.11.20 | 0.042 | |
| 19 | 倉敷市烏羽 | H25.11.25 | 0.029 | |
| 20 | 倉敷市児島田の口 | H25.11.25 | 4.8 | 倉敷市 |

(備考) 環境基準は、1pg-TEQ/L以下

工 土壌

(単位: pg-TEQ/g)

| No. | 調査地点の名称 | 調査地点所在地 | 試料採取日 | 結果 | 調査主体 |
|-----|-------------------|------------|-----------|----------|------|
| 1 | 赤磐市立磐梨小学校 | 赤磐市沢原 | H25.11.12 | 0.0084 | 岡山県 |
| 2 | 吉備中央町立円城小学校 | 吉備中央町円城 | H25.11.12 | 0.0018 | |
| 3 | 備前市立日生保育園 | 備前市日生町寒河 | H25.11.12 | 0.032 | |
| 4 | 疫神社 | 笠岡市新賀 | H25.11.13 | 0.019 | |
| 5 | 新見市立神郷北小学校 | 新見市神郷釜村 | H25.11.13 | 0.0035 | |
| 6 | 浅口市立金光竹小学校 | 浅口市金光町下竹 | H25.11.13 | 0.00076 | |
| 7 | 矢掛町立山田小学校 | 矢掛町里山田 | H25.11.13 | 0.052 | |
| 8 | 奥津川集落集会場 | 津山市奥津川 | H25.11.14 | 0.0048 | |
| 9 | 下湯原温泉湖畔広場 | 真庭市下湯原 | H25.11.14 | 0.00075 | |
| 10 | エンゼルタウン上神目2期地区分譲地 | 久米南町上神目 | H25.11.14 | 0.0015 | |
| 11 | 宮内コミュニティハウス | 奈義町宮内 | H25.11.14 | 0.029 | |
| 12 | 鏡野町立大野保育園 | 鏡野町円宗寺 | H25.11.14 | 0.071 | |
| 13 | みどり町中央公園 | 岡山市北区一宮 | H25.11.20 | 0.29 | |
| 14 | 白石東新町公園 | 岡山市北区白石東新町 | H25.11.20 | 0.12 | |
| 15 | 津島スポーツ広場公園 | 岡山市北区津島本町 | H25.11.20 | 0.0093 | |
| 16 | 平井公園 | 岡山市中区平井 | H25.11.21 | 0.90 | |
| 17 | 財田スポーツ広場 | 岡山市中区長岡 | H25.11.21 | 0.0021 | |
| 18 | 百間川緑地海吉広場 | 岡山市中区海吉 | H25.11.21 | 0.65 | |
| 19 | 桑野公園 | 岡山市中区桑野 | H25.11.21 | 0.90 | |
| 20 | 藤田都六区スポーツ広場公園 | 岡山市南区東畦 | H25.11.21 | 2.5 | |
| 21 | 藤田錦スポーツ広場 | 岡山市南区藤田 | H25.11.21 | 0.13 | |
| 22 | 浜野中央公園 | 岡山市南区浜野 | H25.11.21 | 2.4 | 倉敷市 |
| 23 | 郷内中学校 | 倉敷市林 | H25.11.22 | 1.4 | |
| 24 | 連島南中学校 | 倉敷市連島町鶴新田 | H25.11.26 | 0.015 | |
| 25 | 倉敷西小学校 | 倉敷市中央 | H25.11.26 | 0.021 | |
| 26 | 庄小学校 | 倉敷市上東 | H25.11.26 | 0.000059 | |
| 27 | 玉島小学校 | 倉敷市玉島阿賀崎 | H25.11.26 | 0.0010 | |
| 28 | 沙美小学校 | 倉敷市玉島黒崎 | H25.11.22 | 0.13 | |
| 29 | 児島小学校 | 倉敷市児島柳田町 | H25.11.26 | 0.010 | |
| 30 | 水島小学校 | 倉敷市水島北春日町 | H25.11.26 | 0.43 | |

(備考) 環境基準は、1,000pg-TEQ/g以下

(2)有害大気汚染物質環境調査結果

(平成25年度)

| 調査主体 物質名(単位) | 岡山県 | | | | | 岡山市 | | | | | 倉敷市 | | | | | 環境基準 (指針値) | |
|-------------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------------------------|-------------|-----------|-----------|-----------|---------------|------------|
| | 長津 測定局 | 茂平 測定局 | 美作 県民局 | 日比 測定局 | 南輝 小学校 | 陵南 小学校 | 青江 測定局 | 江南 測定局 | 方南 測定局 | 西大 測定局 | 岡山市 北區役所 津高地域 センター | 倉敷美和 測定局 | 松江 測定局 | 春日 測定局 | 塩生 測定局 | | 乙島東 幼稚園 |
| アクリロニトリル μg/m ³ | 0.034 | 0.015 | 0.032 | 0.031 | 0.057 | 0.034 | - | - | - | - | - | 0.063 | 0.80 | 0.080 | 0.58 | 0.065 | (2以下) |
| 塩化ビニルモノマー μg/m ³ | 0.014 | 0.011 | 0.0098 | 0.022 | 0.024 | 0.024 | - | - | - | - | - | 0.026 | 0.046 | 0.025 | 0.032 | 0.025 | (10以下) |
| クロホルム μg/m ³ | 0.11 | 0.083 | 0.13 | 0.12 | 0.16 | 0.15 | - | - | - | - | - | 0.22 | 0.25 | 0.21 | 0.28 | 0.19 | (18以下) |
| 1,2-ジクロロエタン μg/m ³ | 0.18 | 0.15 | 1.1 | 0.17 | 0.13 | 0.12 | - | - | - | - | - | 0.24 | 0.69 | 0.23 | 0.25 | 0.22 | (1.6以下) |
| ジクロロメタン μg/m ³ | 0.80 | 0.59 | 2.7 | 0.67 | 0.60 | 0.62 | - | - | - | - | - | 1.0 | 1.2 | 1.1 | 0.95 | 1.1 | 150以下 |
| テトラクロロエチレン μg/m ³ | 0.029 | 0.038 | 0.030 | 0.066 | 0.047 | 0.041 | - | - | - | - | - | 0.14 | 0.35 | 0.16 | 0.19 | 0.20 | 200以下 |
| トリクロロエチレン μg/m ³ | 0.084 | 0.053 | 0.033 | 0.051 | 0.12 | 0.065 | - | - | - | - | - | 0.22 | 1.1 | 0.21 | 0.23 | 0.16 | 200以下 |
| 1,3-ブタジエン μg/m ³ | 0.12 | 0.027 | 0.047 | 0.037 | 0.089 | 0.052 | - | - | - | - | - | 0.10 | 0.34 | 0.10 | 0.15 | 0.085 | (2.5以下) |
| ベンゼン μg/m ³ | 1.9 | 1.3 | 1.1 | 1.1 | 1.2 | 0.96 | - | - | - | - | - | 1.7 | 5.7 | 2.0 | 1.6 | 1.4 | 3以下 |
| 塩化メチル μg/m ³ | 1.5 | 1.4 | 1.5 | 1.6 | 1.6 | 1.6 | - | - | - | - | - | 1.6 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.6 | - |
| トルエン μg/m ³ | 5.4 | 3.9 | 5.2 | 3.0 | 6.1 | 6.0 | - | - | - | - | - | 5.0 | 9.8 | 6.4 | 3.5 | 6.6 | - |
| 酸化エチレン μg/m ³ | 0.050 | 0.040 | 0.029 | 0.052 | 0.071 | 0.065 | 0.13 | 0.072 | 0.060 | 0.10 | 0.090 | 0.19 | - | - | - | - | - |
| アセトアルデヒド μg/m ³ | 1.8 | 1.6 | 1.2 | 1.1 | 3.0 | 3.0 | 3.2 | 3.2 | 3.0 | 3.2 | 4.6 | 4.5 | - | - | - | - | - |
| ホルムアルデヒド μg/m ³ | 2.4 | 2.2 | 2.2 | 2.3 | 2.6 | 2.2 | 2.7 | 2.1 | 2.1 | 2.2 | 4.5 | 4.7 | - | - | - | - | - |
| ニッケル化合物 ng/m ³ | 5.4 | 4.7 | 4.4 | 10 | 4.0 | 3.3 | - | - | - | - | 4.1 | 22 | - | - | 7.2 | - | (25以下) |
| ヒ素及びその化合物 ng/m ³ | 2.8 | 2.5 | 2.6 | 16 | 1.6 | 1.3 | - | - | - | - | 1.9 | 2.9 | - | - | - | - | (6以下) |
| ベリリウム及びその化合物 ng/m ³ | 0.030 | 0.027 | 0.020 | 0.033 | 0.014 | 0.017 | - | - | - | - | 0.012 | 0.020 | - | - | - | - | - |
| マンガン及びその化合物 ng/m ³ | 110 | 53 | 20 | 43 | 32 | 52 | - | - | - | - | 97 | 110 | - | - | - | - | - |
| クロム及び三価クロム化合物* ng/m ³ | 3.9 | 3.2 | 2.2 | 3.6 | 3.7 | 3.5 | - | - | - | - | 5.4 | 8.8 | - | - | - | - | - |
| 六価クロム化合物* ng/m ³ | 2.1 | 2.3 | 1.9 | 2.4 | 2.0 | 1.9 | - | - | - | - | 2.2 | 2.5 | - | - | 2.3 | - | (40以下) |
| 水銀及びその化合物 ng/m ³ | 0.27 | 0.14 | 0.079 | 0.22 | 0.69 | 0.45 | - | - | - | - | 0.62 | 4.8 | - | - | - | - | - |

(備考) 毎月1回、連続24時間のサンプリングを行い、年間平均値を算出した。

* 個別の分析が困難なため、クロム及びその化合物(全クロム)として分析)

(3)岡山県化学物質環境モニタリング調査

ア 調査目的

残留性が高く、環境中で分解しにくい有害化学物質について、環境中の存在状況調査を実施している。

イ 調査概要

- ①調査物質 別表1に示す25項目
- ②調査地点 別図に示す14地点(河川12地点、湖沼1地点、海域1地点)
- ③調査媒体 水質(14地点)、底質(9地点)
- ④分析機関 岡山県環境保健センター

ウ 調査結果の概要

調査を実施した25項目のうち、次のとおり水質から15項目、底質から22項目において検出が確認された。化学物質の人への作用の程度やメカニズムは未解明な部分が多く、評価を行える状況にはないが、今回の調査結果は、環境省等が実施している全国調査結果の範囲内であった。

(平成25年度)

| No. | 項目 | 水質(14地点) | | 底質(9地点) | |
|-----|--|----------|--------------|---------|-------------|
| | | 検出地点数 | 濃度範囲(μg/L) | 検出地点数 | 濃度範囲(μg/kg) |
| 1 | ポリ塩化ビフェニール類(PCB) ^{*1*2} | 5 | N.D.~0.0007 | 6 | N.D.~29 |
| 2 | ヘキサクロロベンゼン(HCB) ^{*1*2} | 0 | N.D. | 2 | N.D.~0.16 |
| 3 | ヘキサクロロシクロヘキサシ ^{*1*2} | 7 | N.D.~0.0042 | 6 | N.D.~2.4 |
| 4 | クロルデン ^{*1*2} | 6 | N.D.~0.0003 | 5 | N.D.~0.67 |
| 5 | ノナクロル ^{*2} | 3 | N.D.~0.0001 | 4 | N.D.~0.42 |
| 6 | DDT(ジクロロジフェニルトリクロロエタン) ^{*1*2} | 1 | N.D.~0.0004 | 5 | N.D.~0.26 |
| 7 | DDE(ジクロロジフェニルジクロロエチレン) ^{*2} | 0 | N.D. | 6 | N.D.~2.9 |
| 8 | DDD(ジクロロジフェニルジクロロエタン) ^{*2} | 1 | N.D.~0.0001 | 6 | N.D.~2.5 |
| 9 | アルドリ ^{*1*2} | 0 | N.D. | 1 | N.D.~0.08 |
| 10 | エンドリ ^{*1*2} | 0 | N.D. | 5 | N.D.~0.67 |
| 11 | ディルドリ ^{*1*2} | 1 | N.D.~0.0001 | 2 | N.D.~0.02 |
| 12 | ペンタクロロベンゼン ^{*1} | 0 | N.D. | 3 | N.D.~0.51 |
| 13 | エンドスルファン ^{*2} | 0 | N.D. | 1 | N.D.~0.18 |
| 14 | ピンクロゾリ ^{*2} | 0 | N.D. | 0 | N.D. |
| 15 | アルキルフェノール類(C5~C9) | - | - | - | - |
| | 4t-オクチルフェノール ^{*2} | 0 | N.D. | 2 | N.D.~16 |
| | ノニルフェノール ^{*2} | 2 | N.D.~0.04 | 4 | N.D.~1,100 |
| 16 | ビスフェノールA ^{*2} | 5 | N.D.~0.087 | 5 | N.D.~21 |
| 17 | フタル酸ジ-2-エチルヘキシル ^{*2} | 12 | N.D.~0.2 | 5 | N.D.~1,300 |
| 18 | フタル酸ブチルベンジル ^{*2} | 0 | N.D. | 2 | N.D.~27 |
| 19 | フタル酸ジ-n-ブチル ^{*2} | 7 | N.D.~0.036 | 2 | N.D.~330 |
| 20 | ヘキサブロモビフェニル ^{*1} | 0 | N.D. | 0 | N.D. |
| 21 | ポリブロモビフェニルエーテル(Br4~Br7) ^{*1} | 0 | N.D. | 0 | N.D. |
| 22 | PFOs(ペルフルオロオクタンスルホン酸) ^{*1} | 11 | N.D.~0.0053 | 3 | N.D.~0.8 |
| 23 | PFOA(ペルフルオロオクタ酸) | 14 | 0.0001~0.017 | 5 | N.D.~0.5 |
| 24 | ベンゾ(a)ピレン ^{*2} | 4 | N.D.~0.0007 | 6 | N.D.~180 |
| 25 | ベンゾフェノン ^{*2} | 7 | N.D.~0.18 | 2 | N.D.~4.0 |

(備考)1 「N.D.」とは、検出下限値未満のことである。

2 アルキルフェノール類については、検出下限値以上の検出が確認された質のみ表示している。

3 ^{*1} POPs条約対象物質、^{*2} 内分泌攪乱作用を有すると疑われる化学物質調査対象項目。

4 調査対象物質は別表1、地点別の調査結果は別表2、全国調査結果とその比較は別表3のとおり。

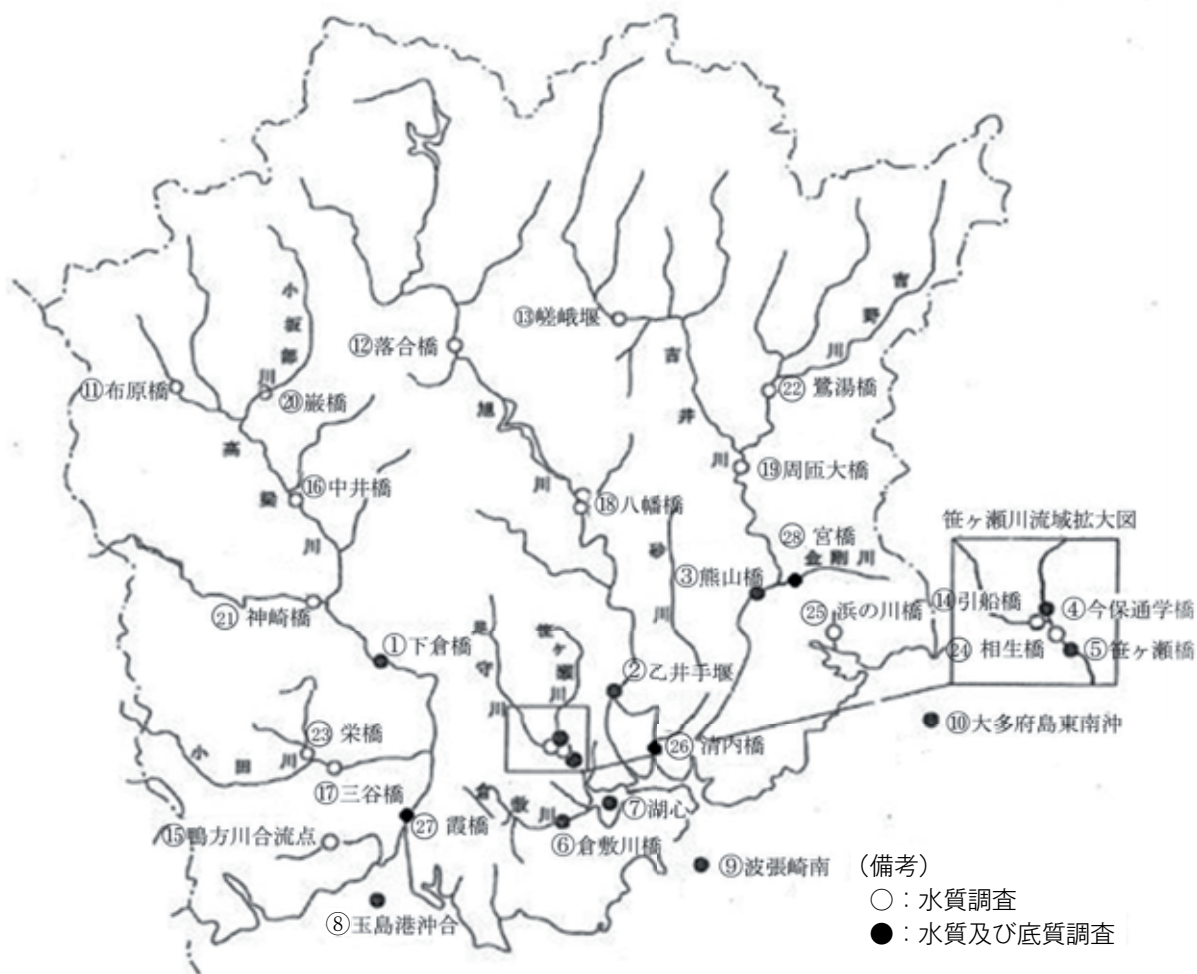
エ 今後の対応

引き続き調査を実施するとともに、知見の集積に努める。

別表1 平成25年度岡山県化学物質モニタリング調査対象物質

| No. | 項目 | 用途 |
|-----|---|----------------------|
| 1 | ポリ塩化ビフェニール類 (PCB) | 熱媒体、ノンカーボン紙、電気製品 |
| 2 | ヘキサクロロベンゼン (HCB) | 殺菌剤、有機合成原料 |
| 3 | ヘキサクロロシクロヘキサン | 殺虫剤 |
| 4 | クロルデン類 | 殺虫剤 |
| 5 | ノナクロル類 | 殺虫剤 |
| 6 | DDT (ジクロロジフェニルトリクロロエタン) | 殺虫剤 |
| 7 | DDE (ジクロロジフェニルジクロロエチレン) | 殺虫剤 (DDTの代謝物) |
| 8 | DDD (ジクロロジフェニルジクロロエタン) | 殺虫剤 (DDTの代謝物) |
| 9 | アルドリン | 農薬 |
| 10 | エンドリン | 農薬 |
| 11 | ディルドリン | 農薬 |
| 12 | ペンタクロロベンゼン | 農薬 |
| 13 | エンドスルファン | 殺虫剤 |
| 14 | ビンクロゾリン | 殺菌剤 |
| 15 | アルキルフェノール類 (C5~C9) 4-n-ペンチルフェノール 4-n-ヘキシルフェノール 4-n-ヘプチルフェノール 4-n-オクチルフェノール 4-t-オクチルフェノール ノニルフェノール | 界面活性剤の原料、分解生成物 |
| 16 | ビスフェノールA | 樹脂の原料 |
| 17 | フタル酸ジ-2-エチルヘキシル | プラスチックの可塑剤 |
| 18 | フタル酸ブチルベンジル | プラスチックの可塑剤 |
| 19 | フタル酸ジ-n-ブチル | プラスチックの可塑剤 |
| 20 | ヘキサブロモビフェニル | プラスチック難燃剤 |
| 21 | ポリブロモビフェニルエーテル (Br4~7) | プラスチック難燃剤 |
| 22 | P F O S (ペルフルオロオクタンスルホン酸) | 撥水撥油剤 |
| 23 | P F O A (ペルフルオロオクタン酸) | 撥水撥油剤 (P F O S 関連物質) |
| 24 | ベンゾ (a) ピレン | 非意図的生成物 |
| 25 | ベンゾフェノン | 医薬品合成原料 |

別図 平成25~27年度 化学物質環境モニタリング調査地点図



(備考)
○：水質調査
●：水質及び底質調査

| 固定点 (7地点、水質・底質調査を毎年実施) | | |
|--|------------|--------------------|
| <河川>④笹ヶ瀬川：今保通学橋、⑤笹ヶ瀬川：笹ヶ瀬橋、⑥倉敷川：倉敷川橋、 ②⑥百間川：清内橋、②⑦高梁川：霞橋、②⑧金剛川：宮橋 | | |
| <湖沼>⑦児島湖：湖心 | | |
| 準固定点 (21地点、1回/3年水質調査のみ実施。※は底質調査も実施。) | | |
| 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
| ①高梁川：下倉橋※ | ②旭川：乙井手堰※ | ③吉井川：熊山橋※ |
| ⑪西川：布原橋 | ⑫高梁川：中井橋 | ⑬成羽川：神崎橋 |
| ⑫旭川：落合橋 | ⑬小田川：三谷橋 | ⑭吉野川：鷺湯橋 |
| ⑬吉井川：嵯峨堰 | ⑭旭川：八幡橋 | ⑮美山川：栄橋 |
| ⑭足守川：引舟橋 | ⑮吉井川：周匝大橋 | ⑯笹ヶ瀬川：相生橋 |
| ⑮里見川：鴨方川合流点 | ⑯小坂部川：巖橋 | ⑰伊里川：浜の川橋 |
| ⑩播磨灘北西部：大多府島 東南沖※ | ⑧児島湾：波張崎南※ | ⑧水島地先海域：玉島港沖 合※ |

別表2 地点別の調査結果

| | | (単位: μg/L) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---------|------------|----|---------|---------|--------|----|--------|--------|--------|--------|----|--------|----|----|----|----|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 地点番号 | 水質 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 測定地点 | 水域名 | 採水年月日 | 天候 | 気温 ℃ | 水温 ℃ | 検出下限値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 布原橋 | H25.10.1 | 晴 | 28.0 | 21.0 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND |
| 1 | 下倉橋 | H25.10.1 | 晴 | 28.0 | 21.0 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND |
| 15 | 鴨方川合流 | H25.10.3 | 曇 | 24.2 | 23.0 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.007 | 0.14 | 0.017 | 0.017 | ND | 0.053 | 0.0050 | ND | 0.01 |
| 12 | 落合橋 | H25.9.26 | 晴 | 22.0 | 20.0 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.041 | 0.041 | ND | ND | ND | 0.003 | ND | ND |
| 13 | 嵯峨堰 | H25.9.26 | 晴 | 22.0 | 19.0 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.037 | 0.037 | ND | ND | ND | 0.000 | ND | ND |
| 10 | 大多府島東南沖 | H25.10.3 | 曇 | 25.8 | 24.9 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.045 | 0.045 | ND | ND | 0.002 | 0.001 | ND | ND |
| 14 | 引舟橋 | H25.10.1 | 曇 | 27.0 | 23.0 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.074 | 0.074 | ND | ND | 0.006 | 0.004 | 0.0006 | 0.019 |
| 27 | 霞橋 | H25.10.3 | 曇 | 24.5 | 25.0 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.041 | 0.041 | ND | ND | 0.003 | 0.002 | ND | ND |
| 28 | 宮橋 | H25.10.7 | 晴 | 29.0 | 23.8 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.067 | 0.067 | ND | ND | 0.005 | 0.0170 | ND | ND |
| 26 | 清内橋 | H25.10.7 | 晴 | 29.5 | 25.0 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.087 | 0.18 | 0.033 | 0.033 | ND | 0.0010 | 0.0054 | ND | 0.004 |
| 4 | 今保通学橋 | H25.9.26 | 晴 | 23.5 | 23.5 | 0.0002 | ND | 0.0002 | 0.0003 | 0.0001 | 0.0004 | ND | 0.0001 | ND | ND | ND | ND | ND | 0.074 | 0.074 | ND | ND | 0.0018 | 0.0071 | 0.0007 | 0.009 |
| 5 | 笹ヶ瀬橋 | H25.10.7 | 晴 | 30.5 | 25.0 | 0.0004 | ND | 0.0002 | 0.0003 | 0.0001 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.08 | 0.2 | 0.036 | 0.036 | ND | 0.0019 | 0.0084 | ND | 0.18 |
| 6 | 倉敷川橋 | H25.10.3 | 曇 | 24.5 | 24.0 | 0.0007 | ND | 0.0042 | 0.0002 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.012 | 0.081 | 0.018 | 0.018 | ND | 0.0012 | 0.0070 | 0.0006 | 0.005 |
| 7 | 湖心見島 | H25.10.18 | 曇 | 18.5 | 19.1 | 0.0005 | ND | 0.0019 | 0.0001 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.02 | 0.032 | ND | ND | 0.0020 | 0.0096 | 0.0006 | 0.010 | |

| | | (単位: μg/kg) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---------|-------------|----|---------|---------|-------|----|------|------|------|------|------|------|------|----|----|----|-----|-------|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| 地点番号 | 底質 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 測定地点 | 水域名 | 採水年月日 | 天候 | 気温 ℃ | 泥温 ℃ | 検出下限値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 下倉橋 | H25.10.1 | 晴 | 28.0 | 21.0 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND |
| 10 | 大多府島東南沖 | H25.10.3 | 曇 | 25.8 | 25.2 | 6.5 | ND | ND | 0.20 | 0.39 | 0.25 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 3 | ND | ND | ND | ND | 0.3 | 0.5 | 180 | ND |
| 27 | 霞橋 | H25.10.3 | 曇 | 24.5 | 23.0 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND |
| 28 | 宮橋 | H25.10.7 | 晴 | 29.0 | 22.8 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND |
| 26 | 清内橋 | H25.10.7 | 晴 | 29.5 | 25.2 | 1.9 | ND | 1.7 | 0.12 | 0.16 | 1.1 | 1.3 | ND | ND | ND | ND | ND | 2 | 120 | ND | ND | ND | ND | ND | 12 | ND |
| 4 | 今保通学橋 | H25.9.26 | 晴 | 23.5 | 24.5 | 0.84 | ND | 0.01 | 0.07 | 0.16 | 0.25 | 0.24 | ND | ND | ND | ND | ND | 2 | 240 | ND | ND | ND | ND | ND | 38 | ND |
| 5 | 笹ヶ瀬橋 | H25.10.7 | 晴 | 30.5 | 24.5 | 9.4 | ND | 0.05 | 0.20 | 0.35 | 0.26 | 0.55 | ND | ND | ND | ND | ND | 16 | 1,100 | 10 | 330 | ND | 0.8 | 0.1 | 61 | 1.4 |
| 6 | 倉敷川橋 | H25.10.3 | 曇 | 24.5 | 23.0 | 29 | ND | 0.2 | 0.67 | 0.42 | 0.19 | 2.9 | 0.50 | 0.2 | ND | ND | ND | 3.0 | 130 | 27 | 51 | ND | 0.4 | 0.2 | 69 | 4.0 |
| 7 | 湖心見島 | H25.10.18 | 曇 | 18.5 | 19.4 | 1.1 | ND | 0.02 | ND | ND | 0.12 | 0.03 | ND | 0.02 | ND | ND | ND | 50 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 1.2 | ND |

別表3 全国調査結果との比較

| No | 項目 | 水質 (単位: $\mu\text{g}/\text{L}$) | | | | 底質 (単位: $\mu\text{g}/\text{kg}$) | | | | | |
|----|------------------------------|----------------------------------|--------|-------------|---------------|-----------------------------------|-------|-------------|------|---------------|---------|
| | | 平成25年度岡山県調査 | | (参考) 全国調査結果 | | 平成25年度岡山県調査 | | (参考) 全国調査結果 | | | |
| | | 検出頻度 | 最大値 | 検出下限値 | 検出頻度 | 最大値 | 検出頻度 | 最大値 | 検出頻度 | 最大値 | |
| 1 | ポリ塩化ビフェニール類 (PCB) *1*2 | 5 / 14 | 0.0007 | 0.0001 | 1,374 / 1,690 | 0.22 | 6 / 9 | 29 | 0.05 | 1,450 / 1,546 | 5,600 |
| 2 | ヘキサクロロベンゼン (HCB) *1*2 | 0 / 14 | N.D. | 0.0002 | 516 / 800 | 0.0014 | 2 / 9 | 0.16 | 0.02 | 1,136 / 1,250 | 65 |
| 3 | ヘキサクロロシクロヘキサセン *1*2 | 7 / 14 | 0.0042 | 0.0001 | 526 / 800 | 0.0082 | 6 / 9 | 2.4 | 0.01 | 1,136 / 1,250 | 59 |
| 4 | クロルデン *1*2 | 6 / 14 | 0.0003 | 0.0001 | 524 / 800 | 0.0019 | 5 / 9 | 0.67 | 0.01 | 1,136 / 1,250 | 44 |
| 5 | ノナクロル *2 | 3 / 14 | 0.0001 | 0.0001 | 526 / 800 | 0.0081 | 4 / 9 | 0.42 | 0.01 | 1,136 / 1,250 | 24 |
| 6 | DDT (ジクロロジフェニルトリクロロエタン) *1*2 | 1 / 14 | 0.0004 | 0.0001 | 460 / 743 | 0.0075 | 5 / 9 | 0.26 | 0.01 | 1,009 / 1,123 | 2,100 |
| 7 | DDE (ジクロロジフェニルジクロロエチレン) *2 | 0 / 14 | N.D. | 0.0001 | 429 / 703 | 0.0016 | 6 / 9 | 2.9 | 0.01 | 1,013 / 1,123 | 150 |
| 8 | DDD (ジクロロジフェニルジクロロエタン) *2 | 1 / 14 | 0.0001 | 0.0001 | 429 / 703 | 0.00097 | 6 / 9 | 2.5 | 0.01 | 1,012 / 1,123 | 420 |
| 9 | アルドリン *1*2 | 0 / 14 | N.D. | 0.0001 | 268 / 569 | 0.00022 | 1 / 9 | 0.08 | 0.02 | 854 / 1,059 | 1 |
| 10 | エンドリン *1*2 | 0 / 14 | N.D. | 0.0002 | 395 / 678 | 0.00012 | 5 / 9 | 0.67 | 0.02 | 894 / 1,123 | 61 |
| 11 | ディルドリン *1*2 | 1 / 14 | 0.0001 | 0.0001 | 429 / 703 | 0.00094 | 2 / 9 | 0.02 | 0.02 | 1,007 / 1,123 | 9.1 |
| 12 | ペンタクロロベンゼン *1 | 0 / 14 | N.D. | 0.0002 | 146 / 194 | 0.00017 | 3 / 9 | 0.51 | 0.02 | 225 / 255 | 24 |
| 13 | エンドスルファン *2 | 0 / 14 | N.D. | 0.0005 | 4 / 97 | 0.00045 | 1 / 9 | 0.18 | 0.05 | 44 / 127 | 0.73 |
| 14 | ビンクロリン *2 | 0 / 14 | N.D. | 0.0005 | 0 / 42 | N.D. | 0 / 9 | N.D. | 0.05 | 1 / 35 | 2.2 |
| 15 | アルキルフェノール類 (C5~C9) | | | | | | | | | | |
| | 4-t-オクタフルフェノール *2 | 0 / 14 | N.D. | 0.01 | 540 / 2,694 | 13 | 2 / 9 | 16 | 2 | 176 / 485 | 350 |
| | ノニルフェノール *2 | 2 / 14 | 0.04 | 0.03 | 897 / 2,840 | 21 | 4 / 9 | 1,100 | 20 | 299 / 488 | 12,000 |
| 16 | ビスフェノールA *2 | 5 / 14 | 0.087 | 0.01 | 1,339 / 2,720 | 19 | 5 / 9 | 21 | 2 | 282 / 488 | 360 |
| 17 | フタル酸ジ-2-エチルヘキシル *2 | 12 / 14 | 0.2 | 0.02 | 716 / 2,304 | 9.9 | 5 / 9 | 1,300 | 20 | 425 / 484 | 210,000 |
| 18 | フタル酸ブチルベンジル *2 | 0 / 14 | N.D. | 0.04 | 11 / 1,938 | 3.1 | 2 / 9 | 27 | 10 | 90 / 412 | 1,400 |
| 19 | フタル酸ジ-n-ブチル *2 | 7 / 14 | 0.036 | 0.01 | 255 / 2,526 | 16 | 2 / 9 | 330 | 20 | 202 / 536 | 2,000 |
| 20 | ヘキサプロモビフェニル *1 | 0 / 14 | N.D. | 0.0001 | 0 / 147 | N.D. | 0 / 9 | N.D. | 0.05 | 39 / 194 | 0.018 |
| 21 | ポリプロモビフェニルエーテル (Br4~Br7) *1 | 0 / 14 | N.D. | 0.0001 | 120 / 146 | 0.00039 | 0 / 9 | N.D. | 0.1 | 177 / 191 | 16 |
| 22 | PFOS (ペルフルオロオクタンスルホン酸) *1 | 11 / 14 | 0.0053 | 0.0001 | 222 / 222 | 0.23 | 3 / 9 | 0.8 | 0.1 | 266 / 282 | 1.9 |
| 23 | PFOA (ペルフルオロオクタンスルホン酸) | 14 / 14 | 0.017 | 0.0001 | 222 / 222 | 0.1 | 5 / 9 | 0.5 | 0.1 | 270 / 281 | 1.3 |
| 24 | ベンゾ (a) ピレン *2 | 4 / 14 | 0.0007 | 0.0004 | 14 / 1,212 | 0.07 | 6 / 9 | 180 | 0.2 | 530 / 731 | 7,400 |
| 25 | ベンゾ (a) ピレン *2 | 7 / 14 | 0.18 | 0.001 | 195 / 1,346 | 0.84 | 2 / 9 | 4.0 | 0.4 | 106 / 422 | 29 |

注) 1 「検出頻度」とは、検出地点数/調査地点数である。

2 「N.D.」とは、検出下限値未満のことである。

3 「全国調査結果」とは、平成10年度から平成24年度までに行われた環境省及び国土交通省の調査結果である。

4 また、調査結果が異性体ごとに区分されている場合は、最も濃度が高い異性体の濃度を表示している。

5 調査年度等によって検出下限値が異なる場合は、小さい方の値を表示している。

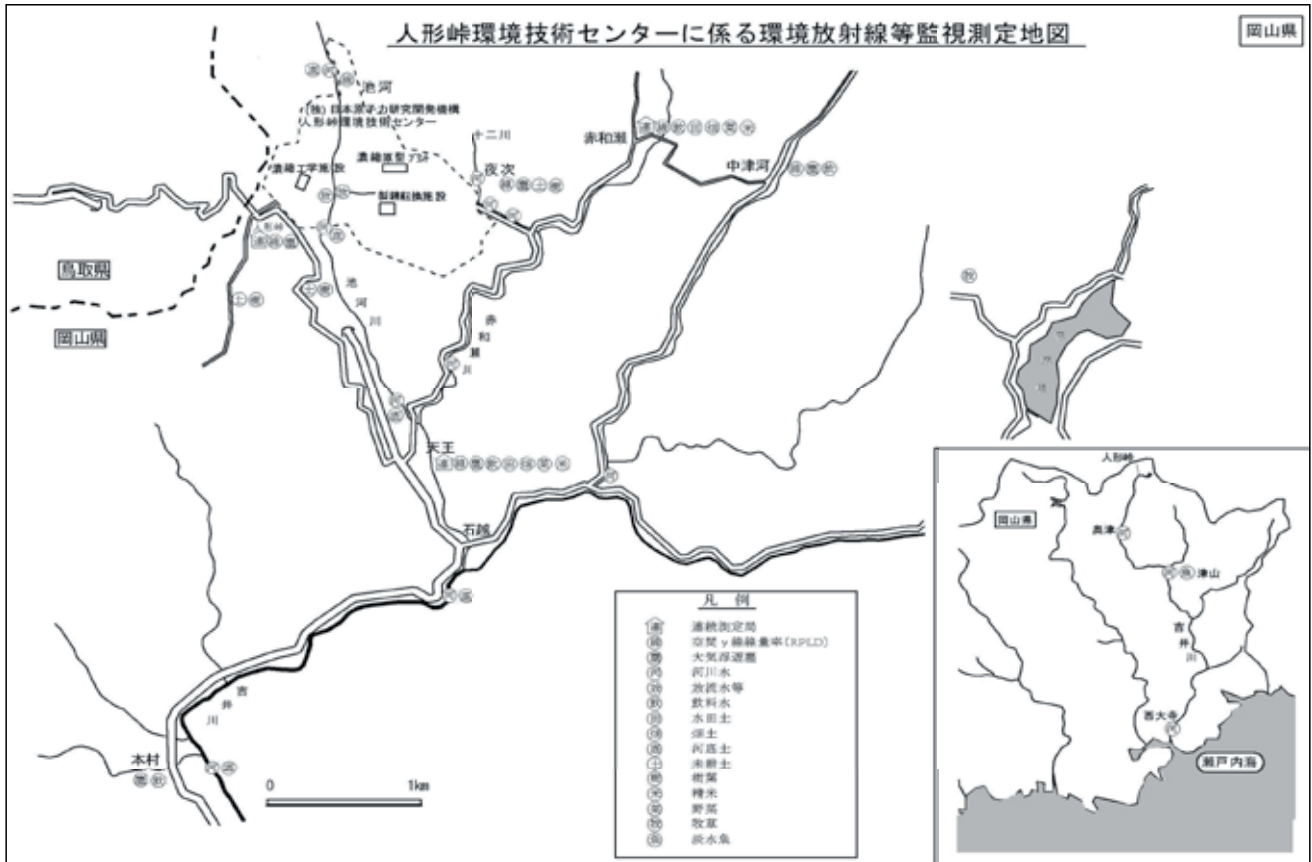
6 類でまとめている項目については、検出数が最も多い物質の検出数、最も濃度が高い物質の検出濃度及び検出下限値を表示している。

*1 残留性有機汚染物質 (ストックホルム条約の対象物質)、*2 内分秘かく乱作用を有すると疑われる化学物質

8 その他の環境関係(安全な生活環境の確保)

(1)(独)日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター周辺に係る監視測定結果

ア 連続測定結果



空間ガンマ線線量率

単位：μ Gy/h

| 観測局 | 年月 | 平成25年度 | | | | | | | | | | | | 過去の測定結果 | | | | | 管理目標値 | 法令値 | |
|-----|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------------------|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年間 | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | | | 20年度 |
| 人形峠 | 平均値 | 0.060 | 0.061 | 0.064 | 0.062 | 0.063 | 0.063 | 0.062 | 0.062 | 0.053 | 0.029 | 0.028 | 0.035 | 0.054 | 0.054 | 0.051 | 0.053 | 0.058 | 0.057 | 0.087 | 1mSv/年 ≒0.143 μ Gy/h |
| | 最高値 | 0.080 | 0.073 | 0.085 | 0.083 | 0.088 | 0.086 | 0.096 | 0.088 | 0.118 | 0.071 | 0.043 | 0.062 | 0.118 | 0.099 | 0.103 | 0.097 | 0.096 | 0.093 | | |
| 赤和瀬 | 平均値 | 0.047 | 0.046 | 0.048 | 0.047 | 0.047 | 0.047 | 0.047 | 0.048 | 0.042 | 0.027 | 0.023 | 0.028 | 0.041 | 0.042 | 0.039 | 0.041 | 0.044 | 0.042 | 0.087 | 1mSv/年 ≒0.143 μ Gy/h |
| | 最高値 | 0.061 | 0.055 | 0.067 | 0.061 | 0.069 | 0.067 | 0.072 | 0.073 | 0.096 | 0.052 | 0.037 | 0.047 | 0.096 | 0.081 | 0.087 | 0.075 | 0.077 | 0.076 | | |
| 天王 | 平均値 | 0.059 | 0.057 | 0.059 | 0.058 | 0.060 | 0.059 | 0.059 | 0.060 | 0.055 | 0.036 | 0.031 | 0.038 | 0.053 | 0.055 | 0.050 | 0.052 | 0.057 | 0.054 | 0.087 | 1mSv/年 ≒0.143 μ Gy/h |
| | 最高値 | 0.078 | 0.066 | 0.081 | 0.075 | 0.081 | 0.083 | 0.080 | 0.085 | 0.129 | 0.074 | 0.049 | 0.066 | 0.129 | 0.101 | 0.091 | 0.108 | 0.087 | 0.089 | | |

注)バックグラウンド値 人形峠：0.020～0.129 赤和瀬：0.013～0.099
天王：平成4年から測定を開始しており、バックグラウンド値は設定されていない。

大気中ふっ素濃度

単位：10⁻⁴mg/m³

| 観測局 | 年月 | 平成25年度 | | | | | | | | | | | | 過去の測定結果 | | | | | 管 理 目標値 | | |
|-----|--------|--------|----|------|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---------|------|------|------|------|------------|------|-----|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年間 | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | | 20年度 | |
| 人形峠 | 平均値*1 | ND*2 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 3.3 |
| | 最高値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | |
| | 出現回数*3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 赤和瀬 | 平均値 | ND | ND | 0.42 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.42 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | |
| | 最高値 | ND | ND | 0.42 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.42 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | |
| | 出現回数 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 天王 | 平均値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.41 | 0.70 | ND | ND | ND | ND | ND | |
| | 最高値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.41 | 0.70 | ND | ND | ND | ND | ND | |
| | 出現回数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

※1 有意値のみの集計

※2 ND：不検出(以下同じ。)

※3 出現回数：検出された回数

イ サンプルング測定結果

空間ガンマ線線量率(RPLD)

単位：μ Gy/h

| 測定 地点数 | 実施数 計画数 | 測定結果 | 過去の測定結果 | | | | | | 管 理 目標値 | 法令値 |
|-----------|------------|------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|-------|
| | | | 25年度 | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 20年度 | | |
| 6 | 24 24 | 平均値 | 0.078 | 0.077 | 0.078 | 0.080 | 0.084 | 0.079 | 0.087 | 0.143 |
| | | 最大値 | 0.103 | 0.102 | 0.104 | 0.102 | 0.104 | 0.101 | | |

注)バックグラウンド値は、測定地点により異なるが、最大0.071~0.134である。

ウラン(U-238)

| 測定対象 | 測定 地点数 | 実施数 計画数 | 測定結果 | 過去の測定結果 | | | | | | 管 理 目標値 | 法令値 |
|--|-----------|------------|------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|------------|-----|
| | | | | 25年度 | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 20年度 | | |
| 大気浮遊塵 (×10 ⁻⁹ Bq/cm ³) | 5 | 10 10 | 平均値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 1.4 | 20 |
| | | | 最大値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | | |
| 河川水 (×10 ⁻³ Bq/cm ³) | 13 | 46 46 | 平均値 | <0.003 | <0.003 | <0.003 | <0.003 | <0.003 | <0.003 | 1.1 | 20 |
| | | | 最大値 | 0.010 | 0.012 | 0.007 | 0.010 | 0.015 | 0.031 | | |
| 河底土 (Bq/g乾) | 5 | 10 10 | 平均値 | 0.013 | 0.012 | 0.016 | 0.015 | 0.015 | 0.016 | 1.8 | - |
| | | | 最大値 | 0.021 | 0.017 | 0.030 | 0.022 | 0.033 | 0.037 | | |
| 土 畑土 (Bq/g乾) | 2 | 4 4 | 平均値 | 0.032 | 0.034 | 0.039 | 0.029 | 0.032 | 0.029 | 1.8 | - |
| | | | 最大値 | 0.036 | 0.052 | 0.051 | 0.035 | 0.048 | 0.037 | | |
| 壤 水田土 (Bq/g乾) | 2 | 4 4 | 平均値 | 0.043 | 0.047 | 0.034 | 0.042 | 0.044 | 0.042 | 1.8 | - |
| | | | 最大値 | 0.055 | 0.064 | 0.044 | 0.063 | 0.055 | 0.059 | | |
| 計 | 27 | 74 / 74 | | | | | | | | | |

ラジウム(Ra-226)

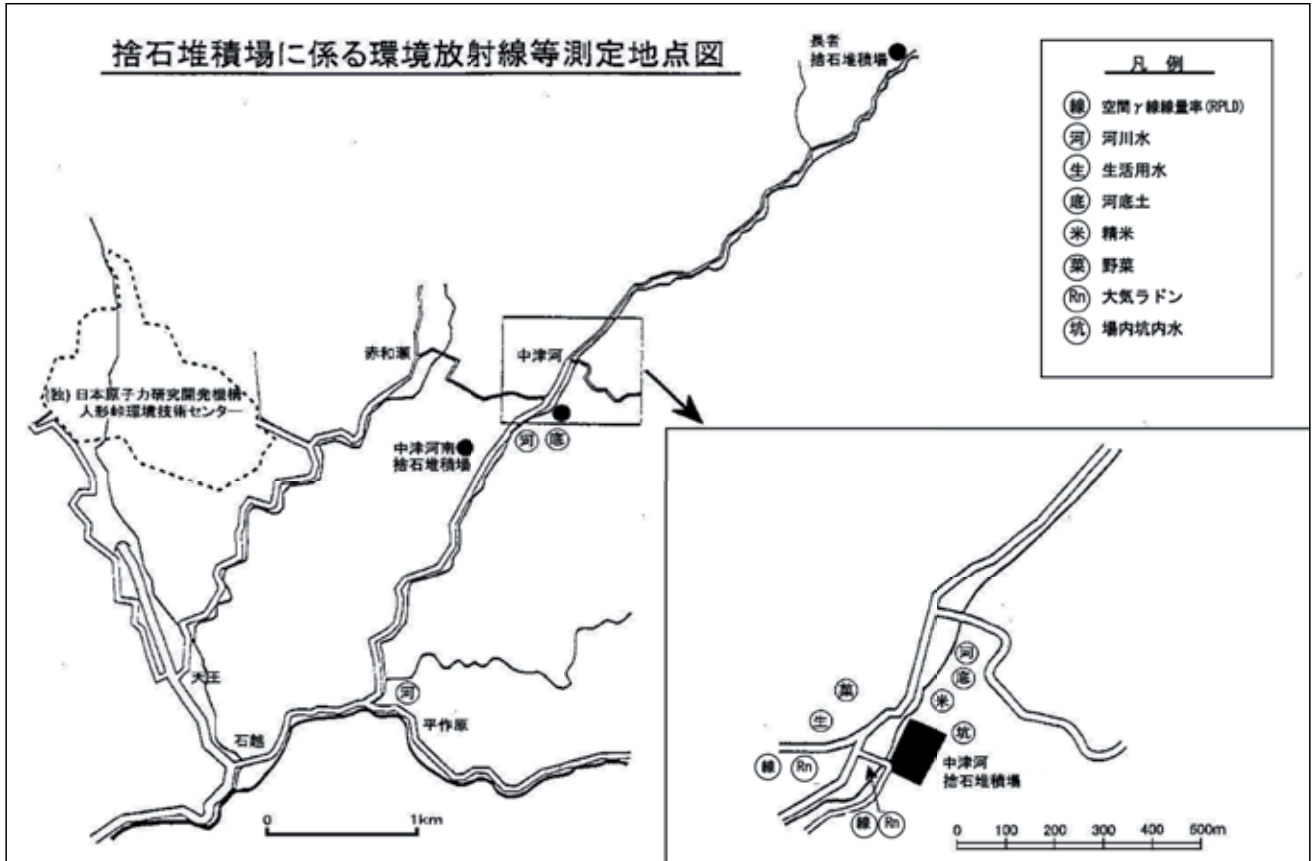
| 測定対象 | 測定 地点数 | 実施数 計画数 | 測定結果 | 過去の測定結果 | | | | | | 管 理 目標値 | 法令値 |
|---|-----------|------------|------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|-----|
| | | | | 25年度 | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 20年度 | | |
| 大気浮遊塵 (×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³) | 5 | 10 10 | 平均値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 7.4 | 400 |
| | | | 最大値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | | |
| 河川水 (×10 ⁻⁵ Bq/cm ³) | 13 | 46 46 | 平均値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 3.7 | 200 |
| | | | 最大値 | 0.41 | ND | 0.32 | 0.33 | ND | ND | | |
| 河底土 (Bq/g乾) | 5 | 10 10 | 平均値 | 0.040 | 0.047 | 0.051 | 0.053 | 0.055 | 0.053 | 1.8 | - |
| | | | 最大値 | 0.063 | 0.071 | 0.079 | 0.097 | 0.117 | 0.077 | | |
| 土 畑土 (Bq/g乾) | 2 | 4 4 | 平均値 | 0.041 | 0.052 | 0.056 | 0.050 | 0.048 | 0.050 | 0.74 | - |
| | | | 最大値 | 0.045 | 0.057 | 0.065 | 0.063 | 0.060 | 0.055 | | |
| 壤 水田土 (Bq/g乾) | 2 | 4 4 | 平均値 | 0.051 | 0.059 | 0.059 | 0.061 | 0.052 | 0.067 | 0.74 | - |
| | | | 最大値 | 0.079 | 0.073 | 0.075 | 0.070 | 0.062 | 0.088 | | |
| 計 | 27 | 74 / 74 | | | | | | | | | |

ふっ素

単位：mg/L

| 測定対象 | 測定 地点数 | 実施数 計画数 | 測定結果 | 過去の測定結果 | | | | | | 管 理 目標値 |
|------|-----------|------------|------|---------|------|------|------|------|------|------------|
| | | | | 25年度 | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 20年度 | |
| 河川水 | 4 | 4 4 | 平均値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 0.5 |
| | | | 最大値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | |

(2)中津河捨石堆積場周辺に係る監視測定結果



空間ガンマ線線量率(RPLD)

単位：μ Gy/h

| 測定地点数 | 実施数 計画数 | 測定結果 | 過去の測定結果 | | | | | | 管理 目標値 | 法令値 |
|-------|------------|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------|-------|
| | | | 25年度 | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 20年度 | | |
| 2 | 8 / 8 | 平均値 最大値 | 0.068 0.091 | 0.067 0.095 | 0.067 0.096 | 0.070 0.096 | 0.074 0.097 | 0.069 0.093 | 0.087 | 0.143 |

注)バックグラウンド値は0.096である。

ウラン(U-238)

| 測定対象 | 測定 地点数 | 実施数 計画数 | 測定結果 | 過去の測定結果 | | | | | | 管理 目標値 | 法令値 |
|--|-----------|------------|------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|-----|
| | | | | 25年度 | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 20年度 | | |
| 大気浮遊塵 ($\times 10^{-9}$ Bq/cm ³) | 5 | 10 / 10 | 平均値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 1.4 | 20 |
| | | | 最大値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | | |
| 河川水 ($\times 10^{-3}$ Bq/cm ³) | 3 | 12 / 12 | 平均値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 1.1 | 20 |
| | | | 最大値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | | |
| 河底土 (Bq/g乾) | 2 | 2 / 2 | 平均値 | 0.011 | 0.013 | 0.014 | 0.013 | 0.011 | 0.013 | 1.8 | - |
| | | | 最大値 | 0.011 | 0.014 | 0.015 | 0.017 | 0.014 | 0.013 | | |
| 計 | 10 | 24 / 24 | | | | | | | | | |

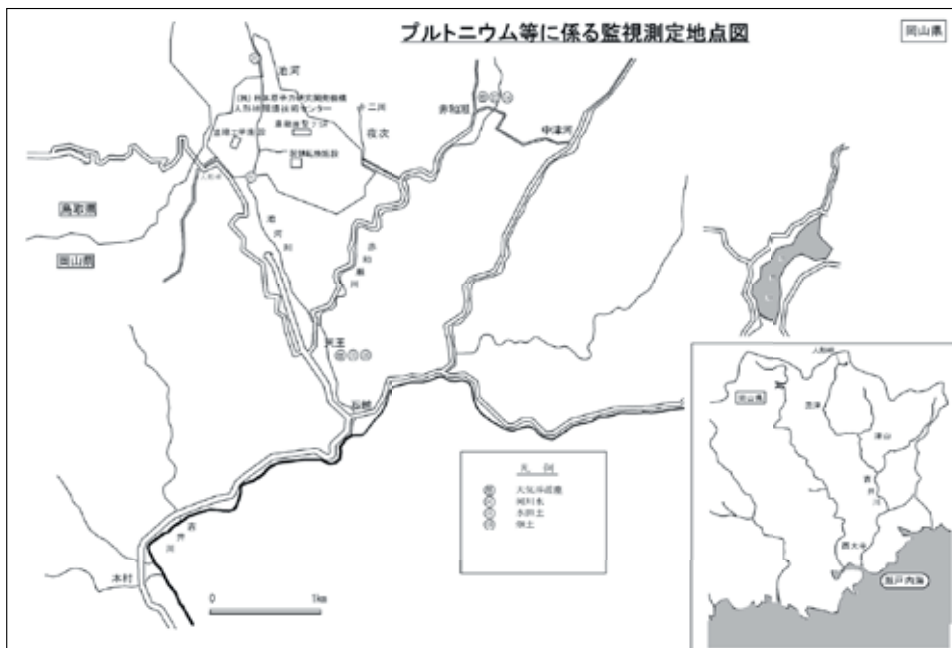
注)大気浮遊塵については、人形峠環境技術センター周辺に係る監視測定(サンプリング測定)結果の再掲である。

ラジウム(Ra-226)

| 測定対象 | 測定 地点数 | 実施数 計画数 | 測定結果 | 過去の測定結果 | | | | | | 管理 目標値 | 法令値 |
|---|-----------|------------|------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|-----|
| | | | | 25年度 | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 20年度 | | |
| 大気浮遊塵 ($\times 10^{-10}$ Bq/cm ³) | 5 | 10 / 10 | 平均値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 7.4 | 400 |
| | | | 最大値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | | |
| 河川水 ($\times 10^{-5}$ Bq/cm ³) | 3 | 12 / 12 | 平均値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | 3.7 | 200 |
| | | | 最大値 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | | |
| 河底土 (Bq/g乾) | 2 | 2 / 2 | 平均値 | 0.026 | 0.029 | 0.038 | 0.040 | 0.042 | 0.036 | 1.8 | - |
| | | | 最大値 | 0.028 | 0.032 | 0.049 | 0.045 | 0.055 | 0.038 | | |
| 計 | 10 | 24 / 24 | | | | | | | | | |

注)大気浮遊塵については、人形峠環境技術センター周辺に係る監視測定(サンプリング測定)結果の再掲である。

(3)回収ウラン転換実用化試験に係るプルトニウム監視測定結果



プルトニウム(239+240)測定結果

| 測定対象 | 測定地点名 | 平成25年度 | 過去の測定結果 | | | | | | |
|---------------|-----------------------------|--------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-----------------|---------|------|
| | | | 監視測定 | | | | 事前調査 | | |
| | | | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 6年度(上期) | 5年度(下期) | |
| 人形峠環境技術センター周辺 | 大気浮遊塵 (mBq/m ³) | 天王 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND |
| | | 赤和瀬 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND |
| | 河川水 (mBq/L) | 池河川上流 | 0.0046 | ND | ND | ND | ND | ND | ND |
| | | 池河川中流 | ND | ND | ND | ND | ND | ND | ND |
| | 畑土 (Bq/kg乾) | 天王 | 0.39 (0.014) | 0.58 (0.011) | 0.41 (0.0097) | 0.41 | 0.51 (0.012) | 0.89 | 0.82 |
| | | 赤和瀬 | 0.25 (0.0091) | 0.30 (0.0085) | 0.17 | 0.40 | 0.22 | 0.32 | 0.52 |
| | 水田土 (Bq/kg乾) | 天王 | 0.38 | 0.40 (0.0086) | 0.36 | 0.39 (0.011) | 0.34 (0.011) | 0.26 | - |
| | | 赤和瀬 | 0.34 (0.0093) | 0.47 (0.011) | 0.34 | 0.43 (0.011) | 0.39 (0.014) | 0.51 | - |

注)()内は検出されたプルトニウム-238の値である。

(参考)プルトニウム(239+240)対照地域測定結果

| 測定対象 | 測定地点名 | 事前調査結果 | |
|--------------|-------------|---------|---------|
| | | 6年度(上期) | 5年度(下期) |
| 河川水 (mBq/L) | 旭川中流 (旧久世町) | ND | ND |
| 畑土 (Bq/kg乾) | 旧八東村 | 0.45 | 0.23 |
| | 旧久世町 | 0.53 | 0.59 |
| | 玉野市 | 0.24 | 0.20 |
| 水田土 (Bq/kg乾) | 旧八東村 | 0.50 | - |
| | 旧久世町 | 0.24 | - |
| | 玉野市 | 0.13 | - |

(4)管理目標値

| 項目 | 管 理 目 標 値 | 備考 | |
|-------|--|--|----------------|
| 排水 | 管理区域における数値 | | |
| | 全 α 線又は全 β 線 | $22(3.7) \times 10^{-3}$ Bq/cm ³ | →排出時の測定毎の濃度 |
| | ウ ラ ン | 2.2×10^{-3} Bq/cm ³ | →3月間についての平均値濃度 |
| | ラジウム | 1.8×10^{-3} Bq/cm ³ | |
| ふ っ 素 | 8~10 mg/L | | |
| 排気 | 管理区域における数値 | | |
| | 全 α 線 | $7.4(3.7) \times 10^{-9}$ Bq/cm ³ | →1月間についての平均濃度 |
| | ウ ラ ン | 1.8×10^{-9} Bq/cm ³ | →3月間についての平均値濃度 |
| | ラジウム | 3.7×10^{-9} Bq/cm ³ | |
| ふ っ 素 | 3.3×10^{-4} mg/m ³ | | |
| 河川水 | 敷地境界における数値 | | |
| | ウ ラ ン | 1.1×10^{-3} Bq/cm ³ | →測定毎の濃度 |
| | ラジウム | 3.7×10^{-5} Bq/cm ³ | |
| ふ っ 素 | 0.5 mg/L | | |
| 大気ダスト | 敷地境界における数値 | | |
| | ウ ラ ン | 1.4×10^{-9} Bq/cm ³ | →測定毎の濃度 |
| | ラジウム | 7.4×10^{-10} Bq/cm ³ | |
| ふ っ 素 | 3.3×10^{-4} mg/m ³ | | |
| 土 壌 | 河底土 | | |
| | ウ ラ ン | 1.8 Bq/g | →測定毎の濃度 |
| | ラジウム | 1.8 Bq/g | |
| | 畑土、水田土 | | |
| ウ ラ ン | 1.8 Bq/g | →測定毎の濃度 | |
| ラジウム | 0.74 Bq/g | | |
| 空間線量率 | 敷地境界における空間線量率 γ 線 | 0.087 μ Gy/h | →3月間毎の線量率 |

(注) 1 ()内は、ウラン濃縮工場に係る数値

2 管理目標値は、県、鏡野町、日本原子力研究開発機構の3者で締結している「環境保全協定」の中で定めており、原子炉等規制法、鉱山保安法、水質汚濁防止法による規制値より厳しい値としている。

3 管理目標値には、自然の放射線(バックグラウンド)は含まれず、事業活動に起因する放射線を対象としている。

9 自然環境関係

(1) 自然環境保全審議会開催状況(平成25年度)

| 開催年月日 | 区 分 | 審 議 事 項 等 |
|----------|------|--------------------|
| H25.8.27 | 鳥獣部会 | 鳥獣保護区特別保護地区の指定について |
| H25.9.2 | 温泉部会 | 温泉掘削に係る許可について |
| H26.2.26 | 温泉部会 | 温泉掘削に係る許可について |

(2) 自然保護基礎調査の実績

| 調 査 事 項 名 | 年 度 | 備 考 |
|---------------------------------|--------|--|
| 植 生 調 査 | S47～49 | |
| 郷 土 自 然 環 境 調 査 | S48～49 | |
| 自然環境保全基礎調査(第1回) | S48 | 環境庁委託調査 |
| 鳥 類 分 布 調 査 | S48 | |
| 獣 類 分 布 調 査 | S49 | |
| 基 礎 調 査 (昆 虫 生 息) | S50～51 | |
| 〃 (両 生 ・ は 虫 類) | S52～54 | |
| 〃 (自 然 保 護 地 域 候 補 地) | S53～55 | |
| 自然環境保全基礎調査(第2回) | S53～54 | 環境庁委託調査(特定植物群落, 動物分布, 海岸, 海域, 植生, 河川, 植生図) |
| 基礎調査(湖沼湿地地域生物学術調査) | S56～58 | |
| 〃 高梁川上流県立自然公園 | S60～62 | |
| 〃 羅生門特別地域自然環境調査 | S59 | |
| 自然環境保全基礎調査(第3回) | S58～62 | 環境庁委託調査(植生, 特定植物群落, 海域生物環境, 河川, 自然景観資源) |
| 〃 (第4回) | S63～H4 | 環境庁委託調査(植生, 巨樹・巨木, 河川, 藻場・干潟) |
| 基 礎 調 査 瀬 戸 内 海 島 し ょ 部 | S63～H2 | S63 鹿久居島, H1 北木島, H2 六口島 |
| 生 物 学 術 調 査 | | |
| 〃 (原 生 林 生 物 学 術 調 査) | H3～4 | H3 若杉原生林, H4 毛無山 |
| 自然環境保全基礎調査(第5回) | H5～10 | 環境庁委託調査(湿地, 動植物分布, 海辺, 植生, 特定植物群落調査, 河川調査) |
| 生 物 多 様 性 調 査 (第 1 回) | H6～11 | 環境庁委託調査(種の多様性調査) |
| 生 物 多 様 性 調 査 (第 2 回) | H12～14 | 〃 〃 |
| 基 礎 調 査 (河 川 源 流 地 域 特 別 調 査) | H6 | 新庄川・土用川 |
| 〃 (郷 土 自 然 保 護 地 域 特 別 調 査) | H7 | 安仁神社郷土自然保護地域 |
| 海 域 自 然 環 境 保 全 基 礎 調 査 | H11 | 環境庁委託調査(海棲動物調査) |
| 生 物 多 様 性 基 礎 調 査 | H23 | 生物多様性おかやま戦略に係る基礎調査 |

(3) 県自然環境保全地域等の指定

(平成26年3月31日現在)

| 区分 年度 | 県自然環境保全地域 | | 環境緑地保護地域 | | 郷土自然保護地域 | | 郷土記念物 | 計 | |
|----------|-----------|---------|----------|---------|----------|---------|-------|-------|---------|
| | 地域数 | 面積 (ha) | 地域数 | 面積 (ha) | 地域数 | 面積 (ha) | 件数 | 地域・件数 | 面積 (ha) |
| S48 | 2 | 66.04 | 1 | 6.91 | 4 | 142.22 | 3 | 10 | 215.17 |
| S49 | | | | | 5 | 70.75 | 2 | 7 | 70.75 |
| S50 | | | | | 5 | 40.36 | 2 | 7 | 40.36 |
| S51 | | | | | 3 | 19.39 | 2 | 5 | 19.39 |
| S52 | | | | | 3 | 89.00 | 2 | 5 | 89.00 |
| S53 | | | | | 1 | 163.50 | 2 | 3 | 163.50 |
| S54 | | | | | 2 | 30.30 | 2 | 4 | 30.30 |
| S55 | | | | | 2 | 143.18 | 4 | 6 | 143.18 |
| S56 | | | | | 3 | 89.28 | 2 | 5 | 89.28 |
| S57 | | | 1 | 19.83 | 2 | 19.71 | 1 | 4 | 39.54 |
| S58 | | | | | | | 3 | 3 | |
| S59 | | | | | 3 | 11.00 | | 3 | 11.00 |
| S60 | | | | | 1 | 2.00 | 1 | 2 | 2.00 |
| S61 | | | | | | | 1 | 1 | |
| S62 | | | | | | | 2 | 2 | |
| S63 | | | | | | | 1 | 1 | |
| H1 | | | | | 1 | 6.54 | | 1 | 6.54 |
| H2 | | | | | | | 1 | 1 | |
| H3 | | | | | 1 | 6.78 | | 1 | 6.78 |
| H4 | | | | | | | 1 | 1 | |
| H5 | | | | | | | | | |
| H6 | | | | | | | 1 | 1 | |
| H7~10 | | | | | | | | | |
| H11 | | | | | | | 1 | 1 | |
| H12 | | | | | 1 | 10.26 | 3 | 4 | 10.26 |
| H13 | | | | | | | 1 | 1 | |
| H14 | 1 | 35.29 | | | | | 1 | 2 | 35.29 |
| H15 | | | | | | | 1 | 1 | |
| H16 | | | | | | | | | |
| H17 | | | | | | | △ 1 | △ 1 | |
| H18 | | | | | | | | | |
| H19 | | | | | | | | | |
| H20 | | | | | | | | | |
| H21 | | | | | | | | | |
| H22 | | | | | | | | | |
| H23 | | | | | | | | | |
| H24 | | | | | | | | | |
| H25 | | | | | | | | | |
| 計 | 3 | 101.33 | 2 | 26.74 | 37 | 844.27 | 39 | 81 | 972.34 |

(4) 公有化の状況

(平成26年3月31日現在)

| 場 所 | 年度 | 面積 (㎡) | 施 設 |
|------------------|-----|-----------|-------------------------------|
| 高清水高原(鏡野町上斎原) | S48 | 266,800 | 氷ノ山後山那岐山国定公園 |
| 両山寺(美咲町) | S49 | 9,216 | 両山寺郷土自然保護地域 |
| 鬼ノ城(総社市) | S50 | 216,628 | 吉備史跡県立自然公園 |
| 安仁神社(岡山市東区西大寺一宮) | S51 | 40,717 | 安仁神社郷土自然保護地域 |
| 矢喰の岩前(岡山市北区高塚) | S55 | 3,759 | (内153.19㎡を平成5年度に譲渡) 郷土記念物矢喰の岩 |
| 備中国分寺前(総社市) | 〃 | 1,377 | 吉備路風土記の丘県立自然公園 |
| 矢喰の岩前(岡山市北区高塚) | S57 | 1,079.79 | 郷土記念物矢喰の岩 |
| 備中国分寺前(総社市) | 〃 | 51 | 吉備路風土記の丘県立自然公園 |
| 〃 | S59 | 3,278 | 〃 |
| 吉備路北駐車場(総社市) | S62 | 2,209 | 〃 |
| 吉備路南駐車場(総社市) | 〃 | 3,050 | 〃 |
| 備中国分寺前(総社市) | S63 | 781 | 〃 |
| 〃 | H4 | 1,177 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 748.91 | 〃 |
| 〃 | H5 | 676 | 〃 |
| 矢喰の岩前(岡山市北区高塚) | 〃 | 178.44 | 郷土記念物矢喰の岩 |
| 毛無山(新庄村) | 〃 | 1,910,532 | ブナ林等天然林の保護 |
| 備中国分寺前(総社市) | H6 | 2,184.86 | 吉備路風土記の丘県立自然公園 |
| 〃 | 〃 | 1,175.17 | 〃 |
| 毛無山(新庄村) | H7 | 32,794 | ブナ林等天然林の保護 |
| 備中国分寺前(総社市) | H10 | 695 | 吉備路風土記の丘県立自然公園 |
| 〃 | 〃 | 902 | 〃 |
| 毛無山(新庄村) | H14 | 701,123 | ブナ林等天然林の保護 |
| 吉備路北駐車場(総社市) | H16 | 791 | 吉備路風土記の丘県立自然公園 |

(5) 「岡山県版レッドデータブック 2009」選定種のカテゴリー別集計表

| カテゴリー 分類群 | 絶 滅 | 野生絶滅 | 絶滅危惧 Ⅰ類 | 絶滅危惧 Ⅱ類 | 準絶滅危惧 | 情報不足 | 留 意 | 計 |
|-----------------|-----|------|------------|------------|-------|------|-----|-------|
| 哺乳類 | 3 | | 7 | 5 | 2 | 4 | | 21 |
| 鳥 類 | | | 16 | 22 | 18 | 23 | 9 | 88 |
| 爬虫類 | | | | 4 | | 2 | | 6 |
| 両生類 | | | 4 | 3 | 4 | | 3 | 14 |
| 汽水・淡水魚類 | | | 7 | 14 | 14 | 5 | 3 | 43 |
| 昆虫類 | 6 | | 17 | 20 | 49 | 32 | 48 | 172 |
| 昆虫類以外の 無脊椎動物 | 14 | | 28 | 37 | 88 | 91 | 44 | 302 |
| 維管束植物 | 9 | 3 | 137 | 151 | 189 | 19 | 48 | 556 |
| コケ植物 | 2 | | 15 | 6 | 9 | 2 | 14 | 48 |
| 計 | 34 | 3 | 231 | 262 | 373 | 178 | 169 | 1,250 |

絶 滅：すでに絶滅したと考えられる種。

野生絶滅：飼育栽培下でのみ存続している種。

絶滅危惧Ⅰ類：絶滅の危機に瀕している種。もしも、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、その存続が困難になるもの。

絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種。もしも、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。

準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種。現在のところ、「絶滅危惧Ⅰ類」にも「絶滅危惧Ⅱ類」にも該当しないが、生息・生育条件の変化によって容易に上位ランクに移行するような要素(脆弱性)を有するもの。

情報不足：評価するだけの情報が不足している種。

留 意：絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要があると考えられる種。

(注)種：動物では、種及び亜種、植物では種、亜種及び変種を示す。

(6)自然公園の許可申請、届出件数一覧表

| 自然公園の種類 | | 保護計画及び事務権限 | | 年 度 | | | | | | | | |
|---------|----------|------------|--------|-----|------|------|------|------|-------|------|------|------|
| | | | | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 |
| 国立公園 | 瀬戸内海 | 特別地域 | 環境大臣 | 6 | 5 | 6 | 5 | 4 | 11 | 4 | 2 | 3 |
| | | | 知事 | 32 | 36 | 33 | 29 | 25 | 29 | 28 | 30 | 28 |
| | | 普通地域 | 環境大臣 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | 知事 | 8 | 5 | 4 | 6 | 7 | 1 | 1 | 0 | 3 |
| | 大山隠岐 | 特別地域 | 環境大臣 | 0 | 2 | 2 | 5 | 2 | 3 | 3 | 0 | 2 |
| | | | 知事 | 6 | 15 | 6 | 10 | 5 | 6 | 6 | 16 | 12 |
| | | 普通地域 | 環境大臣 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | 知事 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 小計 | | 53 | 66 | 51 | 55 | 43 | 50 | 42 | 48 | 48 |
| | 公園定 | 氷ノ山後山那岐山 | 特別地域 | 知事 | 12 | 10 | 24 | 22 | 17 | 28 | 21 | 34 |
| 普通地域 | | | 〃 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 小計 | | 12 | 10 | 24 | 22 | 17 | 28 | 21 | 34 | 18 |
| 県立自然公園 | 高梁川上流 | 特別地域 | 知事 | 13 | 19 | 15 | 8 | 15 | 21 | 8 | 14 | 11 |
| | | 普通地域 | 〃 | 4 | 1 | 7 | 7 | 3 | 4 | 5 | 10 | 16 |
| | 吉備史跡 | 特別地域 | 知事(市長) | 0 | 4(0) | 2(0) | 2(0) | 1(0) | 1(0) | 3(0) | 1(0) | 2(0) |
| | | 普通地域 | 〃 | 6 | 0(3) | 0(1) | 0(1) | 0(2) | 1(3) | 0(0) | 0(5) | 0(1) |
| | 湯原奥津 | 特別地域 | 知事 | 18 | 25 | 29 | 32 | 21 | 18 | 20 | 12 | 25 |
| | | 普通地域 | 〃 | 6 | 2 | 4 | 3 | 1 | 1 | 5 | 3 | 9 |
| | 吉備路風土記の丘 | 特別地域 | 知事(市長) | 5 | 2(0) | 4(0) | 2(0) | 5(0) | 11(0) | 7(0) | 0(0) | 3(0) |
| | | 普通地域 | 〃 | 3 | 2(1) | 3(0) | 1(0) | 5(1) | 4(1) | 1(1) | 2(0) | 1(1) |
| | 備作山地 | 特別地域 | 知事 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 4 | 0 | 2 | 3 |
| | | 普通地域 | 〃 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 |
| | 吉備清流 | 特別地域 | 知事(市長) | 1 | 3 | 0 | 0(2) | 2(0) | 0(1) | 0(1) | 0(0) | 2(0) |
| | | 普通地域 | 〃 | 0 | 2 | 0 | 0(0) | 1(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| | 吉井川中流 | 特別地域 | 知事 | 2 | 2 | 2 | 3 | 1 | 3(0) | 3(0) | 1(0) | 1(0) |
| | | 普通地域 | 〃 | 5 | 0 | 4 | 2 | 2 | 0(1) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| | 小計 | | 65 | 63 | 73 | 60 | 60 | 71 | 53 | 46 | 74 | |
| 合 計 | | | | 130 | 139 | 148 | 137 | 120 | 149 | 116 | 128 | 140 |

(注) 1 平成18年4月より、岡山市(政令市)及び倉敷市(中核市)に県立自然公園に係る許可及び届出事務を移譲している。

2 件数()は政令市、中核市処理分で外数

(7)中国自然歩道岡山県ルートに興味地点

ア 吉備高原横断ルート・中国山地横断ルート

| 市町村名 | 延長(km) | 通過興味地点 | 近傍興味地点 |
|------------------|--------|---|------------------------------|
| 井原市 (旧芳井町) | 13 | 上嶋地区(石灰岩大地の特徴)、高原荘(農村型リゾート) | 天神峡 |
| 高梁市 (旧川上町) | 14 | 高山市、磐窟谷(石灰岩景観)、弥高山(キャンプ場、360°の展望) | 穴門山神社(社叢)、大賀押被、吉備川上ふれあい漫画美術館 |
| 高梁市 (旧備中町) | 15 | 銅搬出路、新成羽川ダム、天神山(標高777mからの360°の展望) | 笠神文学岩展望公園 |
| 高梁市 (旧成羽町) | 22 | 吹屋ふるさと村、吹屋銅山跡、ベンガラ館、広兼邸、羽山溪(石灰岩溪流) | 高梁市成羽美術館、夫婦岩 |
| 高梁市 | 57 | 新城池保全林、愛宕山、臥牛山(天然林、自然研究路、展望)、備中松山城、石火矢町ふるさと村(武家屋敷館)、木野山(木野山神社)、祇園山(祇園寺) | |
| 高梁市 (旧有漢町) | 13 | 大平山(大平山権現山県自然環境保全地域、標高697mからの展望) | 権現山(599m)、長代池、備中鍾乳穴 |
| 吉備中央町 (旧賀陽町) | 3 | 大平山(天福寺郷土自然保護地域) | |
| 吉備中央町 (旧加茂川町) | 20 | 総社宮(郷土記念物、加茂大祭)、円城ふるさと村(円城寺、道の駅)、吉備高原の風景 | 岩倉公園、小森温泉、化気神社、本宮山 |
| 岡山市 (旧建部町) | 18 | 志呂神社、三樹山(郷土自然保護地域)、竹内流古武道発祥の地、旭川湖 | 八幡温泉郷、旭川第一ダム |
| 美咲町 (旧中央町) | 12 | 両山寺(郷土自然保護地域)、二上山(あまのじゃくの重岩)、棚田風景 | 滝谷池と滝谷の滝 |
| 久米南町 | 14 | 誕生寺(法然上人誕生地、イチョウ、本堂)、誕生寺池(江戸時代築造) | 仏教寺、清水寺 |
| 美咲町 (旧柵原町) | 12 | 本山寺(本堂、三重塔)、本山寺国有林(学術参考保護林)、本経寺、月の輪古墳 | 月の輪郷土館、柵原鉦山跡、飯岡の断層 |
| 赤磐市 (旧吉井町) | 8 | 血洗の滝、宗形神社、是里ぶどう生産地、ワイン記念館 | 諏訪神社、城山公園 |
| 和気町 (旧佐伯町) | 4 | 田園風景(棚田) | |
| 美作市 (旧英田町) | 17 | 大芦高原、長福寺(三重塔)、真木山(郷土自然保護地域) | 天石門別神社(溪流) |
| 備前市 (旧吉永町) | 12 | 八塔寺ふるさと村、滝谷神社(社叢)、兵庫県「近畿自然歩道」との接続地点 | 八塔寺山(行者山) |
| 美作市 (旧作東町) | 26 | 白水の滝(男滝、女滝)、蓮花寺(庭園)、杉坂峠(史跡)、長城寺、大聖寺 | |
| 美作市 (旧大原町) | 12 | 宮本武蔵生誕地、武蔵資料館、因幡街道(本陣、脇本陣) | 竹山城跡 |
| 美作市 (旧栗倉村) | 16 | 道仙寺、行者山護摩堂、後山キャンプ場、駒の尾山 | 後山(行者山) 日名倉山(遊歩道) |
| 西粟倉村 | 12 | ダルガ峰、大茅キャンプ場、若林溪谷、若林原生林(自然研究路)、後山若林登山歩道 | ストーンサークル、あわくら温泉 |
| 11市町村 | 320 | | |

イ 溪谷ルート・吉備路ルート・瀬戸内ルート

| 市町村名 | 延長(km) | 通過興味地点 | 近傍興味地点 |
|-------|--------|---|--------------------------------------|
| 高梁市 | 3 | 高梁美しい森 | |
| 吉備中央町 | 11 | | |
| 総社市 | 50 | 豪溪、天柱山、井風呂谷川砂防公園、秋葉山、井山宝福寺、十二ヶ郷用水、ヒイゴ池湿地、砂川公園、鬼城山ビジターセンター、鬼ノ城、岩屋、鬼の釜、血吸川、備中国分尼寺跡、備中国分寺、吉備路もてなしの館、サンロード吉備路、作山古墳、やよい広場、三輪山遺跡群、軽部神社、福山城跡 | 矢喰神社、雪舟誕生地、岩屋皇の墓、こうもり塚古墳、角力取山古墳、幸山城跡 |
| 岡山市 | 28 | 最上稲荷奥之院、最上稲荷、龍王山、備中高松城跡、葦守神社、近水園、足守の町並み、吉備津彦神社、吉備の中山、茶臼山古墳、吉備津神社、造山古墳 | 高松城跡附水攻築堤跡、古代吉備文化財センター、黒住教本部 |
| 倉敷市 | 48 | 鯉喰神社、安養寺、倉敷美観地区、大原美術館、いりふねの道、藤戸寺、熊野神社、五流尊龍院、由加山、由加神社、蓮台寺、さくら園地、ふれあいの森、野崎家旧宅、風の道、祇園神社、むかし下津井回船問屋、鷺羽山、鷺羽山ビジターセンター | 楯築遺跡、倉敷少年自然の家 |
| 5市町 | 140 | | |

(8)中国自然歩道の整備概要

| 整備施設 | 整備内容 | 整備量 |
|--------------------------|------------------------------|------------|
| 歩道改良 | 幅員1.5m、一部敷砂利、階段、標識一式 | 延長 27.4km |
| 標識工（吉備高原横断ルート・中国山地横断ルート） | 指導標、案内板、解説板、注意標識 | 延長 292.6km |
| 路傍休憩地 | 休憩舎、便所等（1日行程(15km～20km)に1箇所） | 25箇所 |
| 標識工（渓谷ルート・吉備路ルート・瀬戸内ルート） | 指導標、案内板、解説板 | 延長 140km |

(9)狩猟免許者の推移

(単位：件)

| 区分 年度 | 試験（初心者） | | | | | 更新（経験者） | | | | | 合計 | | | | |
|----------|---------|-----|-------|-------|-----|---------|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-------|
| | 網猟 | わな猟 | 第1種銃猟 | 第2種銃猟 | 計 | 網猟 | わな猟 | 第1種銃猟 | 第2種銃猟 | 計 | 網猟 | わな猟 | 第1種銃猟 | 第2種銃猟 | 計 |
| S55 | | 22 | 238 | 114 | 374 | | 0 | 55 | 6 | 61 | | 22 | 293 | 120 | 435 |
| S60 | | 25 | 118 | 54 | 197 | | 225 | 7,464 | 332 | 8,021 | | 250 | 7,582 | 386 | 8,218 |
| H元 | | 25 | 74 | 29 | 128 | | 32 | 211 | 60 | 303 | | 57 | 285 | 89 | 431 |
| H15 | | 144 | 61 | 5 | 210 | | 980 | 3,138 | 43 | 4,161 | | 1,124 | 3,199 | 48 | 4,371 |
| H16 | | 172 | 69 | 10 | 251 | | 239 | 232 | 21 | 492 | | 411 | 301 | 31 | 743 |
| H17 | | 122 | 48 | 8 | 178 | | 342 | 272 | 18 | 632 | | 464 | 320 | 26 | 810 |
| H18 | | 140 | 67 | 4 | 211 | | 1,078 | 2,711 | 34 | 3,823 | | 1,218 | 2,778 | 38 | 4,034 |
| H19 | 2 | 104 | 77 | 9 | 192 | 30 | 294 | 246 | 13 | 583 | 32 | 398 | 323 | 22 | 775 |
| H20 | 0 | 92 | 55 | 2 | 149 | 33 | 351 | 273 | 12 | 669 | 33 | 443 | 328 | 14 | 818 |
| H21 | 5 | 181 | 46 | 8 | 240 | 65 | 1,085 | 2,256 | 28 | 3,434 | 70 | 1,266 | 2,302 | 36 | 3,674 |
| H22 | 1 | 153 | 37 | 9 | 200 | 18 | 313 | 259 | 17 | 607 | 19 | 466 | 296 | 26 | 807 |
| H23 | 2 | 315 | 67 | 2 | 386 | 29 | 364 | 278 | 8 | 679 | 31 | 679 | 345 | 10 | 1,065 |
| H24 | 6 | 213 | 51 | 5 | 275 | 46 | 1,141 | 1,765 | 26 | 2,978 | 52 | 1,354 | 1,816 | 31 | 3,253 |
| H25 | 8 | 249 | 93 | 14 | 364 | 15 | 343 | 234 | 19 | 611 | 23 | 592 | 327 | 33 | 975 |

(注)平成19年度から「網・わな猟免許」が「縄猟免許」と「わな猟免許」に区分された。

(10)狩猟者登録数の推移

(単位：件)

| 区分 年度 | 県内者 | | | | | 県外者 | | | | | 合計 | | | | |
|----------|-----|-------|--------|-------|--------|-----|-----|-------|-------|-----|----|-------|--------|-------|--------|
| | 網猟 | わな猟 | 第1種銃猟 | 第2種銃猟 | 計 | 網猟 | わな猟 | 第1種銃猟 | 第2種銃猟 | 計 | 網猟 | わな猟 | 第1種銃猟 | 第2種銃猟 | 計 |
| S55 | | 247 | 10,161 | 580 | 10,988 | | 1 | 301 | 1 | 303 | | 248 | 10,462 | 581 | 11,291 |
| S60 | | 217 | 7,045 | 340 | 7,602 | | 2 | 176 | 0 | 178 | | 219 | 7,221 | 340 | 7,780 |
| H元 | | 190 | 5,623 | 273 | 6,086 | | 0 | 186 | 1 | 187 | | 190 | 5,809 | 274 | 6,273 |
| H15 | | 1,429 | 3,325 | 320 | 5,074 | | 10 | 116 | 7 | 133 | | 1,439 | 3,441 | 327 | 5,207 |
| H16 | | 1,483 | 3,153 | 99 | 4,735 | | 10 | 107 | 1 | 118 | | 1,493 | 3,260 | 100 | 4,853 |
| H17 | | 1,481 | 3,037 | 87 | 4,605 | | 11 | 89 | 1 | 101 | | 1,492 | 3,126 | 88 | 4,706 |
| H18 | | 1,510 | 2,956 | 84 | 4,550 | | 10 | 97 | 1 | 108 | | 1,520 | 3,053 | 85 | 4,658 |
| H19 | 15 | 1,521 | 2,820 | 86 | 4,442 | 0 | 13 | 87 | 4 | 104 | 15 | 1,534 | 2,907 | 90 | 4,546 |
| H20 | 13 | 1,530 | 2,693 | 82 | 4,318 | 0 | 7 | 85 | 4 | 96 | 13 | 1,537 | 2,778 | 86 | 4,414 |
| H21 | 20 | 1,615 | 2,567 | 83 | 4,285 | 0 | 9 | 95 | 2 | 106 | 20 | 1,624 | 2,662 | 85 | 4,391 |
| H22 | 19 | 1,678 | 2,366 | 92 | 4,155 | 0 | 9 | 89 | 4 | 102 | 19 | 1,687 | 2,455 | 96 | 4,257 |
| H23 | 19 | 1,836 | 2,250 | 87 | 4,192 | 0 | 10 | 80 | 6 | 96 | 19 | 1,846 | 2,330 | 93 | 4,288 |
| H24 | 15 | 1,914 | 2,094 | 88 | 4,111 | 0 | 15 | 74 | 5 | 94 | 15 | 1,929 | 2,168 | 93 | 4,205 |
| H25 | 19 | 2,011 | 1,963 | 101 | 4,094 | 0 | 13 | 61 | 5 | 79 | 19 | 2,024 | 2,024 | 106 | 4,173 |

(11)鳥獣による農林水産業被害状況

全県の被害額

(単位：千円)

| 年次 | 鳥 類 | | | | | 獣 類 | | | | | 合計 |
|-----|--------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| | カラス類 | スズメ類 | カワウ | その他 | 計 | イノシシ | ニホンザル | ニホンジカ | その他 | 計 | |
| H元 | 99,459 | 58,308 | - | 117,004 | 274,771 | 69,118 | 18,092 | - | 117,110 | 204,320 | 479,091 |
| H5 | 75,386 | 47,655 | - | 56,685 | 179,726 | 170,250 | 15,575 | 35,477 | 82,850 | 304,152 | 483,878 |
| H17 | 32,127 | 12,869 | 66,514 | 34,860 | 146,370 | 178,910 | 29,792 | 34,912 | 37,914 | 281,528 | 427,898 |
| H18 | 49,211 | 12,746 | 54,240 | 31,686 | 147,883 | 168,862 | 18,687 | 45,870 | 41,753 | 275,172 | 423,055 |
| H19 | 41,458 | 12,608 | 57,010 | 82,681 | 193,757 | 158,378 | 22,415 | 33,200 | 36,432 | 250,425 | 444,182 |
| 比率 | (9%) | (3%) | (13%) | (19%) | (44%) | (36%) | (5%) | (7%) | (8%) | (56%) | (100%) |
| H20 | 36,772 | 10,717 | 66,650 | 29,590 | 143,729 | 139,736 | 26,495 | 39,192 | 28,251 | 233,674 | 377,403 |
| 比率 | (10%) | (3%) | (17%) | (8%) | (38%) | (37%) | (7%) | (10%) | (8%) | (62%) | (100%) |
| H21 | 22,740 | 9,074 | 66,239 | 28,565 | 126,618 | 148,498 | 26,296 | 52,698 | 26,585 | 254,077 | 380,695 |
| 比率 | (6%) | (2%) | (17%) | (8%) | (33%) | (39%) | (7%) | (14%) | (7%) | (67%) | (100%) |
| H22 | 36,852 | 5,221 | 58,947 | 35,534 | 136,554 | 177,989 | 35,870 | 83,614 | 32,645 | 330,118 | 466,672 |
| 比率 | (8%) | (1%) | (13%) | (8%) | (29%) | (38%) | (8%) | (18%) | (7%) | (71%) | (100%) |
| H23 | 27,527 | 3,890 | 52,069 | 42,858 | 126,344 | 156,958 | 32,735 | 106,580 | 27,495 | 323,768 | 450,112 |
| 比率 | (6%) | (1%) | (12%) | (10%) | (28%) | (35%) | (7%) | (24%) | (6%) | (72%) | (100%) |
| H24 | 21,106 | 3,708 | 49,247 | 27,485 | 101,546 | 142,374 | 32,918 | 83,244 | 22,482 | 281,018 | 382,564 |
| 比率 | (6%) | (1%) | (13%) | (7%) | (27%) | (37%) | (8%) | (22%) | (6%) | (73%) | (100%) |
| H25 | 18,942 | 3,880 | 49,204 | 29,621 | 101,647 | 146,884 | 34,950 | 88,325 | 23,012 | 293,171 | 394,818 |
| 比率 | (5%) | (1%) | (12%) | (8%) | (26%) | (37%) | (9%) | (22%) | (6%) | (74%) | (100%) |

(12)鳥獣捕獲数(狩猟及び有害鳥獣捕獲)

| 年次 | 鳥 類 | | | | | 獣 類 | | | | | 合計 |
|-----|-------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | カラス類 | スズメ類 | カワウ | その他 | 計 | イノシシ | ニホンザル | ニホンジカ | その他 | 計 | |
| H5 | 7,339 | 27,205 | 90 | 38,233 | 72,867 | 2,584 | 84 | 222 | 10,100 | 12,990 | 85,857 |
| H16 | 4,185 | 14,395 | 553 | 22,562 | 41,695 | 15,707 | 129 | 1,455 | 6,191 | 23,482 | 65,177 |
| H17 | 4,583 | 15,132 | 412 | 14,972 | 35,099 | 13,383 | 65 | 1,729 | 5,590 | 20,767 | 55,866 |
| H18 | 4,979 | 7,240 | 832 | 13,636 | 26,687 | 11,362 | 80 | 2,062 | 5,491 | 18,995 | 45,682 |
| H19 | 4,709 | 11,089 | 1,409 | 16,536 | 33,743 | 10,320 | 96 | 3,305 | 5,070 | 18,791 | 52,534 |
| H20 | 3,920 | 4,917 | 876 | 15,891 | 25,604 | 12,779 | 123 | 3,408 | 4,160 | 20,470 | 46,074 |
| H21 | 3,135 | 7,519 | 618 | 13,834 | 25,106 | 12,975 | 102 | 3,312 | 7,600 | 23,989 | 49,095 |
| H22 | 2,884 | 7,106 | 416 | 13,636 | 24,042 | 20,617 | 159 | 4,556 | 6,081 | 31,413 | 55,455 |
| H23 | 2,491 | 6,837 | 533 | 9,530 | 19,391 | 15,312 | 139 | 5,383 | 3,803 | 24,637 | 44,028 |
| H24 | 4,396 | 3,332 | 904 | 8,621 | 17,253 | 15,387 | 158 | 6,550 | 3,732 | 25,827 | 43,080 |
| H25 | 4,209 | 2,460 | 1,155 | 7,653 | 15,477 | 18,722 | 184 | 10,014 | 3,808 | 32,728 | 48,205 |

(13)みどりの少年隊結成状況

(平成26年3月31日現在)

| 局 | 単位 | 隊名 | 所在 | 隊員数 | 局 | 単位 | 隊名 | 所在 | 隊員数 | |
|----|----|----------------------|-----------|-----|----|----|----------------|---------------|-----------|----|
| 備前 | 地域 | 玉原緑化少年団 | 玉野市玉原 | 12 | 美作 | 学校 | 喬松緑の少年団 | 津山市坪井上 | 22 | |
| | 地域 | 吉備中央町FOS少年団連盟みどりの少年隊 | 吉備中央町吉川 | 25 | | 地域 | 草加部みどりの少年隊 | 津山市草加部 | 35 | |
| 東備 | 学校 | びぜん緑の少年隊 | 備前市伊部 | 21 | | 地域 | 羽出みどりの少年隊 | 苫田郡鏡野町羽出 | 9 | |
| | 学校 | 三国みどりの少年隊 | 備前市吉永町加賀美 | 8 | | 地域 | 香北みどりの少年団 | 苫田郡鏡野町真経 | 9 | |
| | 地域 | フジみどりの少年隊 | 和気郡和気町矢田 | 18 | | 地域 | 富みどりの少年隊 | 苫田郡鏡野町富西谷 | 7 | |
| | 地域 | いんべ緑の少年隊 | 備前市伊部 | 20 | | 学校 | 柵原東みどりの少年団 | 久米郡美咲町行信 | 57 | |
| 備中 | 学校 | 琴浦東小学校みどりの少年隊 | 倉敷市児島田の口 | 10 | | 学校 | 柵原西緑の少年隊 | 久米郡美咲町小瀬 | 106 | |
| | 学校 | 真備町菌みどりの少年隊 | 倉敷市真備町市場 | 47 | | 地域 | 大坪和みどりの少年隊 | 久米郡美咲町境 | 9 | |
| | 学校 | 池田小学校みどりの少年隊 | 総社市見延 | 9 | | 学校 | 上齋原葉っぱの会 | 苫田郡上齋原 | 15 | |
| 井笠 | 学校 | 真鍋島みどりの少年隊 | 笠岡市真鍋島 | 11 | | 真庭 | 学校 | 上齋原小学校みどりの少年隊 | 苫田郡鏡野町上齋原 | 20 |
| | 学校 | 浜っ子みどりの少年隊 | 笠岡市大島中 | 15 | | | 学校 | 別所みどりの少年隊 | 真庭市別所 | 10 |
| | 学校 | 里庄東小学校みどりの少年隊 | 浅口郡里庄町里見 | 109 | | | 地域 | まにわ緑の少年隊 | 真庭市久世 | 10 |
| | 学校 | 里庄西小学校みどりの少年隊 | 浅口郡里庄町新庄 | 67 | 学校 | | 勝田東FOS少年団緑の少年隊 | 美作市大町 | 17 | |
| 高梁 | 地域 | こせみどりの少年隊 | 高梁市巨瀬町 | 52 | 勝英 | 学校 | 西粟倉村少年山岳パトロール隊 | 英田郡西粟倉村長尾 | 24 | |
| 新見 | 学校 | 神郷北小学校みどりの少年隊 | 新見市神郷釜村 | 27 | | 地域 | 吉野川緑の少年隊 | 美作市栄町 | 81 | |
| | 学校 | 萬歳みどりの少年隊 | 新見市哲多町矢戸 | 36 | | | | | | |
| | 学校 | 哲西っ子みどりの少年団 | 新見市哲西町矢田 | 21 | 計 | 33 | | 952 | | |
| | 学校 | 本郷小学校みどりの少年隊 | 新見市哲多町本郷 | 13 | | | | | | |

岡山県緑の少年隊連絡協議会加入隊数

10 参加と協働による快適な環境の保全関係

(1)岡山県景観条例に基づく届出等件数

ア 大規模行為届出件数

| 行為名 | S63年度 ～H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | H20年度 | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 | 計 |
|-----|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 建築物 | 5,307 | 187 | 351 | 251 | 197 | 59 | 35 | 47 | 46 | 43 | 47 | 6,570 |
| 工作物 | 4,834 | 306 | 280 | 933 | 636 | 139 | 235 | 381 | 217 | 270 | 136 | 8,367 |
| 物件 | 14 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 17 |
| 土石 | 101 | 3 | 2 | 0 | 2 | 1 | 2 | 4 | 0 | 0 | 2 | 117 |
| 計 | 10,256 | 497 | 633 | 1,184 | 835 | 199 | 273 | 432 | 263 | 314 | 185 | 15,071 |

イ 景観モデル地区届出件数

(ア)高梁景観モデル地区届出件数

| 行為名 | S63年度 ～H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | H20年度 | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 | 計 |
|------|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 建築物 | 202 | 4 | 5 | 3 | 7 | 4 | 4 | 5 | 1 | 2 | 0 | 237 |
| 工作物 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 7 |
| 木竹伐採 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 広告表示 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 207 | 6 | 5 | 3 | 8 | 4 | 5 | 5 | 1 | 2 | 2 | 248 |

(イ)吉備高原都市景観モデル地区届出件数

| 行為名 | S63年度 ～H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | H20年度 | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 | 計 |
|------|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 建築物 | 286 | 1 | 7 | 12 | 4 | 13 | 9 | 9 | 15 | 9 | 14 | 379 |
| 工作物 | 29 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 6 | 2 | 1 | 42 |
| 木竹伐採 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 13 |
| 広告表示 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 11 |
| 計 | 333 | 1 | 8 | 12 | 5 | 13 | 11 | 11 | 24 | 12 | 15 | 445 |

(ウ)渋川・王子が岳景観モデル地区届出件数

| 行為名 | S63年度 ～H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | H20年度 | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 | 計 |
|------|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 建築物 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 工作物 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| 木竹伐採 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 広告表示 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 |

ウ 背景保全地区事前指導件数

| 行為名 | H4年度 ～H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | H20年度 | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 | 計 |
|-----|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 吹屋 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 閑谷 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| 計 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 |

11 環境と経済が好循環する仕組みづくり関係

(1)環境影響評価に関する処理状況

| 名称 | 事業主体 | 事業目的 | 事業概要 | 処理状況 | 備考 |
|--------------------------|--------------|---|--|--|---|
| 高梁川水系小田川付替事業 | 国土交通省中国地方整備局 | 高梁川の支川である小田川について高梁川との合流位置を下流に付替え、高梁川流域内で人口、資産が集中する倉敷市街地区間に位置する高梁川酒津地先及び過去幾多の甚大な被害が生じている小田川合流点付近の洪水時の水位低下を図る。 | (計画地) 倉敷市及び総社市 (高梁川及び小田川合流部) ○土地の形状を変更する面積 約107ha ○延長 3.4km ○代表川幅 約200m | (受理) H25.4.1 (意見書) H25.8.29 | 準備書 (法) 放水路の新設 |
| 真庭産業団地事業計画変更(誘致企業規模等の変更) | 岡山県 | 平成17年9月に「真庭産業団地事業計画変更(企業誘致計画の変更)に係る環境影響評価」の手続を完了しているが、今回誘致するバイオマス発電事業について、当初想定していた排ガス量から大幅に増加するため、環境影響評価手続を再度行うもの。 | (計画地) 真庭市中原、目木及び上河内 ○全体面積 90.9ha(変更なし) ○変更後の主な諸元 排出ガス量 約9.4万Nm ³ /h 排水量 700.5m ³ 発生交通量 3139台/日 | (受理) H25.5.17 (意見書) H25.8.29 | 準備書 (条例) 工業団地及び流通業務団地の造成を併せて実施する事業の変更 |
| 美作岡山道路(吉井IC-柵原IC)建設事業 | 岡山県 | 美作圏域と岡山圏域との連携を強化し、沿線の集客施設へのアクセス、利便性を向上し、また、工業地点から貨物輸送の効率化など地域振興プロジェクトを支援することにより、沿線地域の社会・経済の発展並びに県土の均衡ある発展に寄与することを目的とする。 | (計画地) 久米郡美咲町内及び美作市内 ○道路延長 約6km ○計画交通量 柵原IC-英田IC 18,400台/日 吉井IC 5,000台/日 柵原IC 4,200台/日 | (受理) H25.12.26 (意見書) H26.3.28 | 実施計画書 (条例) 自動車専用道路の新設 |

環境関係年表

| 年 | 月 | 岡山県の動き | 国・全国の動き |
|-----------------|----|---|---------------------------------------|
| 昭和9年 (1934) | 3 | 瀬戸内海国立公園が、全国初の国立公園3公園の1つとして指定される。 | |
| 昭和18年 (1943) | 9 | 三菱重工業(株)が水島で航空機製造工場の操業を開始。 | |
| 昭和23年 (1948) | 3 | 岡山県史跡名勝天然記念物保存顕彰条例を制定。 | |
| | 7 | | 農薬取締法を制定。 |
| 昭和25年 (1950) | 6 | 国が児島湾締切堤防建設事業に着手。 | |
| | 7 | 県が岡山市南部(岡南地区)の工業地帯整備に着手。 | |
| 昭和26年 (1951) | 2 | 県営旭川ダムの建設に着手。 児島湾締切堤防建設工事に着手。 | |
| | 3 | 岡山県企業誘致条例を制定。 | |
| 昭和27年 (1952) | 9 | 県が水島地域の国有地を買収。水島港の整備と、臨海工業地帯整備に着手。 | |
| | 12 | | 熊本県で水俣病第1号患者が発生。 |
| 昭和29年 (1954) | 5 | 県営旭川ダムが完工。 | |
| | 8 | 県下初の飛行機による空中農薬散布が藤戸町(現倉敷市)と勝央町で行われる。 | |
| | 9 | 倉敷市の三吉鉱山で我が国初のウラン鉱床が発見される。 | |
| 昭和30年 (1955) | 11 | 人形峠でウラン鉱床の露頭が発見される。 | |
| 昭和31年 (1956) | 11 | 日本興油(株)が水島港整備後の最初の企業として水島に立地。以後、石油精製、電力、鉄鋼、石油化学等の重化学工業の工場が多数立地する。 | |
| 昭和32年 (1957) | 6 | | 自然公園法を制定。 |
| | 8 | 上齋原村(現鏡野町)に原子燃料公社(後の動力炉・核燃料開発事業団。現日本原子力研究開発機構)人形峠出張所が開設される。 | |
| 昭和33年 (1958) | 2 | 倉敷市玉島で油臭のするアサリがとれる。 | |
| | 4 | | 下水道法を制定。 |
| | 12 | | 公共用水域の水質の保全に関する法律及び工場排水等の規制に関する法律を制定。 |
| 昭和34年 (1959) | 2 | 児島湾淡水湖化締切工事完工。 | |
| 昭和35年 (1960) | 7 | 岡山県公害対策調査会を設置。 | |
| 昭和36年 (1961) | 3 | | 三重県四日市市でぜん息患者が多発。 |
| 昭和37年 (1962) | | 備前市でブドウの葉枯れ、倉敷市でい草の先枯れが発生。 | |
| | 3 | 児島湾締め切り堤防が完成し、児島湖が誕生。 | |
| | 6 | | ばい煙の排出の規制等に関する法律(ばい煙規制法)を制定。 |
| | 10 | 岡山空港(現岡南飛行場)が開所。 | |
| | 12 | 県営寄島干拓事業に着手。 | |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国・全国の動き |
|-----------------|----|--|----------------------------------|
| 昭和38年 (1963) | 3 | | 狩猟法を改正し、鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律を制定。 |
| | 4 | | 大山隠岐が国立公園に指定される。 |
| | 11 | 県が、岡山市と倉敷市で硫黄酸化物及び降下ばいじん量の測定を開始。 | |
| 昭和39年 (1964) | 1 | 岡山県南地区が新産業都市に指定される。 | |
| 昭和40年 (1965) | 2 | 倉敷市が窒素酸化物の測定を開始。 笠岡市・井原市・芳井町を、備後地区工業整備特別地域に追加指定。 岡山県公害対策審議会を設置。 | |
| | 6 | 倉敷市呼松地区の住民が水島工業地帯の公害について県と市に抗議。 | |
| 昭和41年 (1966) | | 硫黄酸化物の発生源の通報連絡基準と自主規制等を内容とする「水島地区い草等農作物被害防止応急対策」を開始。 | |
| | 3 | 高梁川上流、吉備史跡を県立自然公園に指定。 | |
| | 4 | 倉敷市に一般環境大気測定局を設置。二酸化硫黄の自動測定が開始される。 | |
| | 9 | 県の木に「アカマツ」が決定。 | |
| | 10 | 岡山県公害防止条例(旧条例)を制定。 | |
| 昭和42年 (1967) | 1 | 岡山県企画部に公害課を設置。 | |
| | 8 | | 公害対策基本法を制定。 |
| | 9 | 通産省、県、倉敷市による、水島地区大気汚染防止対策協議会を設置。 岡山県大気汚染防止対策協議会を設置。 | |
| | 10 | | 動力炉・核燃料開発事業団発足。 |
| 昭和43年 (1968) | 3 | 倉敷市がばい煙規制法の指定地域となる。 県が倉敷市に大気汚染監視テレメータを設置し、常時監視測定を開始。(昭和45年4月、倉敷市公害監視センター設立に伴い廃止) 倉敷市水島地区大気汚染防止対策を公表。 | |
| | 6 | | 大気汚染防止法(硫黄酸化物K値第一次規制)及び騒音規制法を制定。 |
| | 10 | 笠岡湾干拓に着手。 | |
| 昭和44年 (1969) | 2 | | 硫黄酸化物に係る環境基準設定。 |
| | 4 | 移動測定車による大気測定開始。 | 氷ノ山後山那岐山が国定公園に指定される。 |
| | 5 | | 初めての「公害白書」が国会に提出される。 |
| | 9 | | 自動車排出ガス規制(一酸化炭素)が実施される。 |
| 昭和45年 (1970) | 2 | | 一酸化炭素に係る環境基準及び水質汚濁に係る環境基準設定。 |
| | 5 | 湯原奥津地域を県立自然公園に指定。 | |
| | 6 | | 公害紛争処理法を制定。 |
| | 7 | | 田子の浦港のヘドロ公害が問題となる。 |
| | 8 | 岡山県公害対策本部が発足。 高梁川水系、水島海域が、公共用水域の水質保全に関する法律に基づく指定水域となる。 | BHC、DDTの稲作への使用が全面禁止される。 |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国 ・ 全 国 の 動 き |
|-----------------|------------------------------|---|---|
| 昭和45年 (1970) | 10 | 岡山県公害防止条例の旧条例を廃止し、新条例を制定。 岡山県公害紛争処理条例を制定。 | |
| | 11 | 公害紛争処理法に基づき、岡山県公害審査会を設置するとともに、県の公害苦情相談員、公害監視員を設置。 | |
| | 12 | 水島地域公害防止計画を策定。 (計画期間：昭和46年～50年。以後、対象地域の見直しを受けながら、現在の岡山・倉敷地域公害防止計画に至る。) | いわゆる「公害国会」で、公害対策基本法、大気汚染防止法、騒音規制法等の大幅な改正及び水質汚濁防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)、人の健康に係る公害犯罪の処罰に関する法律等の制定など、公害関係法律多数が制定及び改正される。 |
| 昭和46年 (1971) | 2 | 旭川・吉井川水系、児島湾水域が、公共用水域の水質保全に関する法律に基づく指定水域となる。 | 「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」(ラムサール条約 ^(*))を採択。 |
| | 4 | 岡山県環境部を設置。 岡山県公害研究所が開所。 | |
| | 5 | | 騒音に係る環境基準設定。 |
| | 6 | | 悪臭防止法を制定。 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律の制定。 |
| | 7 | | 環境庁が発足。 第1回瀬戸内海環境保全知事・市長会議が神戸市で開催される。 |
| | 9 | 岡山県公害防止条例を改正。 | |
| | 10 | 県が、備前市のブドウ葉枯れの原因はフッ素系ガスの疑いと発表。 | |
| | 11 | 倉敷地区・備前地区農作物被害対策協議会が発足。 川崎製鉄(株)、水島共同火力(株)が、県、倉敷市と公害防止協定を締結。以後、県内の主要企業と協定を締結。 | |
| | 12 | 岡山県環境部に公害苦情処理局を設置。 大気汚染防止法に基づくばいじん排出基準(上乘せ)条例、水質汚濁防止法に基づく排出基準(上乘せ)条例、自然保護条例を制定。 | 水質汚濁に係る環境基準及び水域類型を設定。 |
| | 昭和47年 (1972) | 1 | 吉備路風土記の丘を県立自然公園に指定。 |
| 3 | | 山陽新幹線、新大阪-岡山間が開通。(昭和50年3月、全線開通) | |
| 5 | | 水島地域大気汚染夏期特別対策実施要綱を制定。 県内10市の都市公害対策協議会が発足。 備前市内の耐火煉瓦工場で排煙脱弗装置の稼働が始まる。 県酪農試験場に家畜ふん尿処理実験装置が完成。 | 環境庁が初の環境白書を公表。 |
| 6 | 水質汚濁防止法に基づく県の上乗せ排水基準条例が全面施行。 | 公害被害者の救済を図るため、大気汚染防止法が改正され、無過失損害賠償責任制度が導入される。 自然環境保全法を制定。 ストックホルムで「国連人間環境会議」開催。 「人間環境宣言」を採択。 | |
| 昭和48年 (1973) | 7 | 三菱石油(株)に県下初の排煙脱硫装置が設置される。 | |
| | 8 | 瀬戸内海に大量の赤潮が発生。 | |

| 年 | 月 | 岡山県の動き | 国・全国の動き |
|-----------------|--|---|--|
| 昭和48年 (1973) | 12 | 岡山県自然保護基本計画を策定。 | 国連環境計画(UNEP)設立。 |
| | 2 | 笠岡湾干拓の東堤防が締め切られる。 寄島干拓の潮止め工事が完成。 | |
| | 3 | 全国に先がけ、開発行為を許可制とする岡山県県土保全条例を制定。 岡山県立自然公園条例を制定。 | |
| | 4 | 備後地域公害対策協議会を設置。 | |
| | 5 | 松食い虫の被害が拡大し、県に駆除推進本部を設置。 | 二酸化窒素、光化学オキシダントに係る環境基準設定。二酸化硫黄に係る環境基準改定。 |
| | 6 | 岡山県水銀汚染対策推進本部を設置。 水島の4工場が県漁連等の要求を受け、水銀使用部門の操業を停止。(26日に操業停止。交渉妥結により28日から操業再開。) | 工場排水による水銀汚染魚騒ぎが起こる。 |
| | 7 | 岡山県公有水面埋立協議会が発足。 | |
| | 8 | 岡山県公害防止センターを設置。 | |
| | 10 | 岡山県公害防止センターに大気汚染監視テレメータ中央局を設置し、常時監視を開始。(環境47局、発生源8工場) | 瀬戸内海環境保全臨時措置法、公害健康被害補償法を制定。 |
| | 11 | 塩滝(落合町)と大平山権現山(有漢町)が県自然環境保全地域に、竜の口(岡山市)が県環境緑地保護地域に、大滝山(備前市)ほか4箇所が県郷土自然保護地域に、曹源寺の松並木(岡山市)ほか3箇所が県郷土記念物に指定される。 | |
| 12 | 全国に先がけ、行政指導による水島地域の硫黄酸化物及び窒素酸化物の総量規制を実施。 | 航空機騒音に係る環境基準を設定。 | |
| 昭和49年 (1974) | 1 | 県が、児島湖流域下水道計画を発表。 岡山県農業試験場がい草の先枯れは硫黄酸化物が原因と発表。 | |
| | 5 | 備前海域、玉野・児島・笠岡・牛窓の各海域、倉敷川、笹ヶ瀬川等の中小重要河川が公共用水域の水質保全に関する法律に基づく指定水域となる。 | |
| | 6 | 岡山県警察本部が瀬戸内海汚濁事犯取締本部を設置。 | 大気汚染防止法が改正され、硫黄酸化物に係る総量規制制度を導入。 |
| | 9 | 笠岡・福山両市区域の大気汚染防止について、岡山県と広島県が覚書を交換。 岡山県公害防止条例施行規則を一部改正。 | 総水銀、アルキル水銀の水質環境基準強化。 |
| | 10 | (財)岡山県環境保全事業団を設立。中国自動車道、美作-落合間が開通。(昭和53年10月、県内全線開通) | |
| | 11 | 倉敷市水島地区が硫黄酸化物に係る総量規制地域に指定される。 水島の企業の硫黄酸化物による県南一帯のい草先枯れ被害の補償問題が解決。(1万3000戸を対象に総額10億3000万円を支払う) | |
| | 12 | 三菱石油水島製油所で、大量の重油流出事故が発生。流出量は4万4000kLに上り、瀬戸内海東半分に広がった。 備後地域公害防止計画を策定。(現在に至る。) | |
| 昭和50年 (1975) | 2 | 岡山県大気汚染緊急対策実施要綱を施行。県が緑化総合計画を作成。 | PCBに係る水質環境基準を設定。 |
| | 4 | 県・沿線市町・国鉄で、新幹線騒音問題連絡会議を設立。 | |
| | 7 | 岡山県立森林公園が開園。 | 新幹線鉄道騒音に係る環境基準を設定。 新幹線鉄道振動対策指針値が示される。 |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国・全国の動き |
|-----------------|---------|--|---------------------------------------|
| 昭和50年 (1975) | 8 | 香川県直島町にある三菱金属直島製錬所の越境公害問題で、岡山・香川両県、玉野市、直島町の4者が環境保全確認書に調印。 | |
| | 10 | | 環境庁が瀬戸内海富栄養化の調査に着手。 |
| | 12 | 公害病地域として、水島・児島地区の一部、玉島乙島、玉野市日比・向日比・渋川、備前市の片上湾周辺が指定される。 水島以外の倉敷市が硫黄酸化物総量規制地域に指定される。 | |
| 昭和51年 (1976) | 1 | 県が、瀬戸内海の富栄養化対策のため、1日50t以上産業廃水を排出する175工場に窒素、りん削減を要請。 第1回目の岡山県公害健康被害認定審査会を開催。 | |
| | 2 | 岡山・備前地域公害防止計画を策定。(昭和60年度、地域見直しにより岡山地域公害防止計画となる。) | |
| | 3 | 笠岡湾干拓の干陸開始式が行われ、排水が始まる。 | |
| | 4 | 岡山県公害防止センターと衛生研究所を統合し、岡山県環境保健センターを設置。 三菱化成工業(株)(現三菱化学(株))に県下初の排煙脱硝装置が設置される。 | |
| | 6 | | 振動規制法を制定。 |
| | 12 | 岡山県産業廃棄物処理基本計画を策定。 | |
| 昭和52年 (1977) | 1 | | 社団法人瀬戸内海環境保全協会が設立。 |
| | 2 | 県が、県中部を横断する中国自然歩道の県内ルート案を発表。 | |
| | 3 | 県が、石油コンビナート等防災計画を定める。 | |
| | 4 | 山陽新幹線沿線地域に新幹線鉄道騒音に係る環境基準をあてはめ。 | |
| | 5 | 岡山県、広島県等が、福山・笠岡地域硫黄酸化物排出許容総量等の設定に合意。 岡山県環境保全事業団が産業廃棄物処分場(水島)の建設に着手。 成羽町(現高梁市)吹屋の町並みが重要伝統的建造物群保存地区に選定される。 | |
| | 6 | 倉敷市に係る硫黄酸化物総量削減計画を策定。 | |
| | 8 | | 国連砂漠化防止会議開催。砂漠化防止行動計画を採択。 |
| | 9 | 備前市に係る硫黄酸化物総量削減計画を策定。 | |
| 昭和53年 (1978) | 1 | 瀬戸大橋に係る環境影響評価書(案)に関する知事意見書を本四公団総裁に回答。 | |
| | 5 | | 瀬戸内海の環境保全に関する基本計画を策定。 |
| | 6 | | 瀬戸内海環境保全臨時措置法を瀬戸内海環境保全特別措置法に改正し、恒久法化。 |
| | 7 | | 二酸化窒素に係る環境基準を改定。 |
| | 8 | 吉備高原都市、前期事業実施計画がまとまる。 | |
| | 9 | 瀬戸大橋の環境保全協定が岡山・香川両県の関係6自治体と本州四国連絡橋公団の間で締結される。 岡山県、香川県が、玉野市、直島町の硫黄酸化物排出総量の設定等に合意。 | |
| 10 | 瀬戸大橋着工。 | | |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国 ・ 全 国 の 動 き |
|-----------------|-----------------|--|--|
| 昭和53年 (1978) | 11 | 県は、新岡山空港基本計画調査結果に基づき、岡山市日応寺地区を新岡山空港候補地に決定。 | |
| | 12 | 環境保全に関する環境影響評価指導要綱を制定。 | |
| 昭和54年 (1979) | 3 | 国の天然記念物に鯉が窪湿性植物群落(旧哲西町)が指定される。 | |
| | 5 | 水島に岡山県環境保全事業団の産業廃棄物処分場が完成。 | |
| | 7 | 県、上齋原村(現鏡野町)、動力炉・核燃料開発事業団(現日本原子力研究開発機構)との間で、人形峠事業所周辺環境保全等に関する協定書を締結。 岡山県環境保健センターに環境放射線監視テレメータシステムが完成し、動燃人形峠事業所周辺の環境放射線の監視を開始。 | |
| | 9 | 動燃人形峠事業所で、ウラン濃縮試験工場が運転を開始。 | |
| | 10 | | 滋賀県で琵琶湖富栄養化防止条例を制定し、合成洗剤を追放。 |
| | 11 | 岡山県郷土文化財団を設立。 | |
| | 12 | 備作山地地域を県立自然公園に指定。 | |
| | 昭和55年 (1980) | 2 | 岡山県合成洗剤対策推進要綱を制定し、石けん等の使用を普及させるために必要な事項を定める。 |
| 3 | | COD総量削減計画(第1次)を策定。 | |
| 5 | | りん及びその化合物に係る削減指導方針(第1期)を策定。 | 幹線道路の沿道の整備に関する法律を制定。 |
| 昭和56年 (1981) | 2 | 岡山県、広島県等が、福山・笠岡地域窒素酸化物排出許容総量等の設定に合意。 | |
| | 3 | 岡山県自然海浜保全地区条例を制定。 | |
| | 4 | 岡山県環境部と衛生部を統合し、環境保健部を設置。 岡山県自然保護推進員設置要綱を制定。 | |
| | 5 | 吉備高原都市の建設に着手。 邑久町(現瀬戸内市)大平山に「野鳥の森」が完成。 県が、第2次総合緑化計画を策定。 倉敷地域窒素酸化物総量削減計画を策定し、行政指導による総量規制を実施。 | |
| | 6 | | 窒素酸化物に係る総量規制制度を導入。 |
| | 7 | 瀬戸内海環境保全特別措置法に基づき、瀬戸内海の環境の保全に関する県計画を公表。 | |
| | 11 | 本州四国連絡橋公団が岡山県等の要請を受け、景観上の配慮から瀬戸大橋の鷺羽山地区をオープンカットではなくトンネル方式に変更。 | |
| | 昭和57年 (1982) | 3 | 西脇、宝伝、銚島、北木島楠及び北木島西の浦を自然海浜保全地区に指定。 |
| 5 | | | ばいじん排出規制を強化。 |
| 6 | | 児島湖流域下水道浄化センターの建設工事に着手。 | |
| 7 | | 県が、空き缶散乱防止対策会議を設立。 | |
| 12 | | | 湖沼の窒素及びりんに係る環境基準を設定。 |
| 昭和58年 (1983) | 1 | 中国自然歩道の県内ルートが完成。 | |
| | 3 | 旭川中流地域を吉備清流県立自然公園に指定。 沙美東及び前泊海岸を自然海浜保全地区に指定。 | |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国・全国の動き |
|-----------------|----|---|---|
| 昭和58年 (1983) | 5 | | 浄化槽法を制定。 |
| | 9 | 新岡山空港の本体造成工事に着手。 | |
| | 11 | 倉敷市の公害病認定患者等が、水島コンビナート大手企業8社を相手取り、大気汚染物質の排出差し止めと損害賠償を求め、岡山地裁に提訴(倉敷公害訴訟第1次訴訟)。 | |
| 昭和59年 (1984) | 3 | 産業排水及び生活排水について窒素、りん等の排出抑制を図るため、岡山県公共用水域の富栄養化防止対策推進要綱を制定。 岡山県暴騒音規制条例を制定。 唐琴の浦を自然海浜保全地区に指定。 | |
| | 7 | | 湖沼水質保全特別措置法を制定。 トリクロロエチレン等の排出に係る暫定指導指針設定。 |
| | 8 | 使用済み乾電池の効果的な回収を行うため、県と乾電池の卸・小売業界等による岡山県乾電池等対策協議会を設立。 | 環境影響評価実施要綱を制定。 |
| 昭和60年 (1985) | 1 | 環境庁の名水百選に塩釜冷泉(八束村・現真庭市)と雄町の冷泉(岡山市)が選ばれる。 | |
| | 3 | 名水百選に岩井(上齋原村・現鏡野町)が追加選定される。 | オゾン層 ^(*) の保護に関するウィーン条約 ^(*) を採択。 |
| | 4 | 騒音に係る環境基準のあてはめを開始。 | |
| | 5 | 岡山県環境保健センターの大気汚染監視テレメータシステムを更新し、大気汚染監視体制を強化。 | 水質汚濁防止法施行令が一部改正され、窒素、りんが規制される。 |
| | 6 | 県下の緑の少年隊の連携を深めるため、岡山県緑の少年隊連絡協議会を設立。 | |
| | 7 | 岡山県鷲羽山ビジターセンターが完成。 | |
| | 8 | 県が、町並み保存地区整備事業を開始。 | |
| | 12 | 勝山町(現真庭市)勝山地区を町並み保存地区に指定。 児島湖が湖沼水質保全特別措置法に基づく指定湖沼に指定される。 | |
| 昭和61年 (1986) | 2 | 岡山・備前地域公害防止計画の地域を見直し、岡山地域公害防止計画を策定。 | |
| | 3 | 第2次岡山県産業廃棄物処理計画を策定。 | |
| | 4 | 騒音規制法、振動規制法、悪臭規制法に基づく、それぞれの規制地域及び規制基準を設定。 | |
| | 5 | 県土利用の基本的指針となる、国土利用計画(岡山県計画)を策定。 りん及びその化合物に係る削減指導方針(第2期)を策定。 | |
| | 6 | 児島湖浄化対策本部を設置。 | |
| | 7 | 人形峠アトムサイエンス館が開館。 | |
| | 8 | 岡山県児島湖浄化対策推進協議会が発足。 | |
| | 11 | 倉敷市下津井地区を町並み保存地区に指定。 | |
| 昭和62年 (1987) | 1 | 渋川海岸(玉野市)が白砂青松百選に選定される。 | |
| | 2 | 県が「児島湖に係る湖沼水質保全計画」(第1期)を策定。 | |
| | 3 | 化学的酸素要求量に係る汚濁負荷量規制基準を設定。 | |
| | 5 | 岡山城跡と岡山後楽園が国の史跡に指定される。 COD総量削減計画(第2次)を策定。 | |
| | 6 | | 絶滅のおそれのある野生動植物の譲渡等の規制に関する法律を制定。 |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国 ・ 全 国 の 動 き |
|-----------------|----|---|---|
| 昭和62年 (1987) | 8 | 児島湖浄化対策推進協議会が「児島湖浄化推進月間」を実施。 高梁市の「美観地区道路」が日本の道百選に選定される。 | |
| | 9 | | オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書 ^(*) を採択。 |
| | 10 | 大原町(現美作市)古町地区を町並み保存地区に指定。 | |
| | 12 | 瀬戸内海の環境の保全に関する県計画の一部を変更。 | |
| 昭和63年 (1988) | 3 | 新岡山空港が開港。旧空港は岡南飛行場に改称。 岡山県景観条例を制定。 | |
| | 4 | 瀬戸大橋が開通。瀬戸大橋鉄道騒音が社会問題化。 | |
| | 5 | | 特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律を制定。 |
| | 8 | 上齋原村(現鏡野町)中津河捨石堆積場で自然界レベルより高い放射線量を検出し、動燃に恒久対策を講じさせる。 | |
| 平成元年 (1989) | 2 | 県が、ゴルフ場における農薬の安全使用に関する指導要領を策定。 | |
| | 3 | 岡山県鳥獣生息分布調査報告書を作成。 水島地域公害防止計画と岡山地域公害防止計画を統合し、岡山・倉敷地域公害防止計画を策定、現在に至る。 | 水質汚濁防止法施行令を一部改正し、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンを有害物質に指定。 |
| | 4 | | 四塩化炭素の排出に係る暫定対策指導指針等を設定。 |
| | 6 | 児島湖の水質浄化活動への支援や水質浄化に関する調査研究を行う(財)児島湖流域水質保全基金を設立。 | 石綿を特定粉じんとして規制する大気汚染防止法を一部改正。 |
| | 9 | | 「地球環境保全に関する東京会議」開催。 |
| | 10 | 津山市城東地区を町並み保存地区に指定。 | |
| | 11 | 県は、景観に配慮した公共事業を行う上での指針となる「公共事業等景観形成基準」を策定。 美星町(現井原市)が全国に先がけて、「美しい星空を守る美星町光害防止条例」を制定。 | |
| | 12 | 瀬戸内海景観研究会が県知事に対し「瀬戸内海における景観の保全、形成を図るための共通の指針について(提言)」を提出。 | |
| 平成2年 (1990) | 1 | 高梁地区を岡山県景観条例に基づく景観モデル地区に指定。 | |
| | 3 | 笠岡湾干拓が完成。 岡山空港周辺地域に航空機騒音に係る環境基準をあてはめ。 | |
| | 5 | 県が、酸性雨の実態調査を県下10箇所を開始。 | ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁防止に係る暫定指導指針を設定。 |
| | 6 | | モントリオール議定書第2回締結国会合でフロン等の全廃を決定。生活排水対策を推進するため、水質汚濁防止法を一部改正。 |
| | 7 | 邑久町(現瀬戸内市)の産業廃棄物処分場で自然界レベルより高い放射線量を検出。 | |
| | 8 | 岡山市足守地区を町並み保存地区に指定。 | |
| | 10 | | 地球環境保全関係閣僚会議で、地球温暖化防止行動計画を決定。 |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国 ・ 全 国 の 動 き |
|----------------|----------------------------|---|--|
| 平成3年 (1991) | 2 | 建設省、県、関係市町村等で構成する岡山三川水質汚濁防止連絡協議会を設立。 県内の産業廃棄物処理業者が産業廃棄物の適正な処理等を推進するため、岡山県産業廃棄物協会を設立。 | |
| | 3 | 児島湖の総合的な環境保全を目的とした児島湖環境保全条例を制定。 吉井川中流域を県立自然公園に指定。 COD総量削減計画(第3次)を策定。 | |
| | 4 | | 再生資源の利用の促進に関する法律を制定。 |
| | 5 | 建部町(現岡山市)で「全国野鳥保護のつどい」を開催。 りん及びその化合物に係る削減指導方針(第3期)を策定。 | |
| | 7 | 児島湖環境保全審議会が発足。(平成6年7月に環境審議会に合併) | 水質汚濁防止法施行令を一部改正し、トリクロロエチレン又はテトラクロロエチレンに係る特定施設を追加。 |
| | 8 | | 土壌の汚染に係る環境基準を設定。 |
| | 10 | | 廃棄物処理法の一部改正。 |
| | 11 | 岡山県自然保護センターを佐伯町(現和気町)に開設。 県が環境影響評価項目に地球環境保全対策を追加。 児島湖流域の環境保全に関する基本方針を策定。 | |
| 平成4年 (1992) | 1 | 公用車としては初の電気自動車を岡山県環境保健センターに配置。 | |
| | 3 | 県が、児島湖に係る湖沼水質保全計画(第2期)を策定。 | |
| | 5 | 県域レベルで地球環境保全に貢献することを目的とした「県における地球環境問題への取組方針」を策定。 | 気候変動枠組条約を採択。 |
| | 6 | 岡山後楽園、成羽町吹屋地区、旧閑谷学校の背後地などを県景観条例に基づく背景保全地区に指定。 瀬戸内海の環境の保全に関する県計画の一部を変更。 | 「地球環境開発会議」(地球サミット)を開催。 生物多様性条約、アジェンダ21等を採用。 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律を制定。 自動車NOx法を制定。 |
| 12 | 県が「地球環境保全に配慮した県事業等の指針」を策定。 | | |
| 平成5年 (1993) | 3 | 県議会が、環境に配慮した行動を通じて人と他の生物との共存共栄を図ることを目的とする「環境宣言」を決議。 窒素含有量及び燐含有量に係る汚濁負荷量規制基準を設定。 | 水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準の項目を追加。 |
| | 6 | | 悪臭防止法施行令を一部改正し、10物質を追加。 水質汚濁防止法施行令を一部改正し、海域の窒素及びりんの排水基準を設定。 |
| | 7 | 生活排水対策に重点を置いた清流保全対策を行うため、湯原ダム・旭川ダムの流域及び新成羽川ダムの流域にそれぞれ水質浄化対策推進協議会を設立。 吉備高原都市の前期事業が完成。 | |
| | 11 | 矢掛町矢掛地区を町並み保存地区に指定。 | 環境基本法を制定。 |
| | 12 | | 水質汚濁防止法施行令を一部改正し、13項目の有害物質を追加。 生物の多様性に関する条約発効。 |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国・全国の動き |
|----------------|----|--|--|
| 平成6年 (1994) | | 玉野市と倉敷市にまたがる洪川・王子が岳地区を県景観条例に基づく景観モデル地区に指定。 | |
| | 3 | 倉敷公害訴訟第1次訴訟の一審判決。工場排煙による因果関係を認め、企業8社に約1億9千万円の支払いを命じる。(控訴) 県が、自然保護のため毛無山(新庄村)周辺に広がるブナ林約191haを買収。 県が、「地球にやさしい地域づくり指針」を策定。 | |
| | 4 | 岡山県環境保健部を環境部門と保健部門に分離し、環境部門を地域振興部に移す。 | |
| | 6 | | 第1回「環境の日」のキャンペーンが開催される。 |
| | 7 | | 瀬戸内海の環境保全に関する基本計画の一部を変更。 |
| | 8 | 新庄村新庄地区を町並み保存地区に指定。 | |
| | 9 | | 廃棄物処理法等を一部改正し、有害物質を追加。 |
| | 12 | | 第一次環境基本計画を閣議決定。 |
| 平成7年 (1995) | 3 | 第3次岡山県産業廃棄物処理計画を策定。 公募により「県民の鳥」をホトトギスからキジに変更。 | |
| | 4 | 岡山県建設副産物対策基本計画(おかもやまりサイクルプラン21)を策定。 | 悪臭防止法施行令を一部改正し、臭気指数規制を導入。 |
| | 6 | | 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律(容器包装リサイクル法)を制定。 |
| | 7 | 県が景観モニター制度を導入。92人の景観モニターを委嘱。 | |
| | 8 | 行政機関と家電販売店などによる、岡山県フロン回収等推進会議を発足。 | |
| | 9 | 倉敷市玉島地区を町並み保存地区に指定。 | |
| | 10 | | 地球環境保全に関する関係閣僚会議で、生物多様性国家戦略を決定。 |
| | 12 | | 在来鉄道の騒音対策指針を設定。 |
| 平成8年 (1996) | 2 | 中国四国農政局が、児島湖へドロしゅんせつ工事を開始。 | |
| | 3 | 岡山県自然保護基本計画(第2次)を策定。 岡山県緑の環境づくり計画を策定。 | |
| | 4 | 岡山県地域振興部に環境保全局を設置。 「廃冷蔵庫等からのフロン回収マニュアル」を作成。 | |
| | 5 | | 大気汚染防止法を一部改正し、有害大気汚染物質対策推進の規定を整備。 |
| | 6 | | 水質汚濁防止法の一部改正。 |
| | 7 | 「日本の音風景百選」に「諏訪洞・備中川のせせらぎと水車」(北房町・現真庭市)と「新庄宿の小川」(新庄村)が選定される。 「日本の渚・百選」に洪川海岸(玉野市)と沙美海岸(倉敷市)が選定される。 COD総量削減計画(第4次)を策定。 窒素及びその化合物並びにりん及びその化合物に係る削減指導方針(第4期)を策定。 | |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国 ・ 全 国 の 動 き |
|-----------------|----|--|--|
| 平成8年 (1996) | 8 | 児島湖に流入する笹ヶ瀬川、倉敷川、妹尾川の河口付近で「淡水赤潮」が異常発生。 | |
| | 10 | 岡山県環境基本条例を制定。 | |
| | 12 | 倉敷公害訴訟が、被告企業8社の和解金13億9千200万円の支払いにより13年ぶりに和解成立。 | |
| 平成9年 (1997) | 2 | 岡山県分別収集促進計画を策定。 | ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンによる大気汚染に係る環境基準を設定。 |
| | 3 | 岡山県清流保全総合指針(おかやま清流ガイドライン)を策定。 児島湖水辺環境整備基本計画を策定。 児島湖に係る湖沼水質保全計画(第3期)を策定。 | 地下水の水質汚濁に係る環境基準を設定。 |
| | 4 | 岡山県環境基本条例を施行。 | 容器包装リサイクル法本格施行。 瀬戸内海の全窒素及び全りんに係る環境基準の水域類型指定(播磨灘北西部、水島港区水島地先海域、備讃瀬戸(イ)(ロ)(ハ))。 |
| | 6 | | 環境影響評価法を制定。 廃棄物処理法の一部改正公布。 |
| | 8 | | ダイオキシン類の規制のため廃棄物の処理及び清掃に関する法律、大気汚染防止法の省令等改正。 |
| | 9 | 瀬戸内海の環境の保全に関する県計画の一部を変更。 | ダイオキシン類の大気環境指針値の設定。 |
| | 12 | | 地球温暖化防止京都会議(COP3)が開催され、「京都議定書」を採択。 |
| 平成10年 (1998) | 2 | 岡山県フロン回収・処理推進協議会を設置。 | |
| | 3 | 岡山県環境基本計画(エコビジョン2010)を策定。 平成9年版岡山県環境白書を作成(以後、毎年作成)。 瀬戸内海の全窒素及び全りんに係る環境基準の水域類型指定(児島湾、児島湾沖、牛窓地先海域)。 岡山県ごみ処理広域化計画を策定。 「日本の水浴場55選」に渋川海水浴場が選定される。 | |
| | 4 | 岡山県地域振興部を再編整備し、生活環境部を設置。 | |
| | 6 | | 特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)を制定。 |
| | 9 | | 騒音に係る環境基準を改正。 |
| | 10 | | 核燃料サイクル開発機構発足。 |
| | 11 | グリーンオフィス推進プログラム(GOP)を策定。 | |
| | 12 | | ダイオキシン暫定排出基準の施行。 |
| 平成11年 (1999) | 2 | | 人の健康の保護に関する環境基準及び地下水の水質に係る環境基準項目に硝酸性窒素及び亜硝酸窒素、ほう素、ふっ素の3項目を追加。 |
| | 3 | 岡山県環境影響評価等に関する条例を制定。 岡山県フロン回収・処理マニュアルを策定。 騒音に係る新環境基準の類型指定を見直し。 | |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国・全国の動き |
|-----------------|----|---|--|
| 平成11年 (1999) | 4 | グリーンオフィス推進プログラムを出先機関を含め全面实施。 騒音に係る新環境基準の類型指定を施行。 | 騒音に係る新環境基準を施行。 地球温暖化対策の推進に関する法律 ^(※) を全面实施。 |
| | 6 | 岡山県環境影響評価等に関する条例を施行。 | 環境影響評価法を施行。 |
| | 7 | リサイクル推進店制度を創設。 第2期岡山県分別収集促進計画を策定。 | |
| | 9 | 岡山県アイドリングストップ指針を策定。 | |
| | 12 | 岡山県フロン回収実施店表示制度を発足。 | 原子力災害対策特別措置法を制定。 |
| 平成12年 (2000) | 1 | | ダイオキシン類対策特別措置法を施行。 尼崎公害訴訟判決。 |
| | 3 | 第4次岡山県産業廃棄物処理計画を策定。 岡山エコ・ドライブ2010を公募(平成13年3月末まで)。 ツキノワグマ保護管理計画(平成12年度～14年度)を策定。 | 特定化学物質の環境への排出量の把握等 及び管理の改善の促進に関する法律(P R T R法)を部分施行。 |
| | 4 | | 自動車騒音の要請限度を定める省令(改 正)を施行。 容器包装リサイクル法を完全実施。 |
| | 6 | | 廃棄物処理法を一部改正。 食品循環資源の再利用等の促進に関する 法律(食品リサイクル法)を制定。 浄化槽法を一部改正(単独処理浄化槽の 原則禁止)。 循環型社会形成推進基本法を制定。 |
| | 8 | 岡山県環境マネジメントシステムに係る環境方針及び環境目 的・目標を設定しシステムの運用を開始。 | |
| | 9 | 第12回「星空の街・あおぞらの街」全国大会を美星町(現井原 市)で開催。 | |
| | 12 | | 第二次環境基本計画を閣議決定。 瀬戸内海の環境保全に関する基本計画を 変更。 |
| 平成13年 (2001) | 1 | | 循環型社会形成推進基本法を全面实施。 国等による環境物品等の調達の推進等に 関する法律(グリーン購入法)を部分施行。 |
| | 2 | 県本庁舎の事務事業を対象とする岡山県環境マネジメントシ ステムについて、ISO14001を取得。 | |
| | 3 | 岡山県自然保護基本計画(第3次)を策定。 岡山県みどりの総合基本計画(グリーンプラン2010)を策定。 臭気指数規制を行う地域(赤坂町の一部のほか2町)を県内で 初めて指定。(平成13年10月施行) 平成13年選定「日本の水浴場88選」に渋川海水浴場が選定され る。 グリーンオフィス推進プログラム(GOP)を地球温暖化防止 実行計画として全面改正。(第2期計画) 人形峠環境技術センターにおけるウラン濃縮原型プラントの 役務運転終了。 | 土壌の汚染に係る環境基準項目にふっ素 及びほう素の2項目を追加。 |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国・全国の動き |
|-----------------|----|--|--|
| 平成13年 (2001) | 4 | | 家電リサイクル法を全面施行。 ジクロロメタンによる大気汚染に係る環境基準を設定。 資源の有効な利用の促進に関する法律を全面施行。 グリーン購入法全面施行。 |
| | 5 | | 食品リサイクル法を全面施行。 |
| | 6 | | 自動車NOx法を改正した自動車NOx・PM法を制定。 ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(PCB特措法)を制定。 |
| | 7 | | 水質汚濁防止法施行令を一部改正し、ほう素、ふっ素、アンモニア等の3項目を有害物質に追加し、石炭を原料とする火力発電施設のうち廃ガス洗浄施設を特定施設に追加。 |
| | 12 | | 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収・破壊法)を部分施行。 |
| 平成14年 (2002) | 2 | 「児島湖総合水質改善対策専門家検討会」報告。 | |
| | 3 | 児島湖に係る湖沼水質保全計画(第4期)を策定。 岡山県フロン回収・処理推進協議会を廃止し、岡山県フロン回収・処理推進連絡会議を設置。(平成14年4月施行) 岡山県におけるタンチョウ将来構想を策定。 岡山県地球温暖化防止行動計画を策定。 岡山県廃棄物処理計画を策定。 | 新地球温暖化対策推進大綱決定。 毛無地域1,174haを大山隠岐国立公園に編入。 地球環境保全に関する関係閣僚会議で新・生物多様性国家戦略を決定。 |
| | 4 | 岡山県快適な環境の確保に関する条例を施行。 岡山県環境への負荷の低減に関する条例(環境負荷低減条例)を施行。 岡山県循環型社会形成推進条例を施行。 | PRTR法を本格施行。 フロン回収破壊法を本格施行。 |
| | 5 | 岡山県地球温暖化防止活動推進センターを指定。 | 土壌汚染対策法成立。 建設リサイクル法を全面施行。 |
| | 6 | | 地球温暖化対策の推進に関する法律を一部改正。 京都議定書締結。 |
| | 7 | 水質総量削減計画(第5次)策定。 瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画を改定。 第3期岡山県分別収集促進計画を策定。 | ダイオキシン類対策特別措置法に基づく底質環境基準を設定。 鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律を改正し、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律を制定。 使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)を制定。 |
| | 8 | 岡山県地球温暖化防止活動推進員を委嘱。 「エコパートナーシップおかやま」設立。 | |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国 ・ 全 国 の 動 き |
|-----------------|-----------------|--|--|
| 平成15年 (2003) | 9 | アースキーパーメンバーシップ制度を創設。 | 持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)を開催。実施計画、持続可能な開発に関するヨハネスブルグ宣言等を採択。 |
| | 10 | 環境負荷低減条例中、ベンゼン規制、アイドリング・ストップ、 廃食用油排出禁止を施行。 第5次水質総量規制基準を施行。 岡山県再生品の使用の促進に関する指針を施行。 | フロン回収破壊法を全面施行。 |
| 平成15年 (2003) | 11 | 「おかやまの自然百選」を選定。 | |
| | 2 | | 土壌汚染対策法を施行。 |
| | 3 | 岡山県環境基本計画(エコビジョン2010)を改訂。 ツキノワグマ保護管理計画(平成15年度～18年度)を策定。 ニホンジカ保護管理計画(平成15年度～18年度)を策定。 県が毛無山(新庄村)のブナ林約70haを追加買収。 岡山県版レッドデータブック発刊。 岡山県エコ製品の認定を開始。 ごみゼロガイドライン(汚泥編)を策定。 | |
| | 4 | 岡山県産業廃棄物処理税条例を施行。 岡山県グリーン調達ガイドラインを策定。 | 自然公園法を一部改正。 |
| | 6 | | 廃棄物処理法を一部改正。 特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法(産廃特措法)を制定。 |
| | 7 | 岡山県立自然公園条例を一部改正。 | 環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律を制定。 |
| | 8 | | 銚子・坊子島(玉野市)及び住吉島(備前市)を瀬戸内海国立公園に編入。 |
| | 9 | | アクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、水銀及びニッケル化合物について有害大気汚染物質に係る指針値を設定。 |
| | 10 | 「環境おかやま大賞」を創設。 | |
| | 11 | | 水生生物の保全に係る水質環境基準を設定。 全亜鉛を環境基準に追加。 |
| | 12 | 岡山県希少野生動植物保護条例を制定。 | |
| | 平成16年 (2004) | 2 | 岡山エコ事業所認定制度を創設。 |
| 3 | | ごみゼロガイドライン(鉱さい編)を策定。 岡山県循環資源総合情報支援センターとして(財)岡山県環境保全事業団を指定。 岡山エコタウンプランを策定。 | |
| 4 | | | 廃棄物処理法を一部改正。 |
| 5 | | 「瀬戸内海国立公園指定70周年記念のつどい」を開催。 | 大気汚染防止法を一部改正(揮発性有機化合物規制の導入)。 |
| 6 | | | 景観法を制定。 環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律を制定。 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)を制定。 |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国 ・ 全 国 の 動 き |
|-----------------|-----------------|--|--|
| 平成16年 (2004) | 10 | 景観保全のため県が総社市上林の吉備路風土記の丘北駐車場用地を買収。 | |
| | 12 | | (独)日本原子力研究開発機構法を制定。 |
| 平成17年 (2005) | 1 | | 自動車リサイクル法を全面施行。 |
| | 2 | | 京都議定書発効。 |
| | 3 | ごみゼロガイドライン(ばいじん・燃え殻編)を策定。 | |
| | 4 | 環境負荷低減条例中、ディーゼル自動車粒子状物質削減規定を施行。 | 京都議定書目標達成計画決定。 |
| | 5 | | 浄化槽法を一部改正。 廃棄物処理法を一部改正。 |
| | 7 | 第4期岡山県分別収集促進計画を策定。 | |
| | 10 | 産業廃棄物処理業者の評価制度を導入・実施。 | 国内7箇所に地方環境事務所が設置。 |
| | 12 | | 大気汚染防止法を一部改正。 (アスベスト関係規制強化) |
| 平成18年 (2006) | 1 | 岡山県アスベスト対策協議会を設立。 | |
| | 2 | | 廃棄物処理法を一部改正。 大気汚染防止法等アスベスト関係法令を一部改正。 |
| | 3 | イノシシ保護管理計画(平成18年度)を策定。 グリーンオフィス推進プログラム(GOP)を全面改正(第3期計画)。 | 石綿による健康被害の救済に関する法律施行。 |
| | 4 | | 第三次環境基本計画を閣議決定。 |
| | 5 | 「快水浴場百選」に渋川海水浴場が選定される。 | |
| | 6 | | 容器包装リサイクル法を一部改正。 フロン回収・破壊法を一部改正。 鳥獣保護法を一部改正。 |
| 平成19年 (2007) | 3 | 第10次鳥獣保護事業計画を策定。 第3期ツキノワグマ保護管理計画を策定。 第2期ニホンジカ保護管理計画を策定。 第2期イノシシ保護管理計画を策定。 岡山県省エネルギービジョンを策定。 児島湖に係る湖沼水質保全計画(第5期)を策定。 児島湖の長期ビジョンを策定。 新岡山県ごみ処理広域化計画を策定。 第2次岡山県廃棄物処理計画を策定。 | エコツーリズム推進法を制定。 |
| | 6 | 水質総量削減計画(第6次)を策定。 同水質総量規制基準を設定。 | |
| | 7 | 第5期岡山県分別収集促進計画を策定。 | |
| | 8 | 不法投棄防止ネットワークおかやまを設立。 | |
| | 9 | 景観計画の策定。 岡山県景観条例の一部改正。 | |
| | 11 | | 第3次生物多様性国家戦略を閣議決定。 |
| | 12 | | 鳥獣被害防止特措法の制定。 |
| | 平成20年 (2008) | 2 | 新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)を策定。 ごみゼロガイドライン(廃プラスチック編)を策定。 |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国 ・ 全 国 の 動 き |
|-----------------|----|--|---|
| 平成20年 (2008) | 3 | 岡山県ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理計画を策定。 高梁川中流(1)の環境基準に係る類型指定を変更。 | |
| | 4 | 唐琴の浦自然海浜保全地区の区域を変更。 岡山県中北部大気汚染緊急時対策実施要領を施行。 | |
| | 5 | 瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画を改定。 | |
| | 6 | 環境省の「平成の名水百選」に夏日の極上水(新見市)が選ばれる。 | 生物多様性基本法を制定。 |
| | 7 | | 北海道洞爺湖サミット開催。 |
| | 12 | 環境負荷低減条例を一部改正。 | |
| 平成21年 (2009) | 3 | 化学的酸素要求量、窒素要求量及びりん含有量に係る汚濁負荷量規制基準の改正。 児島湾締切堤防完成50周年記念事業実施。 | 水質汚濁に係る環境基準項目に1,4-ジオキサン、地下水の水質汚濁に係る環境基準項目に塩化ビニルモノマー、1,2-ジクロロエチレン及び1,4-ジオキサンの3項目を追加。 |
| | 4 | 岡山県独自の新岡山県環境マネジメントシステムの運用を開始。 | 土壌汚染対策法を一部改正。 |
| | 6 | | 自然公園法及び自然環境保全法を一部改正。 |
| | 9 | | 国連気候変動サミット開催(ニューヨーク)。 微小粒子状物質による大気汚染に係る環境基準を設定。 |
| | 12 | | 第15回気候変動枠組条約締約国会議(COP15)開催(コペンハーゲン)。 |
| 平成22年 (2010) | 3 | 岡山県版レッドデータブック2009発刊。 | 生物多様性国家戦略2010を閣議決定。 |
| | 4 | 本庁組織再編に伴い、環境文化部を設置。 | |
| | 5 | | 廃棄物処理法を一部改正。 大気汚染防止法及び水質汚濁防止法を一部改正。 |
| | 6 | 岡山県統一ノーレジ袋デーの創設。 | |
| | 8 | 第6期岡山県分別収集促進計画を策定。 | |
| | 10 | 岡山県ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理計画を改定。 | 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催(名古屋)。 |
| | 11 | 環境負荷低減条例に基づく、一定規模以上の事業者による温室効果ガス排出削減計画の公表開始。 | |
| | 12 | | 地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律(生物多様性地域連携促進法)を制定。(平成23年10月施行) |
| 平成23年 (2011) | 3 | 環境負荷低減条例を一部改正。 岡山県自然保護条例及び岡山県自然公園条例を一部改正。 岡山県自然保護基本計画(第4次)を策定。 おかやま新エネルギービジョンを策定。 | |
| | 4 | | 環境影響評価法を一部改正。 |

| 年 | 月 | 岡 山 県 の 動 き | 国・全国の動き |
|-----------------|-----------------------|---|--|
| 平成23年 (2011) | 6 | | 水質汚濁防止法を一部改正。 環境保全活動・環境教育推進法を一部改正。 (環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律＝環境教育等促進法) |
| | 10 | 岡山県地球温暖化防止行動計画(区域施策編)を策定。 | |
| | 11 | 岡山県地球温暖化防止行動計画(事務事業編)(第4期グリーンオフィス推進プログラム)を策定。 | |
| 平成24年 (2012) | 2 | 水質総量削減計画(第7次)を策定。 第3次岡山県廃棄物処理計画を策定。 | |
| | 3 | 児島湖に係る湖沼水質保全計画(第6期)を策定。 環境負荷低減条例を一部改正。 第11次鳥獣保護事業計画を策定。 第4期ツキノワグマ保護管理計画を策定。 第3期ニホンジカ保護管理計画を策定。 第3期イノシシ保護管理計画を策定。 | |
| | 4 | | 第四次環境基本計画を閣議決定。 |
| | 7 | | 再生可能エネルギー固定価格買取制度開始。 |
| | 9 | | 生物多様性国家戦略2012—2020を閣議決定。 |
| | 平成25年 (2013) | 2 | 新岡山環境基本計画(エコビジョン2020)を改訂。 |
| 3 | 自然との共生おかやま戦略を策定。 | | |
| 5 | 岡山県電気自動車充電器設置ビジョンを策定。 | | |
| 6 | | フロン回収破壊法を一部改正。(2年以内に全面施行) | |
| 平成26年 (2014) | 3 | 新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)改訂版を一部修正。 | |

環境用語の解説

| | | |
|----|------------------|---|
| あ～ | ISO14001 | ISO(国際標準化機構、International Organization for Standardization)の環境マネジメントシステム(→)規格。Plan(計画)、Do(実行)、Check(点検・評価)、Ac(t)改善といった一連のPDCAサイクルを回すことによって継続的な環境改善を図る。 |
| | 愛鳥週間 | 5月10日から16日の1週間。この時期がちょうど野鳥の繁殖期に当たるため、この週間行事を通じて愛鳥の精神を普及しようとするもの。 |
| | アイドリング・ストップ | 駐停車中にエンジンを止めること。自動車は停止しているときでも排出ガスを出すため、大気汚染(→)、騒音(→)及び地球温暖化(→)を防止する観点から、岡山県環境への負荷の低減に関する条例で規制する等対策を推進している。 |
| | アオコ | 湖沼等の表層でプランクトンが大増殖し水面が着色する現象を水の華と呼ぶが、中でも藍藻類によって青い粉をふいたように見えるものがアオコ(青粉)である。また、渦鞭毛藻や黄緑藻によって水面が赤褐色ないし黄褐色になるものを淡水赤潮と呼び、海の赤潮(→)と基本的に同じ現象である。アオコは通常春から秋にかけて見られ、アオコを形成する藍藻類の中には毒素を作るものも確認されている。 |
| | 青潮 | 海水が硫黄を含む微粒子により白濁する現象。独特の腐卵臭を伴い、魚介類の大量死を引き起こすことがある。青潮は、富栄養化(→)により大発生したプランクトンの死骸などが海底のバクテリアで分解される際に、海砂利採取の深掘り跡など潮流の弱い場所では、溶存酸素が極端に少なく硫化水素を大量に含む水塊(貧酸素水塊)が形成され、これが強風などの影響で上昇すると、表層の酸素で硫化水素が酸化されて硫黄を含む微粒子になり、乳青色や乳白色を呈することで発生する。→赤潮 |
| | 赤潮 | 海域における富栄養化(→)に伴う現象のひとつで、海中のプランクトンの異常増殖により、海面が赤色や赤褐色に変わる現象。夏期に発生しやすく、魚介類のえらをつまらせたり酸欠状態にさせるため、漁業被害につながる。→青潮 |
| | 悪臭 | 嫌悪感のあるいやな臭いのことで、主として不快感などの感覚的影響が中心であり、生活環境に影響を及ぼす。典型7公害の一つとされ、悪臭防止法に基づき規制が行われている。→公害 |
| | アスエコ | 県民が誰でも気軽に利用できる環境学習センターとして、公益財団法人岡山県環境保全事業団が岡山市北区下石井に設置している施設の愛称。平成19年6月に開所した。 |
| | アースキーパーメンバーシップ制度 | 地球温暖化防止のための様々な環境負荷低減活動について、県民・事業者が自らの取組目標を定め、実行する会員を募集、登録して、地球温暖化防止活動の普及を図ることを目的に、平成14年9月に岡山県が創設した制度。 |
| | アスベスト | 石綿(イシワタまたはセキメン)ともいわれ、天然に産する鉱物繊維。耐熱性、耐薬品性、絶縁性等の諸特性に優れているため、建設資材、電気製品、自動車、家庭用品等多くの用途で使用されてきた。しかし、平成17年7月以降大手企業から健康被害についての公表がなされ、住民の健康への不安が高まったことから、吹付けアスベストやアスベスト含有保温材・断熱材等の除去について規制が強化されるとともに、平成18年9月から原則全面使用禁止となった。 |
| | アダプト | 県民・企業・各種団体等が道路や河川などの公共施設を養子(英語で adopt)とみなし、定期的な清掃や緑化活動を行う活動。 |
| い～ | 硫黄酸化物(SOx) | 石油や石炭など硫黄分を含んだ燃料や原料が燃えることにより発生する二酸化硫黄(SO ₂)、三酸化硫黄(SO ₃)、硫酸ミストなどの総称。二酸化硫黄は呼吸器への悪影響があり、ぜんそくなどを引き起こす。また、酸性雨の原因物質となる。このため、環境基本法に基づき環境基準が定められている。また、大気汚染防止法では排出基準を定め、さらに総量規制も実施している。 |

| | | |
|----|-------------------|---|
| い～ | 一酸化炭素(CO) | 炭素を含む燃料が不完全燃焼することにより発生し、主な排出源は自動車である。血液中のヘモグロビンと結合する性質が強く、酸素を運搬する機能を阻害するため、頭痛、耳鳴り、吐き気等を引き起こす。濃度が高いと生命が危険となる。 |
| | 一般廃棄物 | 家庭から排出される廃棄物など、産業廃棄物以外の廃棄物をいう。 |
| う～ | ウィーン条約 | 1985年3月、オーストリアのウィーンにおいて採択された条約で、正式には「オゾン層保護のためのウィーン条約」という。国際的に協調してオゾン層(→)やオゾン層を破壊する物質について研究を進めること、各国が適切と考える対策を行うこと等を定めている。→モントリオール議定書 |
| | ウォームビズ | 暖房時のオフィスの室温を20℃以下にした場合でも、ちょっとした工夫により「暖かく効率的に格好良く働くことができる」というイメージを分かりやすく表現した、秋冬の新しいビジネススタイルの愛称。重ね着をする、温かい食事を摂る、などがその工夫例。 |
| え～ | HFC(エイチエフシー) | ハイドロフルオロカーボンの略称。代表的な代替フロン(→)であり、冷媒、発泡剤、洗浄剤、噴射剤などとして使用されている。水素、フッ素及び炭素からなる物質で、塩素を含まないためオゾン層(→)を破壊することはないが、強い温室効果ガス(→)であるため京都議定書(→)による排出削減対象物質となっている。→地球温暖化、温室効果ガス、CFC、HCFC |
| | HCFC(エイチシーエフシー) | ハイドロクロロフルオロカーボンの略称。水素、塩素、フッ素及び炭素からなる物質で、冷媒、発泡剤、洗浄剤、噴射剤などとして広く使用されている。CFC(→)ほど強力ではないがオゾン層破壊物質であるため、先進国では、モントリオール議定書(→)に基づき2019年末までに新たな生産等を全廃することが定められている。また、強い温室効果ガス(→)でもある。→オゾン層、地球温暖化、HFC |
| | エコアクション21 | ISO14001規格をベースとして環境省が策定した、中小事業者、学校などでも取り組みやすい環境マネジメントシステム。 |
| | エコマーク | 消費者が環境に配慮した商品を選択するときの基準とするため、環境への負荷が少なく、あるいは環境の改善に役立つ環境に優しい製品を示すマーク。日本環境協会が審査し、認定された商品にマークをつけることが許される。→環境ラベル、グリーン購入 |
| | NPO | Non Profit Organization。日本語では、非営利組織と訳される。ここで非営利とは、対価を得ないという意味ではなく利益を分配しないという意味である。組織は、国または都道府県知事の認証を得て法人格を取得することができる。 |
| | LED | Light Emitting Diode。発光ダイオード。電圧を加えた際に発光する半導体素子で、電気エネルギーを直接光エネルギーに変換するため、エネルギー効率が高く長寿命という特長がある。 |
| お～ | 岡山県エコ製品 | 県内で現に製造・販売されている使用を促進すべき再生品であって、岡山県の定める認定基準を満たした製品。平成13年12月に制定した岡山県循環型社会形成推進条例に基づき、認定制度を創設し、平成14年10月から募集を開始した。→岡山県循環型社会形成推進条例 |
| | 岡山エコタウンプラン | 「岡山県循環型社会形成推進条例」の実行行動計画となる基本構想であり、先進的な環境と経済が調和したまちづくりを推進するためのプラン。具体的には、水島地域で育成された新技術により、産業廃棄物である建設木くずから高品位炭を製造する環境ビジネスを基軸として、「環境と調和したまちづくり」を推進するもの。全国で20番目のエコタウンプランとして、平成16年3月経済産業省、環境省の承認を受けた。 |
| | 岡山県快適な環境の確保に関する条例 | 落書き、空き缶等の投棄、自動車等の放置及び光害を防止することにより、美観や清潔さを保持し、きれいで快適な環境を実現することを目的に制定された条例。平成14年4月1日から施行された。 |
| | 岡山県環境影響評価等に関する条例 | 環境影響評価(→)及び環境管理が適切かつ円滑に行われるための手続等を定めた条例。平成11年3月19日に公布され、同年6月12日から全面施行された。 |

| | | |
|----|------------------------------|---|
| お～ | 岡山県環境基本計画 | 岡山県の環境の保全に関する施策を、総合的かつ計画的に推進するため、岡山県環境基本条例(→)第10条に基づき知事が定める計画。平成10年3月に策定、平成15年3月に改訂の後、平成19年度に前計画を全面的に見直した新岡山県環境基本計画を策定し、平成24年度に改訂を行った。現在の計画は社会情勢等の変化を踏まえ、平成25年2月に改訂したものであり、平成26年3月には晴れの国おかやま生き生きプラン策定に伴う一部修正を行っている。 |
| | 岡山県環境基本条例 | 県の環境の保全に関する基本的な事項を定めた条例。平成8年10月1日に制定され、平成9年4月1日から施行された。条例では、環境保全に関する基本理念を提示するとともに、県、市町村事業者及び県民の責務を明らかにし、施策の基本となる事項等を定めている。→岡山県環境基本計画、岡山県環境白書 |
| | 岡山県環境白書 | 岡山県環境基本条例(→)第8条に基づき、岡山県の環境の状況及び環境の保全に関して講じた施策等を明らかにするため、知事が毎年作成し公表するもの。 |
| | 岡山県環境への負荷の低減に関する条例(環境負荷低減条例) | 岡山県公害防止条例を全面的に見直し、公害の防止のための規制の措置だけでなく、事業活動及び日常生活における環境への負荷の低減に関し必要な事項を定めた条例。平成13年12月21日に公布され、平成14年4月1日から施行された。 |
| | 岡山県環境保全事業団 | 岡山県内において環境保全のための各種事業を展開し、県民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的として昭和49年に設立された公益財団法人。産業廃棄物最終処分場の設置・運営、各種調査分析、地球温暖化防止活動、コンサルティング事業などを行っている。 |
| | 岡山県再生品の使用促進に関する指針 | 平成13年12月に制定した岡山県循環型社会形成推進条例に基づき、再生品の使用を促進するため、使用を促進する再生品を明らかにするとともに、県、事業者、県民の取組み事項を定めたもの。平成14年10月15日から施行。 |
| | 岡山県産業廃棄物処理税 | 本県では、産業廃棄物の発生抑制、リサイクルの促進、最終処分量の減量化を図るため、平成15年4月1日から産業廃棄物処理税を導入している。納税義務者は、最終処分場に産業廃棄物を搬入する排出事業者(又は中間処理業者)。課税標準・税率は、最終処分場への搬入量1トンにつき1,000円。税収は、「産業活動の支援」、「適正処理の推進」、「意識の改革」に要する経費に充当。平成25年度末現在、岡山県を含め、27道府県・1政令市が産業廃棄物税を導入済み。 |
| | 岡山県循環型社会形成推進条例 | 廃棄物の発生抑制、資源の循環的な利用、適正な処分が確保されることにより、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会の形成を目的に制定された条例。平成13年12月21日に制定され、一部の規定を除き、平成14年4月1日から施行された。条例では、循環型社会の形成のために、県として重点的に取り組む施策を提示している。 |
| | 岡山県新エネルギービジョン | 新エネルギーの普及拡大を地球温暖化防止だけでなく産業振興や地域活性化に結びつけるため県民、市町村、民間企業等の多様な主体の協働による取組を加速することを目的に、全国に先駆け、平成23年3月に策定した計画。 |
| | 岡山県地球温暖化防止行動計画 | 県内の温室効果ガスの排出量削減目標や、各主体の排出抑制活動への施策など、県としての地球温暖化対策の全体像を明らかにした計画。 当初、平成14年に策定したが、計画目標年次の到来を受けて、平成23年10月に、平成32年度までを計画期間とした新たな計画を策定。 なお、県自身の事務事業に関する削減計画として、行動計画事務事業編を別途策定している。 |
| | 岡山県統一ノーレジ袋デー | 家庭ごみを減らす取組のひとつとして、また、県民一人ひとりが自らの生活を環境にやさしいエコ・ライフスタイルへと見直すきっかけとするため、岡山県では、平成12年からマイバッグ運動を推進してきた。 より一層レジ袋の削減に取り組むため、平成22年6月から、毎月10日を「岡山県統一ノーレジ袋デー」と定めて、事業者と消費者、環境団体等、行政(県・市町村)が協働して買い物の際に「レジ袋を受け取らないようにする運動」を展開している。 |

| | | |
|----|------------------|---|
| お～ | 岡山県廃棄物処理計画 | 循環型社会への転換を目指し、県内の廃棄物をめぐる情勢の変化、諸問題に適切に対処するため、今後の廃棄物・リサイクル施策に関する県行政の基本的方向を定めるものである。行政はもとより、事業者、処理業者などの関係者の指針とするため、県では平成14年3月に第1次の計画を策定したのち、平成19年3月に第2次計画を策定し、平成24年2月に第3次計画(目標年度は平成27年度)を策定している。 |
| | おかやま森づくり県民税 | 森林の保全を目的とした岡山県独自の税制として、平成16年2月、高知県に次いで全国2番目に導入した。個人は年額500円、法人は資本などの規模に応じて年額1,000円～4万円を県民税(均等割)に加算して納める仕組みとなっている。 |
| | オゾン層 | 成層圏に存在するオゾン(O ₃)の層。オゾン層は太陽光に含まれる有害な紫外線の大部分を吸収し地球上の生物を守っている。フロン、ハロン、トリクロロエタン、四塩化炭素などは、化学的に安定した物質であるため、大気中に放出されてもほとんど分解されずに成層圏に達し、成層圏では太陽からの強い紫外線によって分解されて塩素原子が放出され、これが触媒となってオゾン層を破壊する。オゾン層の破壊によって増加する紫外線は、白内障、皮膚がんの増加、皮膚免疫機能の低下など、人の健康に大きな悪影響を及ぼす。また、植物に対しても成長阻害、葉の色素の形成阻害などの悪影響を及ぼす。→ウィーン条約、モントリオール議定書、地球環境問題、特定フロン |
| | 温室効果ガス | GHG(Greenhouse Gases)と略される。太陽光により加熱された地表面は赤外線熱放射をするが、大気中には赤外線を吸収する気体があり、地球の温度バランスを保っている。これらの気体を温室効果ガスと呼ぶ。「地球温暖化対策の推進に関する法律」では、CO ₂ 、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素(三ふっ化窒素は平成27年4月1日追加)の6物質を温室効果ガスとしている。 |
| | 温泉 | 温泉法による温泉の定義は、温度が25℃以上あること若しくは一定の成分を1種類以上含有していることとなっている。鉱水、水蒸気、ガスも条件を満たせば温泉である。温泉湧出の目的でボーリングを行う場合等は都道府県知事の許可が必要である。 |
| か～ | 外来生物法 | 正式名称は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」といい、生態系、人の生命・身体、農林水産業に悪影響を与えるもの、与えるおそれのある侵略的な外来生物を 特定外来生物(→) として指定し、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いを規制するとともに防除等を行うことで、特定外来生物による生態系等に係る被害を防止することを目的とし、平成16年6月に制定され、平成17年6月から施行された。 |
| | 化学的酸素要求量(COD) | Chemical Oxygen Demand。水中の有機物を酸化剤で化学的に分解した際に消費される酸素の量で、湖沼、海域の有機汚濁を測る指標。有機汚濁物質が多くなると高い数値を示す。湖沼、海域では、植物プランクトンの光合成による酸素の影響等を避けるため、BODではなくCODが用いられる。→生物化学的酸素要求量(BOD) |
| | 合併処理浄化槽 | 生活排水のうちし尿と雑排水を併せて処理することができる浄化槽。これに対して、し尿のみを処理する浄化槽を単独処理浄化槽という。水質汚濁(→)の原因として生活排水(→)の寄与が大きくなっており、下水道の整備等と並んで、合併処理浄化槽の普及が求められている。 |
| | 環境影響評価(環境アセスメント) | 事業の実施が環境に及ぼす影響について、事業者自らが環境の構成要素ごとに調査、予測及び評価を行うとともに、その事業に係る環境の保全のための措置を検討し、その措置が講じられた場合における環境影響を総合的に評価すること。 |
| | 環境学習・環境教育 | かつての産業型公害が一定の改善を見たにもかかわらず、都市・生活型公害や地球環境問題(→)が顕在化してきた原因は、大量消費型となってしまった私たちの生活様式による面も大きい。こうした状況に対応するためには、従来の規制行政に加え、私たち一人ひとりが環境に配慮した生活や行動に心がけることが必要である。そのため、人間と環境との関わりについての学習、すなわち「環境学習・環境教育」の推進が重要となっている。 |

| | | |
|----|----------------------|---|
| か～ | 環境基準 | 健康保護と生活環境の保全の上で維持されることが望ましい基準として、物質の濃度や音の大きさというような数値で定められているもの。この基準は、公害防止対策を進めていく上での行政上の目標として定められるもので、ここまでは汚染してもよいとか、これを超えると直ちに被害が生じるといった意味で定められるものではない。典型7公害のうち、振動、悪臭及び地盤沈下を除く大気汚染、水質汚濁、土壌汚染及び騒音の4つについて環境基準が定められている。 |
| | 環境基本法 | 環境の保全に関し、国の政策の基本的な方向を示した法律で、平成5年11月に制定された。環境保全の基本理念や国、地方公共団体、事業者、国民の役割、基本的な政策の方向などを示している。 |
| | 環境月間 | 環境基本法で6月5日が環境の日とされているが、この日を含む6月中を環境月間とし、国、県、市町村、民間団体などによって各種普及啓発事業が行われている。 |
| | 環境税 | 環境に負荷を与える活動や製品を広く課税対象に捉える税で、CO ₂ 削減を主目的に1990年代初頭からヨーロッパ諸国で導入されており、炭素税(→)のほか排水、肥料、殺虫剤等への課税例がある。 |
| | 環境負荷 | 人が環境に与える負担のこと。単独では環境への悪影響を及ぼさないが、集積することで悪影響を及ぼすものも含む。環境基本法(→)や岡山県環境基本条例(→)では、環境への負荷とは「人の活動により環境に加えらるる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるもの」としている。 |
| | 環境マネジメントシステム(EMS) | 企業等の事業組織が環境法令等の規制基準を遵守するだけでなく、自主的、積極的に環境保全のためにとる行動を計画・実行・評価することであり、(1)環境保全に関する方針、目標、計画等を定め、(2)これを実行、記録し、(3)その実行状況を点検して、(4)方針等を見直すという一連の手続。 |
| | 環境ラベル | 消費者がより環境負荷(→)の低い製品やサービスを選択するための指標として制定されているマーク等で、環境配慮という新しい判断基準で製品選択をすることによって、企業活動や社会を資源循環型に変えるという効果が期待される。現在、ISO(国際標準化機構)では、環境ラベルをタイプⅠ、タイプⅡ、およびタイプⅢの3種類に分類して運用ルールなどの規格制定を進めている。代表例としては、エコマーク(→)、国際エネルギースタープログラムなど。→グリーン購入 |
| き～ | 気候変動に関する政府間パネル(IPCC) | Intergovernmental Panel on Climate Change。世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)との協力のもと、昭和63(1988)年に設立された機関。CO ₂ 等の温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の科学的、社会・経済的評価を行い、得られた知見を政策決定者をはじめ広く一般に利用してもらうことを目的としている。平成19(2007)年、気候変動に関する知識の増大、普及等への貢献が評価され、元アメリカ副大統領アル・ゴア氏とともにノーベル平和賞を受賞した。 |
| | 気候変動枠組条約 | 正式名称は「気候変動に関する国際連合枠組条約」といい、大気中の温室効果ガス(→)の濃度を安定させることを究極的な目的とした条約。平成4年5月9日に採択され、平成6年3月に発効した。平成9年12月に京都で第3回締約国会議(COP3)が開催され、温室効果ガスの排出削減目標が定められた。→地球温暖化 |
| | 揮発性有機化合物(VOC) | 沸点が低いため常温常圧で容易に揮発する有機化合物の総称で、主なものにトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタンなどがある。揮発性有機化合物は、比重が水より重く、浸透力が強くて難分解性のため、地表に漏れ出した場合、土壌や地下水汚染を引き起こしやすい。一方、大気中に排出された場合、光化学オキシダントや浮遊粒子状物質の生成の原因となる。このため、大気汚染防止法や水質汚濁防止法等で規制が行われており、特に大気汚染防止法では、平成18年4月から新たに規制が開始された。→水質汚濁、大気汚染、土壌汚染、トリクロロエチレン |
| | 京都議定書 | 地球温暖化防止に関する国際的取組を協議するため、平成9年12月、日本が議長国として京都で開催された「気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)」において採択され、削減すべき温室効果ガスの種類(CO ₂ など6種類)、国別の削減数値目標や削減方策等が定められた。 |

| | | |
|----|--------------|---|
| き～ | 近隣騒音 | カラオケなどの営業騒音、拡声機の騒音、家庭のピアノ、クーラーからの音やペットの鳴き声などの生活騒音のこと。騒音苦情のうち、工場・事業場からの騒音はその数が減少傾向にあるのに対して近隣騒音は増加傾向にある。こうした近隣騒音は、騒音の発生量としては比較的小さく限られた近隣の生活者にだけ影響を与える場合が多いこと、被害感が近隣とのつきあいの程度にも左右されるとともに、一人ひとりが場合によっては加害者にも被害者にもなりうるといった特徴を持っている。→公害、騒音 |
| く～ | グリーン購入 | 環境への負荷が少ない製品やサービスを優先的に購入すること。平成12年5月に「国等による環境物品等の調達推進に関する法律」(通称：グリーン購入法)が成立し、国の諸機関ではグリーン購入が義務付けられている。県においては、岡山県循環型社会形成推進条例に基づき毎年度「岡山県グリーン調達ガイドライン」を策定し、グリーン購入を行っている。 |
| | クリーンネット | 台所の流しの排水口に取り付ける目の細かい網状の袋。家庭排水中の固型物を取り除くことができるので、身近な水路や河川、池などの水質保全に役立つ。岡山県では、生活排水対策重点地域を中心に普及を図っている。 |
| | クリーンライフ100構想 | 汚水処理人口普及率100%を目指し、下水処理施設の整備をより一層効率的かつ適正に進めるため、市町村が地域の実情を踏まえて策定した計画を取りまとめた本県における下水処理施設の整備に関する総合的な計画。下水道、集落排水、合併処理浄化槽等の下水処理施設の整備は、この構想に従い実施されている。 |
| | クールビズ | 冷房時のオフィスの室温を28℃にした場合でも、「涼しく効率的に格好良く働くことができる」というイメージを分かりやすく表現した、夏の新しいビジネススタイルの愛称。「ノーネクタイ・ノー上着」スタイルがその代表。 |
| け～ | 景観行政団体 | 景観法に基づき、景観行政を担う主体となる自治体。政令市、中核市、都道府県は自動的に景観行政団体となり、その他の市町村は、都道府県知事との協議を経て景観行政団体になる。景観行政団体は、景観計画の策定、景観重要建造物及び景観重要樹木の指定、景観協定の認可等の独自の景観行政を行うことができる。 |
| | 下水処理 | 家庭や工場・事業場から生じる汚水を排除し、処理した上で河川などへ放流すること。汚水は沈澱池で細かな土砂や比較的重い浮遊物を分離し、ばっ気槽で微生物の働きによって汚水中の有機物を分解する。処理した後の水は、塩素などで消毒されて放流される。→合併処理浄化槽、公共下水道普及率、生活排水 |
| こ～ | 公害 | 戦後、我が国は目ざましい高度成長を遂げたが、その一方で昭和30年代中ごろから人の健康に著しい被害を及ぼす公害が各地で発生し、大きな社会問題となった。深刻な状況を受けて昭和42年公害対策基本法が制定され、以降、公害を防止、規制する措置がとられてきた。現在では、工場、事業場などの経済活動を原因とする産業型公害に加え、都市化や生活様式の変化が原因となる都市・生活型公害が大きな問題となっている。なお、大気汚染(→)、水質汚濁(→)、土壌汚染(→)騒音(→)、振動(→)、地盤沈下(→)、悪臭(→)が、典型7公害と呼ばれている。 |
| | 公害防止管理者 | 工場における公害防止体制を整備するため、「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」に基づき、特定工場において公害防止に関する業務を統括する公害防止統括者、公害防止に関して必要な専門知識及び技能を有する公害防止管理者の選任が義務付けられている。 |
| | 公害防止計画 | 公害が著しい地域や、今後人口や産業の急速な集中が予想されるなど公害が著しくなるおそれのある地域について、公害の防止に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため策定される計画。県内では「岡山・倉敷地域」と「備後地域」で計画が策定され、公害の防止に関する事業や施策が集中的に実施されている。 |

| | | |
|----|---------------|---|
| こ～ | 光化学オキシダント(Ox) | 工場や自動車から排出された炭化水素(揮発性有機化合物等)や窒素酸化物が、太陽の強い紫外線的作用を受けて化学反応することにより生成される酸化性物質(オゾン、パーオキシアセチルナイトレートなど)の総称。粘膜への刺激、呼吸への影響といった健康影響のほか、農作物などへも影響を与える。光化学オキシダントの発生は気温、風速、日射量などの気象条件の影響を大きく受け、日射が強くて気温が高く、風の弱い日の日中に発生しやすい。 |
| | 公共下水道普及率 | 行政区域内人口に対する公共下水道による処理区域人口の割合のこと。→合併処理浄化槽、下水処理 |
| | 公共用水域 | 河川、湖沼、港湾、海域などの公共の用に供される水域と、これに接続する水路などのこと。水質汚濁に関する 環境基準 (→)は公共用水域を対象としており、水質汚濁防止法に基づき、工場及び事業場から公共用水域に排出される水については排水基準が適用される。 |
| | 国際環境法 | 環境保護を目的とする国際社会における国家の行動についての法的な規範のこと。多数国間の条約や二国間の協定のほか、慣習法などがこれに含まれる。 オゾン層 (→)の保護のための ウィーン条約 (→)や 気候変動枠組条約 (→)といったものが代表例として挙げられる。 |
| | こどもエコクラブ | 幼児(3歳)から高校生が大人のサポーターとともに環境保全について自主的に学び、活動するクラブ。平成22年11月の国の事業仕分けにより、平成23年度から、事業主体が(公財)日本環境協会に移行している。 |
| | ごみゼロガイドライン | 岡山県循環型社会形成条例の規定に基づき、県内で大量に排出される産業廃棄物を循環資源として指定し、排出抑制の目標、事業者が取り組むべき事項、必要な県の施策等を定めた指針。指定した循環資源の排出事業者は、指針に沿った取組を行うよう努めることとされている。現在、「汚泥」、「鉱さい」、「ばいじん」、「燃え殻」及び「廃プラスチック」についてガイドラインを策定している。 |
| さ～ | 最終処分場 | 廃棄物は、資源化又は再生利用される場合を除き、最終的には埋立処分される。産業廃棄物の場合は、埋め立てる産業廃棄物の環境に与える影響の度合いによって、遮断型処分場、管理型処分場、安定型処分場の三つのタイプに分けられる。 |
| | 再生可能エネルギー | 太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、自然環境から持続的に利用できるエネルギーの総称。 |
| | 砂漠化 | 砂漠化地域は毎年600万haの割合で増加している。原因としては、草地の再生能力を超えた家畜の放牧や、休耕期間の短縮などによる地力の低下、木材の過剰な伐採、不適切なかんがいによる農地の塩分濃度の上昇など、人間活動に起因するものも多い。砂漠化防止のため、1977年の国連砂漠化防止会議において砂漠化防止行動計画が採択され、1994年には砂漠化防止条約が採択された。我が国では、砂漠化の実態の観測・監視やメカニズム解明に関する調査研究、植林事業の推進や乾燥地農業の指導などにより、砂漠化対策に貢献している。→ 地球環境問題 |
| | 産業廃棄物 | 事業活動に伴って生じたごみのうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類など21種類の廃棄物をいう。大量に排出され、また処理に特別な技術を要するものも多い。 |
| | 酸性雨 | 化石燃料などの燃焼で生じる 硫黄酸化物 (→)や 窒素酸化物 (→)などが大気中に取り込まれて生じる酸性の雨のこと。通常pH5.6以下のものをいう。欧米では、湖沼や森林などの生態系に深刻な影響を与え、国境を越えた問題となっている。→ 地球環境問題 |
| し～ | CFC(シーエシー) | クロロフルオロカーボンの略称。塩素、フッ素及び炭素からなる物質で 特定フロン (→)もこれに該当する。冷媒、発泡剤、洗浄剤、噴射剤などとして広く使用されてきた。強い オゾン層破壊物質 であるとともに強い 温室効果ガス (→)でもある。先進国では、 モントリオール議定書 (→)に基づき1995年末までに新たな生産等を全廃している。→ オゾン層、特定フロン、HCFC、HFC |
| | CSR | Corporate Social Responsibility。持続可能な社会を構築するため、社会を構成する一員である企業は、経済だけでなく、社会、環境、人権、コンプライアンスなど様々なテーマに積極的に取り組み、責任を果たすべきであるという考え方。 |

| | | |
|----|----------------|--|
| し～ | COP | 条約における締約国会議(Conference of the Parties)。気候変動枠組条約や生物多様性条約などの会議がある。 |
| | 自然環境保全地域 | 自然環境保全法に基づいて、国が、優れた自然環境を維持している地域を自然環境保全地域として指定する場合と、岡山県自然保護条例に基づき、県が指定する場合がある。県自然環境保全地域は、天然林や野生生物の生息地、湖沼、湿原など優れた自然の地域で10ha以上のもので、現在3地域を指定している。 |
| | 自然公園 | 昭和6年に国立公園法が制定され、我が国を代表する優れた自然の風景地の保護と利用を図るため、瀬戸内海国立公園をはじめとする国立公園が指定された。昭和32年からは自然公園法と名称が変わり、現在では国立公園、国定公園、都道府県立自然公園を総称して自然公園と呼んでいる。 |
| | 自然保護推進員 | 都市化の進展と自然志向が高まるなかで、適正な自然の保護と正しい自然観など、自然保護思想の普及及び美しい郷土の保全を図るため、昭和56年度から設置している。岡山県自然保護条例第39条に基づく。 |
| | 自然保護センター | 県民の自然への理解を深め、自然の保護についての認識を高めるために平成3年に岡山県が和気郡和気町に設置した施設。自然観察会をはじめとする普及啓発、自然保護に関する人材育成調査研究などの活動を行っている。 |
| | 地盤沈下 | 軟弱な地盤の地域で地下水を過剰に汲み上げることにより、地面が沈下する現象のこと。典型7公害のひとつとされている。地盤沈下の特徴としては、進行が緩慢なこと、一度沈下すると復元が難しいこと、水害・震災など他の災害を助長すること等がある。高度成長期に地下水の需要が増大したことから、大都市、工業都市を中心に地盤沈下が多発した。なお、岡山県内では今までのところ顕著な被害は確認されていない。→公害 |
| | 臭気指数 | 人の嗅覚を用いて、においの程度を判定する指標。具体的には、においのある空気を、無臭の空気において感じられなくなるまで希釈した場合の希釈倍数(臭気濃度)をもとにした数値。平成7年の悪臭防止法の改正により、規制手法として制度化された。 |
| | J(ジュール) | 仕事量・熱量・エネルギーの単位。1MJ(メガジュール)は100万ジュール、1GJ(ギガジュール)は10億ジュール。1ワットの電気が1秒間に発生する熱量を1ジュール/秒といい、100ワットの電球を点灯する時間を1日1時間短くすると360kJ、1年では約131MJ節約できることになる。例えば、こまめにテレビ(液晶32V型)を消し1日の視聴時間を1時間短くするとともに、エアコンの冷房温度を1℃上げ、暖房温度を1℃下げるとともに運転時間をそれぞれ1時間短縮すると、1年間ではエネルギーを約570MJ(0.57GJ)削減できる。(省エネルギーセンター「家庭の省エネ大辞典」より作成) |
| | 循環型社会 | 大量消費・大量廃棄型の社会に代わるものとして、廃棄より再使用・再生利用を第一に考え、新たな資源の投入をできるだけ抑えるとともに、自然生態系に戻す排出物を減らすなど、環境負荷(→)を極力低減するシステムを持つ社会を循環型社会と呼ぶ。現在の環境を保全するとともに私たちの将来の世代のため、循環型社会づくりは重要な課題のひとつである。→リサイクル |
| | 循環資源 | 循環型社会形成推進基本法で定義された言葉で、廃棄物等(廃棄物及び使用済製品や副産物等)のうち有用なものを指す。 |
| | 循環資源総合情報支援センター | 岡山県循環型社会形成推進条例に基づき、広域的な廃棄物(循環資源)の有効利用と適正な処分の確保を図るために必要な業務を行う者として知事が指定した機関。公益財団法人岡山県環境保全事業団を平成16年3月に指定。 |
| | 小水力発電 | 水力発電のうち、ダム等に設置された大規模な水力発電ではなく、河川や水路に設置した水車などを用いてタービンを回し発電する小規模な水力発電のこと。通常、設備容量が1,000キロワット以下のものをいう。 |

| | | |
|----|--------------------|--|
| し～ | 新エネルギー | 新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法においては、「石油代替エネルギーを製造し、若しくは発生させ、又は利用すること及び電気を変換して得られる動力を利用することのうち、経済性の面における制約から普及が十分でないものであって、その促進を図ることが石油代替エネルギーの導入を図るため特に必要なものとして政令で定めるもの」を「新エネルギー利用等」と定義しており、具体的には、太陽光、風力、バイオマス、中小規模水力、地熱による発電や太陽光、バイオマス等の熱利用、バイオマス燃料製造などが含まれる。 |
| | 新幹線鉄道騒音・振動 | 新幹線鉄道の運行に伴い発生する騒音及び振動のこと。新幹線は、高速大量輸送機関として重要な役割を果たしている反面、沿線地域での騒音振動問題も発生している。新幹線鉄道の騒音対策の目標として「新幹線鉄道騒音に係る環境基準」が設定されている。また、振動対策については、「環境保全上緊急を要する新幹線鉄道振動対策について」(指針)が示されている。JRでは、環境基準と指針を受けて新幹線鉄道騒音・振動障害防止対策処理要綱を定め、発生源対策と沿線地域での障害防止対策を進めている。 |
| | 振動 | 工場などの事業活動や建設作業、交通機関の運行などにより起こる地表面の揺れのこと。建物を振動させて物的被害を与えたり、私たちの日常生活に影響を与える場合は公害(→)となる。振動による影響を防止するため必要な措置を定めた振動規制法では、鉛直振動(上下方向の振動)について規制がなされている。 |
| す～ | 水質汚濁 | 河川、湖沼、海域などの水域の水質が悪化すること。水質の汚濁については環境基準(→)が定められており、その達成に向けて水質汚濁防止法等に基づき対策が進められている。 |
| | スーパーエンプライメントハイスクール | 廃棄物のリサイクル技術の研究・開発など環境教育を重点的に行うものとして指定を受けた高等学校。カリキュラムの開発や大学・研究機関との連携についての研究を通じて、環境問題を正しく理解する人材を育成するとともに、環境教育に関する教材を開発する。 |
| | 3R | スリーアールと読む。廃棄物の発生抑制(リデュース(→)、Reduce)、再使用(リユース(→)、Reuse)、再生利用(リサイクル(→)、Recycle)の3つの頭文字をとったもの。平成11年の産業構造審議会において「循環型経済システムの構築に向けて」(循環経済ビジョン)が取りまとめられ、その中で従来のリサイクル対策を拡大して廃棄物の発生抑制や再使用を含んだ3Rの取組を進めていくことが必要であると提言された。これを受け、以後、廃棄物・リサイクル法体系が順次整備された。 |
| せ～ | 生活排水 | 調理、洗濯、入浴、し尿など、日常生活に伴い排出される排水のこと(このうち、し尿を除く生活排水を「生活雑排水」という)。こうした有機物質、窒素、りんを多く含む排水が河川、湖沼、海洋に流入し、その水系の自然浄化能力を超え、富栄養化(→)状態となると、アオコ(→)や赤潮(→)の発生原因となる。産業排水についてはこれまでの規制、指導の結果、改善されつつあるが、生活排水については改善が進んでおらず、特に湖沼、湾など閉鎖性水域(→)の水質汚濁が著しいため、下水道の整備や、し尿と台所等の生活雑排水を一緒に処理する合併処理浄化槽(→)の設置促進などの対策が進められている。→下水処理、公害、水質汚濁 |
| | 生態系 | ある空間に生きている生物(有機物)とそれを取り巻く無機的环境が相互に関係し合って生命の循環をつくりだしているシステム。ある空間とは地球全体であったり、森林、湖、川などの限られた空間であったりする。 |
| | 生物化学的酸素要求量(BOD) | Biochemical Oxygen Demand。水中の有機物を微生物が分解した際に消費される酸素の量で、河川の有機汚濁を測る指標。有機汚濁物質が多くなると高い数値を示す。→化学的酸素要求量(COD) |
| | 生物多様性 | 地球上の生物の多様さとその生息環境の多様さをいう。生態系は多様な生物が生息するほど健全であり、安定しているといえる。地球上の生物種、生態系及び遺伝子の多様性を保護するため、「生物の多様性に関する条約」が採択され、我が国は1993年5月に批准している。 |

| | | |
|----|------------------|---|
| せ～ | ゼロエミッション | 産業から排出されるすべての廃棄物や副産物が他の産業の資源として活用され、全体として廃棄物を生み出さない生産を目指そうと、平成6(1994)年に国連大学が提案した構想。我が国では、廃棄物を出さない地域社会づくりを目指し、このコンセプトを積極的に取り入れる動きが強まり、日本発のオリジナルな運動として位置づけられるようになった。「岡山エコ事業所」の認定を行う際のゼロエミッション事業所は、廃棄物の排出の抑制と循環資源の循環的な利用に積極的に取り組んでいる事業所としている。 |
| そ～ | 騒音 | 睡眠を妨げたり会話を妨害するなど、生活環境を損なう「好ましくない音」「ないほうがよい音」のこと。騒音は、航空機騒音などの特別な場合を除いて伝わる距離は限られており、音源から数100mを超えることはまれである。騒音の発生源は多種多様であり、工場及び事業場、建設作業、各種交通機関等からの騒音のほか、飲食店等の深夜営業に伴う騒音、拡声器による騒音、クーラーなどによる生活騒音等、様々な騒音が発生している。騒音による公害を防止するため騒音規制法等に基づいて対策が進められている。→ 近隣騒音、公害 |
| | 総合特区 | 我が国の経済社会の活力向上と持続的発展を図るため、区域を限定し地域の包括的戦略的なチャレンジに対して規制の特例措置、税制・財政・金融上の支援措置により総合的に支援する制度。 |
| た～ | ダイオキシン類 | ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン及びコプラナーポリ塩化ビフェニル(コプラナー PCB)をまとめてダイオキシン類と呼ぶ。ダイオキシン類は物を燃焼する過程などで非意図的に生成する物質である。毒性については、高濃度の暴露においては、人に対する発がん性があるとされている。環境基準、排出規制、環境調査の実施等がダイオキシン類対策特別措置法により、平成12年1月に定められた。 |
| | 大気汚染 | 代表的な汚染物質としては、 硫黄酸化物(→) 、 窒素酸化物(→) 、 一酸化炭素(→) 、 浮遊粒子状物質(→) 、 光化学オキシダント(→) 、 微小粒子状物質(→) などがあげられる。我が国では、昭和35年ごろから三重県四日市や倉敷市水島でコンビナートからの硫黄酸化物による大気汚染が問題となった。このため、大気汚染防止法による排出規制と、公害健康被害の補償等に関する法律による被害者の救済がなされている。近年は、 有害大気汚染物質(→) の排出抑制対策も推進されている。→ 公害 |
| | 代替フロン | オゾン層破壊効果の高いフロン(CFCなど特定フロン)の代わりとなる物質の総称。オゾン層破壊性はない、もしくは少ないが、CO ₂ の100倍から1万倍の温室効果があることから、使用後は適切に回収する必要がある。 |
| | 炭素税 | 地球温暖化(→) 防止のため、 温室効果ガス(→) のひとつである二酸化炭素の排出に対し税金又は課徴金を課し、その財源は環境保護や 新エネルギー(→) 開発等に活用するというもの。経済的手段により二酸化炭素排出量の削減を図るもので、オランダやスウェーデンでは既に施行されている。 |
| ち～ | 地球温暖化 | 二酸化炭素(→) 、 メタン 、 一酸化二窒素 、 フロン類 などの 温室効果ガス(→) の排出量増加により、地球全体の平均気温が上昇すること。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第4次評価報告書では、21世紀末(2090年から2099年)の平均気温上昇は、化石エネルギー源を重視しつつ高い経済成長を実現する社会では約4.0℃(2.4℃～6.4℃)と予測している。 |
| | 地球温暖化対策の推進に関する法律 | 地球温暖化対策の推進を図ることを目的とした法律で、平成10年10月に制定された。 温室効果ガス(→) 排出抑制などに関する国、地方公共団体、事業者、国民の責務と取組などを示している。→ 地球温暖化、地球環境問題 |
| | 地球環境問題 | 影響・被害が国境を越え、ひいては地球規模に至る環境問題、又はその解決のために国際的な取組が必要とされる環境問題のこと。通常地球環境問題としては、 地球温暖化(→) 、 オゾン層(→) の破壊、 酸性雨(→) 、 熱帯林の減少(→) 、 砂漠化(→) 、 野生生物の種の減少(→) 、 海洋汚染 、 有害廃棄物の越境移動 、 開発途上国の公害問題 の9つの事象が挙げられる。 |

| | | |
|----|---------------------------------|---|
| ち～ | 地球サミット (環境と開発に関する国連会議、UNCED) | 1992年6月ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された国際会議で、国連環境開発会議とも称する。この会議には約180か国が参加し、100か国以上の元首、首脳が自ら出席するなど、史上かつてない大規模な会議となった。この会議では 気候変動枠組条約(→) と 生物多様性(→) 条約の署名が開始されるとともに、環境と開発に関するリオ宣言、アジェンダ21及び森林原則声明などの重要な文書も合意された。 |
| | 窒素酸化物 (NOx) | 物が燃える際に、空気中の窒素や物の中に含まれる窒素分が酸素と結合して発生する物質。発電所や工場のボイラー、自動車エンジンなどで燃料が燃える際に一酸化窒素(NO)が発生し、これがさらに酸化されて二酸化窒素(NO ₂)となる。通常、一酸化窒素と二酸化窒素とを合わせて窒素酸化物(NOx)と呼ぶ。二酸化窒素は、人の健康に影響を与えるだけでなく、太陽光中の紫外線により光化学反応を起こし、 光化学オキシダント(→) を生成する。窒素酸化物による大気汚染を防止するため、大気汚染防止法等により対策が進められている。 |
| | 長距離自然歩道 | 多くの人が四季を通じて手軽に楽しくかつ安全に国土の優れた風景地等を歩くことにより、沿線の豊かな自然環境や自然景観、さらには歴史や文化に触れ国土や風土を再確認し、併せて自然保護に対する意識を高めることを目的に環境省が計画し、各都道府県が整備したもの。中国自然歩道は、中国5県を一周するもので総延長は約2,300km。 |
| | 鳥獣保護員 | 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づき、都道府県に設置される狩猟取締、鳥獣保護区の管理、鳥獣の生息状況等に関する調査・普及啓発等を行う非常勤職員。 |
| | 鳥獣保護区 | 鳥獣の保護繁殖を図るため、鳥獣保護事業計画に基づいて指定する区域。 |
| | 鳥獣保護事業計画 | 長期的な見地から計画性のある鳥獣保護施策を推進するため、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」に基づき知事が策定することとされている計画。鳥獣保護区などはこの計画に基づき設定される。第11次計画を平成24年度～28年度の5年計画として策定している。 |
| | 鳥獣保護センター | 傷病鳥獣の保護のため設置されており、傷病鳥獣の治療看護をはじめ、野生鳥獣の取扱いの正しい知識の普及啓発も行っている。池田動物園、県自然保護センターの2箇所を設置されている。 |
| て～ | 低公害車 | 従来のガソリン車やディーゼル車に比べて、排出ガス中の汚染物質の量が大幅に少ない自動車のこと。電気自動車、メタノール自動車、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車などをいう。地球温暖化対策や大気汚染対策の一つとして期待されている。なお、ガソリン自動車等の中で性能の優れた「低燃費かつ低排出ガス車」の認定制度が設けられ、自動車税のグリーン化が行われている。また、燃料電池自動車についても一部市販が始まったところであるが、費用や技術面等多くの課題があり、事業化へ向けて更なる研究開発が進められている。 |
| | 電気自動車 (EV) | バッテリーに蓄えた電気でモーターを回転させて走る自動車のこと。走行中に二酸化炭素を排出しない環境にやさしい車であり、運輸部門からの温室効果ガス削減に向けて、県では普及促進に努めている。→ 低公害車 |
| | 天然ガス自動車 | 圧縮した天然ガス(地下から産出するメタンを主成分とする可燃性ガス)を燃料とする自動車。ガソリン車のエンジンがほぼそのまま使え、走行性能はガソリン車並みで黒煙を全く出さず、窒素酸化物や二酸化炭素の排出量も今までの車より少ない 低公害車(→) である。現在、イタリアやロシアなど天然ガスが多く産出される国々で多くの天然ガス自動車が使われている。日本でも大都市部を中心に普及が進められている。→ 大気汚染 |
| と～ | 特定悪臭物質 | 悪臭防止法に基づいて指定される「不快な臭いの原因となり生活環境を損なうおそれのある物質」で22物質が指定されている。代表的な物質は、アンモニア、硫化水素、トルエンなど。都道府県知事等が指定した地域ではこれらの物質について敷地境界における濃度が規制される。 |

| | | |
|----|-------------|---|
| と～ | 特定外来生物 | ブラックバスやカミツキガメなどの海外起源の外来生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。特定外来生物に指定されると、ペットも含めて飼育、栽培、保管又は運搬、譲渡、輸入、野外への放出などが禁止され、これに違反すると3年以下の懲役、または300万円以下の罰金(法人の場合には1億円以下の罰金)が課せられる。→ 外来生物法 |
| | 特定鳥獣保護管理計画 | ニホンジカやイノシシなど地域的に著しく増加している種又はツキノワグマなど地域的に著しく減少している種の個体群を、安定的に維持していくため、個体数の調整や生息環境の整備、被害対策等を実施するための計画。 |
| | 特定フロン | オゾン層保護のため国際条約により規制の対象となっているフロンのこと。先進国においては平成7年限りで全廃された。 |
| | 特定粉じん | 大気汚染防止法では、 アスベスト(石綿) (→)を「人の健康に係る被害を生じるおそれのあるもの」として、アスベストを使用する一定規模以上の施設を「特定粉じん発生施設」と規定し、工場・事業場の敷地境界基準(10本/L)を設け、規制している。また、吹付けアスベストやアスベスト含有断熱材・保温材等の解体、除去、囲い込み・封じ込めの作業について、「特定粉じん排出等作業として、工事の規模に関係なく事前届出、飛散防止措置等の基準を設け規制している。 |
| | 土壤汚染 | 揮発性有機化合物 (→)や重金属などにより、土壌や地下水が汚染されると、人間や動物の健康を害したり植物を枯らすなどの 公害 (→)を引き起こすことになる。近年、工業技術の進歩により多様な化学物質が使用されるようになり、土壌汚染を含めて様々な環境汚染が新たな問題となってきたため、平成3年、土壌汚染に係る 環境基準 (→)が設定され、現在、カドミウム等27項目について基準値が設定されている。また、平成14年4月に施行された「岡山県環境への負荷の低減に関する条例」や平成15年2月に施行された「土壌汚染対策法」により、人の健康の被害を防止するための措置等の対策が実施されている。 |
| | トリクロロエチレン | ドライクリーニングのシミ抜き、金属・機械等の脱脂洗浄剤等に用いられるなど洗浄剤・溶剤として優れている反面、環境中に排出されても安定で、地下水汚染の原因物質となっている。大気汚染に係る環境基準は1年平均値が0.2mg/m ³ 以下で、水質汚濁及び土壌汚染に係る環境基準は0.03mg/L以下と定められている。 |
| な～ | 内分泌かく乱化学物質 | 内分泌系に影響を及ぼすことにより、生体に障害や有害な影響を引き起こす外因性の化学物質。 |
| に～ | 二酸化炭素 | CO ₂ 。炭素を含んだ物質が燃えること等によって発生する気体。近年、石油、石炭などの化石燃料の消費が増加したことから、CO ₂ 排出量も増加している。CO ₂ は、地球温暖化の原因とされる温室効果ガスの主体であり、各国が協調して排出の抑制に努めることが求められている。 |
| | 人形峠環境技術センター | 正式名称は、独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター。昭和32年に原子燃料公社人形峠出張所として開設し、平成13年までウランの採掘、製錬・転換及び濃縮の技術開発を行ってきたが、現在は、使用してきた核燃料施設・設備の廃止措置の技術開発に取り組んでいる。 |
| ね～ | 熱帯林の減少 | 熱帯地域に分布する森林が、過度な焼畑耕作、燃料としての過剰採取、放牧地や農地への転用、不適切な商業伐採などにより減少している。熱帯多雨林域の高温多湿な気候は、地球上で最も種の多様性に富んだ生態系となっており、地球上の生物種の半数がそこに生息するといわれている。また、熱帯林は大気の浄化や 二酸化炭素 (→)の吸収、酸素の供給などにも大きな役割を果たしており、熱帯林の保全に国際的な取組が必要となっている。→ 地球環境問題 |
| | 燃料電池 | 水素と酸素との化学反応により電気を発生させる装置で、理論的には排出ガスを出さず、発電効率も高く、発電の際発生する熱が暖房・給湯等に利用できるため、大気汚染防止や 地球温暖化 (→)防止対策のほか電源の分散化にも有効であり、次世代の有力な 新エネルギー (→)として期待されている。現在、家庭用燃料電池 コージェネレーション (→)システムが市場投入段階に入りつつある。 |

| | | |
|----|-------------|---|
| は～ | 排煙脱硫装置、脱硝装置 | 石油、石炭などの化石燃料を燃焼すると、 硫黄酸化物(→) や 窒素酸化物(→) が発生する。これらは健康に被害をもたらすとともに、大気中で硫酸や硝酸に変化し 酸性雨(→) の原因となる。脱硫装置は、排ガス中の硫黄酸化物をアルカリ溶液等で吸収、除去する。脱硝装置は、アンモニア接触還元法や接触分解法により排ガスから窒素酸化物を除去する。→ 公害、大気汚染 |
| | ばい煙発生施設 | 一定規模以上のボイラー、加熱炉、廃棄物焼却炉など32種類の施設がばい煙発生施設として大気汚染防止法で規定されている。施設の設置に際しては都道府県知事への届出が義務づけられており、SOx、ばいじんなどの排出基準が設定されている。 |
| | バイオエタノール | バイオマスから製造されるエタノール(エチルアルコール)。バイオマスを原料とすることから枯渇しない「再生可能資源」と期待されている。一方、自動車燃料をガソリンからバイオエタノールに切り替えた場合、アルデヒド類やオゾン濃度が増加し光化学オキシダントが問題となるとの報告もある。 |
| | バイオガス | 家畜の排せつ物や有機性廃棄物(生ごみ等)などの発酵により発生するメタンを主な成分とする可燃性ガス。近年では廃棄物処理の観点だけでなく、化石燃料に替わるエネルギー源としての活用が地球温暖化防止対策に有効であるとして注目されている。 |
| | バイオテクノロジー | 有用な生物を育種したり生体関連物質を利用したりする技術のこと。生命技術、生命工学ともいう。遺伝子を組み替えて生活に役立つ物質を造り出す技術や、異なる種類の細胞を融合させて新たな生物を造り出す技術などのほか、ポプラなどの樹木を用いて大気汚染物質を浄化したり、環境の汚染状況などを測るために生物をセンサーとして利用する技術なども、バイオテクノロジーの一種である。 |
| | バイオマス | 本来は、生物(bio)の量(mass)であり、質量あるいはエネルギー量として生物量を数値化したものの意味であるが、現在ではその概念が拡張されて、動植物由来の資源としての意味で用いられることが多い。後者の意味でのバイオマスは、直接燃焼するほか、発酵により生産したアルコールやメタン、ナタネやユーカリなどから抽出した油成分の燃料としての利用、生分解プラスチック原料や堆肥としての利用などが行われている。 |
| | ばいじん | 燃料その他の物の燃焼又は熱源としての電気の使用に伴い発生するススその他の物質のことで、大気汚染防止法に基づいて排出基準が定められている。なお、物の破碎などに伴って発生したり飛散したりするものは粉じんという。→ 大気汚染 |
| | ハイブリッド自動車 | エンジンと電気モーターの2つの動力源を備えたハイブリッド(複合)システムにより、高効率で走行することができる自動車のこと。走行状況に応じて、エンジンの駆動力とエンジンで発電したバッテリーからの電力を使ったモーター駆動力を適切に組み合わせるため、燃費が大幅に向上するほか、 窒素酸化物(→) や黒煙などの大気汚染物質の排出も低減される。現在、乗用車が市販されるなど、その普及が図られている。→ 低公害車 |
| ひ～ | PRTR | Pollutant Release and Transfer Register。環境汚染物質排出移動登録のこと。人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質について、事業所からの環境(大気、水、土壌)への排出量及び廃棄物として事業所外への移動量を、事業者が自ら把握して届け出るとともに、行政機関がこれらのデータを公表することにより、事業者による有害化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境影響を防止していく手法。我が国では、平成11年にPRTR制度導入を目的とした「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(化管法)が制定され、平成14年4月から本格施行された。 |
| | 光害(ひかりがい) | 良好な「光環境」の形成が、人工光の不適切あるいは配慮に欠けた使用や運用、漏れ光によって阻害されている状況、またはそれによる悪影響をさす。過度な照明は、自動車等の運転や天体観測などの社会活動、水稻等の農作物やウミガメ・鳥類等の野生生物の成育に影響を及ぼすおそれがあるほか、エネルギーの無駄遣いにもなる。 |

| | | |
|----|----------------|---|
| ひ～ | 微小粒子状物質(PM2.5) | 大気中の粒子状物質のうち、粒径 $2.5\mu\text{m}$ 以下のものをいう。粒径が小さいことから人の呼吸器の奥深くまで入り込みやすいことなどから、健康を害するおそれがあるため、環境基準が設定されている。工場や自動車などの人為起源のものと黄砂等の自然起源のものがあると言われている。 |
| | 非政府組織(NGO) | 政府や行政から独立して公共のための活動を行う非営利の民間団体のこと。中でも、自然保護やリサイクル活動などの環境保全活動に取り組んでいる団体を環境NGOと呼び、全国に約4,500団体が活動している。 |
| | ヒートアイランド現象 | 都市部の気温がその周辺に比べて異常な高温を示す現象。ビルのコンクリートや道路のアスファルトが太陽熱により暖められること、ビルなどの空調設備から排出される暖気、自動車のエンジンなどから排出される廃熱などが原因と考えられている。 |
| | ppm(ピーピーエム) | 微量物質の濃度を表示する単位。100万分の1が1ppmとなる。水1L中に1mgの物質が溶けている濃度が1ppmである。大気汚染の場合は、 1m^3 の大気中に 1cm^3 の汚染物質が存在する場合の濃度を1ppmという。 |
| ふ～ | 風力発電 | 風の力で風車を回して発電する方法。風力エネルギーは無尽蔵で無公害だが、気象による発電量の変化が大きい。→新エネルギー |
| | 富栄養化 | 湖沼などの閉鎖性水域(→)で、プランクトンの増殖や水生植物の生育に必要な栄養塩類(窒素やリンなどを含む化合物)の濃度が必要以上に増加する現象をいう。生活排水(→)や肥料などが流れ込み、富栄養化が進むと、プランクトンが異常増殖し、赤潮(→)、青潮(→)、アオコ(→)の発生する原因となる。児島湖や瀬戸内海の富栄養化状態の改善のため、広域的な取組がなされている。→公害、水質汚濁 |
| | 浮遊粒子状物質(SPM) | 代表的な大気汚染物質のひとつ。環境基準では、粒径 $10\mu\text{m}$ 以下のものと定義している。呼吸器系の各部位へ沈着し、人の健康に影響を及ぼすため、環境基準は、1時間値の1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下、1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下、と定められている。 |
| | フロン類 | 平成13年6月に制定された特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収破壊法)の対象となるCFC(→)、HCFC(→)及びHFC(→)を一括して指す用語。フロン回収破壊法では、オゾン層(→)の保護と地球温暖化(→)の防止のため、業務用の冷凍空調機器を廃棄する際にこれらの機器に充填されているフロン類の回収、破壊等が義務付けられた。→特定フロン、代替フロン、温室効果ガス |
| へ～ | 閉鎖性水域 | 外部との水の交換が少ない湖沼、内湾、内海などの水域をいう。児島湖や瀬戸内海は閉鎖性水域に当たる。流入してくる汚濁物質が外部へ流出しにくいいため、大都市や工業地帯に面している閉鎖性水域では、水質汚濁(→)や富栄養化(→)が進行しやすい。 |
| | HEMS | 家庭用のエネルギー管理システム(Home Energy Management System)の略。住宅内のエネルギー消費機器等をネットワーク化し自動制御等を行うもの。民生部門における省エネルギーと地球温暖化への対策技術として期待されている。 |
| | ベンゼン | 農薬・塗料などの有機溶剤としての使用のほか、自動車排ガスや固定発生源(コークス炉、石油プラント等)から排出される。貧血・血小板減少などの造血機能障害等の毒性が指摘されており大気環境基準は、年平均値が $0.003\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であることと定められている。 |
| ほ～ | 保安林 | 森林の持つ水源涵養や山地災害の防止等、公益的機能のうち特に重要な森林について伐採や開発に制限を加える森林のこと。特に水源涵養保安林は、水源地森林を指定し、その流域に降った雨を蓄え、ゆっくりと川に流すことで、安定した川の流れを保ち、洪水や渇水を防止する働きがある。岡山県では水源涵養保安林の面積が最も多く、全体の約70%を占めている。 |

| | | |
|----|-----------------|---|
| ほ～ | ポリ塩化ビフェニル (PCB) | Poly Chlorinated Biphenyl。ポリ塩化ビフェニルの略称。熱分解しにくい、電気絶縁性が高いなどの性質を有することから、電気機器の絶縁油やノンカーボン紙など様々な用途に使用されていたが、昭和43年にPCBの混入した米ぬか油が原因で、西日本を中心に大規模な食中毒事件(カネミ油症事件)が発生し大きな社会問題となるなど、生物の体内に蓄積されて有害な作用を引き起こすことが判明し、昭和49年には製造・輸入が禁止された。無害化処理施設の設置が困難であったことから、PCBを含む製品は廃棄物となった後も各事業者等によって保管されていたが平成13年に施行されたPCB廃棄物特別措置法に基づき、国主導で全国5箇所に処理施設が整備されるなど、PCB廃棄物の適正な処理が進められている。 |
| ま～ | マニフェスト | 産業廃棄物管理票のこと。排出事業者が産業廃棄物の処理を委託するときに、マニフェストに産業廃棄物の種類、数量、運搬業者名、処分業者名などを記入し、業者から業者へ、産業廃棄物とともにマニフェストを渡しなが、委託内容どおりに廃棄物が処理されたことを確認する。これによって、不適正な処理による環境汚染や不法投棄を未然に防ぐことができる。平成10年度からは電子マニフェスト制度が導入され、インターネット上での手続が可能になった。 |
| め～ | メガソーラー | 設備容量1,000キロワット(1メガワット)以上の規模を持つ太陽光発電システム。CO ₂ を排出しない次世代発電として期待されている。 |
| | メタノール自動車 | 石油代替エネルギーのひとつであるメタノールを燃料とする自動車のこと。二酸化炭素(→)や窒素酸化物(→)の排出量が少なく、黒煙もほとんど出ない 低公害車(→) である。また、燃料のメタノールはさまざまな原料から製造できるのも利点となっている。→ 大気汚染 |
| も～ | 藻場・干潟 | 藻場・干潟は、魚介類の育成や海の浄化に極めて重要な役割を果たしている。かつては県内に広大に分布していた藻場・干潟は沿岸開発や水質汚濁により、この半世紀で9割近くが消滅している。 |
| | もったいない | ノーベル平和賞を受賞したケニア環境副大臣ワンガリ・マータイさんは、日本語の「もったいない」という言葉に3Rの精神がこめられていることに深い感銘を受け、国連本部での「国連婦人の地位向上委員会」で行った演説で紹介したことから、全国的に「もったいない」は循環型社会に関するキャンペーンのキーワードとして用いられている。 |
| | モントリオール議定書 | ウィーン条約(→)に基づき、オゾン層(→)の変化による悪影響から人の健康及び環境を保護するため、オゾン層を破壊する物質の生産量及び消費量の規制措置等を定めたもの。1987年に採択され、その後1992年の改正では、CFC(→)等の新たな生産等を1995年末までに全廃することなどが定められた。→ 特定フロン |
| や～ | 野生生物種の減少 | 地球上には多様な野生生物の種が生息、生育しているが、国際自然保護連合によれば5000種以上の動物が絶滅の危機にさらされている。野生生物種の減少の主な原因は、人類の活動である。いったん絶滅した種を、再び蘇らせることができない以上、野生生物の種の減少を防止することは、将来の地球、人類自身のためにも極めて重要なこととなっている。→ 地球環境問題、ラムサール条約、ワシントン条約、種の保存法 |
| ゆ～ | 有害化学物質 | 人の健康又は生活環境への被害や生態系への支障を生ずるおそれのある物質。(大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律などで指定され、取扱いを規制された化学物質など。) → 公害 |
| | 有害大気汚染物質 | 継続的に摂取されると人の健康を損なうおそれがある物質で大気汚染の原因となるものであり、現在、ベンゼン、ジクロロメタン、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンの4物質について環境基準が設定されているほか、指針値が設定されるものを含めた健康リスクがある程度高いと考えられる物質(優先取組物質)として23物質が選定されている。 |
| | 有害物質使用特定施設 | 水質汚濁防止法に規定する特定施設であって、有害物質を使用、製造又は処理する施設のこと。 |

| | | |
|----|----------------|--|
| ゆ～ | 有害物質貯蔵指定施設 | 水質汚濁防止法に規定する有害物質を含む液状のものを貯蔵する施設であって、当該施設から有害物質を含む水が地下に浸透するおそれがある施設のこと。 |
| | 有機水銀 | メチル基、エチル基などのアルキル基やフェニル基などと水銀とが結合している化合物のこと。かつては農薬などに使用されていたが、無機水銀に比べて毒性が強いので現在は禁止されている。熊本県水俣で発生した水俣病は、工場から排出されたメチル水銀が魚介類に蓄積され、これを住民が摂取したことが原因である。有機水銀は、水質汚濁(→)に係る環境基準(→)が設定され、水質汚濁防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律で厳しく規制されている。→公害 |
| | ユニバーサルデザイン(UD) | 「ユニバーサル(すべての、普遍的な)」と「デザイン(計画、設計)」との複合語。「年齢、性別、能力、国籍など個人の特徴にかかわらず、はじめから、すべての人にとって安全・安心で、利用しやすいように、建物、製品、サービスなどをデザインする」という幅広い意味で使われる概念。 |
| よ～ | 容器包装リサイクル法 | 正式名称は、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」といい、一般廃棄物(→)の半分を占める容器包装ごみの減量化を図り、リサイクル(→)を積極的に進めるため、平成7年6月に制定され、平成9年4月から施行された。消費者が分別排出し、市町村が分別収集し、事業者がリサイクルをするというそれぞれの役割分担などを示している。 |
| | 要請限度 | 騒音規制法及び振動規制法に基づき定められた、自動車交通に係る騒音・振動の基準のこと。自動車騒音・道路交通振動が、この基準を超えた場合、市町村長は都道府県公安委員会等に対して対策の要請等を行うことができる。→環境基準、振動、騒音 |
| ら～ | ラムサール条約 | 正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、湿地及び湿地特有の動植物の保全を図るため1971年2月に締結された。各国が適当な湿地の指定と登録を行い、登録湿地の保全、人為的干渉による変化等の情報の通報、湿地への自然保護区の設定と水鳥の保全などについて協力することを定めている。我が国では釧路湿原、クッチャロ湖、琵琶湖など46箇所(平成24年8月現在)を重要湿地として登録している。→野生生物種の減少 |
| り～ | リサイクル(再生利用) | 廃棄物等を再利用すること。原材料として再利用できるものは再生利用(再資源化)し、再生利用できない場合は、焼却して熱エネルギーを回収してサーマル・リサイクル(熱回収)する。ごみの減量化を図り、環境にやさしい循環型社会を構築するためには、使い捨てに慣れた私たちの意識改革と効率的なりサイクルシステムをつくりあげることが必要である。 |
| | リサイクル関連法 | 一般に、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」(容器包装リサイクル法、平成12年4月から完全施行)、「特定家庭用機器再商品化法」(家電リサイクル法、平成13年4月から完全施行)、「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」(平成25年4月から施行予定)、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(建設リサイクル法、平成14年5月から完全施行)、「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律」(食品リサイクル法、平成13年5月から完全施行)、「使用済自動車の再資源化等に関する法律」(自動車リサイクル法、平成17年1月から完全施行)の6つの法律をいう。 |
| | リスクコミュニケーション | 我々を取り巻くリスクに関する正確な情報を関係主体間で共有し、相互に意思疎通を図ること。環境分野では、住民、企業、行政が対話(コミュニケーション)を通じてリスクに関する情報を信頼関係の中で共有し、リスクを低減していく試みとして実施されている。 |
| | リデュース(発生抑制) | 廃棄物の発生自体を抑制すること。リユース、リサイクルに優先される。リデュースのためには、事業者には原材料の効率的利用、使い捨て製品の製造・販売等の自粛、製品の長寿命化など製品設計から販売にいたるすべての段階での取組が求められる。また、消費者は、使い捨て製品や不要物を購入しない、過剰包装の拒否、良い品を長く使う、食べ残しを出さないなどライフスタイル全般にわたる取組が必要。 |

| | | |
|----|---------------|---|
| り～ | リユース (再使用) | いったん使用された製品や部品、容器等を再使用すること。具体的には、(1)あるユーザーから回収された使用済み機器等をそのまま、もしくは修理などを施した上で再び別のユーザーが利用する「製品リユース」、(2)製品を提供するための容器等を繰り返し使用する「リターナブル」、(3)ユーザーから回収された機器などから再使用可能な部品を選別し、そのまま、もしくは修理等を施した上で再度使用する「部品リユース」などがある。 |
| れ～ | レアメタル | レアメタルの定義については、国際的に一意的に定まったものはないが、一般的には地球上の存在量が稀であるか、技術的・経済的な理由で抽出困難である鉱種等を指すものと考えられる。鉱業審議会においては、現在工業用需要があり、今後も需要があるものと、今後の技術革新に伴い新たな工業用需要が予測されるもの31鉱種についてレアメタルと定義。 |
| | レッドデータブック | 絶滅の恐れのある野生動植物種に関するデータ集。1966年に国際自然保護連合が世界的な規模で絶滅の恐れのある野生動物をリストアップしたのが最初である。日本では、平成元年に環境庁が日本版レッド・データ・ブックを発表している。本県では県内の野生生物の現状について、平成10年度から平成14年度までの5か年計画で調査検討し、平成14年度末に岡山県版のレッド・データ・ブックを発刊した。さらに、平成21年度末、改訂版となる岡山県版レッドデータブック2009を発刊している。 |
| わ～ | ワシントン条約 | 正式名称は「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」といい、国際取引の規制により希少な野生生物の保護を目指すもので、1973年にワシントンの会議で採択された対象は生物だけでなく、はく製、毛皮、きばなども含まれる。この条約を受け、日本国内では「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法)により希少野生動植物種の譲渡等が規制されている。→野生生物種の減少 |

数字

3 R…………… 22, 33

アルファベット

BOD(生物化学的酸素要求量)…………… 49
 COD(化学的酸素要求量) 49, 50, 51, 52, 53, 55, 57
 NOx …………… 43, 45
 NPO …………… 3, 82, 83, 84, 85
 PCB 廃棄物…………… 35, 36
 PM2.5…………… 37, 39
 PRTR…………… 61
 SOx…………… 43

あ

愛鳥週間…………… 75
 アオコ…………… 50
 赤潮…………… 50, 57
 アスベスト…………… 66, 67

い

一酸化炭素…………… 37, 38
 一般廃棄物…………… 23, 25, 27, 28

え

エコキュート…………… 15, 91

お

岡山県エコ製品…………… 22, 90
 岡山県快適な環境の確保に関する条例…………… 88
 岡山県環境影響評価等に関する条例…………… 93
 岡山県環境基本条例…………… 1, 2
 岡山県環境への負荷の低減に関する条例(環境負荷低減条例)…………… 6, 40, 43, 44, 45, 46, 53, 60, 65
 岡山県環境保全・循環型社会形成推進基金…………… 13
 岡山県再生品の使用促進に関する指針…………… 22

岡山県産業廃棄物処理税…………… 92
 岡山県循環型社会形成推進条例…………… 22, 23
 岡山県地球温暖化防止行動計画…………… 3, 4, 15, 82
 岡山県統一ノーレジ袋デー…………… 3, 22
 岡山県廃棄物処理計画…………… 32
 おかやま森づくり県民税…………… 79, 92
 オゾン層…………… 19
 温室効果ガス…………… 4, 14, 15, 16, 17
 温泉…………… 73

か

合併処理浄化槽…………… 26, 52, 55, 57
 環境影響評価…………… 93
 環境学習…………… 57, 71, 78, 82, 83, 84, 85
 環境基本法…………… 1, 11, 59, 60, 64
 環境月間…………… 2, 83
 環境負荷…………… 16, 17
 環境マネジメントシステム…………… 4, 92

く

グリーン購入…………… 4, 90

こ

公害…………… 6, 48, 53, 58
 公害苦情…………… 8
 公害防止…………… 9, 43, 44, 45, 46, 92
 公害防止管理者…………… 9
 公害防止計画…………… 6
 公害防止対策事業…………… 6
 光化学オキシダント…………… 37, 38, 42, 47
 公共用水域…………… 49, 51, 52, 53, 54, 65
 国定公園…………… 71, 72
 国立公園…………… 71, 72
 こどもエコクラブ…………… 84

さ

最終処分場…………… 22, 24, 35
産業廃棄物…………… 13, 30, 31, 32, 33, 34, 66, 92

し

自然海浜保全地区条例…………… 57
自然環境保全地域…………… 73
自然公園…………… 71, 72, 73, 78
自然保護推進員…………… 72
自然保護センター…………… 78, 84
狩猟…………… 76, 77
循環型社会…………… 2, 3, 22, 28, 84, 89, 90, 92
新潟山県環境基本計画…………… 2
振動…………… 9, 58, 59

す

水質汚濁…………… 6, 34, 49, 51, 52, 54, 56
水質汚濁防止法…………… 6, 49, 51, 52, 53, 54, 60

せ

生活排水…………… 6, 26, 28, 52, 55, 57
生態系…………… 14, 57, 61, 71, 77
生物多様性…………… 3, 71, 75, 81
ゼロエミッション…………… 22, 90

そ

騒音…………… 6, 9, 18, 58, 59, 82
ソーシャルビジネス…………… 82

た

ダイオキシン類…………… 27, 35, 63, 64
大気汚染
…………… 6, 17, 34, 37, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 47, 64, 65
大気汚染防止法…………… 6, 38, 43, 44, 45, 46, 47, 64
代替フロン…………… 15, 19

ち

地球温暖化…………… 4, 14, 15, 16, 17, 79
鳥獣保護区…………… 76

鳥獣保護センター…………… 75

と

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に
関する法律…………… 77
特定フロン…………… 19
特定粉じん…………… 44, 46
トリクロロエチレン…………… 60, 64, 65

に

二酸化炭素…………… 14, 15, 16, 17, 20
人形峠環境技術センター…………… 68, 70

は

バイオマス…………… 18, 90
ばいじん…………… 34, 44, 45, 46

ひ

干潟…………… 56, 57

ふ

富栄養化…………… 50, 57
浮遊粒子状物質…………… 37, 38, 45
フロン類…………… 19, 20

へ

ベンゼン…………… 44, 46, 64, 65

ま

manifesto…………… 33

み

みどりの月間…………… 80
みどりの少年隊…………… 80

も

もったいない…………… 3, 22

ゆ

有害化学物質..... 54, 61
有害ガス..... 44, 46
有害大気汚染物質..... 44, 64, 65
有害鳥獣..... 76
有害物質..... 33, 44, 46, 52, 53, 60, 61

り

リサイクル
..... 19, 22, 23, 24, 25, 27, 28, 29, 35, 84, 90, 92

THE ENVIRONMENT OF OKAYAMA

岡山県環境白書 2014

岡山県 環境文化部 環境企画課

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6

TEL.086-226-7285 FAX.086-233-7677

e-mail kanki@pref.okayama.lg.jp

岡山県のホームページ <http://www.pref.okayama.jp/>

